第　3　章

組織アンケート回答
ボランティア活動日報
救援ニュース

6年 月曜 時間割 国・社・学級指導……
早出・いのこりしても仕上げる。
学校機能回復へ懸命にがんばる先生と生徒

連合兵庫構成組織・地域協議会

アンケート回答

連合兵庫構成組織ならびに地域協議会へのアンケートに対する回答を掲載する。

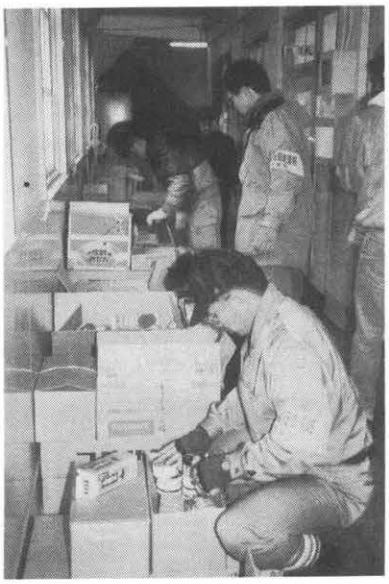
このアンケートは、各組織へ文書をもって設問と回答方法（面接インタビュー・電話インタビュー・文書回答の３種）を提示し、いずれかの回答方法を選択していただいた。（なお、設問は対象組織の業務の性質により若干異なっている）

全組織から回答を得ることが目標であったが、残念ながら果たせなかった。中には本部の回答をもって当県組織の回答を兼ねるとされたところもあったが、不備は編集子の力量不足であり深くお詫び申し上げる。要請に応じて快くご回答くださった各位には厚く感謝申し上げる。

なお、面接・電話・文書などの回答方法の別は、格別に意味あるものとは考えられなかったため、敢えて記載しなかった。ただし、面接・電話回答では編集子が文章化したものを回答者に校閲していただき、文書回答は原文どおり掲載した。しかし、何れの場合も、文責は編集子にある。

連合兵庫構成組織

アンケート回答



自治労兵庫県本部

竹本貞雄
（書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市須磨区の自宅では、壁がヒビ割れた。が、それでもすぐには神戸と大震災が結びつかなかった。とにかく組合事務所にと車で家を出たが、路面や建物に大きな被害があり、労組事務所のビルは無事ながら、内部は手がつけられないほどの荒れようで、停電しており、電話は不通で、ビル付近はガス漏れの匂いがしていた。

瞬間的に事務局スタッフの安否が気になり、近くの共済会館まで走り、2階フロアの公衆電話に4時間へばりついて全員の無事を確認した。そののち、本部へ翌日からの春闘討論集会の欠席と、状況を報告した。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

事務所が使えないので、19日に姫路と尼崎に専従者を割り振り、救援受入態勢をこしらえた。労組間の助けあいとして、早くも19日には前橋市から給水車がきた。その後も全国各地から救援物資が届けられたが、それらは全て一般市民の生活支援にあてた。

そして全国の自治労の仲間の支援部隊に対応するため、神戸市長田区・東灘区に地域担当を派遣し、避難所や行政事務の支援などにあたった。

また、県下の被災していない単組から組合員を動員し、西区と北区を除く7区や北淡町に3月末まで避難所や行政事務支援にあたった。その数は全国から約2万人、県下から約2200人であった。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

役所の機構が混乱しており、当初は明確な要請はなかった。それに、自治体間には救援協定があるが、形式や諸事情に囚われて動きが遅いため、労組ルートでの救援依頼が多かった。

また、行政の被災者用弁当はあっても救援や復旧作業に従事している職員（組合員）の食事の手配は不充分であり、大阪府本部に副食物等の緊急送付を依頼し配付した。行政にも調達能力がなかったので、労組独自で手配した。みんな5日間程度の泊り込みは常態で、床に新聞紙・ダンボールを敷いて仮眠しながら必死になって働いた。

4．救援、復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

自治労の各府県本部の支援行動要請には多数応募があり、また行政も関心の高いところでは現地での「体験学習」の意味も込めて迅速に対応してくれた。

ただ、県下の動員では、行政派遣と労組動員が錯綜し混乱した。それに行政発令で済むことを「なぜ労組で？」との疑問もあり、この感情を乗り越えるのに苦労した。自治労独自の動員は、自治労本部が負担して傷害保険に加入させ対処した。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

労組としては、行政の仕事を助けるとの立場で対応したが、本来は『仕事』としてやるべきだったのでないか。この点は、評価と同時に反省がある。全国で約2万名、県下で約2200名もの応援者を得たが、避難所支援とともに、避難所へも行くことができなかったより厳しい状況にある人々への支援に投入する方法もあった。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

初動チームを編成しておき、災害発生後ただちに派遣し、現地を煩わせずにニーズを見極めて本隊へ救援連絡できる態勢を。現地との相談は必要だが、主体的に救援活動をコーディネートできる備えを。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

前述の初動チームを連合でも。

また、ボランティア休暇制度の普及と活動保障が重要であり、ボランティアを制度的に認知させる必要がある。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

人間同士の連帯感が生まれた。

その半面、労組の存在を問われた。災害が発生すれば公務員として行政任務優先となるため、震災直後は労組の活動部隊がゼロになってしまう状況であった。

9．その他ご意見・ご感想を。

行政は、災害救援システムを見直す必要がある。民生・福祉部門が救援の第1線になっては、本来の生活支援が停止してしまう。

また、所属行政へ災害時出勤することが非効率な場合、とりあえず居住地の行政で対策活動にあたるなど、緊急時には行政の枠組みを越えられるようにしておくこと。

ボランティア団体の法人化が話題になっているが、できるのは大きな団体だけだ。連合で小さな団体をネットワークして、各々の個性を尊重しながら法人化する方策を検討されたい。

さらに、今までの日本の災害対策は高齢者・障害者が視野に入っていない。連合が要求して、仮設住宅なども一定割合で、そうした人々用のものを直ちに用意させる施策の確立が必要である。

電機連合兵庫地方協議会

藤 井 由 光
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

東京出張中で、当日の午前7時ごろ、神戸の自宅からの電話で知った。家内の悲鳴に近い声が、いまも耳に残っている。予定をキャンセルし、急いで帰神した。

午前8時のこだまに乗車し、大阪で下車、大阪から神戸市灘区の自宅までは、交通機関が停っていたので徒歩。帰宅したのは翌日の午前2時で、気になることは種々あったが初日は何もできなかった。電話は何度試みても、被災地にはまったく通じなかった。

18日に、地協議長・電機連合本部に連絡がとれ、塩谷地協議長と相談の結果、神戸市西区の富士電機労組神戸支部に地協臨時事務局を設置し、議長が詰めることを決めた。

本部からは「何がほしいか？」と訊ねられた。この時点ではまだ被災地の状況は把握できていず、「水・食料・毛布などだと思う」と一般的な答えしかできなかった。

神戸の常設事務局が再開できたのは、1月23日だった。

しかし、単組・支部段階では、震災直後から労使一体で関連企業を含めた組合員・社員らの安否確認などに、迅速に対応していた。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

電機連合組合員12人、家族338人が亡くなった。

3．それにどのように対応されましたか？

電機連合共済制度ならびに組合員からの義援金を、見舞金にあてた。被災規模が大きく、共済は積立金をとりくずし、ほとんどパンク状態になった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合の全国ボランティアは、電機連合→各単組本部→支部の流れで対応した。

地協は、連合兵庫からの要請に応えていったが、会議に諮る間もなく、事務局の判断で単組・支部へ要請していった。ただし、被災状況が甚だしい企業組織は除外した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

被災地の組織としては、各単組（企業）もそれぞれ被害を受けているなかで、ボランティア動員と自助活動の2重対応を迫ることになり、心苦しかった。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

上部機関からの要請に、全力対応することに集中した。災害救援という趣旨ならではと思うが、各単組・支部とも事情があるなか積極的に応えてくれた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害時には自治体に必ず対策本部が設置されるので、速やかに接触し、機構の中に入る。そこで得たニーズ情報に基づき、効果的に対応する。自治体の災害対策本部の指揮下に入る覚悟をもつこと。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

月並みな答かも知れないが「連帯感」が強まった。全国の仲間に助けられたという強い実感があり、いまでは地域・産業などを越えて親近感を感じている。

9．その他ご意見、ご感想を。

わたし自身も体験したが、物資の集積場などでは凄まじいほど大量の単純作業があり、とにかく人手がいる。その意味では、連合はほとんど日本最大のボランティア供給源となり得る組織なので、災害発生時には可及的速やか且つ集中的に、大量のボランティアを派遣できる態勢をととのえるべきだ。

そして、ボランティア活動は1クール3日程度とし、フレッシュな労働力を投入することが重要だ。

また、組合員に対しては、連合が役割を担える種類のボランティアにとって、活動者の大事な資質は「健康」だと思う。特技などなくても積極的に参加してほしいとお願いしたい。

兵庫県教職員組合協議会

田治米 政 美
（事務局長・兵庫県教職員組合書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市須磨区に自宅があり、たいへんな激震であったが、揺れがおさまったあと家族を連れて戸外へ出、近隣の家々が倒壊しているさまを見てはじめて「これは何事か！」と衝撃を受けた。それまで家屋が潰れるなど想像したこともなかった。

家族の安全確保と、生き埋め者の救助が最初に念頭に浮かび、助けを呼ぶ声に誘われて家の下敷きになっている人の救助にかかった。息子など大人の男7～8人が、鋸何本かを道具に屋根部分から掘り下げていったが、たった1人を助け出すのに4時間もかかった。

午後、組合と委員長宅へ電話したが連絡とれず。

それで、ともかく家族を避難所へ連れていったが、食事のあてもなく、混乱をきわめていた。これに対応している教職員の姿を見、このままでは教職員の身がもたないと感

じたことが、後の救援活動の骨格となった。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

なんとか避難所運営の道筋をつけ組合へ出勤できたのは19日だった。物が散乱し、人は混乱を呈していた。地震時は東京出張中だった委員長が17日夜に帰神していると聞いたので、連絡をとり、電話の通じていた三美支部（三木市）に集っていた役職員を本部に集結させ、対策本部を設置した。

そして、地震直後に避難所となった学校を見て「避難者も気の毒だが、この状況がつづけば先生たちが死んでしまう」と感じたこともあり、学校支援に全力を傾注していった。先生たちは否応もなく、避難所運営の責任を負わされつつ、学校業務（生徒の安否確認・安全確保・学校機能の維持・回復）をすすめていくという苛酷な状況に置かれており、後の調べでは地震から１週間に10時間しか睡眠をとっていないケースもあったほどだ。

各支部ごとに担当避難所を割り当て、１泊２日を１クールとする人的支援によって、たとえ１時間でも避難所学校の教職員を眠らせるよう指示した。のべ全国3600人・兵教組7600人の応援派遣をしたが、学校はどこも同じなので他地区からの応援者も戸惑いはなく、最初だけ説明を受ければ、あとは自主的に引き継ぎできるので受け入れ学校に負担をかけることもなかった。

また、被災した子供たちは、学用品・食料などの救援物資を配っても入れ物をもっておらず、学校厚生会と合同本部を設置し、共同で４万人にデイパックを贈った。

さらに、被災組合員・ＯＢへも、希望を聞きながら電器製品・スーツ・その他の生活物資を配付した。先生の中には、間近に迫った卒業式に着る洋服をもっていない人もいた。

これらの費用は日教組の見舞金１億円はじめ、全国の仲間からの見舞金、学校厚生会の協力、兵教組義援カンパなどで賄った。

また、借地、借家等にともなう不安を解消するため、電話相談・移動相談も実施した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

要請などなにもなかった。また、教職員は地震後の教室の様子をたしかめに登校したとたん、状況に巻き込まれていった。あの震災時の混乱期に、行政から何らかの指示を受け取った校長は１人もいないのではないか。

が、しかし、教職員のあの活動は、行政命令に基づいてやれるといった生やさしいものでなかったことも事実だ。

4．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

子供たちの安否確認が簡単にいかなかったことだ。電話の不通・避難所への電話の殺到などではかどらず、結局・自転車か徒歩での訪問確認しかなかったが、消息不明も多く、ずいぶん時間がかかった。

また、避難所は24時間動いており、対応はたいへんだったが、特に、余震やトラブルで負傷者が出る心配があり、人的支援や輸送隊がそれらにまきこまれた場合は公務災害申請の対象とするよう県教委に申し入れ、交渉の結果、認められた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

思いついたことは何でもやってやろうということで、何でもやった。学校支援をしたことで被災現場の状況が支部から報告されてくるので、いま何が必要かがよく把握できた。

ただ、あまりにも、マニュアルもなく、体制の不充分さを痛感した。

6．こんご類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

震災の経験で、学校が地域のコミュニティーセンターだということが明確になった。子供に受験教育しているだけでは学校機能は果たせず、先生たちの教育活動における創意工夫が、マニュアルもなしに一定のレベルで被災者救済をやれた基になっている。現場の教職員の人間性が生かせる教育改革を望む。

また、文部省のまとめでは、「避難所運営の権限を校長に。避難所運営は教職員の職務に」となっているが、これは違う。今回もボランティア的だったから、少々不満はあっても「ご苦労さま」と言ってもらえ、喧嘩の仲裁にも入れたのであって、もしも物資の調達権限も予算もないまま“職務”にされると、避難者から袋叩きされかねない。しかも「職務だ」と言いはするが、教員には超勤手当ては付かない。「それはない」という気持ちだ。

教職員も、学校が避難所になることが避けられないことは分かっているから、今後も非常時には同じように頑張るだろう。しかし、組合としては『避難所業務の主体になるのではなく、支援する』というレベルの活動にとどめさせたい。「過労死するまで頑張れ」とは言えない。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合になっていて良かったと思った。連合だったからこそ、あれほど大量で、組織的なボランティア活動ができたのだ。

マスコミは個人ボランティアばかり追い掛けていたが、個人ボランティアのほうもテレビに映った避難所へばかり集まる傾向が見られた。が、連合はマスコミにではなく、被災現場のニーズに従った。これは素晴らしいことだ。“動員型”という言葉が批判的に使われることがあるが、そういう面でもわたしは動員型でも良かったと思っている。あれほどのパワーを結集できる連合を大いに評価する。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

兵教組として1つになり得て、連帯感が高まった。これを維持し、いつでもイザというときには即応できる態勢を構築していく。

9．その他ご意見、ご感想を。

震災で課題がより明確になった。あの避難所の状況を見て、外国人・障害者・老人・幼児など、全ての人が共生できる社会づくりへ向けての、教育見直しの必要性を痛感させられた。もっと地域に開かれた学校にしていかなければならないと考える。

そして、そのためには、次代の中心となる人々の教育が重要だが、人間を育てるには人手も時間もかかる。しかし政府は定数法でも現状の法律の運用でお茶を濁すだけで、被災地のニーズに添った抜本的法改正をやるという発想がない。これでは「教育」も「地域コミュニティーセンターとしての学校」も机上の空論になる。ぜひ教育の見直しを。

それに、奥尻・島原で2000万円だった見舞金が、この震災では40万円だという、この格差は同じ国内の出来事とは信じられないほどだ。これで国家といえるのかと思う。

造船重機労連兵庫地方協議会

田渕幸弘
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

赤穂市の自宅で、出勤のため着替え中に強い揺れを感じた。ただちにテレビを点け、ＮＨＫの地震速報をみたが、それほどの大災害という報道ではなかった。

午前6時半ごろ、地協の井上会長宅へ電話すると、奥さんの実家が倒壊し、すでに軽4貨物車に自転車を積んで神戸へ向かっていた。この時点で「ただごとではない」との認識を得た。

電車不通でマイカー通勤を試みるも、道路渋滞で事務所へいけず、被災地方面への電話は不通がつづいた。

この時点ではすでに、労連として何らかの支援活動が必要だと考えたが、心は焦るも身動きがとれず、大いに苛立ちを覚えた。自宅から連絡可能な相手と頻繁に情報交換をくりかえすのみだった。

19日、バイクで神戸に向かい、ようやく被災支部をオルグすることができた。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員4人・家族79人が死亡、202人が負傷した。家屋の損壊は、全壊（焼）905戸・半壊（焼）1316戸にのぼった。

3．それにどのように対応されましたか？

産別として義援金をつのり、見舞金にあてるとともに、単組・支部が独自制度で救済した。また、住居の問題については、単組・支部で社宅等の優先入居を交渉し、避難所・仮設住宅暮らしは解消した。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

全国ボランティアについては、労連本部が主体で派遣要請をおこなった。継続的に受け持てるような仕事をということで、障害者・寝たきり老人・負傷者などを対象とした『介護風呂』の宅配をおこなうことになり、大いに喜ばれた。500余名のボランティアが投入されてきたが、川重本部の友井川委員長宅を宿所に開放してもらい、大いに助かった。

また、連合兵庫からの要請では、町角清掃・市役所事務補助・物資仕分けなどの活動に取り組んだが、活動人数は把握できなかった。さらに、単組・支部独自で避難所の世話にあたるなど、自主的活動も多く見受けられた。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

ボランティア派遣組織に対し、事前に念入りな状況説明や、突発事で派遣中止となった分の穴埋め、派遣開始までに時間的余裕を確保するなどの配慮は必要だったが、総じて余り困難はなかった。いずれの単組・支部も、きわめて協力的だった。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

連合ボランティア活動対象期間に関しては一定の役割を果たせたと自負しているが、たとえば街のクリーン化活動などに長期的な取り組みができればと思う。連合が呼び掛けてもらえれば……。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

兵庫地協としては、来年度の活動方針で「救済基金制度」の設置を決めた。ボランティア活動資金で、当面200万円を計上。

連合は、行政へ防災・救済面での政策・制度要求をすすめてほしい。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

① 要請どおりボランティアを派遣しているのに、仕事がないから引き上げてくれと言われるようなことがあり、活動者に連合の指導性に不満が散見された。

② 旧組織（同盟・総評・中立）の垣根がとれてきた。いっしょに苦労したという仲間意識が芽生えたと思う。

9．その他ご意見、ご感想を。

もっと現地対策本部の情報収集・伝達面の機能を高めなければならないと感じた。

それと、造船重機ではボランティア活動者に対し、事前に兵庫地協で作成した「心得・在り方を」配付し、一定のレクチャーをして現地入りしてもらったので、大いに有効

だった。連合としても何らかのスタンダードを示しておいたほうが良いと思う。

ゼンセン同盟兵庫県支部

好城秀行
（支部長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は加古川ですが、多少壁がひび割れた程度で大したものではありませんでした。しかし、テレビに映る神戸をはじめとする被災の状況に、しばらくは信じられませんでした。

これは大変だ、自分は何をすべきなのか、しばらくボーッとしていました。あの人はどうなった、この人はどうか……と次々人の顔が浮かんで来る。じっとしておれなくなって電話を掛けはじめました。初めはよく通じていたのですが、午前9時頃でしょうか、掛かり難くなってしまいました。

今度は車で走り出しました。何をしようとしたのでしょうか解りません。活動の拠点をつくろうとしたのでしょう、被害を受けなかった最も神戸に便のあるところ加古川にそれを求めたのでしょう。日本毛織労働組合の会館をゼンセン同盟兵庫県支部の仮事務所として借りる事にしました。そして書記局のみなさんに、ここへ来るよう電話をしています。間處連合兵庫副事務局長・青木部長も近くに住まいをもっていたので、当面ここに来てはと誘ったのです。

そこで連合兵庫の西半分が助かっている、ともかくこの力で何とか救援をしようと言う事になりました。早かったです。東播磨地協・西播磨地協と早速に参加してくれる事になりました。救援隊の毎日の行動も、大型バスが用意出来た。連合兵庫加古川拠点が動き出したのは1月25日です。須磨・長田・兵庫の神戸市各区に向け56名が入って行きました。

私の独断で設置したゼンセン同盟兵庫県支部仮事務所ですが、ゼンセン同盟は20日にすでに兵庫の地理に明るい6人の本部書記局員を私の指揮下に入れてくれました。さらに、岡山県支部と友愛の丘（ゼンセン同盟の中央教育センター）から毎日救援の水を運んでくれることになっていました。

さて、この水（車の都合で最初は1トン弱、さらに2トン車に変わっていった）をどこに運び込むかが問題でした。県・神戸市・須磨区など各行政の対策事務局と打合わせようと思うのですが電話が思うように掛からないし、各役所とも大混乱で、結局ぶっつけ本番で現物を須磨区役所（加古川から何とか交通便のつくところ）に持っていきました。飲料用と思い持っていった地下水ですが、役所に着いて驚いた、所内は避難者で足の入れ場もないほどでした。そして、これは大変何とかしなければと思いました。トイレです。山盛りです。以来、水にこだわりました。

連合が本格的な救援活動に入って、中央区で3ヶ所の宿舎を持つ事になりました。水道が通水するまで（2月8日）そこのトイレ用水を運び続ける事になりました。毎日2トン車で1日1往復しか出来ません。このあたりでは日本毛織加古川工場から水をもらっていました。

ゼンセン本部から派遣された6人ですが、須磨・長田・兵庫の物資搬出入の現場指揮に当たってもらいました。日毛労働会館を救援隊の宿舎として主として西日本各地方連合からのボランティアを班編成し引率、現場指揮を取っていました。後にＪＲ・海員、各組織にこのリーダーは引き継がれましたが、この事は加古川拠点の救援活動をスムーズに行えた事につながっていたと思います。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員43人・家族161人が亡くなり、227人が負傷しました。家屋の損壊は全壊・全焼2186件、半壊・半焼4154件。また、4組合の事務所が全壊し、1組合が半壊しました。

3．それにどのように対応されましたか？

ゼンセン同盟は、救援カンパを行っています。各加盟組合内の救援カンパ金とは別に、ゼンセン同盟に集められたのが約2億円です。それに共済制度の資金を取りくずし4億円を見舞金として被災組合員に贈っています。

被災現場での私たちの仕事ですが、被災状況の把握と見舞金受け取り申請手続きを知らせていく事、加えて被災職場を持つ労使に雇調金の手続きを取るよう指導していく事でした。あの中、車には乗れません。ミニバイクが唯一の足でした。ヘルメット・マスク・ゴーグルを外して初めて支部長が来てくれたのか！と言った具合でした。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

初めにふれているように未曾有の大災害で、1産別の手に負える事態ではなく、連合の総力をもって救援しなければならないと考えました。県支部の活動として水の事にこだわりましたが、連合の救援活動と一体となってリーダー的役割を果たしたと考えている。

加古川を登山のベースキャンプに見立て、地協傘下組織との連携で、ここに人・物を集め、ボランティアの生活支援の役割を果たした。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

ゼンセン同盟では、専従者はすべて本部雇用のプロパーで仲間意識が強く、彼らがよく協力してくれたので産別活動としては余り困難は感じなかった。

ただ、行政の危機管理体制が皆目で、そのため様々なトラブルに見舞われた。水の供給先ひとつでも、県・市・区の担当組織が明確でなく適切な指示が得られず右往左往させられたし、ボランティアがテント避難者の実態調査員として使われ、避難者から「なぜ行政が出てこない」と苦情を受けたりした。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

実行した事で、これで足りると言えるものは無いが、要請されて出来なかった事はいくらでもあった。

例えば、損壊家屋からの家具出しを手伝ってほしいとか、避難所で生活されていた人の洗濯物を個人のプライバシーを守りながらやってもらえないかとかもありました。

しかし手伝う人の安全の問題を考えると、又洗濯も洗う事までは可能であったが乾かす段になると方法が見つからず実現しなかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

労働団体の組織は全国・地方・地域において活動のネットワークを持っている。

労働運動・政治運動だけでなく、地域社会での生活・福祉にも目を向け活動すれば組織立ったボランティア活動が出来る。

連合は中央・地方でこの分野にも活動の拠点をもうけ、資金と人の配置をすべきではないか。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

隣人を思いやる心が生きていた。そして、その芽を育てていこうという機運が生まれた。大切にしたい。

9．その他ご意見、ご感想を。

チェーンストア方式のスーパーマーケットが今日に至るまでに地元商業者などから出店を強く反対されて来た。

しかしあの様な惨状の中にあって生活物資にパニックを起こさなかったのは、このチェーンストア方式によるスーパーが十分とは言えないまでも物資を供給し続けたからではないかと思っている。

又どうしても解決しておかなければならないのは水の問題でしょう。飲み水はともかく手に入るとしても、防火用水・トイレ用水は行政で解決すべき問題でしょう。

電力総連兵庫県電力総連

高　西　太　郎
（副事務局長・関西電力労組兵庫地区本部副執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市兵庫区の社宅では激震ではあったものの、被害はなく、さほどの災害という認識はなかった。

が、瞬時の停電はあり、携帯テレビを点けてみると、午前6時ごろ「大きな地震」とのコメント報道があり、そのあと断水のため朝食を買いだしに出たが、道路の破損がひどく、震災の大きさを実感した。

すぐに、現場感覚が蘇り、自転車で会社へ向かったが、いったん作業班に組み入れられたら離脱できないと考え、そこではじめて労組役員としてどう行動すべきかを考えた。

会社（神戸支店）へ着くと、ビルは甚大な被害（後日廃棄処分）を被っていたが、復旧システムは猛スピードで機能していた。ともかく会社へ組合員の安否確認を急ぐよう申し入れた。それ以上のことを労使で話し合えるような状況ではなかった。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

各支部役員が復旧業務に拘束されたこともあり、労組としては、ほとんど機能できなかった。

また、社員全員が「何があっても電気を繋ぐ」と燃えていたので、労組が現場の邪魔をしてはいけないと配慮した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

とくに要請はなかった。台風対策などで非常事態システムが確立していたので、それに基づいて全員が行動した。

昼夜を分かたぬ超過勤務が常態だったが、時間外手当などトラブルなく支給できた。

4．救援、復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

詳しいことは職場でないと分からない。

ただ、すべての事態に対処できるシステム・技術・機材が各電力の応援で整ったが、すべての面で量的に訓練時想定を越えていた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

作業の安全面が心配だったが、杞憂に終わった。日頃の訓練が実ったものと思う。

また、会社の対応、とくに組合員への生活支援対策は評価する。被災組合員の社宅収容も、迅速になされた。生活支援では、関西一円に支店があり、他支店からの応援があったことが大きかった。

ボランティア活動としては、電力総連の方針により全国の電労から応援を受け、神戸市東灘区で物資供給・家財搬出・給水などを、また西宮市から組織内市議をつうじて要請のあった避難所への給水活動にも対応した。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

会社としては、緊急設備の規模拡大を検討すること。激甚災害では、備えが災害規模にマッチしないケースがある。労組としても危機管理体制のあり方を検討していく。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合として特別の備えが要るのかどうかは、分からない。

ただ、労組ボランティアがどの領域までカバーするかが

問題で、たとえば平常時に個人に対してボランティアするなどは違和感がある。非常時に行政を手助けするのは良いが、平生は行政が保証すべきものだと思う。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

他電力から応援を受け、産別としての仲間意識が強まった。また、みんな家庭を省みず復旧に励んだ。このことの良し悪しは分からないが、電力マン・スピリットが発揮された。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合ボランティアは、一般と違って動員型だった。救援活動には量的対応が求められ、組織されていることのメリットを生かす意味からも、あの方法は有効だった。極端な話、たとえ嫌々でも動員型で救援すべきで、もし自発性だけでやれるのなら組織はいらない。自発的ボランティアは行政が呼び掛ければよいと思う。

金属機械兵庫地方本部

脇　谷　正　昭
（副執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

地本95春闘討論集会2日目早朝、約200名の参加者とともに有馬・向陽閣で体験。反射的に「これは大災害になる」と思った。

すぐさま集会参加者をロビーに集めて点呼、午前6時半ごろ全員無事を確認。集会を中止し、車に分乗してホテルを立った。

わたしも神戸市中央区にある地本事務所へ向かい、その道中、ラジオのニュースで震災の大まかな全容を知ったが、平野の交差点まで下りてくると市街地から煙が上がっているのが見えた。普段30分ほどの道程に3倍もの時間を要して事務所へ帰り、午前9時にその無事を確認できた。ただちに傘下組合の被災状況把握と、組織内外との連絡体制の確立に着手した。が、電話の通じないところが多く難渋をきわめた。

とはいえ集会のお陰で、震災直前に地本各支部役員・活動家の無事を確認できたことは不幸中の幸いと言うべきで、その後の活動をすすめる上で大いに助かった。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員6人、家族21人が死亡、入院10人、家屋全焼壊447戸、半焼壊799戸、一部損壊1170戸。支部組合事務所損壊6支部。

3．それにどのように対応されましたか？

中央本部、兵庫地本の共済制度、組合員カンパ、内外各組織からの義援金をもとに見舞金を交付。地本としては、これによって永年積み立ててきた基金の大半を取り崩すことになった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合本部の活動には中央本部、とくに関西地協（滋賀・京都・大阪）が対応。連合兵庫からの要請には、比較的に被災軽微な播磨地協、尼崎地協の支部を中心に取り組んだ。

また、金属機械独自の救援活動としては、大阪地本と尼崎のヤンマーディーゼルの体育館を救援物資の集積場とし、阪神間の支部を受け持ち、兵庫地本書記局は神戸以西を担当した。地本傘下はもとより、他地本傘下労組企業の出張所や営業所の組合員・家族の生活支援のため、中央本部へ所在を問い合わせ、物資の配給などをおこなった。神戸市内での交通・輸送手段は、主に自転車だった。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

阪神間、とりわけ神戸市内の支部に被害が集中したが、交通事情等の関係で、止むなく特定の支部に負担をかけることになった。応援者の受入などにもご苦労をかけた。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

大まかな対策はできたが、被災組合員や家族（とくに避難所生活者）個々に対する救援活動が不十分だった。持続的な救援行動隊の組織、企業の被災対策への援助不足。

さらに、労組に所属しているような人は大体において生活が補償されているが、それ以外の被災者への対策は不足していた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

震災に直面した当事者組織（連合兵庫）の主体性、指導力の確立が必要。また支援・応援部隊はその認識をもつこと。自治体などと連合（兵庫）の連携の円滑化と、最小限のマニュアルも必要。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

支部、地本、中央本部という産業別組織の存在感・優位性が実感できたこと。そして、ＯＢを含む組織人の連帯感が強化された。

また、緊急時における幹部の指導性・資質の日常的な蓄積、ならびに財政確立の必要性を痛感した。

9．その他ご意見、ご感想を。

行政へは、弱者救済を第一義とすることは当然だが、産業・企業の立ち上がり、そのための勤労国民の生活（住居、通勤対策など）重視対策が必要であり、仮設住宅への入居基準など一考が必要だと言いたい。可能な限り救済対策・基準などの一元化をはかること。

また救援活動に対しては、ボランティア派遣は有り難いが、受入にエネルギーが費やされすぎる。地元に負担をかけない手法を。

自動車総連兵庫地方協議会

小　山　敏　明
（議長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

京都へ出張中で、当日の午前6時頃に自宅と連絡がとれ、情況把握をした。

その後、担当事業所及び労組本部へ連絡をとり、情況を聞き、予定をキャンセルして急いで川西市内の事務所へ戻った。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員10人・家族60人が亡くなった。

また、家屋の被害は全・半壊が3115件と多大であった。

3．それにどのように対応されましたか？

被災救援カンパを各労連で全国的に行い、被災者へ見舞金給付した。各労連では独自の共済制度を適用し、被災者を支援した。なお、阪神間中心の労連は、共済の積立金がパンク状態となった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

救援ボランティアは、産別本部からの展開と、各地協への要請は、別途単組対応を要請した。

本部対応は152名を、1月27日から3月4日まで1週間交替で対応した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

被災地の組織としては、各単組（企業）も本社が全壊のところもあり、ボランティア動員は対応出来ない情況にあった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

産別本部が大阪府池田市に対策本部を置き、各労連への救援物資輸送、連合との連携を図った対応をした。車両提供の要請にも前向きに対応出来た。

ただ、一律的人員派遣要請は困難。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合としての災害対策における役割が果たせる体制マニュアルと、人材派遣・資金など細部にわたる対応策整備が必要。

ボランティアリーダー育成と、ネットワークづくりが必要。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

全国の仲間が相互に支援していただいた実感があり、連体感が強まった。また、組合員のボランティア活動に対する意識が高まった。

9．その他ご意見、ご感想を。

この度の大震災で発足した「市民・連合ボランティアネットワーク」を更に育成し、全国的ネットワークづくりと、身近な職場で情報が得られるようにしたい。ボランティアリーダーの育成が不可欠であり急務な課題。

ゼンキン連合兵庫

中　野　一　刀
（書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は大阪の千里ニュータウンで、茶箪笥が倒れるくらいは揺れたものの、直後のテレビ報道では「震度4」ということで、これほどの大災害とは思わなかった。

午前7時ごろのニュースで「大地震」だったことが分かり、そのときには傘下組合・組合員の被災状況がたいへん気になったが被災地方面への電話はまるで通じなかった。

昼ごろ県労政課に電話がつながり「（事務局が入っている）友愛会館の様子は？」と訊ねたら調べにいってくれて、外観上は無事だということが確認できた。

とはいえ、交通アクセスが壊滅状態で、事務局スタッフの誰も兵庫本部に出勤できないため、ただちにゼンキン大阪内に臨時事務所を設置した。兵庫本部事務局が再開できたのは、震災から2週間後だった。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員の犠牲者は、兵庫本部組合員が1人・大阪本部組合員4人が亡くなった。負傷者は組合員140人・家族192人。家屋は全壊（焼）749棟・半壊（焼）1108棟・1／4壊1511棟に及んだ。

また、組合事務所の被害も多く、神戸市長田区の千代田精機では社屋とともに組合事務所が全焼した。

3．それにどのように対応されましたか？

救援カンパ・震災見舞金の臨時措置と、従前からある連帯基金、そして共済制度で対応した。

ゼンキン共済は補償が高く、兵庫で8億円余の給付となったが、歴史が古く資金ストックが豊富だったので何とか対応できた。

ただ、被災者が多く事務処理が膨大で、兵庫本部再開後は通勤時間がもったいないので、床にホットカーペットを敷いて泊り込みをつづけながら対処するような有様だった。この態勢が、事務局スタッフが3～4泊ごとに交替で、1ヵ月間ほどつづいた。

また、行政の罹災証明がいいかげんで、共済金給付後にも罹災等級の変更届けがあったりして、事務処理が繁雑をきわめるとともに、長期間つづくことになった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合本部要請で、ゼンキン本部から10チーム・57名が派遣され、1クール5～6泊の日程で連合ボランティアとして活動した。くわえて連合兵庫・各地協からゼンキン兵庫構成組合へ要請があり、述べ379名の協力を得た。

さらに、3月に入り連合兵庫から兵庫本部に協力要請があり129名を派遣した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

他の動員に比べると、ずいぶん積極的に協力してもらえたと思う。

ただし、時間経過に伴い、組織内の被災者対策へ関心がもどっていった。が、組織論・人情的に、止むを得ないことと思う。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

連合の要請に応えてボランティアを出したが、ゼンキン連合兵庫の仲間に対する救援活動は単組まかせになってしまった。

また、派遣ボランティアから、受け入れ態勢に関する苦情を少なからず聞いた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

ゼンキン共済は、産別として自慢の共済制度だが、それでも今後はもっと巨大な分母をもつ共済が必要と感じたが、これは連合の役割ではないか？

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

上部団体のメリット論が論議されるような状況下で、カンパ・共済制度・ボランティア活動などによって組織の存在意義が確認される効果があった。産別と構成組織の関係が密接になった。

9．その他ご意見、ご感想を。

今後救援活動をおこなうときは、連合として『この分野を担当する』と決めて対処するほうが良いと思う。

行政の肩代わりのような、広範囲な活動展開は労働組合のパワーを分散させてしまうのではないか。

情報労連兵庫県協議会

福永　保
（議長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は姫路で、すでに起床していたが「富士山がふっとんだと思った」ほどの衝撃を感じた。長く揺れたので震源は遠いと思ったが、しかし安心とは程遠い心境だった。

揺れがおさまると同時に、電話にとびついた。支部役員らに電話をかけまくり、安否確認を済ませ、各分会と神戸市にある支部事務所の状況把握を指示し、自身も姫路分会へ向かった。午後3時頃にようやく支部へいった役員から連絡が入ったが「建物自体が立入禁止になって、とても使える状態ではない」とのことだった。ショックな報告だったが、すぐに気を取り直し、活動資金の調達の手配・組合員の安否確認の手配にとりくんだ。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

翌18日、午前3時に車で神戸に向かったが、町々の余りの惨状に思わず涙がこぼれた。神戸支店に辿り着くと、すぐに支店長と協議し、「人命第一・安全と健康を第一義に保全・復旧活動にあたる」との確認をとつた。

また、情報労連全体で組合員3人・退職者の会会員2人・家族121人が亡くなり、家屋被害は全壊495件を含め3556件に及んだ。情報労連では組合員1人1000円を目標に『労連統一カンパ』に取り組み4億円近い金額を集約。連合本部ならびに労連近畿地協を介して被災市民・被災組合員・OB・家族に贈った。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

前述の『人命第一・安全と健康を第一義』に、情報化社会のコミュニケーションシステムを託された職業人として、迅速に社会的使命を果たすべく全国からの支援部隊を受け入れて不眠不休で復旧活動に邁進した。

4．救援・復旧活動をすすめていく上でも、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

全国一社体制であり技術や機器のレベルに違いがなく、その点では何ら困難は感じなかったが、被災規模が膨大で、量的対応は苦労させられた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

被災組合員・退職者の今後のライフプラン確立に向け『災害ライフプラン相談センター』を開設し、住宅・法律・融資等、あらゆる相談事に対応できる体制を整えてきた。

また、心のケアを中心とした医療体制の充実も必要であったと思う。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

組合としては、震災が神戸でなく東京だったとしたら、中央組織の機能がマヒしていたかも知れない。会社にしても神戸だから業務支援できたが、東京だったら助け切れたか。組織として有事の際、指揮・命令機能をいかに作用させるかという危機対応体制のあり方を検討しなくてはならない。

また組合員やＯＢの名簿管理で、現住所・電話番号だけでなく、緊急時の避難先を把握しておく必要があった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

われわれの経験からして、救援部隊は責任者や総務担当など決め、キチンと班編成してこられると、より一層有り難いと思う。

また、組合員の特技を生かしたボランティア集団の組織化も重要だと考える。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

組織の連帯感が全国的規模で高まった。また、労使の信頼感がより強固になった。

9．その他ご意見、ご感想を。

行政は都市計画には力を入れるが、民生分野などの対策には遅れが目立ち、特にメンタルケアなどソフト面ではボランティアに頼り過ぎている。避難所支援は、元の自治会の確立など自立のための方策と取り組みが当初から求められていたのではないか。

私鉄総連兵庫ブロック協議会

熊　澤　省　三
（議長・山陽電鉄労組執行委員長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は姫路だが、かなり揺れた。が、建物・家財に被害がなく、テレビ報道にも緊迫感は窺えず、大災害だとは思わなかった。そのため通常の時刻に家を出、山電姫路駅へいくと「電車が動いていない」というので、すぐに鉄道電話で本社（神戸市）に連絡。街や鉄道の被害を聞いて震災の凄まじさを認識した。

当日は道路状況も悪く、動きがとれないので姫路駅で待機、次々と入ってくる会社情報やテレビ報道で状況の把握につとめた。

３日目に明石まで電車が動いたので、東二見の営業本部へいき、組合員の被害調査にあたり、４日目はリュックに水や弁当を詰め、各作業現場の組合員を見舞いながら５時間ほどかけて明石から本社まで歩いていった。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

震災対策以外の労組活動はすべて休止した。会議を開くことも難しく、労組としての対応はすべて三役の責任において決断した。

組合員の被害調査の結果は、家族死亡４人・延焼４件・全半壊70件で、労組・会社の共済、単組カンパ、産別兵庫ブロックカンパ、産別全国カンパで、見舞金を給付した。

なお、次々と義援金が寄せられる中でも、最初の認定に外れた人は最後まで対象外となってしまうので、産別全国カンパ金については、被災地居住者全員に一律給付した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

会社としての復旧活動は緊急時用マニュアルにもとづき業務指令が下ろされていくが、労働態様の変更手続きなどは含まれていず、それについて会社から相談があり、労組としては「復旧優先、条件は後日交渉」の回答を与え、組合員へのその旨了解を求めた。

ただし、社員全員が復旧作業に不眠不休の状態で、安全・健康への配慮がなおざりにされないよう強く申し入れた。

4．救援・復旧活動をすすめていく上でも、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

困難の連続だったが、中でも、組合員は会社の将来、給料・臨時給の欠配などの不安を抱きつつ、復旧活動の激務をこなす毎日だった。労組では「遅・欠配しない」との会社回答を得、会社全体の被害状況・春闘の先送りについて３月６日～17日に、全職場を巡回し状況説明会を開いて不安解消に努めた。

復旧作業中に１人が重傷を負い、代替バスの運行では、普段は駅舎・電車内の勤務のため防寒用制服がないまま野外勤務した。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

被災状況の把握や見舞金の給付は速やかにおこなえ、住宅も会社の寮や施設の空き部屋を確保し、かなり早く手当てできた。

ただ、生活物資の供給は、とっさに考えが及ばず遅れた。提携している東京や九州のバス会社から届けられた物資を組合員に配給して喜ばれたが、単組の対応には反省がある。

連合兵庫のボランティア派遣要請には、産別代表者を集め、被災に応じ派遣人員を割り当てて応えた。私鉄兵庫ブロック協議会議長として各単組の協力に心から感謝している。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

安否確認など、連絡網の整備。自社は業務の性格上、かなりシステム化が進んでいるが、より一層の充実をはかる必要がある。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

非常事態に対処するには訓練されたリーダーの存在が欠かせないと思う。また、受入側としての訓練も同時におこなってほしい。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

全員が鉄道マンとしての、誇りと使命感を身につけたと思う。

9．その他ご意見、ご感想を。

行政の危機管理能力の不足が露呈したが、観光やイベントばかりでなく、市民の生命・財産を守るという緊張感をもってもらいたい。連合の行政チェックをお願いする。

全化同盟兵庫地方連合会

森　崎　功　裕
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

住まいは直接の体験は少なかったものの、まず主力の単組への電話の不通に驚き、刻々と変わるテレビの報道に家を飛び出すものの車も電車も動かず、家からひたすら電話をかけるはがゆい思いの数時間でした。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

やはり、長田区の全壊組織が一番ひどく、1年が過ぎようとする中で工場操業がやっと可能になる予定。もちろん東灘の企業も悲惨な事は、言うまでもない。

3．それにどのように対応されましたか？

直接面談と手紙等でのアプローチ。組織でのカンパ金を届けたりする。その後、行政からの色々な特別決定を連絡しながらのフォローを行う。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

まず日帰りボランティアは、関西エリアで即対応可。泊りの組も連合事務所に陣取りながら連日連夜頑張ってもらった。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

1週間という期間をどう応えるかという点が一番の難儀であった。2泊3日等の変則的な方法でクリアした。受け入れ、組織人員の確認が次のポイントであった様に思う。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

地域の人達との交流という点が一番やれなかった事ではないか。ハードの面に走りすぎてソフトな部分がおろそかになってしまっていた様な気がする。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連絡網の確立が一番、避難経路の予備知識、外部からの救援隊（物資）の道順の確保、その次に、非常食の備蓄と続くのでは。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

教訓として、日頃の安全対策と、村の消防団的な組織運営の様な単組間の交流。

9．その他ご意見、ご感想を。

日頃の動員（選挙・政策）要請には、返事もなかった組織が、いち早くカンパボランティアの要請に応えてくれ、組織としては大変ありがたかった事を一番に感じる。

全化同盟大阪ガス労組兵庫支部

高　木　宏　昌
（執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

組合員の安否はどうなのか、災害の規模はどの程度なのかを現場に行って確認しなければと思いました。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

復旧が最優先ということで、わたしを含め役員全員が作業に専念し、しばらくの間、支部活動はほとんどできませんでした。ただ、被災して機能停止となった組合事務所に代えて、西宮の社宅に仮設の組合事務所を開設、各復旧基地に散らばり懸命に頑張っている組合員に機関紙の配付等を行いました。

震災後の活動は、主に本部で担当してもらいました。例えば、震災直後、会社の協力のもと被災組合員の安否の確認をおこなったほか、避難先へ生活物資を供給したり、共済の見舞金を贈ったりしました。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

支部としては復旧作業にできるかぎり協力をしていきました。ただ、それに携わる組合員の健康が心配でしたので、本部を通じ会社に対し、できる限りの職場環境改善、少なくとも週１回の休日の確保を申し入れました。

4．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

復旧が思うようにすすまない上に、お客さまからの督促、苦情、問い合わせが殺到し続けました。また、組合員は昼夜を分かたず復旧作業に従事しているため、出勤日は不眠不休に近く、健康面が心配される状態でした。以上のように、復旧に関するすべての面に困難を覚えました。

5．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

＜会社＞

会社としては以下のことを考えています。

(1) 災害に強い設備や技術の普及を一層推進する（ポリエチレン管や耐震継手の一層の普及、マイコンメーターの設置促進、フレキシブル管の拡大、通信・指令系統の２重化・供給区域ブロックの細分化など）。

(2) 復旧作業をスピードアップする（故障箇所をピンポイントで正確に特定する技術の向上、水や土砂の対策技術）。

(3) 日常訓練を徹底する（災害を想定した、より実戦的な訓練など）。

＜組合＞

事態が発生した場合、わたしたちは直ちにガスの復旧作業に従事することになります。組合としては、会社の災害対策に対し、労働条件面で影響のある事柄に関してはこちらの主張を伝えながら、理解・協力の姿勢で臨んでいきたいと考えています。また、組合本部と連携して、復旧に従事する組合委員の職場環境や生活環境のバックアップをおこなっていきたいと思います。

6．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

今回の震災で、行政だけの力では被災者へのサービス活動に限界があることが明らかになったと思います。従って行政と相談しながら、その力が及ばない部分を連合が手助けできる体制をつくっていけばと考えます。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

今回の震災復旧は、１企業で対応しきれるものでなく、日本全国のガス会社から応援をいただきました。一致団結して復旧作業を進めることでガス事業に携わる者同士の連帯感が得られました。

また、復旧期間中、お客さまから１日も早く復旧を望む声が寄せられたり、復旧しガスが通じた時にお客さまからの感謝の言葉をいただいたりと、いろいろな経験をしました。そうした経験を通じ、ガスは生活に欠かせない、正にライフラインであり、それを預かる責任の重大さを組合員一人ひとりが再確認できたことも貴重な財産になったと思います。

9．その他ご意見、ご感想を。

わたしたち大阪ガス労働組合は、関西に拠て立つ組合です。今後ますます地域に貢献し、地域の方々の理解が得られる活動をするよう努力していきたいと考えています。

ＪＲ連合兵庫県協議会

藤　原　俊　行
（事務局長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は姫路市にあり、震度４くらいだった。そのため、直後は「これで電車が少し遅れるか？」という程度の認識しかなかた。

その後車で家を出たが、道路が混んでいて西明石駅に着いたときには昼過ぎになっていた。駅でテレビを見て、はじめて災害の大きさを知った。

復旧作業ということになると、組合員・社員の多くが職場でカンヅメ状態になるので、ただちに会社へ水・食料の確保を申し入れた。

また労組としても、西日本本部（大阪）と連絡をとって、姫路に現地対策本部を設置し、18日、そこで用意したオムスビと水を持って職場へ入った。

震災当日、専従職員（神戸居住）の安否確認を試みたが、電話が不通で果たせなかった。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

18日に組合として被害状況をまとめた結果、組合員１人の死亡が判明した。犠牲者・被災者へは、神戸地本から見舞金を贈るとともに、全組合員を対象とした1000円カンパを実施し、弔意・見舞金にあてた。

また、会社に対し、自宅が居住不能となった組合員へ空き社宅の提供を求め、18～19日には全員の入居がはたせた。

さらに、西日本中央本部から各地区本部へ要請し、組合員の生活支援のため携帯ガスコンロとガスボンベ・ポリタンク入り生活用水の宅配をおこなった。神戸の三宮でルートが断絶されていたため、三宮以東は大阪・京都の地本に依頼した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

労使間で〝緊急事態〟であることを確認し、36協定を一時停止した。

さらに組合員へ「復旧までは不平を言わずにやろう」と

呼び掛け、賛同を得た。

4．救援・復旧活動をすすめていく上でも、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

復旧作業に人手がとられ、労組としての救援活動が思うに任せない状況があった。

連合兵庫から２次にわたってボランティア派遣要請があったが、１次分については断らざるを得ず、第２陣にのみ派遣した。復旧活動で疲れている組合員にボランティア活動を要求することに、心苦しさを感じた。施設関係の組合員などは、１週間くらいの泊まり込みは珍しくなく、みんな疲労困憊していた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

被災組合員宅の慰問について、完全に回り切れなかったことを、残念に思っている。

これは将来への備えということになるが、10月の協約改定でボランティア休暇制度を新設することができた。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

現状以上に何をどう準備するかということは、難しくてよく分からないというのが正直なところだ。ただ、日頃から災害に対する心構えだけは、持っておきたい。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

今度のような救援活動には、訓練されたリーダーが必要だと感じた。そういう人材の育成に力を注いでほしい。

また、救援活動は短期間に大量の仕事をこなすことが要求されるので、連合の“数”を生かせるシステムをつくっておくこと。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

全員が「鉄道マン魂」を獲得した。

また、普段は組合活動に無関心な人が、ボランティアには積極的に参加してくれた。助け合い精神が生きていたことを確認できた。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合組合員にも多くの被災者があったが、その人々への連合としての救援活動が少なかった。連合が大き過ぎて巨視的になり、面としての被災地しか見えなかったのではないか。

ゴム連合兵庫県協議会

和　田　時　典
（議長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

当日の工場稼働、社員の出社をどうさせるかを第一に考えた。午前中は職場と電話連絡がとれたので出社していた書記長に当面の対策を指示し、自身は自宅がかなり被害を受けていたため、最低限の応急策にあたった。

午後、徒歩で約１時間かけて出社したが、途中（兵庫区・長田区）で被害の大きさがわかって驚いた。

また、当日は午前の新幹線で出張予定で命拾いをし、当日以降の対策に当たることができた。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

３日目から神戸市内全組織を自転車で巡回した。工場、事務所も全壊建屋も多く、被害は非常に大きかった。

後日集計だが、組合員４人、家族35人が死亡。住居被害は全焼壊372戸、半焼壊511戸（以上組合員ベース）と人的被害も大きかった。

3．それにどのように対応されましたか？

中央で１人1000円以上の義援カンパをしてもらった。また、組織の共済も規定通り適用してもらった。構成組織内でも会社見舞金、組織の共済規定を適用しているが、私の組織では被害調査、社内カンパ、義損金集約、見舞金支給は労使でプールして行い、かなりまとまった支援ができた。

当初は家を失った人の収容先確保、緊急資金貸付を優先して取り組んだ。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

神戸・阪神間の組織が多く、各組織での被害が大きくて連合の要請には最少限度しか応えられなかった。率直に言って我が家、我が社第一の状況にあった。

また、ボランティア活動などには経験が少なく不慣れな面が多かった。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

神戸・阪神間組織では組織内対策に追われ、実際上も雰囲気的にも要請しづらかった。また、遠隔地組織には要請が急なこと、交通事情、指示管理体制などにより充分な手配ができなかった。費用的な問題もある。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

被害のスケールが大き過ぎた。当初は物無し、足無し、連絡網無しで困難も多かったが、各組織では、それぞれ組織内対策はかなり出来たと思う。

自社の場合、近隣火災の消化、避難所の提供、近隣道路整備、危険物撤去などを行ったが、全体として不特定多数の方や連合の要請にはあまり応えられなかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

被災地であるか、ないかによって異なる。被災地の場合は自力救援、復旧を第一に、他府県への救援対策は予め、いくつかのケースを想定し、指揮命令を明確にし現地ニーズに応える統制ある行動体制が必要。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

命の尊厳と危機管理の重要性を学んだ。この教訓を忘れないように今後の運動に生かしたい。

日本中、世界中の皆さんに感謝したい。

9．その他ご意見、ご感想を。

① 1月17日を新たな防災の日にする動きに賛成する。

② 救援活動で連合が「あれも、これも」と欲張らず、ふさわしい運動に特化することも重要ではないか。公務員、公益事業関係者は職場で充分活動された。民間企業などは地域との協力システムづくりが効果的。

③ 情報活動の充実を。とくに活動の情報を希む。

一般同盟兵庫地方一般同盟

上原隆生
（当時：書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

加古郡播磨町の自宅で地震にあい、そうとう揺れたが棚の物が落ちたくらいで、大したことはないと感じた。

が、少し経ってテレビ報道で大災害だと知り、慌てて車で飛び出したが道路渋滞で、何度か道を変えてアプローチしたものの身動きとれず、止むなく帰宅し電話連絡を試みるも、神戸方面へはまったく不通。

翌18日、車に弁当・毛布を積み込み、何10時間かかっても事務所へいくとの決意で自宅を出る。神戸に近づくにつれ震災の傷跡大きく、道路ぎわに毛布を着た被災者たちが長蛇の列をなす様を目撃し、被害の悲惨さを実感する。6時間かかって事務所に着き、内部は荒れ果てていたが建物は無事だったことを確認、すぐに周辺の加盟労組へ向かった。が、事務所から東へは通路がなく、西神戸を中心に見回った。道路はあちこちで倒壊ビルに遮断され、目的地を目の前にしながら何度も道をかえさせられるようなことがあったが、信号が消え、無秩序・無警察状態で半面ではたいへん走りやすかった。しかし、ようやく辿りついても、労組役員が出勤しているケースは稀だった。

夜、事務所に帰り着き、テレビを点けっぱなして役員の電話連絡を試みたが、やはり全て不通。この日より2週間、事務所泊まり。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員の死亡4人・重傷4人・一親等の家族死亡12人。家屋の全半壊650件。一部損壊を数えれば切りがないという有様だった。

また、加盟労組事務所、企業施設の被害も甚大なものだった。

3．それにどのように対応されましたか？

組合員・家族の被災に対しては、友誼労組からのカンパ350万円・一般同盟本部カンパ1200万円に、兵庫一般同盟加盟労組のうち被害軽微なところからのカンパをあわせ、1件当たり50～60万円づつ配付した。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

兵庫は加盟労組の8割が阪神間に所在し、被災したところ多く、応えられなかった。

また、本部から各地方一般同盟へボランティア要請したが、各地方連合の要請に対応するのが精一杯で、産別では出せなかった。

言うところのボランティアではないが、病院勤務の組合員たちは、それぞれまるで野戦病院さながらの状況下で壮烈な働きを見せている。神戸市内4病院はどこもたいへんだったが、とくに金沢病院では建物被害が甚大で、入院患者の避難作業をすすめながら、外来患者に対応していくという困難さだった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

加盟労組のほとんどに専従者がいないこともあって、単組役員たちと連絡がとれなかった。エネルギーの大部分を、そのことに費やしたが思うに任せない。また、単組のほうも、ともかく産別へ連絡するという意識が消えてしまっていた。産別として連絡システムの認識が薄弱だった。

そのため、一般同盟の独自ボランティア隊として、和歌山県などが「行く！」とスタンバイしてくれていたが、使えなかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

加盟労組の大部分が中小・零細で企業基盤が脆弱なため、被災企業のほとんどが雇用調整制度を使ったが、給付期間が過ぎると同時に雇用問題が起こる。雇用確保のための政策・制度確立へ力を傾注してもらいたい。

また、雇用問題の最初の犠牲者はパート・臨時雇用者の未組織労働者なので、その人々の相談窓口を設けるべき。現在の連合・連合兵庫には、彼らの駆け込み先がない。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

仲間の“連帯”を見直すよい機会になった。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合の、労働組合としての危機管理体制の整備をのぞむ。労働団体なのだから社会的責任を果たすべき対象の第1番目は労働者であるはず。未組織労働者対策にもっと精力を。

連合直轄の「中小労連」の設立を提案する。

交通労連兵庫県支部

岸　田　健一郎
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

伊丹の自宅で地震に遭った。「家が壊れる」と思ったほど（結果は半壊）の揺れで、「かなり大きな被害になる」という認識はあった。

午前7時前、車で事務所（神戸市中央区）へ向かったが、ラジオで阪神高速道路倒壊のニュースなどを聞き、あらためて震災の大きさを知った。幸い事務所の建物（兵庫友愛会館）は無事だったが、内部は混乱をきわめていた。自宅から事務所へは普段なら1時間のところ、道路状況最悪で6時間近くかかった。

大阪へ連絡をとり、今後の対策を依頼。ただちに対策本部を設けてもらった。

翌18日から自転車で単組の状況把握に回った。一応の様子が分かるまで3日かかった。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員4人が亡くなったことをはじめ、家族や、家屋（1333件、大阪含む）にも多大の被害があった。

3．それにどのように対応されましたか？

労連カンパを見舞金にあてた。

本人死亡50万円・家族死亡10万円・家屋全壊5万円・半壊2万円。総額約3200万円となった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合本部の要請には、労連本部が対応した。尼崎に本部専従2名を常駐させるとともに、ボランティア活動者を派遣した。

連合兵庫阪神地協からの要請には、ボランティア活動者（関西総支部・兵庫県交労で29名）を出すとともに、労連本部対応でトラック・運転士等（車両延べ216両・作業班438名）を派遣して物資の配送に協力した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

各企業が大なり小なり被災している状況下で、救援活動を要請するのは心苦しかった。

また、道路状況の悪化で陸運業務はたいへん時間がかかり、長時間勤務を余儀なくされるので、人手を出しにくかった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

緊急時に何をすれば良いのか分からず、充分な対応ができなかったと思う。

労連本部としては、速やかに対策本部を設置し、被災組合員などの状況把握・見舞いなどが迅速にすすんだ点、単組から大いに評価されている。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合ボランティアに関して言えば、一般市民への支援はかなりのレベルでやれたのではないかと評価している。が、しかし、その反面被災組合員への対応がなかった。組合員を救けるシステムをシミュレーションしておく必要があるのではないか。

また、多くの救援物資が寄せられたが、それが膨大な仕分け作業を生んでいた。輸送期間の関係で“生物はほとんど傷んでいた”ということもあり、現金での支援のほうが良いのではないかという印象を受けた。あれほどの大災害でも、ほんの少し被災地から離れれば品物は豊富にあった。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

労連本部の迅速な対応に、感謝の念を抱いた。本部の信頼感が増したと思う。

ただ、県下の運動面では、各企業が被災したことに加え、荷主がダメージを受けて操業停止したところもあり、輸送量が減少した。そのうえ現在（95／11）でも道路状況が悪く長時間走行で輸送コストが上昇。これらが傘下単組企業を圧迫している。

また組合員も、長時間走行により一時的には超勤アップで収入増となる者もいるが、こうしたコスト上昇分を企業が吸収していけるか、産別としては危ぶんでいる。（阪神高速道路が回復（96年末）するまで、この状況はつづくことになる）

9．その他ご意見、ご感想を。

被災企業の立直りには、そうとう時間がかかると見ている。そのうえ現在の道路状況がもたらす或る意味での2次災害に、企業が見舞われる危険性も大きい。

連合には、復興予算関係の要求運動に積極的に取り組んでもらいたいと切望する。

全国一般兵庫地方本部

伊吉利哉
（書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

震災被害の集中地域の1つである神戸市灘区に自宅があり、隣保27軒中、23軒が倒壊し、住民4人が亡くなった。とうぜん大災害だとの認識はあり、すぐさま表へ飛び出して生き埋め者の救助にあたった。6～7人を瓦礫の下から救け出したと記憶しているが、残念ながら救出作業中に息絶えた人もいた。

午後2時くらいまで救出活動をつづけ、そのあと事務所に出た（神戸市兵庫区）。事務所スタッフの安否が気にかかっていたが、わたしが出勤したときには、すでに委員長が確認してくれていた。

電話不通が多いため、翌18日より自転車で各職場の人的被害、生産設備や建物の損傷を調査して回った。が、組合役員にも出勤不可能者が多く、会社側からも情報収集した。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員2人、家族7人が亡くなったのをはじめ、35人が負傷。家屋全壊150、半壊202、一部損壊261の被害があった。

3．それにどのように対応されましたか？

地本として各組合へ被災のいかんに拘らず要請した義務カンパ、中央本部のカンパ、有志地本の見舞金、これら総計2000万円をもって見舞金にあてた。

また、近畿地本から多くの救援物資が寄せられたが、これについては事務所近隣の住民へも配付した。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

中小零細の組合が中心で、それらの組合員は比較的住環境が悪いことが多いため、被災度合いが高かった。そのため神戸市内の組合には要請に応えられる条件はほとんどなく、西播・東播・阪神7市の組合で応えた。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

ボランティアというシステムが体系化されていず、欧米のように慣れていない。そのため、それぞれの職場の中で力量・実態に応じた助け合い活動をおこなうのみに留まったケースが多かった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

普段から余裕のない条件下で目一杯の活動にとりくんでいるため、震災対策として充分なことができたかどうかには疑問がある。

が、しかし、被災した企業はたくさんあったが、震災がらみでは1人の解雇者も出させなかった。これは産別として積み上げてきた今日までの運動の成果だということと同時に、労使の信頼関係のたまものだと思う。

ただし、震災便乗型の賃上げ抑制策を弄した企業に対しては、ストを含む強い姿勢で対処した。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合は行政の手助けはしたが、被災組合員に対するカンパ・救援物資・ボランティアなどをおこなわなかったことに奇異な印象を受けた。第1に組合員を救けるという気持ちと、システムを備えてもらいたい。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

良い面としては、団結が強まった。自組合以外の組織に対する意識の度合いが強まった。

悪い面としては、経営基盤の脆弱な企業が多いため、震災がもたらした困難に耐えられなくなる職場が出てくる危険性が生じたことだ。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合は、失業者対策などの事後対策だけでなく、行政や県下の経営者に働きかけ、将来の困難を未然に防ぐ活動に力を入れてほしい。

また、組合員へ直接的な救済の手を差し延べるという姿勢を持ってもらいたいとも思う。

こういうことを言うと、「連合は産別主導体制なので、産別を越えて単組に介入することは難しい」というような反論があるかも知れないが、しかしそれはイデオロギーが含まれる運動面で制約があるということで、今次震災救援のような人道上の活動に関しては、もっと積極的に踏み込むべきだと考える。

震災後、連合兵庫から被災状況報告を何度も要請され、都度回答したが、結果としては何の対応もなかった。不思議に感じている。

海員組合関西地方支部

川崎春生
（副支部長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市中央区の自宅マンションは、壁や天井に穴があくほどの被害を受け、とうぜん「大災害だ」との認識はあった。

表へ出ると、住友ゴム工場が倒壊し、付近から火の手があがっていた。何はともあれ、近隣の家族・兄弟の安否を

訊ねた。

それが済むと、組合員や支部の建物が心配になり、車で家を出た。ふだん10分で行けるところを１時間もかかって辿りついた。建物は無事だが電話は不通で使えない。公衆電話へゆき、執行部の安否を確認、本部へ状況報告し「支部は大丈夫。自分は、自宅付近が火災の心配もあり帰宅する。他に出勤者はなく、今日は事務所を閉める」と伝えた。

翌18日、組合員宅を巡回し、被災状況の調査確認と水・食料などの状況を調べ、生活支援を開始した。

２．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

全国各支部からの応援を受け、洲本・大阪・名古屋などから主に海上ルートで生活物資を運び、被災組合員宅へ配給した。

組合員１人・家族４人が死亡、家屋全壊204・半壊97・他300件の被害があった。共済から等級に応じて見舞金を支給。遺族へは、別途見舞金を贈った。

３．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

船会社から「港湾施設が壊滅し入港できない」と相談があり、９月末までの一時帰休（見なし失業）など、認めざるを得なかった。

救援活動としては、県・市へ旅客船を避難所にしてはどうかと提案したが、神戸では他の避難者との格差が生じることを心配し、実現しなかった。芦屋市では実施した。

４．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

被災企業の組合員の「見なし失業」適用問題で悩んだ。いま失業給付を受けてしまうと、次は保険加入期間が０からの計算となり、ほんとうに企業が倒れたときに最低の給付期間しか保証されないことになる。とはいえ、船員保険は陸上と異なり雇用調整給付金のような他の選択肢がなく、踏み切らざるを得なかった。

５．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

商船大学・海技大学の学生は、近辺の被災者救援・人命救助に活躍した。船は、物資の輸送面で力を発揮するとともに、報道関係の基地・宿泊所に利用された。

ただし、救援活動への船舶利用の提案は生きなかった。

６．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害時の海上輸送機関の重要性は歴史的に実証されているので、今次教訓をいかし一層システム整備して危機管理能力を高めたい。

また、行政に対し、普段から各地への輸送手段が偏らないよう、配慮を求めていく。

７．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合は巨視的な活動に終始した。避難所にすら行けず自宅で頑張っている人々への支援などは欠けていたのでは。もっと地域の実態を把握し、キメ細かい救援活動を。

８．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

個人的には、人と人のつながりを持てた。

労組としては悪いことばかりで、被災組合員の今後の生活をたいへん心配している。失業問題もそうだが、たとえばサラリーマンが一生に２度も家を建てるのは大難事だ。

９．その他ご意見、ご感想を。

連合は、一時のブーム的支援でなく、被災者の実情を調べ、息長い救済活動に取り組んでもらいたい。

また、行政の救済制度や法的手続きなど、被災者が知っておくべき事柄に関する、教宣活動が不足していると思う。

紙パ連合兵庫ブロック会議

岡　本　盛　雄
（当時：代表・新王子製紙神崎新労組前執行委員長）

１．大地震を体験、または第１報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は大阪市都島区だが、「死ぬ」と観念したほどの激震だった。マンションのエレベーターが停止した。

しかし、ベランダから見える工場の煙突から水蒸気が出ているので、普段どおり世の中は〝動いている〟感じだった。

出勤のため家を出ると、地下鉄はストップ。バスで梅田へ出たが、ＪＲ・阪神・阪急すべて停止。仕方なく大阪市バスで会社近くまでいき、いつもより１時間遅く出勤した。

会社の正門で、夜間・早朝勤務者の怪我人を確認。労組事務所でテレビを見て、はじめて震災の物凄さを知り、ただちに会社へ「全従業員の安否確認」を申し入れた。（全員の安否が確認されるまでに１週間かかった）

震災当日はさすがに出勤者が少なかったが、２日目に職場回りをしたときは、「早く工場を再開しよう」と、ほとんど全員が出勤していた。そのご職場単位で、組合員の自宅へ見舞い訪問をおこなった。

２．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員の家族10人ほどが負傷。家屋全壊20・半壊62・他46件となっている。

３．それにどのように対応されましたか？

労組結成時（Ｓ24）から積み立てている救済基金を基準を引き上げて支給、さらに新王子８単組からのカンパ1400万円を、関連会社従業員も含め一律配付した。会社の見舞

金も支給基準を引き上げさせた。

また、従業員の中には、食料の備えのない者も多かったため、会社にオムスビとタクアン程度の炊き出しをさせ、持ち帰ってもらった。この状態は4～5日間つづいた。

さらに会社へ申し入れ、家屋が損壊した者には社宅・寮への入居、くわえて東大阪のマンションを30戸確保して対応した。通勤不可能者は文化クラブを宿泊所にあてた。

これらの生活支援は、向こう5年間をめどに、継続することを労使で確認している。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

阪神地協からのボランティア派遣要請に対して、2月9日から27日の間に延べ30名を派遣した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

カンパ要請については、被災地でカンパ集めは問題があるとの判断で、やらなかった。

ボランティア派遣については「募集ポスター」を張り出しただけでも、かなりの反響があり、この点では困難は感じなかった。

ただ、遠隔地からの応援者にはスーツ着用者がいて、ネクタイを外させるなど、被災者への気づかいに苦労した。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

生活物資の手当ては、労使協力して比較的良く対応できたと思う。四国工場から茶碗・皿など大量に送ってもらえたことなど、嬉しかった。

組合員の安否確認が、ややもすると会社任せになり、労組として適切な対応が遅れたことを残念に思っている。

また、労組の見舞金が未配付の段階で、「会社に比べ、組合は何もしてくれない」と苦情を受けた。対応後は感謝されたが……。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合兵庫は被災地の真ん中にあり、何かと困難があったことは理解している。

連合本部については、いち早く生活局長をはじめ指揮部隊が乗り出してきていた。これは嬉しかったし、やる気になった。

ただ、連合独自の通信網が確立していたら、各組織ともっと有効な動きができたのではないかという印象があった。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

労組の存在価値が見直された。生活基盤を守り、仲間が助け合うためには、物心両面での組織的蓄積が必要だと認識された。

上部団体の存在は、たいへん心強かった。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合からのボランティア要請は2～3泊を条件にされたが、近隣への派遣は日帰りで良いのではないか。そのほうが対応し易い。

全水道神戸市水道労働組合

坂　本　公　憲
（書記長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市北区の自宅で、会議資料をまとめたあとの寝入りばなを襲われた。本箱が倒れ、台所はゴミ箱同然に。が、近隣の建物に被害は見えず、大災害だという実感はなかった。

交通機関が止まっておりマイカーで出勤したが、六甲トンネルを抜けると市街地の火災が見え、三宮ではビルの倒壊があり、市役所へ着くと第2庁舎の中層が潰れていた。労組事務所は台風一過の様相を呈していた。

ただちに当局へ水道の状況を訊ねに走った。庁舎の階段の途中で守衛に止められ「水道局は潰れた」と聞かされた。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

労組活動を凍結し、市民に水を届けるため専従者も書記長1名を残し全員職場へ復帰。

被災組合員への見舞金は規定がなく、委員長・書記長の責任で全壊50万円・半壊25万円・全組合員に一律5万円を支給。財源はスト積立金と全水道のカンパ。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

正式には要請はなかった。当局は混乱しており、職員が集まらず体制も何もなかった。各センター・営業所などでも、建物に被害があったところでは住民の救助が先決で、復旧作業にまで手が及ばないような状況だった。

また被害が広域かつ甚大で、何から手をつけるべきか見当がつかず、当局も一定期間は「復旧よりも給水」との姿勢で取り組んだ。

4．救援・復旧活動をすすめていく上でも、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

労使協議で、勤務態様を1週1休、6日間の連続勤務（車中や役所の床で仮眠）としたが、過労で倒れる者が出ないか心配した。

また復旧が進み、各家庭へ送水再開するとき、同じ町内でも後先が生じるが、送水の遅れる家から猛烈に叱られるのは辛かった。

さらに、送水再開時には、家屋・家財を水浸しにしない

ため元栓を閉めておく必要があるが、現在はこれが宅地内にあるため瓦礫に埋まっている場合など、難渋をきわめた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

全国の水道の仲間から応援申し出があったが、宿泊など労組では対応できず、「行政サイドで応援たのむ」と応えるしかなかった。（全国からの給水支援は、156自治体・54民間事業体・自衛隊から延べ14100台の給水車・船舶423隻の応援を受けた）

また、仲間から送られた救援物資についても、管理が行き届かず、果たして公平に分配できたかどうか自信がない。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

日常の訓練・マニュアルづくりに力を注ぐこと。たとえば、現行では『災害時には各自の判断で最寄りの事業所へ出勤する』となっているが、これだと居住分布からして北区・西区・垂水区に人員が集中しかねない。『無理してもココへ出勤せよ』と改定しないと仕事にならない。また市内の主要箇所に『寮』などを建設、居住分布を是正し、緊急時の人手を確保することも一法ではないか。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

救援活動が連合の主要な取り組みになっては困る。政策・制度で防災・復興に寄与されたい。また施設・機構の点検活動も有効だ。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

① 組織の結束力が強まった。

② 震災で当局は莫大な赤字を抱え、早晩、料金改定が必要となり。そのとき世論から、水道事業自体の合理化が迫られることになる。

9．その他ご意見、ご感想を。

市の財政再建のためリストラが求められている。が、この財政逼迫は市の放漫経営の結果ではなく、不慮の災害によるもので、国策で救済されるべきものと考える。こうした状況に鑑み、当県選出の国会議員たちは一体なにをしているのかと言いたい。もっと地元救済に力を入れてもらいたい。

都市交兵庫県協議会

土井田　　巌
（議長・尼崎交通労組執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は伊丹だが、家具類はすべて倒れた。とっさに運転士たちが心配になり、車で家を飛び出した。道路は信号機が消え、まだ渋滞していず、たいへん走り易かった。

出勤すると、労組事務所は備品類が散乱している有様なのに、50メートルほど離れた事業所では不思議なことに紙1枚落ちなかったとのことで、誰もさほどの大災害とは思わず、始発便は6時15分の定時に出庫していた。内勤・管理者が事の重大さに気づいたのは、6時40分に乗務中の運転士から「橋板と道路のあいだに50センチもの段差ができて通行不能」との連絡が入ったときで、ただちに事務職員がパトロールに出動した。

運転士らは「市民の足確保」の使命感があり、多少のアクシデントでは引き返してこないし、連絡は運転士からの電話（公衆電話）を待つのみで、結果的に無事故で済んだが、2次災害の不安はつのる一方だった。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

労使で災害対策特別協議会をもち、市バス運行と乗務員の安全確保に万全を期した。また、労組として出勤者の生活支援をおこなうとともに、事業所に通勤不可能者の宿泊所を用意させた。

震災で組合員の家族が2名亡くなった。それも含め、被災者へは労組互助会の積立金・都市交本部の見舞金を配付した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

運行確保は労使共通の目標だったが、安全がなおざりにされないよう強く申し入れた。

4．救援・復旧活動をすすめていく上でも、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

運転士は勤務現場が道路ということもあり、安全管理は本人に任せになりがちで、労組としては心の休まることがなかった。「運行確保」の使命感が勝ちすぎて、2次災害に遭遇することを最も心配した。

また、家庭を放置して出勤しなければならないことに不満の声があり、それでも「市バスの命運がかかっている」と出勤を促さねばならないことが辛かった。みんな苦情は口にしても、バスを走らせつづけてくれた。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

運転士の中には避難所から通勤してくる者もあり、誰もがたいへんな状況下にあったが、バスは走った。

尼崎市は神戸ほどの被害は受けなかったが、道路状態はひどく、普段の行路を使えないケースが多々あった。が、迂回を重ねつつも、また定時性は損なわれたものの、ともかく市内全域にわたって路線断裂がなかった。

ただ、組合員の家族状況を把握し切れず、充分な支援が

できなかった点は悔やまれる。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

運転士からの一方連絡しかなかった反省から、全車に無線装置をとりつけた。以前より事業所が提案していたものの、労働強化につながると組合員の抵抗が強かったのだが、震災経験からスムーズに受け入れられた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合800万組合員をバックにした共済制度の設立を望む。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

全国の都市交の仲間から物心両面の支援を受け、組織の有り難さを体得した。

全組合員が「災害時にも市民の足を確保した」との誇りを抱いた。

と同時に、利用客と運転士とのあいだに、よりいっそう強い連帯感を醸成できた。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合は組織が大き過ぎるためか未だ親和感が薄いが、尼崎地区連のレベルではかなり親交がすすんでいる。早く全県下にわたって地区連絡会を結成し、近隣労組間の連帯を強めていかなければならないと思う。

非鉄金属労連兵庫県協議会

小松原　　務
（調査部長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

明石の自宅にて睡眠中に被災し、家屋半壊の被害を受けた。まず、家族の無事を確認し、急いで出社して組合員の安否を確認した。そのあと、労使で被害状況を確認し、復旧対策の検討を行った。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員1名が、火傷を負った。他は、家屋半壊に近い被害を受けた者2名をはじめ、33名が家屋に被害を受けた。

3．それにどのように対応されましたか？

産別および企業連各単組による組合員の義援金を受け、被害状況に応じて4ランクに分けて支給した。また、会社からも被害状況に応じて見舞金が支給された。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

2月4日に、連合兵庫東播磨地協の要請を受け、神戸市長田区の救援物資集積場へ応援にいった。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

単組も被害を受けている中でのボランティア動員であり、お願いするのが心苦しかった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

連合などからの要請については、出来るだけ積極的に対応を心掛けた。しかしながら、会社の復旧にも人手が要るため、思うようなボランティア活動が出来なかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害時には、出来るだけ早く情報を集め、必要に応じた人員動員数や物資の確保などを行い、無駄のない効果的な対応が出来る体制を整えておくべきである。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

企業連の組合員に助けられ、また励まされて、いままで以上に組織の有り難さを肌で感じることが出来た。

9．その他ご意見、ご感想を。

私自身もそうであるが、単組単位ではなかなか情報がつかみにくいので、連合を通じて企業連・各単組へ速やかな情報が入ってくるようなシステム作りを今後お願いしたい。

税関労連神戸税関労働組合

佐　伯　逸　夫
（当時：委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅の家財やマンションに被害を受け、妻の実家が全壊した。

地震直後は埋もれた長男を救出、つづいて近所の人を救出したのち、執行部の安否、組合員の安否が気になった。また、職場が大丈夫かどうかも気にかかった。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

職員の負傷および家族の死傷者が数名。全・半壊したマンション・家屋が約90戸。

3．それにどのように対応されましたか？

被災者への救援物資の配付・全壊・半壊に遭われた組合員に対する見舞金の支給。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

土・日などの休日を利用してのボランティア活動への参加。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

平日遅くまで仕事をこなし、休日にボランティア活動に参加するため組合員の負担が大きく、参加者を募るのもなかなか大変であった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

地震直後の、倒壊家屋からの人身の救出。これは人力では限界を感じた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害時の非常事態に対し、物心両面での対応方法等、自分で処理可能な対処法の組合員への周知。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

自立心と依存心。

9．その他ご意見、ご感想を。

あまりにも大きな地震であり、どうにも仕様のないことではあるものの、人命を救出しようにも人力ではどうしようもない空しさ、やりきれなさを感じました。

ＪＲ総連兵庫県協議会

大　篠　　勉
（事務局次長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

西明石駅車庫の電車区寝室で仮眠中、地震に襲われた。胴上げでもされたように身体が３度ほど浮き上がり、即座に緊急事態が発生したと感じた。乗務中の者の安否が気にかかり、すぐに駅舎に走って安否確認に着手した。幸い鉄道電話は通じており、各駅に連絡して安否確認を要請し各単組に連絡、さらにテレビなどで情報収集につとめた。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

18日、神戸支部に現地対策本部を設け、本部・本社間で「労使安全会議」を開いて復旧作業の「全面協力・安全確保」について交渉した。また、運行可能路線でも線路がひどく傾いていたり、ふだん通らない路線を縫っていくなど、乗務員としては神経疲労も大きかった。「復旧」を焦って、安全面をなおざりにすることのないよう会社に申し入れた。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

路線が途切れてしまい大阪地区の乗務員が不足したため、大阪電車区への転勤（１か月交替）、ならびに迂回路を使う関係から加古川鉄道部への助勢（完全復旧まで）問題などが持ち上がった。突発かつ長期の転勤となるが、対象者も組合も「復旧後に元の職場に復帰させると保証するなら、いくらでも協力する」との姿勢だった。が、会社が明確な回答を示さないため、交渉は難航した（結果的には、組合の申し入れどおり、全員が元の職場へ復帰した）。また、保線・電気・建築等の職場では、当初不眠不休で復旧作業に努めたが、長期になるので休日をとることにした。

4．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

被災しながら、復旧作業につとめたこと。

連合兵庫からボランティア派遣要請があったが、復旧活動のため応えられなかった。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことについてどういうものがありますか？

職務上の復旧活動だけでなく、職場内での被災者救援活動は精一杯おこなった。内部の非番動員者と、応援（福知山・米子・岡山・広島の各地本）ボランティアの協力で、被災組合員へ救援物資を配達した。

また、ＪＲ総連本部カンパは受け取り後ただちに配付し、共済関係も可及的速やかに対応した。充分なものではなかったかも知れないが、早急な対応は組合員から喜ばれた。

しかし、わたし自身が経験したことで、痛恨事が１つあった。乗務員は電車の運行に責任があるため、路線上で停止した電車は安全措置がとられるまで監視義務があり、徹夜明けの組合員が監視任務にあたっている現場へ食料をもって激励にいった。その途中、線路脇の町が火の海になっている光景を目撃したが、先を急ぐので横目で見ながらとおりすぎた。後日、そこに組合員の家があり、全焼したことを知った。そばをとおりながら、何も手助けできなかったことを悔やんでいる。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

会社としては建築・車両構造の見直し。

労組は、組合員の住所地の把握。また、他地区の災害に対しては、この震災で全国の仲間から支援を受けたという事実を忘れないように、感謝を込めて語り継いでいきたい。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

防災対策を行政に徹底させること。また、産別・単組の復旧復興や防災に関する要請行動に協力すること。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

労組と組合員との絆が強まり、組織の存在価値がいっそう認識された。（生活支援・見舞い訪問などに、組合員から感謝の手紙が寄せられた）

くわえて、産別の全国の仲間から心配してもらい、応援を受け、連帯感が高まった。

9．その他ご意見、ご感想を。

復旧活動中、連合本部なり連合兵庫から激励があれば良かったと思う。

レジャー・サービス連合兵庫

稲垣広造
（オリエンタルホテル労組副委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

電気が意外に早く回復したのでテレビを通じて情報を得ようとしましたが、まさか会社が全壊したなどとは考えませんでした。組合幹部としては最悪の事態も考え、弁護士とも相談のうえ対策を練った。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

組合員レベルでは全半壊合わせて71件、組合員は全員無事だったが身内の者で6名の犠牲者を数えました。また、レジャー・サービス連合全体では1153件の被害を受けました。

3．それにどのように対応されましたか？

自組織共済制度、ならびにダイエー本部より見舞金を受けた。また、レジャ・サービス連合独自の共済制度もあったが、1153件・1億9500万円の払い出しとなり、いきなりパンク状態となった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

会社が崩壊、多くの従業員が被害を受けた中でボランティア活動などとても参加できる状況ではありませんでした。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

結局、組合は会社あってのものだということをつくづく実感した。

全自交兵庫地方連合会

加藤　攻
（書記長・神戸相互タクシー労組執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は芦屋のマンションだが、天井が抜けたのをはじめ半壊の被害を受けた。

会社のほうも芦屋の社宅（50世帯）が全壊し、組合員2人・家族2人が亡くなり、それ以外に家族11人が亡くなっている。

そのため、何はともあれ居住場所の確保を思案し、とりあえず避難所へ入所ということも考えたが、50世帯まとまっては難しい面があり、結果、震災直後の数日間は、会社駐車場に営業用車（タクシー）を並べ、ヒーターをかけっぱなしで暮らした。

しかし、いつまでも車中生活をつづけるわけにはいかないので、数日後、八方手を尽くした結果、京都の相互タクシーにブルーシートを手配してもらい、駐車場をシートで囲いし、社宅の瓦礫の下から持ち出したタタミを敷き、キャンプ用テントを張って寝起きをすることにした。これが5月半ばまでつづいた。

6月、会社として倉庫を借り、内部を改造して住居にした。入居者を班分けし、水汲み・買いだし・トイレ清掃などの当番ローテーションを決めて、集団生活をつづけた。

また、組合事務所も全壊したため、震災直後近所の民家を借りて事務所にしたが、4月半ばにプレハブで新築し、そこへも8世帯ほど入居させた。

労組としては、労使協力による社員・組合員の生活支援を第1に取り組み、次いで歩合給制度ということもあって組合員の稼働に関する労働協約上の制限事項（稼働日数・時間・売り上げ額など）の停止を申し入れ、働ける人には収入確保の道を開いた。

それと同時に、各種の生活情報の提供、仮設住宅入居手続きなどの教宣活動を、できる限りキメ細かくおこなった。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

単組としては、組合員2人・家族13人が亡くなっている。また家屋の被害は、組合員の居住地が被災地に集中していたので、ほとんど全員が被害を受けている。

3．それにどのように対応されましたか？

自社共済にくわえ、全自交本部カンパ・近畿地協カンパ・相互タクシー労組グループカンパをもって、見舞金をおくった。

また、生活支援は上述のとおりだが、運転士の収入確保の面から、3月に全自交・私鉄関旅共同で国道2号線・43号線のタクシー通行規制緩和を申し入れ、実施された。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどの

ように応えられましたか？

被災状況を配慮してもらったのか、要請はなかった。あるいは、連絡不能だったのかも知れないが…。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

単組の状況を報告するとすれば、稼働態勢は復旧したが、売り上げは前年同期比で約30パーセント減となっている。

道路状況が回復しないため、長時間走行の割にメーターが上がらないことと、夜間の乗客減が、売り上げ不振の2大要因だ。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

上部組織・相互労組グループの支援、会社の協力など、多方面からの救けがあってこそではあるが、あの状況下としてはよくやったと思っている。

生活資金の面では、労働金庫にもかなり好意的な貸付をおこなってもらい、会社も退職金の前貸をはじめ、よく対応してくれた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

正直に言って、いまはまだ、まとまった考え事ができる状態にはなっていないので何も申し上げられない。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

団結心（闘争的ではなく、協調的な意味の）が高まった。現在では多少薄らいできているかも知れないが、当時の状況には感動的なものがあった。

9．その他ご意見、ご感想を。

道路の復旧がなければタクシーの仕事はやっていけない。神戸の業界では震災後1000名もの退職者をだしており、連合からも、行政に早期復旧を働きかけてもらいたい。

日放労関西支部

福島　博
（執行委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

東京出張中、ラジオの午前6時台のニュースで「近畿地方に激しい揺れ、震源地は神戸」との報道に接した。最初は「訓練ではないか？」と思った。が、コメント中に頻発されるべき「訓練」という言葉がなかった。

すぐにテレビをつけ、阪神高速道路の倒壊現場が映しだされるに及んで、未曾有の大震災を認識した。

反射的に組合員の安否が心配になり、各家庭の被災状況も気になったが、放送人は事件発生と同時に現場へ飛び出していくので、2次災害に遭遇することも恐れた。

ただちに会社へ「組合員の安否確認と安全確保」を申し入れた。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

“放送の使命”を果たすため、立ち上がりの2週間、労働時間など労働条件の緩和を容認した。全国のＮＨＫから応援を得て交替要員が確保できたが、当初は大阪・神戸の人員で支えなければならなかった。

組合員1人が死亡、怪我数10人、家屋損壊多数あったが、組合員のカンパなども求めた。

住居の問題に関しては、わずかにあった寮の空き部屋を提供するよう会社に要請した。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

労働協約の勤務制限条件を緩和した。24時間休みなく「放送を出しつづける」ためには止むを得ない措置だった。

4．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

放送継続と、現場での安全確保が、最重要課題だった。安全確保には事故・過労の両面対策が必要で、会社に申し入れ、ヘルメット・安全靴などを支給させるとともに、食料・薬品（風邪・ウガイ）・布団などを現場へ搬送させた。応援を含め、現場には500人の放送スタッフが入っており、後方支援は大仕事だったが、会社はよく対応したと思う。

労組としては、組合員が使命感のあまり死にもの狂いで働くことに対し、いわゆる過労を心配しなければならなかった。放送の使命との間で、二律背反に苦しんだ。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことについてどういうものがありますか？

放送が止まらなくてよかった。現場の取材陣・後方支援業務の面々とも全員が「放送の使命達成」のため、家庭・一身の危険を省みず頑張った。

事態はマニュアルが想定する災害規模をはるかに超えており、無事故は幸いであったとも言える。

災害時に、家をあけざるを得ないという人情に反する行動を求められる職場としては、物理的な問題もあるが1戸ごとの生活支援ができなかったことを残念に思う。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害時マニュアル（震度7対応）の全面改定が必要である。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだ

とお考えですか？

行政へ民意を反映する努力を。防災・危機管理の名のもとに、市民の当然の権利が軽んじられないように。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

生きざまを問われた。放送人の義務は果たした。が、一個の人間、父・母・夫・妻としてあれで良かったのか……答えはでないが。

取材現場でも、画的には面白いが倫理的に撮ってはいけない場面がある。人権に配慮した放送が出せるよう、労組はシステムをチェックできなければならないと思う。

9．その他ご意見、ご感想を。

震災がボランティアを「大衆化」させた。この芽は大事に育てていくべきである。

地域協議会（地区連絡会）

アンケート回答

神戸地域協議会

桐　山　忠　之
（事務局長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

神戸市垂水区の自宅で熟睡中だったが、凄まじい激震だった。直感的に大災害になると思った。労組役員というよりも地域住民として、とっさに地域全般の被害を心配した。

電話・交通が不通だったので、当日はなすすべなく過ごした。昼すぎ、市の中心方向から黒煙・火の粉が届くようになり、たくさんの避難者が徒歩でやってきた。

ライフラインが停まったので、自身生活者としての不安も感じた。明日からの生活、とくに「水」をどう入手するか悩んだ。

翌18日になり、ようやくショックから覚め、「とにかく行けるところまで……」と自転車で市の中心部へ向かった。２時間かかって出身組合である兵庫区の三菱労組神船支部へ辿り着いたが、そのときは情報不足もあり「たいした被害はない」と思った（この印象はその後、時間経過とともに修正されていった）。年齢的なこともあり、自転車での１日の行動としては、それが精一杯だった。

19日に「今日こそ事務局までいく」と決意して、ふたたび自転車で都心部へ。事務局のあるビルは被災地の中心部に位置し、エレベーター・電灯・ガス・水道・電話、すべてが停まっていた。事務局内部は、隣室との間仕切り壁がふっとび、足の踏み場もなかった。20、21と、２日がかりで掃除し、動くかどうか分からなかったがともかくワープロや当面必要な書類などを持ち帰った。

23～24日、自宅の電話で地域組合・役員の安否確認をおこない、独断だったが25日に兵庫友愛会館内に連絡事務所を設置し、その旨の連絡と見舞い状を発信した。

26日に織田議長が県と神戸市に対し『緊急対策要請』、２月10日には『新生神戸への地域ビジョンの確立について緊急提言』を神戸市へ文書で要請した。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

被災地協という配慮からか、上部機関からは何らの指示もなかった。

6．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

連合の救援活動については何も知らされることなく、また活動の中での位置付けもなされなかった。

そのため、地協として独自に市民ニーズを検討し、神戸市への要請活動をおこなった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害は地域的なものであり、ニーズに合致したきめ細かい救援活動をおこなうためには、地域組合間の連携強化・地域社会とのコミュニケーションが重要だ。だが、現状の労組の実態は、地域互助組織という面ではあまりにも力量不足。連合の産別主義は理解できるが、そうした前提下で地域組織が「何を補完するか」という議論をもっと深めてもらいたい。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

ようやく地協活動の本格化への足がかりとして２月１日に定期総会を準備していただけに、組織活動の停滞を余儀なくされたことは残念だった。その結果、会費徴収開始も震災による減免措置を講じ、１年遅れることとなった。

9．その他ご意見、ご感想を。

神戸地協の立場でいえば、被災地のド真ん中にある地協が、連合本部・連合兵庫から存在を忘れられていたのではないかという気持ちがある。

それに、被災地の神戸が地方連合事務局の所在地であったということから、県組織が地協の肩代わりをしてしまった面も否めない。今回はそれで良かったかも知れないが、これが但馬や丹波での出来事だったら、連合兵庫は今回と同じように対応できただろうか。

今後は、地域組織自らが力量養成に努力することはもとより、地方連合がいかに地域組織の活動をサポートしていくかという点にも意を注いでもらいたい。

また、連合の救援活動については、もう少し組織に対する救援という視点があっても良かったのではないかと思う。

ただし、個々のボランティア活動者の献身的行為には心から敬意を表したい。

阪神地域協議会

高　田　　保
（議長）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

大阪府池田市の自宅が半壊したほどの激震で、「これで死ぬな」と思った。

揺れがおさまったとき、母から聞いていた「東京大空襲」の記憶が蘇り、労組役員というよりも一個の人間として「何かできることはないか」と考えた。救援活動が必要になるだろうという感覚はあった。

昼過ぎに出勤（三菱電機労組北伊丹支部）し、ただちに緊急対策を打合せ、支部役員と会社総務で人命救助チームを組み、組合員・社員・ＯＢらの安否確認にあたった。電話は不通が多く、ときには避難所まで出向いたりして、全員の安否を確認するまでには１ヵ月以上もかかった。そのかたわら、労使協力して工場の復旧活動をすすめた。

時をうつさず阪神地協としての救援活動にも取り組みた

かったが、地協役員と連絡がとれず、そうこうするうち連合本部（加藤組織局長）が乗り出してきて、東拠点の構築に着手した。東拠点は、当初は連合大阪内に設置されたがなるべく被災地ちかくにということで、１週間ほどで尼崎市に移動した。

４．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

東拠点での救援活動は、主に連合本部の指揮のもと、全国ボランティアによってすすめられたが、阪神地協も大いに働いた。

救援物資の仕分け・配送が中心だったが、連合推薦議員や後援会役員と連絡をとって配送先を決定、配送手段・人手を供給した。

が、ただし、人手については地協の対応力が不足で、連合本部要請の形で中部・九州・四国の三菱電機労組に助けてもらった。

教組は避難所の支援・自治労はインフラ・全電通は通信網の復旧に忙殺され、地協としてのまとまった活動にはならなかったが、あの状況下では止むを得ないとは思う。

５．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

連合の体質論になるが、産別の縦の活動が優先で、ボランティア要請しても「地協のほうへ人手はさけない」との返事が多かった。

また、阪神地協そのものが７市１町の行政区を抱えている関係で、普段からまとまりに欠けていたという反省もある。

さらに、わたし個人としては、所属労組（企業）の被害も小さくない中で、地協活動に傾斜しすぎると「この重大時に支部長がおらん」との批判もあり、板挟みになった。

６．震災対策として実行出来たこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

与えられた仕事は消化できた。

が、しかし、「では、もっと必要なモノ・コトはなにか」ということになると、ほとんど出来なかったような気がする。被災地を抱える地協として、主体的に救援活動をデザインできなかったのは残念に思う。

７．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

避難所などで現代風な姿をした若者たちが献身的に働いていた。また、当労組員にもベンチャー的にボランティア活動をやっていた人もいる。彼らを見ていて、人間の善意に期待できるという実感を抱いた。

今度の連合ボランティアは動員型だったが、できればボランティア・センターを設置して、組合員の自発的な善意を吸収できるようにすべきだ。メンバーが自主的に日程を報告し、その情報を有効活用できるシステムと陣容を整えてもらいたい。

８．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

震災当日に三田地区連絡会の発足準備会を予定していたが延期となった。選挙はじめ地域活動日程が寸断された。

９．その他ご意見、ご感想を。

① 同じ被害でも、府・県・市・町の違いで家屋倒壊基準に差があり、矛盾を感じた。また義援金の額が、雲仙・奥尻と比べ著しく低いのにも義憤を覚えた。どの被災者も同等に扱われてしかるべきだと思う。

② 救援物資に古着がかなりあった。“古着”をどう解釈すべきかは問題だが、中にはクリーニングされていないものが含まれており、あれは人間同士としてどうかと思う。

③ 役員の軸足が単組・産別に置かれ、地域組織に対してクローズされている面が見えた。災害だけでなく、地域的活動でなければ解決できない問題も多いので、いま少し地協活動へも目を向けてもらいたい。

阪神地協伊丹地区連絡会

佐　竹　嘉　弘
（事務局長）

１．大地震を体験、または第１報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

地震発生後、ライフラインが完全に停止したので被害状況が把握できなかった。携帯テレビを用意し映し出された映像で、被害の甚大さを目のあたりにした。家族を含めた組合員のみなさんの被災状況、安否がたいへん気がかりだった。

２．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

２月15日現在の各労働組合よりの報告を集計、状況は以下のとおりです。

組合員死亡１名、家族死亡51名、負傷417名（家族・重症・軽傷含む）、家屋の全壊534件、半壊926件、一部壊2582件。

３．それにどのように対応されましたか？

各々の労組が各々の労組主導のもと、労使一体となって被災組合員、家族への援助活動、会社の復旧活動を実施していたので、情報収集程度の対応であった。

４．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合兵庫→各産別対応をメインに、連合阪神が中心となってボランティア派遣要請に応えていった。ただし、被害が甚大な労組は除外して対応した。

５．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

甚大な被災を受けた労組が多数あり、ボランティア派遣が出来ないケースもあり、組織人員の多い労組に片寄った

嫌いがある。たいへんご苦労をおかけしたと思う。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

各労組とも組合員への救助活動・企業の復旧活動などで忙しい中、ボランティア派遣に対して絶大な協力を得られたことに深く感謝しています。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

今回の教訓を次代に生かすべく、反省点を出し合えるような会合を持ち、情報連絡システム・復旧マニュアルをも含めた危機管理体制を確立すべきであると思います。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

ボランティア活動を通じて、人と人とのふれあい、思いやりなど貴重な経験が得られた。今後の組織活動の中で生かしていきたいと考えます。

9．その他ご意見、ご感想を。

若者、一般市民のボランティア活動もさることながら、労働組合の結集体である連合の組織人員というスケールメリットを最大限に活用できたことは充分評価できるものと思います。

東播磨地域協議会

大　崎　広　明
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は加古郡播磨町だが、地震の激しさは屋根瓦が大部分剥がれ落ちたほどだった。今回の震源地からは遠く離れているし、たいていの近隣住宅には被害はなかったが、山崎断層に添って幅100メートルほどの家々が帯状にやられた。そのためはじめは、震源地は我が家の近くだと考えた。

そのうち、テレビに神戸市内の倒壊ビルが映しだされ、被災の中心地と被害の大きさを知るに至った。

しかしながら、自宅も相当なダメージを被っており、その補修の手配と、家の中の片付けのため2日間の休暇をとった。自らが被災者という気分がつよく、当初は救援活動などは余り考えなかったと思う。

2日目に支部（三菱重工労組高砂製作所支部）役員が見舞いにきてくれて、連合の救援活動計画について報告を受けた。震災3日目に支部へ出勤し、加古川と連絡をとって救援物資の受け入れ拠点づくりに着手した。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

地協としては集計していないが、多くの被災者があった。

3．それにどのように対応されましたか？

自宅が居住不能となった人のために、地協内の各企業がもっている寮・社宅に空きがないか調査した。が、成果はなかった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

まず、西日本各地からの救援物資は加古川拠点にあつまってくることになっていたが、同時に適当な集積場所がないため、高砂市で物資の流入をとめることにし、神戸製鋼所高砂工場の体育館を物資集積場として開放してもらった。物資の受け入れ業務に関し、とくに神鋼労組・同ＯＢの各位から多大の協力を得た。

同所での作業は、トラックからの荷下ろし・物資の仕分け・積載が中心で、被災地への搬入は地協内の運輸労連の仲間が担当した。道路事情が悪く、高砂から神戸への片道に6時間もかかるため、ベテランドライバーをもってしても1日1往復がせいぜいだった。

さらに、東播地区連から被災地内の物資集積場（神戸市長田区集積場、須磨・兵庫区役所）へもボランティアを派遣し、積み下ろしや仕分け作業を担当した。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

連合兵庫からの要請が、産別と地協の両方へ下りていたため、ボランティアが出てきてもどちらの指揮下で活動してもらうべきか迷うことがあった。そのため班分けに手違いが生じ、現地で作業量と人員のミスマッチが起こった。

また、どの単組・支部でも、産別からの要請が優先されるので、地協としての人集めには多少苦労した面もあった。

しかし、高砂集積場という近辺での作業現場があったので、おおむね気軽に協力してもらえたことは確かだった。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

地協の仲間は、みんなよくやった。

が、それとは別に、ボランティア活動者が作業現場で手待ち状態に置かれることが多かったので、作業量と人員のマッチングが出来れば良かったと思う。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

労働組合として、ボランティア活動者を養成できる体制をつくっていく必要がある。ボランティア休暇制度の普及もその1つだが、国策として取り組めるよう、政府へ要請してもらいたい。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

震災前に比べ、少し結束力が出てきた。

これは連合結成まえの3団体がどうという話ではなく、個々の組合員レベルで相互の助け合い精神が芽生えてきたと思う。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合は一生懸命やった。顔が見えないという批判もあったが、それでもいいと思っている。困っている人々のために、実際に少しでも役に立ったのだとしたら、それで満足だ。

西播磨地域協議会

岡本弘良
（議長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は震源地からかなり離れた姫路市妻鹿にあるが、家が壊れそうなほど揺れた。だが、はじめはテレビも「犠牲者何10人」との報道で、こんな大災害だとは思わなかった。

ところが、時間経過とともに報道される被害規模が大きくなっていき、「これはカンパぐらいはしないと」と考えるようになった。

翌18日に西播地協の幹事会を招集していたので、そこで地協としてのカンパ活動を提案、「今後連合兵庫などから、どのような活動要請があるかも知れないが、ともかく地協としてやれるだけのことはやっておこう」ということで、全員一致で決定した。

3．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

単組代表者会議の議を経たあと、救援呼び掛けビラの配付をおこないつつ、個別に単組・支部と連絡調整しながら人手をあつめた。

着手当初はいまひとつ反応が鈍い面もあったが、日を追うにしたがって尻上がりに救援ムードが盛り上がっていった。それにはボランティア活動者の口コミ、マスコミのボランティア活動報道などが、大きな役割を果たしたと思う。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

西播磨地域は、歴史的・伝統的に労働組合のまとまりが良く、また普段から地協として養護施設などへの奉仕活動をおこなっている。それもあって、各単組・支部ともきわめて好意的に対応してくれたので、地協活動としてはあまり困難は感じなかった。

ボランティアの派遣側と受入側との連絡のいきちがいにより、小さなトラブルが生じて腹を立てたこともあった。しかし、少々の手違いなど、あの状況下では止むを得ないと思っている。

ただ、担当現場である神戸市長田区の物資集積場では、おうおうにして派遣ボランティアの人数に比べ仕事量が少なすぎることがあり、「もう少し働けたら良かった」との感想が多く聞かれた。

また、余震が続く中、被災地のド真ん中へ組合員を送り出すことに、少なからぬ心配があったことも事実だ。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

要請されたことは、まずまず消化できた。及第点というところではないか。

ただ、他団体の活動を，見ながら感じたことは、たとえば炊きだしなど、もう少し被災地の皆さんと接触できるような活動ができていたらという気持ちがしている。学校（避難所）担当メンバーたちはやっていたが、地協としてはやれなかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

① 役員・組合員を問わず、普段からボランティア活動というものを念頭におきながら、生活していくことが大事ではないか。

② 市民とのネットワークをこしらえ、イザというときにニーズ情報を得られるようにしておけば、どういう活動の場合にも役立つ。

③ 連合として、全国各地の都市づくりへ積極的に参画していくこと。

④ 大産別・大単組ではすでに実現しているところもあるが、ボランティア休暇制度を広く取り入れさせていくこと。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

① 地域組織としてまとまることが大切だという気持ちを持ってもらえた。

② 不慮の災害を念頭においた都市づくりというものに、意識を向けてもらえるようになった。

9．その他ご意見、ご感想を。

産別と地域組織の役割分担を明確にし、互いに補完しあい、かつ協力しあえるような組織デザインを描いてもらえればと思う。現状はややもすると、産別と地域組織からの要請が錯綜し、単組・支部段階で対応に苦慮しているようなケースが身受けられる。

また、救援活動に関しては、連合の組合員同士が助け合うことはもとより、労働組合の社会的責任を果たす意味からも、今後とも広く一般市民を対象とした活動にも取り組んでいくべきだと考える。

社会に対して開かれた組織づくりをすすめていきたい。

西播磨地協相生地区連絡会

音崎勝弘
（会長・石川島播磨重工労組相生支部委員長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合

幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

起床中、いつもの地震ではないと感じ、家族の状況を窺った。

組合（石播労組）事務所に役職員全員出勤の状態で一安心。

会社へ連絡、組合員（従業員）の安否を労使で確認作業に入る。

県への義援金対応に入る。

2．傘下組織・組合員の被災状況はいかがでしたか？

多少の、屋根の被災報告あり。

神戸地区に住む組合員の子女、親（家族）の死亡6件（石播労組）。

地区連としては把握していない。

3．それにどのように対応されましたか？

石播労組としては、自組織共済制度、産別共済制度、組合員の義援金などの見舞金給付。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

主に、連合兵庫→西播磨地協経由で対応した。

産別要請にも対応。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

少人員での救援活動要請でしたので、年休取り扱いで対応した。

人員枠・救援作業計画を明確にすることは必要。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

上部機関からの要請には、ほぼ対応できた。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

危機管理体制のマニュアル整備が必要。

自治体と一体となった救援活動を行うため、自治体機構の中に入ること。連合としての救援規模・内容等の無駄を最小限にするため。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

連帯感・組織の大切さ。

ボランティア精神の醸成。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合兵庫として、選挙活動資金（基金）より、震災対策・非常事態対策への基金創設をするべき。

選挙対策も大切ではあるが、現在の対応では組合員に理解されない。

但馬地域協議会

恵後原　市　三
（事務局長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

城崎郡日高町でも、熟睡者が目覚めるほどの地震だった。すぐにテレビを点けたが、神戸などの震度は報道されず、「豊岡で震度5…」ということだった。そのため直後は、但馬地区は数日来の大雪で屋根に1メートル以上の積雪がある家が多く、地震と雪の重みで壊れる家がでるのではないかと心配した。

ただ、念のため神戸市灘区に居住の娘へ電話した。午前6時ごろで、この時点では電話はつながっていた。「ここのマンションは無事だが、周りの建物は全部倒壊している」と聞き、それで大災害であることを覚った。

やがてテレビでも阪神高速やビルの倒壊現場、火災などが映しだされ、連合兵庫会館の様子や、「長田区に大被害」との報道から友人の豆谷事務局長の安否を心配した。そのため連合兵庫事務局へ、連日何度も電話を試みたが、相当長期にわたり不通がつづいた。また状況を調べにいこうにも、大雪で身動きがとれない有様で、たいへん苛々した。

直後には救援活動などについては思い浮かばなかった。雲仙や奥尻のときは確かに救援活動の必要性ということを考えたことがあったが、今次震災のような超大規模災害になると“事実”に圧倒されて思考停止状態に陥ってしまったのかも知れない。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

連合兵庫の要請には、当地の状況（雪害）から事務局裁量で、ボランティア派遣人員など各労組に割り当てて対応した。どの組合も2つ返事で、かつて労組活動のいかなる局面でも見られなかった積極的かつ好意的な対応をしてもらい、大いに感謝している。

また自身、居住地の日高町宵田の区長に就任したばかりだったが、社会福祉協議会などから救援物資の供出を求められ、それに応じるため各家庭へ要請に回っても極めて反応が良く、まるで苦労はなかった。多くの住民が阪神地区に係累をもち「何かしなくては」との気持ちが強く、救援活動機関などに思いを託すところがあったのではないかと察する。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

前述したように、要請に応える上では、困難を感じたことはなかった。

ただ、自分個人としても何か活動をという気持ちがあったが、大雪・地理不案内・乗り入れ規制、等々で身動きとれず歯噛みする思いを味わった。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

連合兵庫からの要請には、かなりのレベルで応えられたと自負している。

しかしながら、当地協は1市18町を擁し地域も広大なため、大雪下では役員が集合することさえ難しく、そのため地協として、より組織的・効果的な活動をおこなえる機会を逸した面があるのでは、という思いがある。

また、地協の主要組合である関電・ＮＴＴ・教組・自治労が、自社や自組織の支援に出払ってしまい、地協に主要な活動部隊が残っていなかったという状況もあった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合の全国ボランティアは、国内最大組織としての社会的責任をよく果たした。

マスコミでは突出した団体・個人の活動のみもてはやされたが、ドラマ性はなくとも底辺活動を支える巨大なパワーとしての連合ボランティアの存在意義は大きい。今後とも社会的要請に応えていってもらいたい。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

殺伐たる世相のなかで、本来の人間関係とはどうあるべきかということを教えられた。

また、当地では、70年ほど前「北但大震災」時に、神戸の人々から多くの救けを受けたことが地域的記憶として残っており、このたびは「何としても恩返しを」と燃えた。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合のスケールを生かした人海救援戦術はそのまま残した上で、今後は自発的ボランティア活動者の受皿としての役割も担っていってもらいたい。

避難者対策として客船など船舶利用を本格考慮すべきだ。生活設備が整っているし、他の復旧活動をスムーズに進めるためにも有効だと考える。

丹波地域協議会

柿　原　正　實
（議長）

1．大地震を体験、または第1報に接したとき、労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は氷上郡春日町で、活断層に添って筋状に家の屋根瓦が落ちるという被害がでたが、これほどの大災害だとは思わなかった。

しかし、その後テレビで、『監視カメラが写した地震発生時のテレビ局内の映像』を観て「大災害だ」という認識を得た。急いで阪神地区の身内へ電話をかけたが、安否確認できたのは半数ほどだった。

そのあと出勤（ＮＴＴ柏原営業所）し、西宮営業所がたいへんだということで、すぐに炊き出し（おむすび・パン程度）の準備をして応援に向かった。車の運転には地理に明るい者をあて、空いている道路を縫って走ったが、それでも渋滞がひどく西宮まで4時間くらいかかった。こうした活動は、社命・労組活動のいずれとも分け難く、職場の仲間を助けるための活動という気持ちが強かった。

4．連合本部ならびに連合兵庫からの救援活動要請にどのように応えられましたか？

地震後3日目か4日目に、連合兵庫からボランティア派遣要請があり、これが「今日要請・明日派遣」という性急さで、慌てさせられた。しかし、当時の状況からして止むを得ないことなので、悪感情は湧かず、緊急事態なので独断で、とりあえず第1隊は地協四役組織に頼んだ。どこもテレビなどで状況をよく把握しており、快く応じてくれた。

さらに、その後の要請についても、「被災現地の判断を尊重していこう」という考えから、いちいち幹事会などを開くことなく、即断即決で応えていった。それに、各組合はマスコミ・行政・消防団などから一定の情報を得て、救援活動の必要性に認識があったので、説明や協議に時間を費やす必要はなかった。どの組合も熱意をもって対応していただき、議長として大いに感謝している。

また、地協としてのカンパ活動については、四役で相談のうえ、産別活動・地協活動の分別判断は各組合に任せ、結果として最大限の力を結集してもらえるよう配慮した。2重対応してくれた組合も少なくなかった。

5．要請に応える上で、どのような困難がありましたか？

① ボランティア活動の認識が整理できていなかった。卑近な例では「交通費は本人負担とするのか・経費問題に地協がかかわって良いのか」など判断できなかった。

② ボランティア活動を「いつまで・どの程度」つづけるのかという見通しがなく、要請に応えるだけの受け身の活動になった。

③ 前半（地元で支えた期間）は特に快く対応してもらえたが、後半（連合全国ボランティア活動開始以降）は産別と地域からの2重要請となるケースがあり、各組合に困惑が見られた。とはいえ、それで要請を迷惑視するような風潮はまるでなかったが。

6．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

日頃は連合の活動に消極的な組合でも、救援活動には極めて積極的に応えてくれた。

しかし、地協独自の救援活動をやれなかった点は反省している。専従がいないので、計画・実行の実務をすすめる手がなかった。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

連合は産別加盟方式なのでタテ活動が優先されるのは仕方ないと思うが、現状は地域活動の面が手薄に過ぎるという印象がある。

日常の活動はともかく、災害は地域に起こるものなので、日頃から地域組織を育成し鍛えておくことが重要だと思う。

8．この震災は貴組織に何をもたらしましたか？

つながりを持つ機会を得て、地協の活動に対する各組合の姿勢に、徐々に積極的な面が見えだした。地協として延べ100名がボランティア活動に参加したが、これは地協活動の大きな前進だったと評価している。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合が動くときの「ボランティア活動の定義」を求めたい。組織がいったん救援活動をはじめると一定の復旧を実現しないと抜けられないが、「どういうときに動くのか・どうなったら止めるのか」基準が必要だ。

また、各地方連合でも、次の災害に備えての救援活動準備とともに、被災地としての受け入れ訓練もやっておく必要があると思う。

それと、救援側と被災者の認識のズレを調整するコーディネーターが必要だ。育成を。

淡路地域協議会

新　開　正　章
（津名郡町職員組合連絡協議会議長）

（淡路地協を代表して答えていただいたが、組織の性格上、ライフライン等労組用の設問を使用することにした。また、取材時には津名郡６町の職組幹部も同席され、それぞれの立場での回答もあった）

1．大地震を体験、または第１報に接したとき、ライフラインならびに公共的事業体の労働組合幹部の立場で最初に考えたことはどういうことでしたか？

自宅は一宮町で、半壊したが、それでも他の家々に比して被害は軽いほうだと言える。

地震の揺れはヒドかったが、外へ出ても暗くて周辺の様子がよく分からず、直後は家屋の老朽化が被害の直接の原因だろうと考え、大災害とは思わなかった。震源地の北淡町の職員でも、断層を外れたところでは「今日も通常の仕事を」くらいの感覚の人もいた。

出勤途上に町々の被災状況を目のあたりにし、大災害が起きたという認識を持った。

当時わたしは役員ではなかったが、あの場合は組合役員だったとしても、町職員としての意識のほうが優先したことと思う。

救援・復旧活動では、電話の応対だけでも一仕事だった。また、役場へ情報収集に来られた住民は、職員と見れば誰でも全般の状況を把握しているものと考えて質問されるが、担当外でも回答に手間取るケースもあった。

最も被害の大きかった北淡町では、職員はいったん出勤すると数日間は帰宅できない状況で、中でも避難所に配置された者は１ヵ月間も泊まり込みながら頑張ったと聞いている。

2．震災発生後、労組としてどのように状況に対処していかれましたか？

労組機能は震災発生と同時に停止したと思う。役員たちも、職場で24時間張り付け状態だったり、どこかの被災現場へ出ていたりして、顔を合わせるとすら難しかった。

3．事業体からの要請に対し、どのように対応されましたか？

役所自体が混乱していて、協力要請など一切ないまま人命救助・救援物資受入・マスコミ対応などに全力をつくしていった。災害時の活動システムはあったものの、台風程度の規模設定のため、ほとんど機能しなかった。

4．救援・復旧活動をすすめていく上で、もっとも困難を覚えたのはどういうことですか？

① 避難者の感情への配慮に苦労した。
② 災害規模に対して職員数が少な過ぎた。
③ 住民からの問い合わせに、情報不足で速やかに答えられないことがあった。
④ 北淡町では、マスコミに、役所の方針決定と現場作業とのタイムラグを理解してもらえず、難しい対応を迫られたという。

5．震災対策として実行できたこと、必要を感じつつも出来なかったことにどういうものがありますか？

テレビなどで見た大都市の状況と比べると、当地は人口が少ないこともあり、避難者に比較的ひもじい・寒いという思いだけはさせずに済んだのではとの感想はある。

6．今後類似の事態発生（他府県をふくめ）に備え、事業体ならびに貴組織としてどのような準備をしておくべきだとお考えですか？

① 情報の伝達システムの整備。 ② 防災計画に書いてあることを日頃からしっかりやっておくこと。しかし、じっさいは無理な面が多いが…。 ③ 北淡町では火災は１件だけだったが、断水で消火栓が使えずに困った。

7．今後連合本部ならびに連合兵庫は同様の事態（他府県をふくめ）に備えて、どのような準備をしておくべきだとお考えですか？

災害発生直後は、やはり地元の行政が支えることになるが、今次のような大規模災害の場合、対処力にも限界があり、組織ボランティアのもつ意味は大変大きい。行政職員としては言えることではないが、組合仲間として「即応態勢を充実してもらえれば、たいへん心強い」と思う。

8．この震災は、貴組織に何をもたらしましたか？

四国の職員組合から多大の応援を受け、東北から炊きだしを受けるなどして、連帯感が高まった。お返ししたい気持ちが強い。他地方の地震速報などが気になるようになった。

9．その他ご意見、ご感想を。

連合から町へ義援金をいただいたことに感謝する。また、一宮町だけで4000件もの救援物資が寄せられたことにも、あわせてお礼を申し上げる。

連合構成組織（産別本部）・地方連合会

アンケート回答

連合構成組織（産別本部）ならびに地方連合会へのアンケートに対する回答を掲載する。

このアンケートは、各組織へ設問を送付し、すべて文書をもってご回答いただいた。

これまた全組織から回答を得ることを目標にしていたが、果たせなかった。中には、県支部・県本部などの回答をもって組織の回答とされたところもあったが、ともかく不備をお詫び申し上げる。

ご回答をお寄せくださった各位には、ご多忙の折りお手を煩わせたことをお詫び申し上げるとともに、ご協力に厚く感謝申し上げる。

お寄せいただいたご回答は、すべて原文のまま掲載しているが、文責が編集子にあることは言うまでもない。

連合構成組織（産別本部）

アンケート回答

自動車総連

沢　田　大八郎
（組織局部長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

自動車総連は1月18日～19日、和歌山市民会館にて中央委員会開催の日であり、テレビ等の第1報では様子が分からず、時間の経過と共に被害状況が分かり中央委員会を短縮し組織内対策に全力を傾注した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

18日開催の中央執行委員会にて、日本赤十字社を通じ国内連帯基金より200万円の義援金拠出を決定した。

- 1月20日、救援カンパ要請。
- 1月23日、連合ボランティア参加要請。
  第1次＝1／27～2／4・22名。
  第2次＝2／4～11・17名。
  第3次＝2／11～18・22名。
  第4次＝2／25～3／4・21名。
- 地方連合会からの要請。
  車両提供要請。現地ボランティア、水、ガスボンベ、衣料、文具等。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

企業内にボランティア休暇制度がなく、専従役員中心の対応となった。

組織内の被災者も多く現地対応との連合の要請の両面対応に苦労した。

地方連合会からも連合本部と同様の要請があり混乱した。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

宿泊、食事、作業内容、2次災害。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

被害状況が判明するに従い、組合員、家族親族の安否被災状況の大きさに驚きながら「何か手伝える事はないか」という意識になって来た時の要請であり、ボランティア要請にしても、休暇を取ってでも参加希望する組合員が出てきた。しかし、家族親族が被害を受けた組合員からすると、他人事ではなく大変複雑な思いもあったと思う。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

重大自然災害時の対応が初めての経験であり、企業拠点の崩壊などにより、被災組合員の安否の確認が思うようにできず、確認作業に時間がかかった。

重大自然災害発生時の緊急連絡ルート及び対応マニュアルを作成する。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

各種活動の要請については、連合本部から構成産別本部へ1本化すべき。

今回のボランティア現地活動について連合兵庫から自動車総連に一貫して同一拠点の活動を任せていただき、継続性・達成感のある活動となった。（現在も会下山小学校とは連携が取れる状態）

電機連合

藤　田　幸　三
（総務担当中央執行委員）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

大変なことになったと思った。電機連合には大規模被害にたいする『地球・愛の基金』があるので、その発動をする必要があるのではないかと考えた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

内部に対策本部（委員長を本部長に、中央執行委員があたる）を設置し、総合企画グループ局長の指示で、カンパ・救援活動に取り組んだ。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

連合・産別・各単組が、それぞれの各種の取り組みを行っているので重複することが多く、調整する必要があった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

① 現地情報をどう伝えるか。
② 現地に入った後の連絡態勢をどうするか。
など、とりわけ情報伝達・収集態勢が気になった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

電機連合の傘下には、被災組合・組合員が多かったこともあり、積極的に協力してくれた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

日頃の危機管理体制の構築と、産別全体としての情報連絡態勢の整備の必要性。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合・産別・単組の（大災害時などの）役割分担について、日常的な体制整備を検討する必要があるのではないか。

ゼンセン同盟

松　本　昌　三
（組織担当全国オルグ）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

マスコミの第1報の時は、これほど大きな被害になるとは思わなかったとともに、関西でこんな大きな地震が発生するとは信じられなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

各組織の手続き上の関係もあり、産別ルートの要請で取り組んだ活動を連合の活動として引き継いでおこない、その後、連合の要請にも対応した。

結果として、延べ3000名の派遣をおこなった。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

各組織（地方連合や加盟組合・企業など）での取り組みが速く、ゼンセン同盟に1本化出来なかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

現地の状況が分からないことや、大多数の人が初めての取り組みであったため、安全確保や、準備した持ち物などに問題がないかが気がかりだった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

国内の大災害ということで、傘下組織・組合員の反応も速く、企業を含めて大きな協力をしていただいた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

反省点というよりも、多くの人が貴重な体験をしたことの方が大きかった。

平常時の時ほど、緊急時に備える態勢を整える必要を強く感じた。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

地元からの要請は、被災者の状況を把握しているため、タイムリーな救援活動ではあったと思うが、本部の対応は時間的にも遅れるものがあったのではないか（救援物資など）。

日　教　組

吉　田　順　子
（教育財政部長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

あんなに大きく広がっていくとは予想できなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

組織として対応をしなければならないと、対策本部を設置。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

たて・横、錯綜した。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

ケガ等を考え保険。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

震災直後は極めて良好。しかし、急速に冷めていった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティアで得たものを全体のものとして共有しきれていない。

情　報　労　連

田　辺　安　治
（組織部長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

震災の第1報は、出勤前の茶の間のテレビでのテロップ速報により『阪神地方に強い地震』を見る。この時点では被害状況についての認識を得るに至らず、特に心に感じるものは無く、一般的な地震速報と受け止めていた。

労連本部書記局に出勤と同時にテレビのスイッチを入れると、画面いっぱいに映し出される被害状況が刻こくと拡大して行く様に釘付けとなり、被災された人たちの言い表せない苦痛を思い心がいたんだ。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

2月2日に連合本部より組織ボランティアの要請をうけ、直ちに主要加盟組合と協議するとともに、当該地方組織である「情報労連近畿地方協議会」から派遣することを決定し、原則ワンクールを日曜から次の日曜までの8日間とし

各日曜毎に現地引き継ぎを可能とした。また、１班６人構成でワンクール４班の派遣を決定した。３月19日までの間、延べ人員1184人を派遣した。（連合大阪・連合兵庫・地方連合からの要請人数は含まず）

３．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

ボランティア派遣にともない、現地宿泊所の確保・食事の確保（結果的には被災を免れたＮＴＴネットワークビルにおいて確保）と、派遣組合員の２次災害防止と健康管理に苦労した。

また、複数の単組から全国的にボランティア参加者を募ったため、労連本部役員を常時１名現地に派遣し、連合兵庫ならびに宿泊施設を提供していただいたＮＴＴとの調整に当たるなど当初の予想を上回る稼働となった。

４．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

現地派遣当日まで派遣先（避難所など）が決まっていず、全国から参加しているボランティアの意気込みと現地の作業がマッチするのか気がかりであり、特に情報労連の２班が兵庫区役所の行政本来業務の手伝いとなったこともあり、現地でのミーティングなどで配慮した。

さらに、被災現地の状況が日々刻々と変化し、これに従って行動内容も変化をして来るなど初めての経験であり戸惑うことが多かった。

５．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

組織ボランティアおよび「あったか湯」（お風呂サービス）」の参加要請に対し、加盟組合の大小にかかわらず積極的に取り組まれ、あるクールでは班構成を増やすほどであった。

また、この度初めて情報労連統一カンパとして取り組んだカンパ活動は、組合員１人1000円以上の目標を越える結果となり、阪神・淡路大震災に対する組合員の関心の高さがうかがえた。ある中小組織ではボランティア参加期間を有給扱いとするなど、企業側の協力も目立った。

６．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

今回の組織ボランティアの取り組みに当たって各加盟組合や地方組織によっては、組織動員的な扱いも見られ、本来のボランティア活動の定義との関連で今後に若干の問題を残した。

７．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

自らも被災者という厳しい条件下において、組織ボランティアの受け入れ大変ご苦労様でした。復興に向けてこれからもおおくのご苦労があるとおもいますが、引き続きこれからも頑張って下さい。

電力総連

尾谷康弘
（組織局次長）

１．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

ライフラインを守るエネルギー産業労組の立場、および電力供給に携わった個人として、「大規模停電・災害復旧・事故復旧」という言葉が直ちに頭をよぎった。勿論、これまでに経験したことのない大地震であることから、死傷者が出なければよいと念じたことが先である。

２．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

１月20日、電力総連第16回執行委員会を開催し、「兵庫県南部地震への対応について」を決める。

(1) 「電力総連兵庫県南部地震対策本部」設置。
(2) 緊急義援金の特別支出の検討。
(3) 副本部長を関西総連対策本部へ派遣。
(4) 全国の構成組織の協力を得、見舞金を送付。

この後、２月１日、第18回執行委員会で以下のことを決定。

(5) 兵庫県南部地震災害救援緊急カンパの実施。

連合などの活動に通じた支援として組合員の任意カンパを決定。

(6) 電力総連独自の支援活動（ボランティア活動）

現地の被災状況や復旧活動状況を把握の上、関西総連と調整し、対応することとした。（結果として、東灘区の避難所（100カ所）を巡回し、不足物資を輸送することとなった。期間：２月５日～３月29日、態勢：20名／日）

３．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

電力供給に携わる産別として、被災地域の配線診断等を検討したが、関連法律などにより踏み込めない状況や、電力の復旧状況などから困難な面が多く、断念せざるを得なかった。

４．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

ボランティア活動の拠点とするベースキャンプの場所選定が難しかった中、活動の中心となる派遣者の安全・健康管理が充分でないと意味がなくなるので、特に留意すべき事項だった。

５．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

構成組織・組合員は、参加に対して積極的であった。「ぜひ参加して、被災者の皆さんに救援活動をしたい」という呼びかけに対する反応であった。

６．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおあ

りですか？

この教訓を糧として、今年度中に災害ボランティア活動のあり方を検討していくことにしており、組織としてのまとめはまだ検討中の段階。

鉄鋼労連

植　木　喜三郎
（中央執行委員）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

出張先の朝のテレビ報道で知った。見慣れた神戸の街が無残に崩壊している状況を見て「信じられない」の一言。電話が通じず、不安のみ。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

緊急の中央執行委員会を開催し、現地に対策本部の設置と、本部より要員の派遣を行った。

また、地方本部経由で、ボランティア派遣の要請を行った。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

地方本部ですでに対応を始めており、特になかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

現地の状況が十分に把握できていなかっただけに、派遣元としても心配があったようだ。特に2次災害に対して。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

組織として対応することに対し、積極的に応じてくれた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

このようなことは二度と起こってもらいたくはないが、万が一のために、迅速に対応できるシステムを検討すべきではないか。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

現地の連合兵庫の各位は、被災された方々も多くあった中での対応、大変ご苦労さまでした。すべてが混乱した中で最大限のご尽力に敬意を表します。

全　逓

山　本　純　正
（総合企画室長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

1月17日未明の地震発生第1報に接した際、まず1つには今回の地震がこれほどの大災害になってしまうとは予想できなかった、これが率直な感想である。

時間が経過して情報が続々と入ってくるのにともなって、地震の規模・実態・状況等を迅速か的確に掌握しつつ、被災組合員の安否の確認及び早急な援助を行えるような態勢づくりが求められていると切に感じられてきた。

次に、被害の大きさに動じることのない沈着・冷静な対応をこそ心がけることが、最適な援助を行なうことを可能にすると考えた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

全逓中央本部は、1月19日早朝の段階で近畿地方本部、兵庫地区本部、大阪地区本部と携帯電話によって連絡をいち早くとりつつ、現状把握を急いだ。

同日午前10時頃より現地の様子を伝える情報が続々と入りだした。そこで、全逓は連合の指示を待たず、現状の掌握に努め、役員家族の安否情報を急いだ。現地では、役員の総力を挙げた安否確認活動がとりくまれた。これが第1である。

次に被災地からの要請は、飲料水、食料、暖房器具、そして生活空間の確保であり、その要請にしたがって、中央本部は、中国、四国、東海地方本部に指示し、必要物資を現地に急送したのであった。そのうえ全国規模にわたる指導を行い、そこで「連合によるとりくみが要請がある場合は、全逓としてのこのとりくみに含めて一本化したとりくみにすること」と、各級機関に対し指導を徹底させたうえで、連合と全逓とのとりくみが重複し、救援活動の非効率を招かないように万全を期した。その後、同日開催された連合中央執行委員会の決定を受けて、連合からの要請には中央レベルで対応しつつ、援助活動等は地方連合会の要請に沿ってとりくむことにした。

一方、既に全逓が独自に行っていた緊急カンパのとりくみはそのままとりくみを強化する方向で継続を決定したのである。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

連合からの要請に応じるに際しては、組織内の対応を優先させたため、取り組みに若干の遅れが生じた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

全逓としては、中央本部段階における決定としてボランティア派遣を指導したと同時に、連合の派遣要請に応じる

形等で、多数の組合員がボランティアとして現地を訪れ、救援活動に参加した。参加した組合員は、人道的見地に立ってボランティア活動に参加した。むしろ組織の大きな財産であると認識して、今後、この種の活動に生かしたいと考える。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

中央本部は地震発生当日に兵庫県南部地震対策本部を設置し、全逓共済生活共同組合による全面的な災害給付活動を要請するとともに、全逓組合員はもとより、ドイツ、アメリカの通信労組からもカンパが寄せられ、1995年３月時点で１億５千万円を越えたことは組合員の熱心な協力姿勢を示す１つの好例と言えよう。

また、被災地域である全逓近畿地方本部と兵庫地区本部は、不眠不休で組合員およびその家族の安否確認、救援活動に全力を尽くしたことは是非とも記されておくべき事項であると考える。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

この活動は全逓に大きな教訓を与えた。全逓は人命救助等の「人的支援」のみならず、生活関連物資の差し入れによる「物的支援」、全国からのカンパ、全逓共済による特別災害基金の支払いといった「資金面の支援」など多彩な活動を続けてきた。こうした活動を通じて得られた教訓は大変に意義が深い。それは、組合員同士が同じ仲間として助け合い、協力しあっていくことがいかに大切であるかということであった。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

震災によって周囲が混乱している中であっても、郵便局機能は働いていた。そして、局員は、周辺住民の救援活動を展開したのであった。自らも震災を受けながら公的職業（自治団体、多くの働く者）として、被災地組合員は献身的な救援活動を展開した。そこには業務の遂行と、自分達の家族の安全を守らなくてはならないという大きな負担があった。

今回の場合は、２次災害が被害を大きくし、それを防ぐ体制を強化する必要があった。

それにもかかわらず、オウム真理教事件が発生し、国民の関心はそこへと集中していった。今では現地の状況すら報道されていない。

しかし、災害の問題はなお多くの困難な課題を残しており、今後何が必要であるのか、労働組合は何をすべきなのか、連合は各構成組織へと要請すべきである。

造船重機労連

高　橋　一登貴
（組織部門局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

大変なことになったと思った（特に、被災地に加盟組織人員が多いことから）。

情報不足から、当面何をすべきなのか当惑感が先行した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

震災発生と同時に産別内に緊急対策本部を設置し、連合要請に対し可及的速やかに対応を図った。

具体的には、

産別本部より調査団の派遣（対応策に関する現地との調整・段取り等）。

救援カンパ活動の実施（対地域・対連合等）総額187364083円。

連合「あったか湯」への対応＝機関２／14～３／31：延べ502名。

その他、兵庫・大阪地方協議会を中心とする地方協議会独自の救援活動を実施。

復旧事業に関する産別対応策の策定と具体的取り組み。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

困難を覚える余裕すらなく最大限の努力をし、それなりの対応が図れたと自負している。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

派遣者の事故。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

非常に協力的だった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

特に大きな反省点はないが、今後の産別としてのボランティア活動のあり方、対応等について考える良い機会となった。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

まさに緊急事態下ということで両組織の対応に敬意を表したい。

強いて言えば、連合傘下構成組織組合の中にあって、救援活動を業務とみなす人が一部にあったこと、また参加者の一部に目的、実務内容がわからず戸惑われている人も見られたこと等々、具体的な対応にバラツキが見られた。そ

れらの事に対する連合としての指導力に若干の疑問を感じた。

最後に、復旧・復興に向け懸命に取り組まれている皆さまに、心からの激励の言葉を送ります。「どうぞ頑張って下さい。私たちも応援します」

商業労連

加藤　貢
（事務局次長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

出勤前は、ＴＶ情報が大きくは報道していず、何ら感じるところなく出勤。10時から会議に入り、昼食時に大きな災害と知り大変おどろき、時々刻々その被害報道に触れ、重大な事態と知りびっくりした。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

義援金カンパについては、事務局内部で実施を決定。実施方法等の細部は1月24日、中央執行委員会にて決定。ボランティア派遣は、1月末に事務局内部で決定、派遣。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

義援金カンパにおいては特になし。

ボランティア派遣については、事務局人員が多くないため、業務調整に多少手間がかかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

派遣者の安全確保について気になった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

どの加盟組合も、積極的に対応してくれた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

義援金の拠出につて、加盟組合にも多くの被災者が出たため、自組織内への義援金拠出と連合を通じての拠出の案分方法について、その配分をどうするかで悩んだ。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合本部内でも、現地へ入ったメンバーと、そうでないメンバーとでの認識の違いがあるように思う。

食品連合

藤田　稔
（書記長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

17日の朝のテレビでは被害は軽微と見えたが、時間がたつうちに被害が大きくなり、びっくりした。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

1月18日に中央委員会で救援カンパを決め、単組を通じて企業に食品の提供要請、単組にボランティア活動参加を要請し、応えてきた。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

大手労組はかなりの所で大なり小なり、会社施設、組合員に被害があり、単組自体がそれの対応に追われた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

連合の指揮の下に行われるので心配はなかった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

加盟組合員にも被災者が多いため、きわめて好意的であった。

ボランティア参加者からは貴重な経験をしたとして感謝されている。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

初めてのことであり、マニュアルが無く、対応の迅速性を欠いた。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

初めての経験であったが、制限された中でよく対応されたと思う。感謝している。

一般同盟

辻村義男
（書記長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

これほどの大震災とは思いませんでした。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

早急に中央対策本部を設置して対応しました。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

義援金募集は順調に行きましたが、ボランティアの派遣は、経験不足で十分に対応できなかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

会社の理解を得ること。
派遣者の事故を心配した。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

大変協力的であった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

このような大災害に対する事前の態勢確立をしておかねばならないと思っています。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

ご苦労様でした。本当に労働組合があってよかったと思っています。

交通労連

広川一夫
（書記長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

あれ程の大災害になっているとは思わなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

地震発生の翌日18日、ただちに眞木中央執行委員長を本部長とする「兵庫県南部地震対策本部」を設置し、被災状況の把握を急ぐとともに、連合本部からの救援要請に対し、ボランティア派遣するとともに、車両の派遣をも行って応じた。

連合本部からの救援行動要請は3次にわたり、労連本部として車両延べ216両（運転士も派遣）・作業ボランティア438名を派遣した。

また、連合兵庫からの要請にたいしては、関西総支部および兵庫県交労で29名のボランティアを派遣している。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

連合としても急な対策であったので止むを得なかったが、予定が変更されることがおおかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

車両を派遣したので事故が心配だった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

大変良かった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティア活動に対する教育がこれまでほとんどなかった点。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

特にありません。

合化労連

山根昭昶
（書記長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

個人的には、故郷山口県にたまたま帰っていたが、地震の揺れ方が異様だったので、これはドデカイ地震だと直感した。自分の組織傘下の事業場・人身の安全を確かめる思いで連絡を関係先にとらねばと思った。しかし、思うようにいかず、イライラするばかりであった。それにしても、NHK・民放の第1報とその後の結果には割り切れないものが残っている。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

合化労連関西事務所を現地の中心窓口とし、物心両面における支援、被害状況の把握にあたることを、合化本部の緊急会議で決定。直ちに構成組織と連携し、出された救援要請に全面的に応じた。

緊急事態下において、組織の機構・機能が、多少の地域事情やコミュニケーションの不足からくるトラブルはあったが、十分機能し、単位組合間の連携もはかれるという確信はもてた。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

ボランティア派遣・援助物資に関しては、善意の輪のなかでの混乱と思われるが、組織の指示・伝令の乱れ（縄張り争い？）があったため、私どもの組織としての対応にとまどいが起こった。

救援金募集活動では、連合だけということにならなかった。様々な窓口へ思いを込めて分散されたケースが圧倒的だった。一部ではあったが、連合への集約へのアレルギーが見られたのは残念であった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

派遣者の健康管理・安全の問題であった。多くの所で、ボランティア活動に対する労使間での取り決めが十分出来上がっていないなかでの取り組みとなったため、個々人への勤怠上の扱いで個別の労使で混乱が起こらなければよいが等の心配を多少持った。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

素晴らしく意欲的で、頭の下がる思いであった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

このたびの震災に限らず、ボランティア活動が、日本はもとより地球規模で求められているなかで、組織としての体制づくりが、人の心の問題、あり方を含め、あらゆる面で不十分であった。この反省に立って、先進的な単位組合の取り組みの事例などの教宣活動を行っている。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合本部・連合兵庫の役割分担をもっとはっきりさせてほしかった。司令塔が2つあるような面での混乱が構成組織内にあったことは事実である。

最後に、このたびの事例を通じて、ボランティアを受ける側の立場にも気くばりする必要があると思うこと。また、連合の運動が大産別に厚く、中小産別にややもすると薄くなってしまったり、組織された人達だけへの傲慢さはなかったか、今後の運動への基本的なあり方との関係で、自戒もいるように思われる。

ＪＲ連合

舩津壽幸
（企画・組織部長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

「信じられない。寝耳に水」という感じだった。ＪＲ連合は、鉄道輸送という公共性の強い企業であるため大惨事を想定した。メディアでの映像を見つつ、その感を強めた。

特に、ＪＲ西労組本部事務所がロック状態となったため、連絡がとれず対応に苦慮した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

連合に設置された対策本部からの要請であった、ボランティア活動に2月から8名を派遣した。内部手続き・経過等は、緊急的対応の要素が強く、各単組とも積極的に対応した。

しかし、活動内容などが必ずしも正確でないため、多少の混乱もあった。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

現地の状況が定かでないため、非常用品等、持ち回り準備に戸惑った。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

第2次災害・傷害関係・業務内容（特に被害甚大と思われる家屋作業）

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

組合員の反応は積極的かつ協力的であった。

ＪＲ連合独自の全組合員対象のカンパ活動の実施。

各単組および地方本部独自のカンパ活動・救援物資・ボランティア派遣の実施。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

企業の社会的責任としての大規模災害発生時に対する設備等の検討。

災害発生時の連絡態勢・対応マニュアルの作成等。

ＪＲ総連

佐藤政雄
（執行副委員長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

まず、鉄道の線路・架線などの諸設備、働いている労働者がいかなる状況になっているのかと、すぐに考えたこと。

情報が伝わってくるにしたがって、被害の大きさに、これは大変なことだと実感した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

ＪＲ総連執行委員会はただちに地震対策委員会を設置して、被害を受けた構成単組との連携・要請に対応できる態勢をとった。

また、各構成単組に伝達を速やかにおこなうための態勢を確立。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

ボランティアの派遣要請に対応するにあたり、勤務先の年休などの取得に無理があり、派遣に苦労した。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

支援活動にあたっている人たちの、負傷・健康などに留意した。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

全組織的に、きわめて積極的に協力を得ることができた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

現地の対応に連携するための連絡態勢をさらに強化することが必要かと感じている。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合本部としては各構成組織によく連絡をとっていたと思う。

ゴム連合

澤田芳彦
（書記長・ゴム労連書記長）

（回答者注）連合には、ゴム連合で加盟していますがゴム労連として対応しました。

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

関西地方に加盟単組が多いため大変なことが起きたと思った。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

1月18日、「緊急対策本部」を設置。各方面からの情報収集を行い対処したが、被災地の組合員・家族の生活は莫大な影響を受けていることが日毎に判明していった。

1月24日、中央執行委員会を開催し、緊急支援カンパ活動を決定。◎各組合会費納入人員を基準に義務カンパとして実施。◎組合員1人1000円以上。

1月31日～執行委員を現地に派遣。

2月2日、連立与党の地震対策本部に緊急申し入れ『神戸市長田地区を中心とする被災中小ゴム企業の再建・雇用確保に関する要望』を実施。

2月5日～委員長・副委員長が現地入りし、各被災組合を訪問した。

3月7日、95春闘第1回中央闘争委員会を開催し、震災見舞金配分を決定した。

【見舞金額】組合員の死亡20万円（4人）・配偶者の死亡20万円（1人）・家族の死亡10万円（34人）・家屋の全壊10万円（372件）・半壊5万円（511件）、合計67150000円。

支援カンパ総計47993192円。不足額19156808円はゴム労連積立金より支出した。

また、ゴム連合として、連合へ150万円をカンパした。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

ボランティア派遣の経験がないため単組への依頼が難しかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

安全面・滞在施設。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

気持ち良く対応してくれた。しかし、各種団体からのカンパ活動が多く戸惑いもあった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

緊急支援態勢の整備が必要。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

支援態勢ラインの一体化が必要である。指示がいくつも出ていた。

連合カンパ金の配付方法、基準が不明。お金がどこへ行ったのか分からない。

全電線

後藤知之
（中央執行委員）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

すぐには詳細がつかめなかったものの、被害が大きいという様子は感じられた。被災地に加盟組織があり、被害の状況が知りたかったが連絡もつかず、情報も入らなかったため対策が立てられず苦慮した。

当方として各加盟組織の被害状況が模糊としていたことに不安を覚えたところもあった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

早急に組織内部にボランティア活動・カンパへの対応を確認し、各加盟組織へ要請した。ボランティア活動に関しては、具体的な対応項目および留意事項（身分証明・携帯品・連絡網など）確認し、内容を詳細に記した文書を作成し各加盟組織およびボランティア活動参加者に配付を行った。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

救援物資に対する依頼がきても集めるまでに時間がかかり、必要な時に送付することが難しいのではないかと感じた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

被災地へボランティア活動により赴いた者の安全が一番気がかりであった。派遣者に対しては考えられる範囲の準備・対策をしたつもりではあるが、現地で何か起きた場合

の対応がきちんとしているのかということも気になった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

各種要請に対しては予想以上に協力的であった。また、労働組合の社会的責任という意味においても、今回の要請は肯定的な意見が多くあった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

危機管理体制の強化・徹底の必要性を強く感じた。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

災害に限らず、不測の事態に対する管理体制の強化を望む。とくに今回の例で言えば、情報の一元化、指揮・命令系統の一元化について精一杯努力されていたことは理解するが、不十分であったように感じる。

国公総連

丸山建蔵
（書記長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

組合員の安否の確認、職場の被害状況の把握、被災組合員の救援にむけ、地震当日に中央・地方本部に「兵庫県南部地震対策本部」を設置し、本部長以下役員を現地に派遣・対応した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

執行委員会・機関会議などで、人道的見地から柔軟に対策・対応した。北陸・近畿・中国・四国地方本部などから多くの組合員がボランティア派遣に協力した。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

参加組合員の安全に不安があった。

救援物資を全国に手配し、近畿地方本部の組合員が被災地に徒歩などで搬入した。

義援金は、連合とともに独自でも活動した。

さらに組合としての共済金を活用し、復興にむけ無利子での貸付を行っている。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

複数の単組が活動していた場所では、連合ボランティアの代表を置き、指令・指示系統の確立が望まれた。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

自主的・積極的な参加者が多く、ボランティア意識の高揚が見られた。

参加者の感想は、「少しでもお役に立ててよかった」、「全国の連合の仲間と心を一つにでき、得難い経験となった」など。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

機関紙用の写真撮影時に、「怒りをかう恐れがあるので、あまり撮らないほうがよい」と注意された。被災者の心情を第一に行動したつもりだが、知らず知らずのうちに傷つける場面があった。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

神戸市兵庫区役所で、罹災届を取りにこられた被災者の整理作業を行ったが、事前に「1日1500人まで受付」という広報がされておらず、苦情を多く聞いた。被災者の苦しみを知る機会としては有意義な面もあるが、非常事態であるからこそ広報の徹底が必要と感じた。

政労連

渡辺　充
（委員長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

驚きのみ。（状況判明次第さらに驚く）

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

救援ボランティア、カンパ活動等。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えられた点がおありでしたか？

連合本部・地方連合取り組みによる、組合員レベルの公平性。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

同上。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

積極的だった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティア休暇の未実現。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

特に聞いていません。

全国ガス

八木幹夫
（組織広報局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
これほど大きな地震とは感じなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
各単組に組達を送付。内容は「救援要請への協力」。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えられた点がおありでしたか？
ガス労使が一体となって、早期復旧を目標に応援態勢をとった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
余震が続いており、2次災害が心配であった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
十分に応えてくれたと思う。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
厳しい復旧環境の中で、不平も言わず仕事をする組合員に、労働組合としてどうしてあげられるのか。1日も早い復旧を考えれば、これがベストだったと思う。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
特になし。
連合兵庫の皆さま頑張って下さい。

森林労連

石川　昇
（中央執行委員）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
これは大変なことになったとの想いの一方で、過密都市・近代都市の脆さ、弱さが表面化したと感じた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
ボランティア制度・仕組みの問題が無理との判断の上で、義援金・救援物資は地方単位に取り組むよう指示。
結果は義援金1716万円、ボランティア延べ30人、飲料水などを集約した。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えられた点がおありでしたか？
カンパは中央で一括していること、ボランティア制度・仕組みがないため災害補償の面で取り組むことの困難性があった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
（中央では指示していない。30人は地方独自のもの）

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
例えば義援金では、地方連合会を待たずに下部組織で自主的に取り組んだところ、職場単位の取り組みに協賛したなど、組合員の反応は良かった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
中央の指示で積極的に取り組みたかったが、内部・外部の制度・仕組み上の制約で範囲が限定されたこと。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
いろんな内容の支援要請が文書できたが、現地の状況も説明もなしに求められたこと。（しかし、実際上このことは難しかったと思うが）

食品労協

井上　宏
（事務局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
自分自身も兵庫県におり、とんでもないことが起こったと唖然とした。
人命の安否が真っ先に気がかりになった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
連合からの情報を各単組に流すとともに被災状況を集約し、併せて、カンパ活動をはじめとした各単組の活動を進めてもらった。
食品労協としても被害の大きな単組支部へのお見舞いを行った。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？
現地入りしたボランティアの方の安全確保をどうするかが難しいところであった。
義援金募集には特に問題はなかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

組織としての派遣は行っていません。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

非常に積極的に取り組みがなされた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

できることはまだ色々あったとは思うが、専従者がいないこともあり、各単組レベルでの活動に全力を尽くすことが精一杯の状況であったと思う。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

大混乱のなかで、積極的に精一杯の取り組みがなされたと思う。

労 済 労 連

高 橋 忠 雄
（書記長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

第１に、組合員（全労済の職員）がどうなっているのかが気がかりだった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

義援金カンパは、他の震災（北海道南西沖など）にならい、中執で確認した。

連合へのカンパは、組織分も含め確認。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

全労済の専従職員という面で、業務上の災害支援への協力を全力で取りくんだため、人的パワー（派遣）はできなかった。この２面性をどう整理していくかが課題。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

組合員が、全労済の職員のため、全体の協力が得られた。しかしながら、それ以上に全労済の業務としての災害対応が加入者を守る意味でも大切であるため、同時並行的にとりくみ、義援金カンパの反応は高かったと思います。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

全労済側（理事者側）と共同で震災対応を進めたが、全労済の組合という立場と、労働者全体（連合）への連帯という点での２面性をもつため、必ずしも連合からの要請をすべて取り組めなかった。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

タイムリーに対策をされたと思います。

組合員の中でボランティアを行っていきたいとの申し出も出されたことをうけ、組織としての今後の対応を検討していきたい。

地方連合会

アンケート回答

連合北海道

上　野　由　照
（広報・道民運動部副部長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

東方沖地震、南西沖地震など、いやというほどの地震経験から他人事とは思えず、ただちに支援の取り組みを始めました。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

① 地震の次の日、神戸から札幌に来ていた修学旅行の高校生に、通信・運輸手段がないので毛布400枚を託した。
② 街頭でカンパ。組合員に要請。
③ 救援物資（玉ネギ・イモ、計２トン）を発送。
④ ボランティア９名派遣（３月12日～18日）。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

特になし。（数々の経験があったからと思う）

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

「受け入れ態勢」に不安があったが、本部がキチッと受け入れてくれた。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

大変協力的だっったと思う。ボランティア派遣に、北海道から神戸までは遠距離のため、交通費が多額にかかることなど頭を痛めたが、問題なくすすんだ。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

今後ボランティア検討委員会で、震災など緊急時にいかに対応するか、研究をすすめたい。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

大変ご苦労さまでした。フェニックス計画など、できる協力は可能なかぎり行ないたい。

連　合　青　森

竹　山　美　虎
（副事務局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

とにかく驚き、「大変だ」と感じた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

(1) １月20日に緊急三役会議を開催し、以下の点について確認した。
① カンパ活動について
ア．構成組織は、連合本部の要請に基づく、それぞれの産別本部の指示に従ってカンパ活動をする。
イ．連合青森が取り組む緊急カンパは、特別参加組織と各地協による街頭カンパとする。
② 構成組織（運輸労連）の協力をいただき１月24日、緊急救援物資として、りんごジュース500ケース（１ケース30缶・250ｇ）を輸送する。
③ 救援物資の購入価格1110000円（１ケース2200×500ケース）輸送運賃について、連帯活動基金から支払う。
※救援物資は１月26日午前８時45分に尼崎労働センターに到着した。
※支援街頭カンパは、各地協でそれぞれ日程を決め実施し、集約金779823円を本部へ送金した。
(2) 上記については１月27日の第12回執行委員会で追認された。
(3) ４月28日の第14回執行委員会で「ろうきん震災遺児支援定期預金・応援（エール）30」の取り組みについて以下のとおり確認した。
① 連合青森は、運用資金の中から「応援（エール）30」定期預金に300万円を積立する。
② 構成組織は、１口５万円以上の積立を加盟組合に督励する。
③ 地協は労金支店と連携し、「応援（エール）30」に取り組む。
(4) ６月15日の第15回執行委員会で連合兵庫の要請に基づき「震災復興支援物資の販売」について確認した。
（ポロシャツ・帽子・Ｔシャツ合わせて166点の実績）

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

交通渋滞等への対策。

4，ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

ボランティアを派遣する際の派遣費用や安全対策費用等、財政基盤の確立が急務と考える。

5，各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

各種救援活動呼びかけに対しては、傘下組合・組合員・県民ともに親身に受けとめ積極的に協力してくれた。

6，この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

大災害発生時の初動態勢など実態に即したマニュアルの必要性を強く感じた。

7，連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

大変な活動に敬意を表するとともに、今回の経験を広く今後の活動に活かしてほしい。

連合岩手

小野寺　雅　司
（事務局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

早朝のテレビで知りましたが、当初これほどの大災害になるとは予想できませんでした。

次第に大惨事の模様が明らかになるにつれ、これは容易なことでないと感じましたが、同時にこれほどの情報化社会においても、大地震によって情報が寸断されることを目のあたりにし恐怖感を抱きました。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

要請を受けた直後の執行委員会（２月22日）で、本部要請に応えることを決定しました。本当はもっと素早く対応したいと考えておりましたが、現地の交通手段が壊滅状態にあり、ライフラインの復旧のため、遠慮してもらいたい趣旨の報道があったことから、本部との連携の上、情勢の推移を見守っていました。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

要請があった時点で、すべての構成組織が独自にタテ行動に取り組んでおり、人員の確保に難しさがありました。

また、要請された作業内容がイメージできず、その分野に得意な人材を選出できたかどうかという心配がありました。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

情報が不足していたことから、自己完結型のボランティア派遣の準備を進めていましたが、最終的に杞憂に終わりました。それでも、派遣者の健康と安全の確保に留意しました。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

既にタテ取り組みを実施中であったにも拘らず、真剣かつ積極的に対応していただきました。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティア活動の重要性を認識するところとなり、今後の運動課題として位置づけながら、そのシステム化をめざしていきたいと考えています。同時にこの問題は、災害支援だけでなく、あらゆるボランティア活動の重要性についても、問題提起をしてくれたと感じています。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

本部そして連合兵庫は、一生懸命対応されたと感じています。この教訓を忘れることなく、そして今後に生かすためにも、情報収集・情報管理・発信などのシステム化と、ボランティアグループとの市民ネットワーク形成について考慮されたらいかがでしょうか。コンピューターネットの充実も考える時だと思います。

連合福島

中　野　国　司
（執行委員・組織広報局次長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

「地震があったな」くらいの軽い気持ちでうけとめた。その後、ＴＶの情報が刻々と伝わってきたが、全体像が掴めずいらいらした。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

連合本部からの救援要請については、20日、６地域連合に街頭カンパ活動を要請し、21日から29日にかけて６地域・21地区連合単位に行ない2086995円、電機連合福島地協幹事会として94400円、連合福島第11回地方委員会会場で56631円、連合福島事務局8891円、合計2246918円のカンパを集め、連合本部に送金しました。

また連合福島政治対策フォーラム結成総会会場においてもカンパをお願いし225975円となり、福島市を通じて送金しました。

ボランティアの派遣は、23日の要請に対して緊急に事務局ならびに三役で協議し、１月25日～31日まで10名、１月30日～２月５日まで13名の派遣を決定しました。派遣にあたり、人と備品の確保を構成組織に要請、24日は全ての装備の準備ならびに現地までの交通手段の確保などにあたり、翌25日に第１陣が出発しました。第２陣は、第１陣と連絡をとりながら派遣しました。

連合福島は、現地や派遣者の家族、構成組織との情報交換・提供に配慮しました。

連合福島の地方委員会において、派遣者の表彰を行ないました。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

現地の情報により、派遣者の装備等について諸準備をすすめたが必ずしも正確でない。

派遣者の費用について、準備がなく予備費からの切り崩しをした。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
余震、ケガなどが発生しないか。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
街頭カンパ活動を見ても分かるように素早く行動し、ボランティア派遣についても積極的に応じてくれた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
ボランティア派遣について、装備・費用について一定量を確保しておく必要がある。
連合福島は、それらに対応できるよう第７回定期大会で「ふれあいカンパ」を創設する方針を提起し、来春の地方委員会で決定することとしている。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
はじめての体験であり、不安があったが、本部や連合兵庫との度重なる打合せの際、気遣いの様子が強く感じられ、事を進めやすかったことに感謝します。

連合群馬

清村宗一
（副事務局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？
第１報では、あれ程の災害になるとは思わなかった。
その後、時間の経過とともに、被災者救援の迅速な対応の必要性を感じた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
四役会議・執行委員会で、カンパ・ボランティア派遣を決めた。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？
それぞれ産別独自の活動を展開しており、地方連合からの呼びかけと重複する部分があったこと。
それと、財政的問題。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
現地への交通手段が不明な部分があったこと。
現地の状況が不明であること（作業内容を含め）。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
事態の重大さもあり、協力的であった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
より素早い対応が出来ればと思っている。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
現地の情報を、より詳細に流して欲しかった。

連合茨城

吉沢光雄
（事務局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？
１月17日は連合本部の全国事務局長会議があり、本部より大災害になるとの報告あり、時間が経過するほどに災害が拡大し、大惨事となることは予測した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
地方連合に対する救援要請は相当遅れた。産別先行型となった。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？
傘下組織の協力により、特になし。
義援金の募金では、産別本部や関連政党・団体が先行。地方連合は遅れた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
現地までの交通事情。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
通常の支援とは比べようがない。関心が高かった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
産別先行のため、地方連合は間隙を埋める程度で終始した。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
連合本部……指示・指令系統の迅速化。
連合兵庫……全国的な物資斡旋の事務局体制。業者との事前契約について、商品の品切れ、季節商品の扱い。

連合千葉

安藤正之
（当時：副事務局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

テレビをはじめとする各報道機関の取材態勢が整わなかったこともあるのだろうが、第1報に接したときは「地震が起きたのか」という程度であった。しかし、時間を経るにしたがい被害の甚大さを知り、連合千葉として何らかの援助活動をしなければならないと直感した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

連合千葉として独自の援助活動をいかに進めるかを検討しようとしていたときに、連合本部から救援要請がきた。早速に、ボランティアの派遣について執行委員会に諮り、陣容を固めた。

救援募金活動については、基本的には、産別で取り組まない所と、地域協議会を中心に取り組むことにした。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

ボランティアを派遣するにあたって、被災地がどういう状況にあるのか、どのような人材を求めているのか、が把握できずに困った。ライフラインの復旧要員なのか、避難住民のお世話をする要員なのか、などの判断材料が不足していた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

派遣ボランティアの中に女性がいたので、宿泊場所がどういう所になるのか、ボランティアをおこなう場所までの交通手段があるのか、ボランティア派遣にあたっての携行品は何が必要なのか、等々。最も気掛かりだったのは、被災地でどのような業務に従事するのかが判然としなかったことである。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

被災者の困窮ぶりがマスコミで報道されていたので、地域を越えて救援活動をするべきである、との認識は浸透していた。したがって、ボランティアの派遣や募金活動の実施については、各産別とも非常に好意的であった。

ただ、実践活動にはいる場合、縦割りで産別本部からの要請があり、それへの対応を素早くとっている時点で、連合千葉からの要請をかけたので、受け手の産別に戸惑いがあった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

連合千葉の反省点としては、活動の展開にあたって縦割りと横割りから産別へ要請をかけたので、受ける産別に戸惑いがあり、適宜適切な対応が取り得なかった。

救援物資の収集や呼びかけ等においても、地域のボランティア団体等との連帯を重視した活動を展開していたら、もっと有効な活動ができていたと思われる。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

① 被災地の状況を的確に把握した上で地方連合にタイムリーな情報を提供すること。

②ボランティア派遣にあたっても、現地がどのような人材を必要としているのか等の情報を提供すること。

③マスコミに対して、一元的な情報を提供して全国ネットで国民に周知させることを考慮すべきである。

④連合全体としてのボランティア組織をつくり、突発的な災害に即時対応できる態勢を備えること。そのために、ボランティアの登録制度などの態勢整備について地方連合を指導すること。

連合神奈川

井上三直
（副事務局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

「阪神地域に、まさか？」という感じ。大震災になるとは予想もしなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

執行委員会にて決定、五役産別を中心に参加。合計55名。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

産別ラインからの要請もあり、混乱した。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

安全と健康面。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

好意的であった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

特になし。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

『あったか湯』などで、地理不案内のため時間のロスがあった。地元の先導役などが欲しかった。

連合静岡

中村達夫
（組織局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

静岡でも、いつもと異なるズシンという揺れを感じた。相当大きな地震だったと認識した。ただ、都市型火災被害に対して、国・県などのコメントが無く、それほどでもないのかなという印象ももった（ゴメンナサイ）。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

① 緊急救援カンパ街頭募金……連合静岡全地協（12）で実施（1537062円）。

② ボランティア……連合東海ブロック（5県）内で調整し、5名参加した。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

特になかった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

3月10日～17日に派遣したが、当時の現地の様子、状況が十分把握できず、派遣者の宿泊・食事などが確保できるのかどうか、また健康や2次災害にあった場合の対応を心配した。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

素早く協力的だった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

連合静岡としての、独自の情報収集網の必要性を感じた。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

現地対策本部で日夜を分かたず活動された皆様には大変ご苦労様でした。

連合愛知

小田桐勝巳
（会長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

第1報は早朝のテレビで知った。かなり大きな地震だとは思ったが、これほど多くの死者、建物の倒壊、火災が起こり、被害が甚大になるとは予想もしなかった。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

連合本部からの要請に基づき、東海ブロックとして、救援ボランティアを派遣した。2月の執行委員会で救援内容と人員について協議、3月10日（金）から3月25日（土）までを前・後半に分け、愛知からは13人を派遣すると決定し、実施した。

また、1月27日（金）に街頭カンパ、構成組織での任意カンパを行い、連合愛知からの見舞金をあわせ319万円を連合本部へ送付した。

さらに、4月29日（祝）に開催したメーデーオープニングフェスティバルでも募金を行った。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

構成組織でもボランティアを派遣していたが、その状況が充分に把握できておらず、その濃淡がある中で全体のバランスを考え、地方連合からどの組織に依頼するか難しい面があった。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

現地の状況がよく分からなかったが、まだ危険な地域・場所があると聞いており、まず第一にボランティアに行く人の安全面、そして健康面が心配だった。また、ボランティア活動する上での意志疎通がはかられるかどうかも心配した点だった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

非常に積極的、協力的であり、ボランティアの要請にもすぐに対応し、カンパも構成組織・地協・街頭など、あらゆる立場や機会で実施し、多くの善意が集まった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティア派遣は、組合専従者がほとんどであったが、もっと幅広く、あるいは多数が必要になる場合は、ボランティア休暇制度があればスムーズに手続きがとれると感じた。制度の普及が大切だと思った。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合本部、そして特に被災地となった連合兵庫の皆さんは、おそらく自分自身や家族が大変な状況におかれているにもかかわらず、全体のために一生懸命救援活動をされたことに感銘を受けました。復興にはまだ幾多の年月が必要ですが、頑張って下さい。微力ながら私達も協力させていただきます。

連合三重

下　文勇
（副事務局長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
午前7時頃の報道では、地震の大きさに比して被害は少ないと思ったが、その後の報道では被害の大きさに驚いた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
各組織・地協の協力を得て、街頭募金・組織内カンパ・ボランティアの派遣などスムーズに実施できた。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？
図書の集約・整理・搬送には、大量だったので苦慮した。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
事前に本部で相談したこともあり、準備は順調にできたが、派遣した方々の事故、うまくやってもらえるかが心配だった。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
震災の大きさもあったが、非常に協力的だった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
初めての事で、多くの教訓を得た。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
大変ご苦労様でした。

連合富山

沢井晴夫
（組織部長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
富山県においても地震の揺れを感じて起き、テレビを点けたが、阪神地方で地震があった程度のマスコミ報道しかなく良くわからなかった。
しかし、時間が経過するに従って被害の大きさが明らかになり、驚いた。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
執行委員会で呼び掛け、下記の取り組みを行った。
① ボランティア派遣……19名。
② 連合富山独自の義援金集約（産別集約除く）……約415万円。
③ 救援物資の集約……段ボール箱400個。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？
街頭での義援金募集については、多くの団体と活動がぶつかり、県民に不快感を与えるような場面も多くあった。
また、組織内の義援金募集については、縦と横の連携が必ずしもうまくいっておらず、難しい対応を強いられた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？
ボランティア派遣については、現地の受け入れ態勢や行動内容が不明確であったことから、当初は個人ボランティアを募集し対応したが、組織としては対応が遅れた。3月11～20日にかけて連合要請に従い、チームで派遣を行なうことが出来た。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？
初めての経験で対応は遅れぎみであったが、組合員の関心は高く、短期間の急な協力要請についても良く応えていただいた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？
① 急な要請や活動について、迅速な対応が出来なかった。
② 大きな災害に対する日常の啓豪や訓練が遅れていた。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？
特になし。

連合石川

宮本一二
（連合石川総研専務）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？
最初マスコミでは「被害は小さい」と報道され安心しましたが、その後の報道において被害の大きさに不安と驚きを感じました。しかし、最終的には5500名以上の犠牲者が出てしまったことは、単に「天災」とは言えない即応体制の拙さ、防災体制の未熟さを感じました。今回の大惨事の教訓を、今後の災害対策に活かしていく必要があります。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？
緊急に取り組むべき行動として①②を行い、③④は執行

委員会で協議し、決定した。

① 1月22日に連合石川・金沢地協・青年委員会・女性委員会など30名で街頭カンパを実施。
② 救援物資として下着類一式を送付。
③ 緊急カンパ（産別の取り組みにあわせ、直加盟組合を中心に2月末を最終として実施。
④ 救援ボランティア団を被災地に派遣。（第1次・2次で計10名。3月11～20日）

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

連合本部からの要請と、産別本部からの要請が重複した結果、カンパ活動などに多少の混乱があったが、関心事だけにいつも以上に組織の反応は速く、各組織からは従来とは違った積極的対応があり、連合本部の要請に対して速やかに応えられた。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

現地の状況を充分に把握していなかっただけに、交通・宿泊の整備状況、水・食べ物など心配があった。とくに、派遣したボランティア隊員の中に女性が2名おり、怪我等が一番心配された。

寝袋・水・携帯食糧等を用意していきましたが。連合石川のボランティア隊員が被災地に入ったのは3月中旬であり、予想以上に復興しており杞憂に終わりました。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

組織・組合員ともに関心を持っていただけに対応は速かった。ボランティア派遣については定員以上の応募があった。

また、組織だけでなく、街頭カンパ等では世代を越えて、非常に高い関心を示しており、他人事ではないという気持ちが我々にも伝わってきました。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティアは本来、活動者が自ら交通費・宿泊費を出して行くものであるが、今回のボランティアは連合石川にて負担しました。被災者のご苦労を目のあたりに見たとき、参加した隊員に対する諸待遇は良すぎたと思われます。また、連合兵庫事務局は参加隊員に気を使いすぎたと思います。

連合石川がボランティアに参加したときは既に3月の中旬であり、出来ればもう少し早く参加すべきであったと思います。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

連合本部・連合兵庫ともに大変だったと思います。とくに、連合兵庫の事務局のみならず、連合兵庫構成組織組合員の中にも被災者が多くおられたと思いますが、それにも拘らず率先して活動している姿には頭が下がりました。

※私もボランティアの一員として現地に入りました。4月にも1度、長田区を中心に見て歩きましたが、目に見える「建物」「交通網」などはかなり整備されつつあると思いました。しかし、見えざる被災はまだまだ深い傷跡を残していると思います。むしろこれからが大変だと思います。今後地方連合において出来ることがあれば、遠慮なく要請いただければと思います。

連合京都

稲葉伸二
（事務長）

1．震災の第1報に接したとき、どう感じられましたか？

自宅でもかなりの揺れで、すぐにテレビをつけたが、その時はそれほど大きな被害とは感じなかった。

時間がたち、被害の全容がわかるにつれ、大変な災害と感じました。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

連合本部・近畿ブロックの要請を受け、執行委員会で取り組みを決定し、産別・単組に要請した。その間、ＦＡＸニュース等で「カンパ・救援物資の搬出、ボランティア派遣」を呼び掛け、次のとおりの結果を得た。

① 救援カンパ
組織内＝タテ集約のない組織を対象に集約。
街頭＝1／26～2／6の間、全地協で実施。（丹後・宮津・舞鶴・福知山・綾部・亀岡・乙訓・南山城・洛北・中京・洛東・洛南・洛西・伏見の全14地協。街頭募金合計2127612円）
全額を、連合を通じて兵庫県など関係先にカンパ。
② 救援物資
下着類・生活用品を中心に多数。
連合現地対策本部を通じて各避難所へ配付。
③ 救援ボランティア
1／24～2／25の間、1泊2日で連日2名参加。（近ブロ全体で45名）
④ 連合クリーン作戦
3月19日、於・神戸市。
合計22名参加。

3．要請にお応えいただく上で、困難を覚えた点がおありでしたか？

特にないが、産別独自の取り組みもあり、そちらへの配慮を必要とした。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

事故と交通事情。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応

はいかがでしたか？

ＦＡＸニュースの呼びかけに応募があり、また個別事情にも快く応えてもらえた。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

何かしなければと思いつつ、連合本部なり近畿ブロックの指示待ちで、自主性・即応性に今後の課題を感じる。

7．連合本部・連合兵庫の対応で、何かお気づきの点がありましたか？

困難な状況のなかで、本当によく対応されたと思う。

連合宮崎

日吉繁雄
（副事務局長）

1．震災の第１報に接したとき、どう感じられましたか？

本当に地震なのかと信じられず、身が震える思いであった。と同時に、科学の無力さを痛感した。

2．連合の救援要請に、どのようにしてお応えいただきましたか？

① 九州ブロックからの要請もあり、執行委員会でボランティア派遣に対して協議し、承認。各産別に要請（家族も含めて呼びかけた）、６名を派遣することになった。

② 街頭カンパ活動を２回とりくむ……募金合計199746円。

4．ボランティアを派遣される際、特に気がかりだった点は？

派遣者がケガ等をした場合……九州ブロックで保険をかけることにした。

5．各種救援活動呼び掛けへの、傘下組織・組合員の反応はいかがでしたか？

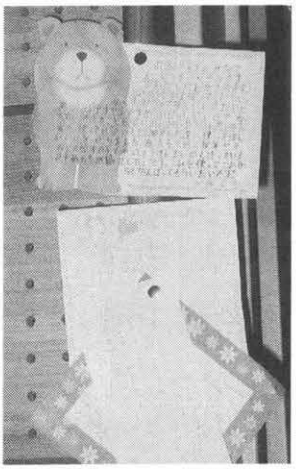
すでに構成組織としてタテから派遣を呼びかけられているところが多数あり、無理にお願いをした産別もあった。

6．この活動をとおして、貴組織として何か反省点はおありですか？

ボランティア活動に参加した者の貴重な写真（約100点）を、県内３カ所で展示ができ、地震に対する認識等、多くの教訓となった。

ボランティア活動

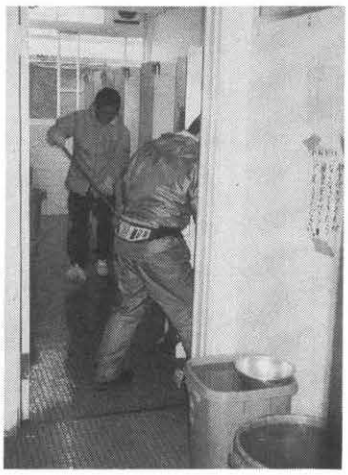
日　　報



ここに『ボランティア活動日報』を掲載する。

この日報には「現地対策本部（連合兵庫会館内）」を基地にしたボランティア活動者の報告と感想が記されており、活動の実態を記録する資料としてたいへん貴重なものである。

既述のとおり、この救援活動では連合兵庫会館（神戸市）の現地対策本部のほかに、東拠点（尼崎市：阪神地域協議会事務所内）と西拠点（加古川市：日本毛織労働会館内）の２カ所をもうけ、それぞれボランティア活動者の受入・派遣、物資の受入・配送などの活動にとりくんでいた。が、しかし、東西両拠点ではここに掲載したような形式での『日報』は記録されなかった（ただし、集約的活動記録はあり、それは「活動報告」の基礎資料になった）。



日報が記録されなかった理由は種々あったが、理由の最大のものは、いわゆる「客気」で、「記録よりも活動」と彼らは考えた。

貴重な経験が記録として残されなかったことは残念だったが、これも当時の拠点担当者たちの「心意気」として容認すべきであろう。

1995年２月３日（金曜日）No.１

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●本日のボランティア参加組織（連合兵庫、教育会館、海員会館泊まりの参加者）

構成組織関係

自治労、自動車総連、電機連合、日教組（兵庫県教組）

地方連合関係

連合福島、連合東京、連合福井、連合奈良、連合岡山、連合徳島、連合近畿ブロック

●活動場所一覧とボランティア活動内容

活　動　場　所	被災者数	ボランティア活動内容
①六甲アイランド		大型テントの設営
②兵庫区役所		救援物資搬出入
③中央体育館		救援物資仕分け
④会下山小学校	1,200	避難場所支援活動
⑤摩耶兵庫高校	200	避難場所支援活動
⑥蓮池小学校	2,300	避難場所支援活動
⑦若菜小学校	800	避難場所支援活動
⑧吾妻小学校	2,000	避難場所支援活動
⑨楠中学校	500	避難場所支援活動
⑩北野小学校	550	避難場所支援活動
⑪魚崎小学校	2,000	避難場所支援活動
⑫福池小学校	3,000	避難場所支援活動
⑬西郷小学校	1,300	避難場所支援活動
⑭湊小学校	3,000	避難場所支援活動
⑮太田中学校	1,300	避難場所支援活動
⑯大黒小学校	1,900	避難場所支援活動
⑰本山南中学校	1,500	避難場所支援活動
⑱神戸外大		Uパック搬送
この他に市内16校（県教組を軸に）	21,450	避難場所支援活動
市内全域（自治労と連合東京各１名）		特別行動

●兵庫県南部地震現地対策会議の開催について

◦日　　時　２月５日(日)13：00～15：00

◦場　　所　連合兵庫

◦議　　題　現況報告・情報交換、今後の展開について

◦出席要請　連合本部、連合兵庫（阪神、加古川、神戸地協)、連合大阪（近畿)、ボランティア派遣組織、現地対策本部代表者または代理

「兵庫県南部大地震法律相談ダイヤル」設置へ
連合兵庫が６日から10日まで

連合兵庫は２月６日から10日までの５日間、「兵庫県南部大地震法律相談ダイヤル」を設置する。

中小企業・パート労働者を対象とした「なんでも相談ダイヤル」を常設している連合兵庫は、そのノウハウをいかして無料で被災者の法律相談に応じるというもの。

この「大地震相談ダイヤル」の期間中は弁護士、ケースワーカー、社会保険労務士、税理士などのエキスパートの応援を得て行う。

ところで３日付け朝刊各紙でこのニュースが報じられると朝から連合兵庫の電話は鳴りつづけ、現地対策本部のスタッフが対応におわれた。６日まで待てない被災者の切実な思いが受話器からひしひしと伝わってきた。

相談ダイヤル＝078-361-0505

現地対策本部直通電話を設置しました（２台）

ＴＥＬ　078-360-8881・6700

①連合本部派遣者への連絡は上記ダイヤルでお願いします。

やった！　水がでるぞ

連合兵庫事務所に水道開通

被災生活の上で一番困るのは「水」だ。被災直後の水無し生活の大変さは想像を絶するものだ。その不便さは現地対策本部でも同じ。ゼンセン同盟が加古川市から毎日運んでくれた水（20ℓ入りポリバケツ30コ）をみんなでリレーして屋上のタンクに入れ、何とかトイレ用に最低限の水を確保する有様だった。

その「水」がようやく普通にでるようになった。復興へ小さな一歩だが、希望への大きな一歩といえる。「水がでるぞ」の声が館内にこだまると「やった！」との声があがった。対策本部ではさっそく洗濯機を購入。汗にまみれたシャツを思いきり洗ってもらうことにした。「洗濯機で洗いたいのは体の方だよ」とだれかが言うとスタッフの中からどっと笑いがおこった。

文書管理＝連合現対本部：ＦＤ

1995年２月４日（土曜日）No.２

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●本日の連合兵庫本部の活動一覧

活動場所	避難者数	活動組織	人員
①六甲アイランド		連合大阪・近畿Ｂ	30
②兵庫区役所		連合福島	13
		連合東京	35
③中央体育館		自動車総連	14
④会下山小学校	1,200	自動車総連	10
⑤摩耶兵庫高校	300	自治労青年部	5
⑥蓮池小学校	2,300	自治労青年部	5
⑦若菜小学校	800	自治労青年部	3
⑧吾妻小学校	2,000	自治労青年部	3
⑨楠中学校	500	自治労青年部	2
⑩北野小学校	550	自治労青年部	2
⑪魚崎小学校	2,000	電機連合大阪	8
⑫福池小学校	3,000	電機連合大阪	7
⑬西郷小学校	1,300	自治労青年部	2

活動場所	避難者数	活動組織	人員
⑭湊小学校	3,000	連合徳島	6
⑮太田中学校	1,300	自治労青年部	4
⑯本山南中学校	1,500	連合奈良	5
⑰神戸外大		連合福井	8
		連合東京	1
		自治労青年部	1
この他に市内16校（県教組を軸に）	21,450	兵庫県教組	48
		合　計	212

●お風呂情報（兵庫県まとめ）の紹介

◦一般公衆浴場　41カ所
（神戸市17、西宮市７、伊丹市10、宝塚市２、川西市５）

◦県の仮設風呂　３カ所
（神戸市２、宝塚市１）

◦自衛隊風呂　11カ所
（神戸市内を中心に）

◦ゴルフ場　51カ所
（無料で自主的に開放）

◦その他営業中の浴場　12カ所

〈お風呂こぼれ事情〉

連合兵庫近くの公衆浴場の場合（徒歩約15分）

①待ち時間　男性40分、女性１時間30分

②入浴料金　280円

③番台や給水　ボランティアで行う

●ボランティア活動報告

〈ボランティア自由記入帳から紹介〉

あらためて痛感“ありがとう”の大切さ

（連合福島第１次派遣隊　東北電労福島支部、高橋良一）

被災地の作業現場は兵庫区役所で、活動内容は物資の搬入と仕分け作業。兵庫区役所管内５カ所の避難場所へ物資を配分するため、一旦兵庫区役所前のテント内に搬入し、仕分けした後に避難場所へ物資を分配する。区役所の職員は８人。２交代（ただし毎日出勤）でテントに泊まりこみ、午前４時頃の物資搬入にも対応できるようにしていた。区役所の職員も十数名が亡くなっており、家を失っても勤務に就いている方がおられるなど、ボランティアの私たちから見れば本当に気の毒に思えた。

約１週間のボランティアだったが、みんなが協力しながら生活することの大切さと“ありがとう”の一言の大切さをあらためて痛感した。

勉強になった組織のあり方

（自治労東京・狛江市職、梅津元和）

外来語「ボランティア」の使い方の難しさ。非常時の組織のあり方、特に「ヤクにたつ組織」と「ソレなりの組織」を考えさせられ、勉強になった。訓練する事でそのチャンスを自分自身で吸収する様、努める姿勢を失わない様、こういった活動を続けたい。作業内容は、神戸外大にて救援物資の搬出。

ずっと忘れないでいたい

（東交、粟生澤敏郎）

初めての「ボランティア」的行動を行った。無償で誰か困っている人達の手助けをする……。自分としては気分が良いが、困っている人達から見ればどうなんだろう。果たして自分達の行っている作業が役に立っているのだろうか。今回の「関西大震災」の被害はものすごい有様だ。僕は今回のボランティアをずっと忘れないでいたい。

作業内容は兵庫区役所前広場テントと外大での搬出入。

貴重な体験

（全逓、須藤雄視）

今回のボランティアでは、お金をつんでも得られないとても貴重な体験をしました。今回のボランティアにより自分が社会に対してできる事、ボランティア活動とは？　等多くの事を考えました。今回の事を今後の人生に大きく生かしていきたいと思います。

作業内容は兵庫区役所前広場テントと外大での搬出入。

1995年２月５日（日曜日）No.３

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●本日の連合兵庫本部の活動一覧

活動場所	避難者数	活動組織	人員
六甲アイランド		連合大阪・近畿Ｂ	30
兵庫区役所		連合本部	3
中央体育館		自動車総連	9
会下山小学校	1,200	自動車総連	8
摩耶兵庫高校	300	自治労青年部	5
蓮池小学校	2,300	自治労青年部	2
		兵庫県教組	3
若菜小学校	800	自治労青年部	4
吾妻小学校	2,000	自治労青年部	3
楠中学校	500	自治労青年部	22
		兵庫県教祖	3
北野小学校	550	自治労青年部	2
魚崎小学校	2,000	電機連合(個人参加)	8
福池小学校	3,000	電機連合(個人参加)	7
西郷小学校	1,300	自治労青年部	2
市内全域(特別行動)	3,000	自治労	1
太田中学校	1,300	自治労青年部	2
本山南中学校	1,500	連合奈良	5
大黒小学校		兵庫県教組	3
宮本小学校		兵庫県教組	3
山手小学校		兵庫県教組	3

活動場所	避難者数	活動組織	人員
荒田小学校		兵庫県教組	3
水木小学校		兵庫県教組	3
和田岬小学校		兵庫県教組	3
湊中学校		兵庫県教組	3
駒ケ林中学校		兵庫県教組	3
鷹取中学校		兵庫県教組	3
長楽小学校		兵庫県教組	3
成徳小学校		兵庫県教組	3
六甲小学校		兵庫県教組	3
西灘小学校		兵庫県教組	3
兵庫高校		連合徳島	5
青陽東養護		兵庫県教組	3
本山南小学校		兵庫県教組	3
住吉小学校		滋賀県教組	3
高羽小学校		奈良県教組	3
福住小学校		大阪教組	3
稗田小学校		大阪教組	3
小野柄小学校		神奈川県高教組	3
兵庫大開小学校		福岡県教組	3
高取台小学校		岡山県教組	3
原田中学校		大阪教組	3
須佐野中学校		東京教組	3
飛松中学校		熊本高教組	3
上野中学校		大阪教組	3
二宮小学校		神奈川県高教組	3
菊水小学校		福岡県教組	3
摩耶小学校		大阪教組	3
		合　計	191

●ボランティア活動報告

〈連合ボランティア自由記入帳から紹介〉

連合東京参加者40人の声

◦行政の対応のあり方。
◦職員の対応のあり方。
◦東京の防災活動の試練。
◦東京の防災対策。
◦大した事をやったわけでもないのに被災者に痛く感謝されジーンときたこと。
◦こうした形で連合の仲間が深く結びついた。
◦連合運動についてあまり理解がなかったが素晴らしく思う。
◦今後、縦と横で長期的な支援策をぜひやってほしい。
◦自分だけでも来ようと思ったら（連合が）取り組んでくれた。

＊帰京する前の夜、神戸現地で行った参加者感想発表会での一言から
＊連合東京は１月29日から２月４日まで40人がボランティア参加しました。

●避難所レポート

蓮池小学校

◦対応　大西教頭
◦支援組織　金属機械京都支部
◦概要
　三菱重工による甘酒とコーヒーの提供
　自衛隊による給水　一日11トン
　避難所自治組織による炊き出し・介護
　外部から給食を食べに来るものが多い（中にいる人数と同じくらい）
◦支援組織の態勢
　引継ぎのため５名のボランティアのうち１名は１週間の滞在（中央本部）他は２泊３日
◦要望
　毎日同じ食べ物（パンと牛乳）肉が欲しい――運搬手段が問題（冷凍車など）
　長期のボランティア（リーダーとして）
　プロパンの安定供給を

湊川中学・楠高校

◦対応　楠高校校長
◦支援組織　なし
◦概要
　校庭に約70台の車、テントあり
　自衛隊による簡易風呂
　税金よろず相談所あり――しかし利用者少数
　炊き出し――民間ボランティアによる
　７つのブロック（体育館、１Ｆなど）に分け、各ブロック単位で役割分担。班長会議による問題解決。
　外部から給食を食べに来る人は２～３百人（トラブルあり）
◦要望
　質のよいボランティア（学生などの）
　ボランティアが必要なボランティアはいらない。依然、宿泊場所などの待遇面でトラブルあり。

担当　末永

1995年２月６日（月曜日）No.４

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

〈兵庫県南部地震現地対策会議〉

◦と　き　1995年２月５日
◦ところ　連合兵庫
◦出　席　連合本部、連合兵庫、連合大阪（近畿）、東拠点、西拠点、ゼンセン同盟、自動車総連、日教組、自治労、情報労連、交通労連、造船重機労連

●報告と今後の取り組み

◦連合ボランティア参加者
2月5日現在　総数（のべ）**5,312人**
＊集約期間：1月22日から2月5日までの間
＊なお、被災直後から各単組単位での自主的な救援活動が相当数ある模様だが、詳しくは集約できず。
◦救援活動の基本的考え方
◦被災者の自治・自立への支援とその継続が求められている。ライフライン、学校、行政の機能回復を。
◦避難所へのボランティア派遣
①当面2月までの態勢を確立する（構成組織を中心に）
②今後求められるのは、専門分野に絞りこんだボランティア
③避難所に行けない人をどうするか（福祉問題）
◦救援物資について
2月7日をピークとして対処
・自転車…尼崎50台、加古川100台など合計200台
・医薬品
・缶詰
・衣料…男女各1万着、子供用5,000着、幼児用4,000着
・ストッキング、タイツ類…5,000枚
◦今後の検討課題
・3月以降の態勢をどうするか
・復興宝クジ、復興レース

●避難所レポート
◦報告者：現地対策本部・広瀬英次政治局部長
◦調査日時：2月4日（土曜日）

本山南小学校

◦対応　福尾教頭（女性）
◦支援組織
兵庫県教組・城崎支部3名　1泊2日でローテション
掲示版には、2月4日現在の状況報告「本校内児童数26、校区内残留37、総宿泊者数1,055」
職員室横に自警団本部詰め所あり
校庭で子供たち50〜60人を集めボランティアが豆まき用の豆入れの折り紙の作り方を教えていた。
◦コメント
・教組
「炊き出しが始まった」
「紙おむつが欲しい」
・教頭
「支援組織の方々は遠いところからきていただいて、本当に助かっている。自治組織はぼちぼち出来つつある」

福池小学校

◦対応
上田教頭（女性）（避難者責任者の紹介だけ）
堀木さん（女性）
松下情報システム勤務。日帰りの個人参加型ボランティア。
◦コメント
・堀木さん
「食料はある。下着類がほしい。ビニールシート、おわんの需要も。土・日のボランティアは多い。人数は少なくとも恒常的な態勢が必要。組合は2月6日からと聞いている」
・避難者責任者：佐野武さん（関西電力総連：キンデン）
「最低限のもの以外の避難所生活を向上させるもの、便利なものは断っている。ここは仮の場。あくまで避難所という位置づけでいるからだ。日帰りの場合でも引継ぎをきっちりとしてもらえると有り難い。泊りも可能で、その為に教室を空けている」（佐野さんは若いがリーダーとしてもしっかりしている）

本山南中学校

◦対応　木村校長（男性）
◦支援組織　連合奈良5名（日帰り）
◦コメント
・木村校長
「職員3〜4人が交代で宿直している。連合のみなさんは日帰りで十分助かっている。教室ごとに班ができている。住民への指示も住民自身がやれば反発はない。ボランティアのみなさんは自立を支える支援の仕方を考えていただくとありがたい」
・連合奈良
「物資は揃っている。毎日炊き出しもやっている。1週間前にボランティアがきたら全てをやらせ避難者自身何もしないという状況となった。また、個人主義に走り、ＴＶなどを持ち込む事態にもなった。そのため反省会をやり、自主・自治を基本にボランティアの支援をあおぐというようになったらしい。支援時間は午前10時から午後6時」

魚崎小学校

◦対応
奥村教頭（男性）
八木さん（男性ボランティア）
自宅マンションは無事で手伝いにきている。中年の方。
◦コメント
・奥村教頭
「自主対策本部（ボランティア調整）と学校（ＰＴＡと教育について相談）と分業態勢でやっている」
・八木さん
「連合には物資供給でも、大変お世話になっている。住民には自炊場所（調理室）を提供しているので、自炊してもらっている。何日か前に松下電器の15人ほどが来られた。2月6日から10人が松下から日帰りで来るという打ち合わせをしていた。住民には自立・自主的にやるようにしてもらっている」

――ここで風呂（有馬ロイヤルゴルフ場行き貸切バス１台30名受付）の放送あり。商工会が手配したもよう。

注：ここまでは広瀬君自身がまとめたレポートですが、２月５日ボランティア活動中に本人が負傷したため、以下は本人が残したメモを記載しました。

成徳小学校

◦対応　大西校長
◦支援組織　兵庫県教組神崎支部３名
◦コメント
・大西校長
「通学出来ても道路が大変。教室も一部ない」
・神崎支部
「交代は14：30頃。仕事はトイレの掃除・トイレットペーパーが焼けてない。消毒。物資搬入。水汲み手伝い。テントを持ち込んだが、職員室で寝ている。昼うどんの炊き出し。最後は22時頃トイレの見回り。リーダーはいる。炊き出し基本は自主で、ボランティアは手伝い。１月27日くらいからペースがつかめた。それまでは混乱あった」

六甲小学校

◦対応　小林教頭（女性）
◦支援組織　兵庫県教組養父支部・出石支部
◦コメント
「水道は通った。グループあり。ルールあり。全体で炊き出し。衣類のうち、ＬＬサイズなど大きなものが不足。避難所新聞『だいひょうしゃかいぎ　だより』を発行

西郷小学校

◦対応　佐竹校長
◦支援組織　自治労新潟県本部　１サイクル＝２泊３日
◦コメント
「１月21日頃、校長の指導で自治組織をつくる。自衛隊が暖かい弁当、ボランティアがとん汁、サラダをつくる。上着類は量的にはたくさん。ＬＬもある。下着がほしい。ボランティアが風呂をつくる」

西灘小学校

◦対応　前本校長（女性）
◦支援組織　兵庫県教組　１サイクル＝１泊２日
◦コメント
「班ごとに対応。下着がほしい。シャワー10基。バスでゴルフ場（の風呂）へ、有り難い。一時的避難ではなく支えては」

1995年２月７日（火曜日）No.５

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

これから参加されるボランティアの装備のご案内

●ポイント
◦当初の物資搬出入、分配作業から避難所へのボランティア派遣が中心
◦状況により避難所への泊まり込みが可能な装備、服装（本部宿泊基地には布団があるが、ボ活動で避難所泊が最低１回は組み込まれることがある。避難所には布団はないと思って臨むこと）
◦食料、水はある

●用意するもの
◦装備関係
・寝袋とスポンジマット（寝袋の下に敷く）
・携帯水筒
・携帯ラジオ（イヤホン付き）
・ポケット型懐中電灯
・皮手袋（軍手は滑るので不可。ポッチ付きも刺に弱い）
・できれば携帯電話（責任者用）
・ナップザック・ウエストポーチ
・マスク（防塵用）
・靴（音のしない柔らかい靴底のもの。安全靴は不要）（脱ぎ履きの便利なもの。編み上げは不便）
・洗面具
・神戸市内地図、メモ用紙、筆記具
・アーミーナイフ（くだものナイフ、缶切り、先抜きつき）
・常備薬（うがい薬、目薬も）（コンタクトの方は洗浄液をたっぷりご持参のこと）
・長期間活動される場合は、風呂道具
・雨具（ビニールカッパ、ポンチョなど）
＊ガラス等落下物が多いため、帽子（赤）を現地本部でさしあげます。
＊連合腕章を着用。現地本部でお渡しします。（要返却）

◦服装関係
ポイントは「汚れの目だたない、寒くない服装」
・ズボン下、タイツ
・ダウンジャケット等の外出用上着
・室内で羽織る上着（かさばらないもの）
・セーター類
・ウインドブレーカー（防水）
・着替え（ただし本部宿泊基地に洗濯機あり。洗濯可能）（洗剤は不要・室内用ロープはあると便利）
・女性の方のスカートはダメ

●救援活動報告

連合ボランティア自由記入帳から紹介

がんばる先生たち

◦自動車総連本部　深町達也
◦派遣先　会下山（えげやま）小学校
◦期間　１月28日～２月４日
◦活動内容　避難所支援
◦主な仕事
①トイレのメンテナンス
②水の受け入れ
③物資の受け入れ、仕分け

男性教職員16名が８名ずつ交代で夜番に入っている。かなり疲労されている様子である。午後２時～３時頃に付近の授業を再開している学校の教員が応援に来る。人手としては十分である。

避難者の中には、当初より外出の人が目立っており、男性は仕事へ、女性は買い物等に出かけている模様だ。従って、昼間の避難者による人手はあまり期待できない。また、避難者には高齢者が多く、生活全般の自立は困難であろうと思われる。

施設の管理は学校の教職員が行い、物資食料の管理・配給は自治会が行っている。自治会役員も一般被災者と同様の被災を受けているので、食料・物資の管理に対して文句が言えないという配慮。水は自衛隊、神奈川県水道局、地元の農園等が供給しており、不足はしていない。しかし、ポリタンク、一斗缶での受け入れ、移動はかなりの力仕事である。

教職員の方々は、避難者からそれなりに感謝を受けていると思う。特に教職員の主業務は学校の再開に向けての準備（在校生の連絡、消息の確認等）なので我々の活動により、施設の管理から解放されることは大変意味があるそうだ。

勤務先のパン屋が倒壊して賃金がでない

連合兵庫「兵庫県南部大地震法律相談ダイヤル」に２日で75件。

連合兵庫は２月６日から兵庫勤労福祉センターで「大地震相談ダイヤル」を開設した。午前11時から始まった相談には多くの被災者から相談が寄せられた。相談には弁護士３名、社会保険労務士１名、退職者連合１名、労金１名、労済１名が対応。２月７日15時現在で75件の相談があった。

相談内容の８割が震災関係で「アパートが半壊。家主が行方不明でどうしたらいいか」「マンションにひびが入り、入居していないが家賃はどうなるか」など借家・借地に関係した問題や「自宅が焼失。ローン返済をどうしたらいいか」などの相談が多かった。また、震災に関係した雇用や賃金問題もでており、「60人の印刷会社だが、１割の解雇がでた」「従業員100人の会社。自宅待機を命じられた」（26才女性）「勤め先のパン屋が倒壊して１月31日の給料日に賃金がでなかった。どうしたらいいか」などの訴えがあった。この相談は10日まで行われる。

現地向け「明日への希望カレンダー」を～被災地では家屋の倒壊・消失などでカレンダーがありません。「明日への希望」をつなぐカレンダーを被災地に送ろう！

1995年２月８日（水曜日）No.6

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

（本日分）事務局会議報告より

合化労連（報告者：六藤逸美）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明を取りに来た方の整理・誘導
④意見・感想
「仕事の内容、行き先を事前にわかるようにしてほしい。整理・誘導係とはいえ被災者の方が証明書の書き方など尋ねて来たときに答えられなかった。その日その日に行き先が変わるのか。明日にならなければ、仕事の内容は分からないのか。メンバーに事前に連絡しなければならない。合化の場合、取り組む単組が変わるので単組から単組の引継ぎできない。合化として仕事内容をラップさせる必要がある。仕事の内容によっては人がころころ変わるのはどうかと思う」
⑤翌日の作業内容
市水道局中部センターでの給水作業支援予定は20日まで。作業時間は午前８時から午後７時まで。必要人員は10名なので残り５名は他の構成組織で対応する。

自治労（報告者：竹内広人）

①参加人数　期間中　毎日概ね20人
②活動場所　学校８カ所
③活動内容　避難所の支援全般
④意見・感想
「動員の見通しは２月末まで概ね毎日20人は確保できる。担当学校８カ所あり、動員者のパターンが２泊３日と３泊４日の２通りあるため、経験したことや学んだことが蓄積されないため、引継ぎが困難。そこで継続しているところについては状況が把握できるようにしたい。また毎日状況が変わるのでフォローしたい。具体的にはボランティア報告書を参加者個々に書いてもらい、学校ごとのファイルをつくりデータを本部に蓄積する。このファイルは公開して（他の産別など）誰でも見れるようにしたい」
⑤翌日の活動
引き続き８カ所の支援

商業労連（報告者：木村和子）

①参加人数　１名
②活動場所　避難所（学校６カ所）
③活動内容　状況調査
④意見・感想
「５カ所にお風呂があった。太田中学校は自治組織があるためボランティアは必要ないといわれた。逆に駒ケ林中と鷹取中では組織的な長期ボランティアが必要という。全般に物資が不足している」
⑤翌日の活動
現地本部活動支援

自動車総連（報告者：玉手吉明）

①参加人数　19名
②活動場所中央体育館、会下山小
③活動内容
＊中央体育館
学用品の搬出入・仕分け作業。
＊会下山小学校
トイレそうじ、給水、生活用水運搬。
④意見・感想
「中央体育館…問題点は搬出入の時間が読めないので、対応が難しい。学生のジュニアリーダー、県の教職員、我々との意志の疎通がとれないので非効率な仕事になっている。そこで３者ミーティングを呼びかけた。だんだんよくなっている。今後搬出作業が増えてくる見通しだ。会下山小…午後２時から３時ごろになると20～30人の先生がボランティアで来ている。先生方もいれかわり立ち代わりで来るのでやり方を我々にいちいち聞いてくるため、二度手間、三度手間になっている。トイレそうじを避難者自身でやろうという兆しがでているが、サラリーマンなど仕事に出てしまう方もいて、見通しは難しい。地道にやるしかない」
⑤翌日の活動　中央体育館、会下山小の支援

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人員　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容
り災証明を取りに来た方の整理（入場制限係）
④意見・感想
「り災証明について聞かれても受け答えができなかった。受付が一度に20人しかできないし、長時間待たされて証明がダメといわれたりして、被災者はかなりイライラしていた。書類の記載の仕方をみんなで勉強したので、明日からはスムースにいけると思う。区の方は連合が入ってるので助かっていると言ってた」
⑤翌日の活動
兵庫区役所での支援活動

金属機械（報告者：小林秀行）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
水の運搬・配分作業、パンの積み下ろし、配給
④意見・感想
「仕事は朝６時から夜７時まで。宿泊所を５時すぎに出て、現地に着いたらすぐに作業にとりかかる。兵庫県教組とは朝の段階で打ち合わせしている。避難者は1,400人。校舎１階部分をすべて使っている。廊下で寝ている人達が寒いというので発泡スチロールを入れてあげた。水の確保作業が中心で自衛隊の２トン配水車２台が１日11回ピストン輸送している。高校生など民間ボランティアが入り、人手は15人くらい。その中で連合は安定して入っているので有り難がってくれている。避難者、教職員、ボランティアの方との人間関係はうまくいっている。毎日夜７時からリーダー会議が開かれている。ボランティアの部屋を確保してもらえたので助かっている。今までは教員室に泊まっていた」

連合徳島（報告者：前田佳孝）

①参加人数　５名（１泊２日のローテーション）
②活動場所　兵庫高校
③活動内容
避難所支援（電話の受付、医療補助、トイレそうじ、パン、牛乳、ジュースの配給、物資搬入作業）
④意見・感想
「体育館の避難者に自治組織がないので呼びかけているがやれるものならどうぞという感じだ。ただ教室には自治組織ができている。体育館対策として市の担当者を含め体育館で毎日ボランティア会議を午後７時から開いている。室内ではタバコを吸えないので外に出ると避難者の方も吸っていたりして、話を聞いてあげたりする。今日の夕食はカルビどんぶりだったが、30人分足りなかった。夕食時間が17時から18時半なので、少し早めることを検討している。外から来たり、１人が２コ３コと食べたようだ。支援は兵庫県教組、広島県教組と連合徳島の計15人。連合は一般のボランティアと違い組織的・継続的に活動でき、臨機応変に対応できるので市の期待は大きい。一般のボランティアはやりたい仕事を決めてくるので上から押しつけるかっこうになると具合が悪い。問題は高校が始まるので高校生のボランティアがいなくなり、連合の応援が一層必要になると思う」
⑤翌日の活動
兵庫高校での支援

●避難所レポート

水木小学校

◦対応　園山教頭

◦状況
　ボランティアによる炊き出し、自衛隊による風呂（待ち時間15分）
◦支援組織
　兵庫県教組（ローテーションは１泊２日　11：00から３：00までが引継ぎ時間。内容は水汲みと救援物資配付）
◦コメント
　自治組織はなく、給食をとりにくる代表者がいる程度。
　学校機能の回復は人数が減って、部屋が空かないと無理。
　ボランティア用の部屋が一つしかなく、男女の区別がないので、問題が起きないか心配。
　避難者の人数は1,700人から700人。外部は300人。
　生理用品をごっそり持っていってしまう人、入浴中の人の下着をもっていってしまう人がいて困る。

大黒小学校

◦対応　下田校長
◦状況
　学校再開。但し、千歳小にて
　２月８日から風呂
　校庭に犬の餌用のポリバケツ
　自衛隊による風呂
◦支援組織
　自治労が関わってきたが、自治組織ができたため、引き上げた。
◦コメント
　炊き出しのみボランティア。あとは自治組織。
　避難所の人数は2,200から1,000人。
　交通機関の普及により勤めに出る人が多くなり、民間人口が少ない。
　これからは働く人のローテーションを考えたやりかたで。
　下着が欲しい。（新しいもの。いろいろな種類の）
　炊き出しの設備がほしい（鍋、ガス）
　教材、教具が必要だが、それは学校再開に際してのこと。（３月下旬から４月）

太田中学校

◦対応　清水さん、校長、教頭
◦支援組織
　自治労（３泊４日のローテーション　本日引上げ）
◦状況
　自治組織が形成、自主管理、自主運営
◦コメント
　授業は３年生は２月１日から、１・２年生は７日から再開
　義援金を被災校に。
　人を派遣するだけではだめ、対策本部にも資金をわけてほしい。
　炊き出しでは自立しない。自立するための支援を。

鷹取中学校

◦対応　日教組　前溝
◦状況
　3,000人も抱えているため、また、きめ細かい支援を行っているため、ボランティアが大勢いるにもかかわらず、忙しそう。
◦支援組織　兵庫県教組　27時間交代
◦コメント
　3,000人全部同じものがほしい。違うと不平が。
　連合として何かをやってほしい。

長楽小学校

◦対応　自治労　東京　溝呂木
◦状況
　プールに洗濯機の列、自衛隊の風呂
◦支援組織　自治労、兵庫県教組
◦コメント
　老人が多い。自治会で対応。
　公園などで暮らす人には暮らしの情報のほか、飲料水、食料もない。その人たちの対策も必要。
　問題は今後。仮設住宅があたった人は10％程度。失業問題。

駒ガ林中学校

◦対応　神戸市市職
◦支援組織　兵庫県教組
◦コメント
　自治組織はない。
　ボランティアは日赤のような組織的なものがいい。
　部屋のメンテナンスをするボランティアがほしい。
　衣類、風呂がほしい。
　神戸市主催のゴルフ場における入浴は人気がなかった。

1995年２月９日（木曜日）No.７

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

連合兵庫対策本部ではボランティア参加者全てに名前を書いたプレート（下参考）をつけて活動してもらっています。

連合ボランティア
わたしは
兵　庫　太　郎
です

「自分はボランティアであることの名札を付ける。名札は自分の責任と信頼を得る証。いつも大勢の目で見られていることを忘れないこと」

（ボランティア心得から）

●現地取り組み報告

（本日分）事務局会議報告より

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明を取りに来た方の整理・誘導
④意見・感想
「被災者1,500人の整理。昨日り災証明の勉強をしたおかげで今日はスムーズにいった」

金属機械（報告者：小林秀行）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
水の運搬・配分作業、パンの積み下ろし、配給
③意見・感想
「お風呂が欲しい。教頭先生から直接いわれた。避難者の中には被災以来、一度もお風呂にはいったことのない方も多数いる。お年寄りに温かいものを提供してほしい。おかゆなど。ボランティアのチーフよりプロパンガスの供給は可能かといわれた。あるおばあちゃんからマッサージが来てくれるとうれしいといわれた。今日の作業はミネラルウォーター1,600箱の積み下ろしで、作業は大変だった。ボランティアが少なくなった」
④明日の作業　蓮池小での支援

自治労（報告者：竹内広人）

①参加人数　22名
②活動場所　避難所４カ所の支援

自動車総連（報告者：渡辺義文）

①参加人数　19名
②活動場所　中央体育館、会下山小
③活動内容　避難所の支援
④意見・感想
「明日10時より全校生徒を集めるため音楽室、家庭科室、近所の児童館など避難者が居住していない所へ机とイスを運びこんだ。昨夜自治会と先生が今後の活動について話し合い、その後、先生と我々の間でも懇談会をもった。おばあさんに「ありがとう」といわれ、その後「私ら貧しいやろ」との言葉に返す言葉がなかった。冷たい水で洗濯している姿は本当にかわいそう。県や市はどう対応するのか」

合化労連（報告者：六藤逸美）

①参加人数　５名
②活動場所　市水道局
③活動内容　給水作業支援
④意見・感想
「６カ所の給水作業をやった。私は御崎球場にいったが、救援物資の管理もやった。救援物資が盗難にあっているので、水道局を通じて警察に連絡してもらうことなった。給水車には１人づつ乗車したので帰りはバラバラになるので、午後６時までに局へ帰れば待つと打ち合わせた。作業には長靴が必要だ」
⑤明日の作業
給水の仕事。ただし六藤さんを残して４人は交代する。

全郵政（報告者：角田吉信）

①参加人数　５人（４名が交代）
②活動場所　神戸大
③活動内容　Ｕパックの搬出入作業
④意見・感想
「指示に従って動いている。今のところ問題はない」
⑤明日の作業　本日と同じ

パンクが増えた！

現地対策本部ではボランティアの機動力をあげるために約70台の自転車を確保しており、昼間は全車がフル稼働状態です。

ところが、ガレキの被災地を動き回るのでパンクが相次ぎ、すでに４台がパンク。わずかに開店している自転車屋さんに持ち込んでもパンク車であふれている有様。いつ修理してもらえるのかわからない状態だとのこと。

そこで現地対策本部では、修理道具を急きょ購入して自前で修理することにしました。

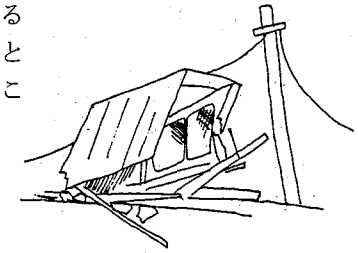
在日ベトナム人の支援へ

神戸市長田区内にはベトナム人協会のメンバー89人がおり、今回の大震災で被害にあわれました。政府はこうした外国人の方にも、り災証明を発行して救済に乗り出しています。

ところがＣＳＩＲＡ（インドシナ難民及びアジアの恵まれない人々と連帯する委員会）のフィさんによると言葉の問題でり災証明の手続きができないでいるベトナム人が、たくさんいることがわかりました。

フィさんは「実態を調べるのでぜひ協力して欲しい」とこのほど連合現地対策本部に依頼してきました。

連合現地対策本部では直ちに長田区役所に連絡をとったところ、区役所の３階で自治労ボランティアがり災証明の手続き業務などをやっていることがわかり、り災証明をとれるよう協力してもらえることになりました。



北野小学校（中央区）

◦対応　菅原教諭（ボランティアのリーダー）
◦状況　シャワーハウスあり。プロパン＋電気温水器
◦支援組織
　自治労が関わってきたが、自治組織ができたため、引き上げた。
◦コメント
　住民、企業等からなるボランティアによる運営。
　自活に入ってくるので、プロパン、コンロが必要。
　専門性のあるボランティアについては、医療については自衛隊、メンタルヘルスにおいては４つのグループのボランティアがいる。

小野柄小学校（中央区）

◦対応　校長
◦状況
　自衛隊による給水、お風呂、避難所新聞発行、求人の貼り紙数点

兵庫県南部地震　**小野柄小学校避難所新聞**

平成７年２月９日№20

医務室の方達が今日から24時間体制でしんさつをしてくれるそうです。みなさんご利用下さい。
※はり紙の一部をのせておきます。みて下さい。

低温（ていあん）ヤケドにご注意

使いすてカイロは、直接肌に貼らないで。

赤くなったり、水ぶくれができたときは、手当をしてください。

幼児や老人の方への使用には、家族や周囲の人が特に注意をしてあげてください。

その他、使用上の注意をよく読んで、使用後は「もえないゴミ」に捨ててください。

自衛隊の人達は３月いっぱいまでは、いてくれるそうです。

女性用のパンツがたくさん有ります。パンツがいる方は、家庭科室まで取りに来て下さい。

おといからお風呂に「くつ入れ用」の袋を置いています。くつ専用袋なので、くつを入れる時以外は袋を取らないで下さい。

※12時～２時ごろまでとてもお風呂がすいています。

◦支援組織
　茨城県高教組が関わってきたが、自治組織ができたため、引き上げた。
◦コメント
　地域毎のリーダーと連絡をとりあっており、今からボランティアが入っても遅い。ボランティアが来ても、何をしましょうかときいてくる。そんなボランティアはいらない。
　要望としては、義援金、住居をなんとかしてほしい。中途半端なものはほしくない。
　物資をあげるというだけでは自立できない。
　連合は新たな就職口の確保と弱者への対応の２つのことを分けて行うべき。
　発想の転換をしないとだめた。非常時に従来の考えかたであたってはだめ。連合は他とは別のやり方をとるべき。

福住小学校（灘区）

◦対応　教頭
◦状況
　民間ボランティア（ＡＤＲＡ、ＳＥＲＶ）。老人が多い。
　校舎が破壊されているが、仮設校舎を建て、授業再開。当初1,200人から600人へ。
◦コメント
　身障者の入浴を実施。
　要望は娯楽として何かがほしい。
　物資としては、カップラーメン、果物、ジャージ、ガスボンベ、洗濯用ロープ、洗濯ばさみ、電話を１回線引きたい。
　専門性のあボランティアとしては、カウンセラー、身障者の入浴を手伝ってくれる人。

摩耶小学校（灘区）

◦対応　大阪市教組　中西
◦状況　大阪市教組による炊き出し
◦支援組織　大阪市教組
◦コメント
　三者協議機関（校長、住民、行政）あり。そこでの協議の後、代表者会議（三者、部屋ごとの班長、ボランティア）１日１回開催。
　校長、保健の先生を除いてその他の先生は通常の授業を行っている。
　昼間は住民のボランティアがあるが、夜間はすべて寝てしまうため、夜警をおこなう。
　ボランティアが必要。警察もくるが30分に１回ぐらい。
　医者の数が足りない。

稗田小学校（灘区）

◦対応　志智大阪市教組城北支部長
◦状況　自衛隊によるお風呂、診療所
◦支援組織　大阪市教組
◦コメント
　先生たちが全員で対応しているので、住民の対応がとれている。
　メンタルな面でトラブルあり。夜、活動する人に対して。共同生活をしているという意識がうすらいでくる時

期。
長期の計画を立ててほしい。半年とか１年とか。
自立できるような政策、物的人的側面から安定した、継続した援助を。

原田中（灘区）

◦対応　岸野教諭
◦状況
400人と少ない。自治会２つ。リーダー会議あり。

1995年２月10日（金曜日）No.８

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

（本日分）事務局会報告より

（会議参加組織）
自動車総連、自治労、金属機械、交通労連、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合新潟、電機連合（連合徳島は泊まり込みのため不参加）

自動車総連（報告者：渡辺義文）

①参加人数　19名
②活動場所　中央体育館、会下山小
③活動内容　避難所の支援
④意見・感想
「Uパックの配給。箱を開けずに一人一人に持っていってもらう計画だったが、結局みんなが箱を開け、フリーマーケット状態に。今後は事前に仕分けして避難者に渡さないと欲しいものが欲しい人にいかないし、せっかくの救援物資が捨てられてしまう。衣類もクリーニングしてない失礼な古着が多い。少し足をのばせばデパートで普通の服が買えるので、送る人が自分でもらって着たいと思う衣類だけにして欲しい。」
（人気の物資）新品の下着、毛布、バスタオル、食料品、生活消耗品。
⑤明日の仕事　避難者の支援

全郵政（報告者：角田吉信）

①参加人数　５人
②活動場所　神戸大
③活動内容　Uパックの搬出入作業
④意見・感想
「物資はまだ多い。仕事は大丈夫だ」
⑤明日の作業　本日と同じ

合化労連（報告者：六藤逸美）

①参加人数　５名
②活動場所　市水道局
③活動内容　給水作業支援
④意見・感想
「御崎公園での作業。水は地域的には90％回復したので、水汲みに来る人はポツポツ。しかし、小さな通りはピストン給水が多い」
⑤明日の作業　給水支援

金属機械（報告者：小林秀行）

①参加人数　６名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
水の運搬・配分作業、お湯・お茶の配給、倉庫（運動器具置き場に物資が入っている）の整理・整頓
④意見・感想
「運動会などで使うテントが２張りほしい。現在グランド中央に古着の山があり、倉庫に救援物資を入れているため。このままだと授業に支障がでる。（感想）昨日より、蛇口から出る水が飲用可能になったため、給水作業はかなり減った。今後規模は徐々に縮小傾向になると思われる。現場の指示系統がはっきりしていないので誰に相談してよいか分からない（ボランティアチーフ・教職員の担当者か）」
⑤明日の作業　蓮池小での支援

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容
り災証明を取りに来た方の整理・誘導
④意見・感想
「変わりなし。郵送の宛名書きが溜まっているので、交代して引き継いだ」

情報労連（報告者：田辺安治）

①参加人数　25名
②活動場所　兵庫区役所、長田高校、太田中学校
③活動内容
兵庫区役所＝り災証明関係の整理・誘導
長田高校＝避難所支援
太田中学校＝避難所支援
④意見・感想　特になし
⑤明日の作業　本日と同じ

全逓（報告者：松島）

①参加人数　４人
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容

兵庫区役所＝り災証明関係の整理・誘導
④意見・感想　なし。
⑤明日の作業　お風呂屋の支援。給水作業等。

自治労（報告者：田中）

①参加人数　29人
②活動場所　摩耶小、若菜小、吾妻小、楠小、西郷小
③活動内容　避難所の支援
④意見・感想　なし
⑤明日の作業　本日に同じ。

●連合兵庫南部地震法律相談状況

（期間２月６～２月10日まで）

相　談　内　容	小　計
借地・借家関係	62
土地・家屋売買関係	15
雇用問題	8
雇用保険	7
税金・年金制度	6
り災証明	4
賃金遅配	4
株・証券の再発行	3
ローン返済	2
その他	13
合　計	126

●本日（２月10日）連絡の入った派遣
①連合新潟　８名　２／19～２／25
②国公総連（全農林）　８名　２／10～２／11
③合化労連　５名　２／24～２／27
　　20名　３／２～３／５
　　20名　３／５～３／８
④ゼンキン連合　13名　２／13～２／17
　　16名　２／18～２／22
　　11名　２／23～２／28
⑤連合奈良　５名　２／11～２／28
◦明日の出入り
〈来られる方〉　税関労連　10名
〈交　　代〉　連合徳島　６名
〈帰られる方〉　連合新潟　１名

1995年２月11日（土曜日）No.９

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

「白浜温泉」とジョイント
連合“弁天温泉”“あったか湯”をどうぞ

被災者の方に今一番喜ばれているのが「お風呂」。震災以来１カ月近くお風呂にはいっていない方も多い。特に深刻なのが独居老人や障害者の方。また避難所にいるお年寄りもなかなかお風呂に入れないでいる。理由を避難所のひとつ兵庫高校でおばあちゃんに直接聞いたところ「大勢はいってはるのでいやや。心臓も悪いし」とのことだった。

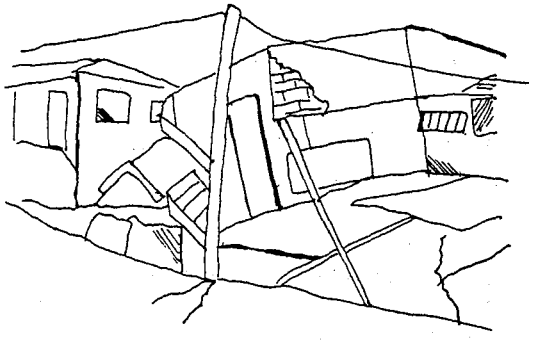
そこで登場したのが「連合弁天温泉」と「連合あったか湯」。

「連合弁天温泉」は大阪の金属機械港合同田中機械支部の提供で、同支部の敷地から出ている温泉を大型（９トン）タンクローリー車で避難所に運び、入浴してもらうというもの。温泉を運ぶのは運輸労連が協力。

もともと兵庫高校では６日前から白浜温泉がオープンしており、弁天風呂はこの温泉とジョイント。この白浜温泉はある女性の避難者が自分が風呂にはいりたいからと、郷里・和歌山の白浜からタンクローリーをつかって毎日（４トン）送らせているもの。１日200人が利用しているが、白浜温泉は湯量が少ないため浴槽の半分くらいしか湯をためられなかったのに比べ、弁天温泉はなみなみと浴槽を満たすことができ、避難者の方にたっぷりお湯をつかってもらえる。ちなみに白浜温泉の温度は78度。弁天温泉は47度。

一方「連合あったか湯」はタンカー式簡易風呂で対象はお年寄りと障害者。気がねなく一人で入浴でき、しかも介添えボランティアがつくから安心して入浴できるようになっている。お湯はガスで沸かし、お風呂までは車イスで男性ボランティアがつれてくる仕組みになっているから体が不自由でも問題なし。「あったか湯」は固定式（兵庫高校４台）と移動式（２台）があり、移動式は車４台を使って市内を巡回することにしている。兵庫高校の「あったか湯」の大型テント２張は造船重機労連石川島播磨重工労組が提供。

すでにこの話を聞きつけた個人ボランティア21人がケアーをしているお年寄りを入浴させたいと話にきている。連合弁天温泉は２月11日からスタート毎日入浴できる。連合あったか湯は15日からスタート予定。



1995年2月12日（日曜日）No.10

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（11日）報告より

（会議参加組織）

交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、情報労連、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合新潟、電機連合（連合徳島は泊まり込みのため不参加）

全化連合（報告者：鈴木博文）

①参加人数　6名
②活動場所　水道局中部水道センター
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「今日は給水車に乗った。全員がまだ帰ってきていない。給水を求める方は列がとぎれない程度に来ている。75%は復旧しており、20日くらいまで給水は終了の見通し。作業では長靴、ゴム手袋、カイロが必要だ」

全逓（報告者：西川）

①参加人数　5名
②活動場所　大内温泉（灘区）、たちばな湯、司湯
③活動内容　銭湯の風呂湯の確保、客の整理・誘導
④意見・感想
「（大内温泉）給水車の待ち時間は完全な手空き時間なので、もったいない気がする。（たちばな湯、司湯）その場所に必要な人数にむらがあり、効率よく仕事ができなかった。他のボランティアとの連絡がとれず、能率が悪かった」

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明関係作業
④意見・感想　「仕事ぶりが役所のようになってきた」

金属機械（報告者：早川）

①参加人数　6名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
水の運搬・配分作業、お湯・お茶の配給、倉庫（運動器具置き場に物資が入っている）の整理・整頓
④意見・感想
「給水・給湯準備。西側水道（飲用可）を使用できるようになり、自衛隊の給水は減少した。湯沸かし用マキの搬入。児童教材、エンピツ、筆箱の整理。昨日に引き続き倉庫整理。学校はグランドを早く授業に使えるようにしたいようだ」

情報労連（報告者：田辺安治）

①参加人数　25名
②活動場所　兵庫区役所、長田高校、太田中学校
③活動内容
兵庫区役所＝り災証明関係の整理・誘導
長田高校＝避難所支援
太田中学校＝避難所支援
④意見・感想
「長田高校は水配給で同じ仕事。特に問題なし。太田中：資材の搬入、清掃。お湯を1日沸かし続けるめのマキ割りの仕事をやっている。マキは廃材を利用、電動ノコで切る。男が継続して5人来てくれるので喜んでいる。管理側が物資を隠しているとボランティアは言っているが、全員にいきわたらない物は避難者に渡せないといっていた」

合化労連（報告者：広田）

①参加人数　5名
②活動場所　水道局中部水道センター
③活動内容　給水作業支援
④意見・感想　特になし。

全郵政（報告者：田中）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸商科大学
③活動内容
救援物資センターでの古着関係の搬出作業。
④意見・感想
「作業がきつく、筋肉痛になった。ぬり薬が必要と思う」

国公総連（全農林Aチーム）（報告者：大字）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸商科大学
③活動内容
救援物資センターとなっている商大の体育館での古着の積み込み作業。
④意見・感想
「箱数が多く、少人数では大変つらい。本日は多数で対応したため、比較的休憩する時間があった。（トラックの台数が少ないため、積み込みに追われることがなかった）。トラックの台数がもっとあれば効率良く仕事ができる」

国公総連（全農林Bチーム）（報告者：粂山）

①参加人数　2名

②活動場所　長田区ゆうゆうランド、紀の国
③活動内容
　風呂屋の給水作業。鳥取県のタンクローリー２台が５回。アサヒビール車１台が３回。往復。
④意見・感想
「水を使う仕事なので、ゴム手袋が必要。ほこりがすごいのでマスクは必需品」

自動車総連（報告者：玉手）

①参加人数　９名
②活動場所　中央体育館
③活動内容　教材の救援物資の搬入・搬出
④意見・感想
「トラックの到着時刻が流動的なため、作業計画が組めない。県教職員・ジュニアリーダー・自動車総連３者の動きがバラバラで、指示命令系統がまったくできていないため、非効率な仕事が多い。課題解決に向けては、トラック到着について精度の高い情報をキャッチするコントロールを考えるべき。また、県教職員、ジュニアリーダー、自動車も総連３者でミーティングを行い、互いの役割分担を明確にする。自動車総連が現在、県教職員に働きかけている」

自治労（報告者：田中）

①参加人数　21名
②活動場所
　摩耶小、若菜小、吾妻小、楠小、西郷小
③活動内容　避難所の支援
④意見・感想　特になし。

電機連合（報告者：江原）

①参加人数　１名
②活動場所　特別任務
③活動内容　連合「あったか風呂」器材運搬。
④意見・感想　特になし。

1995年２月13日（月曜日）No.11

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

● 現地取り組み報告

事務局会議（12日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合新潟、電機連合、鉄鋼労連（連合徳島は泊まり込みのため不参加）

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所地下１階
③活動内容　り災証明の宛名書き作業
④意見・感想
「かなり郵送分が溜っているので、作業が大変だ」

自動車総連（報告者：中村）

①参加人数　９名
②活動場所　会下山小、中央体育館
③活動内容
　会下山小＝避難所支援
　中央体育館＝物資の搬出入作業
④意見・感想
「会下山小では自動車、自治体、先生との関係はスムースにいっている。作業は給水、トイレ清掃。お風呂の打ち合わせをした。「連合あったか湯」にはぜひ来てほしいと先生が期待している」

自治労（報告者：田中）

①参加人数　小学校20名、お風呂関係10人
②活動場所　摩耶小、若菜小、吾妻小、楠小、西郷小
③活動内容
　小学校＝避難所の支援
　お風呂＝連合あったか湯
④意見・感想　なし

金属機械（報告者：早川）

①参加人数　６名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
　水の運搬・配分作業、自転車置き場の整地
④意見・感想
「仮設水道ができたため自衛隊の給水は１日８トンから４トンになる。降雨により、炊き出し時間を16：00に繰り上げた。高齢者を中心に健康を害している人も出ている。一応常設の診療所がある。（要望）炊き出し用大鍋の要望があったが、金属機械京都地本で対応する」

全化連合（報告者：文田）

①参加人数　６名
②活動場所　水道局中部水道センター
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「３回目の給水作業。白羽病院前で給水したが、お年寄りなどは半分焼けたペットボトルとか欠けた茶碗などで水を飲んでいる。どうにかできないか。給水にくる方の

7割はペットボトルだ」

化学総連（報告者：北村）

①参加人数　2名
②活動場所　神戸商科短大
③活動内容　救援物資センターでの作業
④意見・感想
「古書の運搬作業。日曜日のため人数が半減して物資をはけきれなかった。トラックが多かったら作業はパンクする」

全逓（報告者：松島、西川）

①参加人数　5名
②活動場所　大内温泉（灘区）、幸せ湯
③活動内容
銭湯の風呂場の確保、客の受付、整理・誘導
④意見・感想
「（大内温泉）近所の風呂屋再開のため利用者数が少しずつ減っている。（幸せ湯）派遣先への連絡がなく、相手の方が戸惑っていた」

国公総連（全農林Aチーム）（報告者：粂山）

①参加人数　4名
②活動場所　神戸商科大学
③活動内容
救援物資センターとなっている商大の体育館での古着の積み込み作業
④意見・感想
「トラックの便数を増やしてほしい」

国公総連(全農林Bチーム)(報告者：足立陽一郎)

①参加人数　2名
②活動場所　ゆうゆうランド紀の国
③活動内容　給水、タンクの水量調整
⑤意見・感想
「2日目の作業なので手順がスムースにいった。現地には市のボランティア1名が常駐している」

合化労連（報告者：広田）

①参加人数　5名
②活動場所　水道局中部水道センター
③活動内容　給水作業支援
④意見・感想　特になし

全郵政（報告者：田中）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸商科大学
③活動内容
救援物資センターでの古着関係の搬出作業。
④意見・感想
「作業がきつく、筋肉痛になった。ぬり薬が必要と思う」

電機連合（報告者：浦久保）

①参加人数　2名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　菊水公園での物資配給
④意見・感想
「2回往復した。配給中ヨッパライにからまれた。警察に立っててほしい。配給には区役所の人が4人、ボーイスカウトが10人、一般のボランティアが3～4人が参加していた」

連合徳島（報告者：狭子照行）

①参加人数　7名
②活動場所　兵庫高校
③活動内容
避難所支援（受け持ちの電話対応、医療対応を継続。物資搬入、食事配給、トイレ清掃）
④意見・感想
「初めて体育館避難者の代表者会議が開かれた。食堂に本日畳が搬入された。近日中に校舎内の方が移動する模様。学校は早期に授業を再開したい様子だ。この高校は進学校という。今後心配されるのは学校側と避難者の意識のズレ。市側も心配している。一般ボランティアのワンマン行動が気にかかる」

1995年2月14日（火曜日）No.12

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（13日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国交総連、全逓、商業労連、連合神奈川、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、ゼンキン連合

石井連合兵庫会長（リーダー会議で感謝の言葉）

自動車総連（報告者：小町、井上）

①参加人数　8名
②活動場所　会下山小学校
③活動内容　給水、物資搬出入作業
④意見・感想
「第1・2体育館の物資ジョイントの手動ローラー3～

4本必要」「ポンプ1ケ、ホース1･5m2ケ大至急」

合化労連（報告者：八重島）

①参加人数　9名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　物資搬出入作業
④意見・感想
「指示系統がうまくいっていない。指示者が普段着で目立たない。片道1･5時間は遠い」

全郵政（報告者：守屋）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　Uパック搬出入作業
⑤意見・感想　なし。

情報労連（報告者：一次）

①参加人数　26名
②活動場所
区役所14名、太田中学6名、長田高校6名
③活動内容
区役所＝り災証明書の受付処理、整理券確認作業
太田中＝簡易トイレ組立他
長田高＝給水、物資搬出入
④意見・感想　なし。

交通労連（報告者：真壁）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明書の受付作業
④意見・感想
「受付作業はなれてきたが、り災証明の緩和措置もあり、手続きに2,500名の人がならび、夕方でもまだ500名が受付待ちしている」

全化連合（報告者：鈴木）

①参加人数　引継中
②活動場所
③活動内容
④意見・感想

連合徳島（報告者：上田）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動内容　食事搬入、配給、トイレ清掃他
④意見・感想
「夕食と朝食が同時に配給され、多人数分を持ち帰っているが持ちきれない年寄りの方など、ボランティアで持って行くような工夫を」
「お年寄りにお粥の炊き出しを」

ゼンキン連合（報告者：小林・高木）

①参加人数　12名
②活動場所
③活動内容
④意見・感想
※本日より合流、決意表明あり

化学総連（報告者：北村）

①参加人数　2名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　古着運搬
④意見・感想
「人員、トラックの台数共問題なくスムースに作業が行われた。全身筋肉痛だが頑張る」

国公総連（全農林チーム）（報告者：北岸大二）

①参加人数　6名
②活動場所　神戸商科大学
③活動内容
救援物資センターとなっている商大の体育館での古着の積み込み作業
④意見・感想　特になし

全逓（報告者：松島　正）

①参加人数　2名
②活動場所　灘区大内温泉
③活動内容　給水車より給水作業
④意見・感想
「仕事の段取りはなれてきてスムース。最悪の場合16日の引継が必要」

自治労（報告者：田中）

①参加人数　37名
②活動場所
若菜小学校、吾妻小学校、楠中学校、西郷小学校、摩耶高校
③活動内容
若菜小＝夜警、用務員の相談・支援。
吾妻小＝物資・食事の配給、物資管理、名簿作成の手伝い。
楠中＝夜警、食事・物資の配給、炊き出しの手伝い。
西郷小＝給水作業。

摩耶高＝夜警、食事・物資の配給、清掃。

鉄鋼労連（報告者：渡　賢一）

①参加人数　10名
②活動場所　市内各所
③活動内容　給水作業
④意見・感想　特になし

金属機械（報告者：早川行雄）

①参加人数　5名
②活動場所　長田区大谷町、蓮池小
③活動内容
　給水作業、校庭土入れ、薪搬入
④意見・感想
「飲料水貯蔵用ポリタンク（20ℓ）が余っている。活用できれば提供できる（30個程度）」

日教組（報告者：戸田）

※13日より対策本部に合流
①参加人数　24チーム（1チーム3名）
②活動場所
　西郷小学校、用海小学校、平木中学校他
③活動内容
　現地学校長、教頭、分会長の指揮下に入りボランティア活動
④意見・感想
「47都道府県に24,000名の生徒が編入している。高校生には無償で教科書が配布されない。また、中学3年生は高校入試のための変更転入手続きが課題」

〈鳥取から1万本のカレンダー〉
3月1、2日に仮設住宅に配布

〈連合あったか湯〉
15日から老人や体の不自由な方に車で巡回

1995年2月15日（水曜日）No.13

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

● 現地取り組み報告

事務局会議（14日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合神奈川、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、ゼンキン連合、化学総連、造船重機労連

自動車総連（報告者：井上）

①参加人数　21名
②活動場所　中央体育館、会下山小学校
③活動内容
　仕分作業：2トン車5台分
　給水作業：トイレ清掃
④意見・感想
「ポンプとホース1･5m2本大至急用意を」

合化労連（報告者：八重島）

①参加人数　5名
②活動場所　吾妻小学校・授業再開
③活動内容　物資搬出入作業
④意見・感想
「洗濯機の型式が古く何とか使用している状態」

全郵政（報告者：守屋）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容
　Uパック搬出入作業、神戸商大物資搬出入応援
④意見・感想
「仕分けにロスがあり臨機応変な対応を」

情報労連（報告者：一次）

①参加人数　26名
②活動場所　区役所、太田中学校、長田高校
③活動内容
　り災証明書の受付整理、給水作業、物資搬出入
④意見・感想
「生活雑排水に学校の排水溝を利用、詰まらないよう整理」（太田中）
「水道の復旧は今月末の予定」（長田高）

商業労連（報告者：森林幸治）

①参加人数　2名
②活動場所　対策本部事務局
③活動内容
④意見・感想　「連合はいつまで対応するのか」

交通労連（報告者：真壁）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り採証明書の受付整理作業
④意見・感想
「受付作業はなれてきた。整理券無しで入ってきた人が

いたので帰ってもらった」

全化連合（報告者：山田）

①参加人数　7名
②活動場所　区役所
③活動内容　リ災証明受付整理作業
④意見・感想　特になし

連合神奈川（報告者：若林幸一郎）

①参加人数　25名
②活動場所　兵庫高校、都賀川公園
③活動内容
　あったか湯、Uパック仕分け配付
④意見・感想
「あったか湯横断幕が出しずらい所がある工夫が必要。介護者専用のミニ看板を作って被介護者優先にしその後一般の人に開放した方がいい」
「都賀川は道路渋滞で徒歩で帰った。自転車の手配を」

ゼンキン連合（報告者：小林・高木）

①参加人数　12名
②活動場所　都賀川公園
③活動内容　Uパック配付
④意見・感想
「60トンの荷おろし、狭い場所なのであらかじめ仕訳位置を決めていればロスがない」

電機連合（報告者：　）

①参加人数　18名
②活動場所　都賀川公園
③活動内容　Uパック仕訳、配付
④意見・感想
「プラカードでり災証明受付者の整理を」

化学総連（報告者：北村）

①参加人数　2名
②活動場所　神戸市立外語大学
③活動内容　古着運搬
④意見・感想
「交通渋滞でトラックが来ず、作業が思うように進まなかった。情報連絡があれば待ち時間をロスしないで他への応援に行けるのだが」

連合徳島（報告者：十川一弘）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動内容
　医療受付、電話受付、食事配付、毛布枚数確認整理
④意見・感想
「各分担（医療・食料・日用品・トイレ）の責任者が不在、指揮命令がわかりにくい」

全逓（報告者：松島　正）

①参加人数　2名
②活動場所　大内温泉（灘区）
③活動内容
　給水車より2階タンクへの給水作業
④意見・感想
「16日以降、水道の復旧見込み薄い、引継の必要あり」

自治労（報告者：田中）

①参加人数　31名
②活動場所
　若菜小学校、吾妻小学校、楠中学校、西郷小学校、摩耶兵庫高校、兵庫高校
③活動内容
　若菜小＝夜警、用務員の相談・支援。
　吾妻小＝物資・食事の配給、物資管理、名簿作成の手伝い。
　楠中＝夜警、食事・物資の配給・炊き出しの手伝い。
　西郷小＝給水作業。
　摩耶兵庫高＝夜警、食事・物資の配給、清掃。
　兵庫高＝あったか湯
④意見・感想　特になし。

鉄鋼労連（報告者：渡　賢一）

①参加人数　10名
②活動場所　市内各所
③活動内容　今月中給水作業
④意見・感想　特になし。

金属機械（報告者：早川行雄）

①参加人数　6名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容　給水作業、物資配付、住所録づくり
④意見・感想
「生活用水に6トンタンク利用、給水活動は2名程度で大丈夫。着の身着のままで避難した人が多く古着でも必要」

日教組（報告者：青柳新二）

①参加人数　72名
②活動場所　平木小学校他23避難所

③活動内容
　物資運搬、掃除、夜警、電話応対
④意見・感想
「避難所生活のストレスにより被災者間でトラブルが多くなっている。教職員が仲裁や相談室を設け対応」大開小
「土日は炊き出しをしているが、平日はなく平日の炊き出し準備」菊水小
「ストーブが届いたが灯油が不足」高取台中
「弁当の数が足りなくなる」長田校

造船重機労連（報告者：高石哲夫）

①参加人数　10名
②活動場所　兵庫高校、蓮池小学校
③活動内容
　２月15日からの「あったか湯」活動のため器材、使用方法の練習。活動場所（蓮池小）の確認。
④意見・感想
「蓮池小での活動のため行政責任者（磯上氏ボランティア代表（池島氏）と面談、温かい応対と期待の大きさに、全員頑張る決意を固める」
「テント部品でインナー用が風呂の大きさの関係で使えない」

1995年２月16日（木曜日）No.14

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（15日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全化連合、合化労連、国交総連、全逓、商業労連、連合神奈川、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、ゼンキン連合、化学総連、造船重機労連、農団連、政労連、連合徳島

自動車総連（報告者：井上）

①参加人数　22名
②活動場所　中央体育館、会下山小学校
③活動内容
　仕分け作業・２トン車３・４台分、給水作業、トイレ掃除、あったか湯
④意見・感想
「ポンプとホース1･5m２本設置された」

合化労連（報告者：八重島）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校・授業再開
③活動内容　物資搬出入作業
「新しい洗濯機が入った。食事の準備の時に子供がまつわりつきケガが心配。深夜、中高生が遊んでいる。短期ローテーションの夜警ボランティアの配置を」

全郵政（報告者：守屋）

①参加人数　５名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　Ｕパック搬出入作業
④意見・感想
「Ｕパック搬出入の手空き時、女手しかない民間の物資の仕訳応援をした」

情報労連（報告者：一次）

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所、太田中学校、長田高校
③活動内容
　り災証明書の受付整理、給水作業、物資搬出入
④意見・要望　特になし

商業労連（報告者：森林幸治）

①参加人数　１名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付整理
④意見・感想
「親切丁寧なことばで案内を」

交通労連（報告者：荒谷達彦）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明書の受付・人員整理
④意見・感想
「２組整理券無しの割り込みがあり職員の人に対応を頼んだ。トラブルの元なのでチェックを厳しくしたい」

全化連合（報告者：山田）

①参加人数　８名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付整理
④意見・感想　「手際よくなった」

連合神奈川（報告者：若林幸一郎）

①参加人数　23名
②活動場所
　兵庫高校、会下山小学校、神戸外語大学
③活動内容　あったか湯現調、物資仕分け
④意見・感想
「湯沸かしに時間かかる、２人同時は湯量が足りない。

風呂設置場所が午前中は生徒の集合場所、風呂開設は13時から。女性用ももひきを要望」

ゼンキン連合（報告者：高木・黒田）

①参加人数　12名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容
　り災証明受付整理・義援金交付申請書記入指導
④意見・感想
「参加チームの連絡を責任者に知らせて欲しい。中腰作業のため回転椅子を要望」

農団労（報告者：浪越久司）

①参加人数　２人
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　物資搬出入作業
④意見・感想「特になし」

化学総連（報告者：白石正行）

①参加人数　２人
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　物資搬出入と仕分け作業
④意見・感想　「作業がスムースに行われた」

連合徳島（報告者：南原）

①参加人数　６名
②活動場所　兵庫高校
③活動内容
　医療受付、電話受付、食事配給、毛布枚数確認整理
④意見・感想

全逓（報告者：南原）

①参加人数　２名
②活動場所　神戸外大
③活動内容　物資搬出入整理
④意見・感想
「学生の指示系統がしっかりしている。連合のボランティアも単組行動と統一的リーダーの配置を」

自治労（報告者：田中）

①参加人数　36名
②活動場所
　若菜小学校、吾妻小学校、楠中学校、西郷小学校、摩耶兵庫高校、兵庫高校
③活動内容
　若菜小＝夜警、用務員の相談・支援。
　吾妻小＝物資・食事の配給、物資管理、名簿作成の手伝い。
　楠中＝夜警、食事・物資の配給・炊き出しの手伝い。
　西郷小＝給水作業。
　摩耶兵庫高＝夜警、食事・物資の配給、清掃。
　兵庫高＝あったか湯
④意見・感想
「６ケ所避難所の夜警が中心の業務、日報は２日後報告したい」
「摩耶小は住民の中に暴力団が数名おり、避難所の近くに山口組の本部がある。飲酒した外部の人が知人に会いに来て大声を出し素手でガラスを割り血だらけになり警察に取り押えられた。２人で３交代夜警をしているが４人態勢を要望、行動は代表者と相談すべし」

国公総連（報告者：北岸大二）

①参加人数　６名
②活動場所　神戸商大
③活動場所　蓮池小学校
④意見感想　特になし

金属機械（報告者：早川行雄）

①参加人数　６名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容　給水作業、正門警備、案内
④意見・感想
「やや人員にゆとりあり新長田図書館の一般ボランティア配置状況をみて応援も検討したい」

日教組（報告者：青柳新二）

①参加人数　72名
②活動場所　平木小学校他23避難所
③活動内容
　物資運搬、掃除、夜警、電話応対、炊き出し準備
④意見・感想
「３年生（特別教室）、１・２年生（企業会議室）で授業が再開されたが教室の確保が難かしい。メンタルヘルス・メンタルケアーの要望が強い」
「校区周辺の状況把握が必要」

造船重機労連（報告者：高石哲夫）

①参加人数　12名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容　あったか湯
④意見・感想
「涙を流して喜ばれた。１台のガスこんろの湯沸かしでは全然対応ができない。ガス充てんに予備ボンベと雨対策として大きなテント必要」

電機連合（報告者：池田　誠）

①参加人数　21名
②活動場所　神戸外大・神戸商大
③活動内容　搬出作業
④意見・感想
「傷んだ箱を詰め替える新しい大きな段ボール箱必要」

政労連（報告者：鈴木敏浩）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付整理
④意見・感想
「交代のローテーションは少し短めが」

国公総連（報告者：北岸大二）

①参加人数　６名
②活動場所　神戸大
③活動内容　古着搬出
④意見・感想　特になし

1995年２月17日（金曜日）No.15

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（16日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合神奈川、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、ゼンキン連合、化学総連、造船重機労連、農団連、政労連、連合徳島、航空同盟

自動車総連（報告者：井上）

①参加人数　22名
②活動場所　中央体育館、会下山小学校、御崎公園
③活動内容
搬入・スペースづくり、物資配付、給水作業、トイレ掃除
④意見・感想
「水が来てトイレに流れた（会下山小）。物資搬出入作業でローラーか人員増の検討が必要」

合化労連（報告者：上田昌宏）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付案内
④意見・感想
「落とし物、忘れ物の対応策を」

全郵政（報告者：守屋忠夫）

①参加人数　５名
②活動場所　神戸外大、神戸商大
③活動内容　Uパック搬出入・仕訳作業
⑤意見・要望
「救援物資を送る場合は使う人の気持ちを考えて送って欲しい」

情報労連（報告者：一次）

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所、太田中学校、長田高校
③活動内容
り災証明書の受付整理、給水作業、物資搬出入
④意見・感想　特になし

商業労連（報告者：森林幸治）

①参加人数　１名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付整理
④意見・感想
「トラブル１件発生、話の内容を良く聞いた上で解決」

交通労連（報告者：　）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所（午前中）
③活動内容　り災証明書の受付・人員整理
④意見・感想　特になし

全化連合（報告者：山田）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明受付整理
④意見・感想
「義援金申請者が増えてきている。老人の為に老眼鏡をなんとか都合できないか」

連合神奈川（報告者：若林幸一郎）

①参加人数　25名
②活動場所　摩耶兵庫高校、御崎公園
③活動内容　あったか湯、物資仕訳・配付
④意見・感想
「ドライヤーの利用ができれば幸い。単独使用の水道と給水用ホースがあれば便利。摩耶盲学校に利用を聞いたらどうか」

ゼンキン連合（報告者：高木、黒田）

①参加人数　12名
②活動場所　御崎公園
③活動内容　救援物資搬入・仕訳・配付
④意見・感想　「毛布、衣類の雨対策が必要」

農団労（報告者：浪越久司）

①参加人数　２名
②活動場所　大内温泉
③活動内容　給水車から風呂タンクに給水
④意見・感想
「18日(土)給水車１台、19日(日)２台のため給水車を１台増やせないか」

化学総連（報告者：白石正行）

①参加人数　２名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　物資搬出入と仕分け作業
④意見・感想

連合徳島（報告者：南原）

①参加人数　６名
②活動場所　兵庫高校
③活動内容
医療受付、電話受付、食事配付、毛布枚数確認整理
④意見・感想

全逓（報告者：南原）

①参加人数　２名
②活動場所　神戸外大
③活動内容　物資搬出整理
④意見・感想

自治労（報告者：田中）

①参加人数　36名
②活動場所
若菜小学校、吾妻小学校、楠中学校、西郷小学校、摩耶兵庫高校、兵庫高校
③活動内容
若菜小＝夜警、用務員の相談・支援。
吾妻小＝物資・食事の配給、物資管理、名簿作成の手伝い。
楠中＝夜警、食事・物資の配給・炊き出しの手伝い。
西郷小＝給水作業。
摩耶兵庫高＝夜警、食事・物資の配給、清掃。
兵庫高＝あったか湯
④意見・感想
「救援物資は十分きているが炊き出し態勢が不充分、火力の強い業務用コンロ２～３台欲しい。民間ボランティアによる温水シャワーのサービスが今日で終わりになる。その後のメドがたっていない。入浴サービスを続けられないか」(摩耶小学校)
「自治会が十分昨日していない。アドラー（ボランティア）が３月４日撤収。新宗連（宗教団体）の７名の方が食事時手伝い。現在ボランティアが20名。住民の参加意識が薄い。住民自治をどうつくりあげるかケアーが必要」(若菜小)

国公総連（報告者：西川保司）

①参加人数　６名（他１名）
②活動場所　神戸商大
③活動内容　救援物資の整理
④意見・感想　特になし

金属機械（報告者：早川行雄）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
雨よけテント張り、給水作業、正門警備・案内
④意見・感想
「やや人員にゆとりあり通常業務は連合ボランティア以外の方でもこなせそう」

日教組（報告者：三代孝博）

①参加人数　76名（24チーム）
②活動場所　平木小学校他25避難所
③活動内容
物資運搬、掃除、夜警、電話応対、炊き出し準備。
④意見・感想
「段上小は救援物資55人分しか届かない。地域の人の分がない。ストックがなくなる」
「湊川多聞小は夕食時間が変わり地域から人への配付不足が生じた。情報伝達方法の工夫が必要」

造船重機労連（報告者：高石哲夫）

①参加人数　11名
②活動場所　板宿小学校
③活動内容　あったか湯
④意見・感想
「入浴者10名（女性９名、男性１名）介護ボランティアでの援助ありスムースにいった。ガス器具で二股ジョイントが欲しい。」

電機連合（報告者：池田　誠）

①参加人数　32名
②活動場所　御先公園
③活動内容　救援物資の配付仕分け作業
④意見・感想
「作業はスムース、終了後の後かたづけも良い。救援物資のニーズが変化、水は水道の復旧の遅れた地域へ、おむつは病院や老人ホームに送れないか。広い作業場では台車が必要。雨用帽子を」

政労連（報告者：鈴木敏浩）

①参加人数　２名
②活動場所　ゆうゆうらんど紀の国
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「上水道が復旧しつつあり、給水作業について調整を。駐輪禁止のコーンが不足。タンク水位確認合図の笛を」

航空同盟（報告者：伊澤　功）

①参加人数　１名
②活動場所　神戸外大
③活動内容　救援物資の仕分け
④意見・感想
「連帯感を持ってボランティアにあたりたい」

自治労（報告者：古川晋一）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫市内
③活動内容　雇用保険チラシ配布
④意見・感想
「職安チラシは、紙の大きさ（Ａ４）色（黄色、水色、薄緑）とも同形の掲示物がたくさん貼られており目だたない。工夫が必要」

国公総連（報告者：北岸大二）

①参加人数　６名
②活動場所　神戸商大
③活動内容　古着搬出
④意見・感想　特になし

食品連合（報告者：中野正二）

①参加人数　２名
②活動場所　鷹取・幸せ湯
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「営業時間が13時より20時の為、出来れば夜７時まで手伝って欲しいという要請がある」

1995年２月18日（土曜日）No.16

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

● 現地取り組み報告

事務局会議（17日）報告より

（会議参加組織）
交通労連、自動車総連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、商業労連、連合神奈川、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、ゼンキン連合、化学総連、造船重機労連、農団連、政労連、連合徳島、航空同盟

◦ リーダー会議冒頭、町田現地対策本部長は、連合中央執行委員会、３拠点（現地対策本部・阪神・加古川）合同会議報告を行い、長期支援体制を踏まえ、①３月から組織再編（阪神・加古川拠点は２月28日撤収）を行う②復旧が進むと同時に支援箇所の活動の正確な情報がより一層求められていることを要請した。

自動車総連（報告者：井上）

①参加人数　22名
②活動場所　中央体育館、会下山小学校
③活動内容　救援物資搬出、給水・清掃
④意見・感想
「水が来てトイレに流れているが、いつ止まるかわからないので水回りのシステムを替えていない（会下山小）」
「Ｕパックは体育館から別の場所になる」

合化労連（報告者：近藤義広）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動内容
救援物資の搬入、食事の準備、部屋別名簿作成
④意見・感想
「１ケ月間の被災者生活に一定のリズムがみえる。今後、住民自治が課題。温かい汁物と洗濯機・熱調理器を」

全郵政（報告者：守屋忠夫）

①参加人数　５名
②活動場所　神戸外大、神戸商大
③活動内容　Ｕパック搬出入・仕分け作業
④意見・感想

情報労連（報告者：一次）

①参加人数　26名（16日分）

②活動場所　兵庫区役所、太田中学校、長田高校
③活動内容
　り災証明書の受付整理、給水作業、物資搬出入
④意見・感想
「長田高校での給水作業をしているが避難所が素通しのガラスでまる見え。カーテンがあると良い」

交通労連（報告者：　）

①参加人数　交替日
②活動場所
③活動内容
④意見・感想

全化連合（報告者：鈴木博文）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容
　り災証明、義援金申請、受付誘導・整理
④意見・感想
「り災証明書、義援金申請の説明、誘導がスムースで岡部部長から感謝されている。明日交替人員があるのでトータル40名程度の人員になるよう確保して欲しい」

連合神奈川（報告者：若林幸一郎）

①参加人数　25名
②活動場所　摩耶兵庫高校、御崎公園
③活動内容　あったか湯、物資仕分け・配付
④意見・感想
「明日、あったか湯の交替になるのでマニュアルを作成しスムースに引き継ぎたい」
「正午、黙禱。地下鉄が開通。御崎公園まで40分、半分の時間で行った。交通網の影響の大きさを肌で感じる」

ゼンキン連合（報告者：高木和昭）

①参加人数　12名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容
　り災証明、義援金申請、受付、説明・誘導
④意見・感想　特になし

化学総連（報告者：白石正行）

①参加人数　2名
②活動場所　神戸外語大学
③活動内容　物資搬出入と仕分け作業
④意見・感想

連合徳島（報告者：南原）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫高校（泊まり込み）
③活動内容
　医療受付、電話受付、食事配付、毛布枚数確認整理
④意見・感想

全逓（報告者：南原）

①参加人数　2名
②活動場所　神戸外大
③活動内容　物資搬出整理
④意見・感想

自治労（報告者：田中）

①参加人数　36名
②活動場所
　若菜小学校、吾妻小学校、楠中学校、西郷小学校、摩耶兵庫高校、兵庫高校
③活動内容
　若菜小＝夜警、用務員の相談・支援。
　吾妻小＝物資・食事の配給、物資管理、名簿作成の手伝い。
　楠中＝夜警、食事・物資の配給・炊き出しの手伝い。
　西郷小＝給水作業。
　摩耶兵庫高＝夜警、食事・物資の配給、清掃。
　兵庫高＝あったか湯
④意見・感想
「あったか湯に入ってもらうため、兵庫高校周辺の避難所にチラシ入れを行いたい。そのための自転車5～10台用意して欲しい。」

国公総連（報告者：西川保司）

①参加人数　6名（他1名）
②活動場所　神戸商大
③活動内容　救援物資の整理
④意見・感想　特になし

金属機械（報告者：横岡）

①参加人数　5名
②活動場所　蓮池小学校
③活動内容
　洗面所給水、正門警備、仮設トイレ移動、清掃
④意見・感想
特になし

日教組（報告者：仲林義浩）

①参加人数　73名
②活動場所　平木小学校他23避難所
③活動内容
　物資搬入、給水、掃除、電話応対、食事準備、宿直。
④意見・感想
「23ケ所の避難所の共通した報告は、食事内容に変化をもたせて欲しい。自治組織ができた所の活動の見直しと、お年寄りが多い避難所での自治組織の援助方法を。西宮西校にウェットティッシュ要望あり」

造船重機労連（報告者：高石哲夫）

①参加人数　11名
②活動場所　御蔵小学校
③活動内容　あったか湯
④意見・感想
「自衛隊の風呂が校庭に設置されているが入れない方がまだまだいる。地道に学校関係者、ボランティアの方と交流を図り身も心も温めてもらう活動をしたい。現在の設備では１日10名がやっと、一考を要する。介護ができる女性２名と、時間も10時から４時まで活動できる態勢に」
「横断幕、ビニールエプロン５枚以上を」

政労連（報告者：鈴木敏浩）

①参加人数　２名
②活動場所　ゆうゆうらんど紀の国
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「上水道が復旧しつつあり、給水作業について調整を。駐輪禁止のコーンが不足。タンク水位確認合図の笛を」

航空同盟（報告者：伊澤　功）

①参加人数　１名
②活動場所　神戸外大
③活動内容　救援物資の仕訳
④意見・感想
「連帯感を持ってボランティアあたりたい」

自治労（報告者：古川晋一）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区内
③活動内容　雇用保険チラシ配布
④意見・感想

商業労連（報告者：森林幸治）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明申請、受付整理
④意見・感想
「申請者1,500名。会場混雑緩和のため待ち時間を利用し、申請手続きを詳細に説明し、長時間待ちの方や家族全員の証明取得ができることをＰＲ」

国公総連（報告者：北岸大二）

①参加人数　６名
②活動場所　神戸商大
③活動内容　古着搬出
④意見・感想　特になし

食品連合（報告者：中野正二）

①参加人数　２名
②活動場所　鷹取・幸せ湯
③活動内容　給水作業
④意見・感想
「営業時間が13時より20時の為、要請があった夜７時まで手伝いをやった」

農団労（報告者：浪越久司）

①参加人数　３名
②活動場所　大内温泉
③活動内容　給水車から風呂タンクに給水
④意見・感想
「入浴者は900人。19日は１名になるので人員配置をお願いしたい」

電機連合（報告者：塚原　仁）

①参加人数　28名
②活動場所　神戸市立外語大学
③活動内容　Ｕパック仕分け・移動・運送補助作業
④意見・感想
「受け入れ外大ボランティアの対応、指導が素晴らしい、作業はスムース。外大の施設を作業で傷めている所がある充分な配慮を」

1995年２月19日（日曜日）No.17

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（18日)報告より

（会議参加組織）

連合神奈川、商業労連、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、国公総連、全逓、交通労連、自動車総連、電機連合、鉄鋼労連、日教組、情報労連、化学総連、私鉄総連、ゼンキン連合、造船重機労連、農団労、航空同盟、政労連、食品連合、全電線

連合神奈川（報告者：若林幸一郎）

①参加人数

連合神奈川10名、ゼンキン連合２名、自治労２名

②活動場所　連合「あったか湯」Ｂチーム担当

③活動時間　８：30～17：20

④活動内容

若菜小学校での連合あったか湯活動。お年寄りなど利用者10名。

⑤意見・感想

「次回以降も希望あり。ただし、利用者については予め名簿を作り、健康診断して部屋の名前がわかるようにしてもらい、こちらから迎えにいくことにした。バスタオルがもっと必要」

商業労連（報告者：森林幸治）

①参加人数　２名

②活動場所　兵庫区役所

③活動時間　９：00～16：00

④活動内容　り災証明関係の作業

⑤意見・感想

「郵送り災証明開封作業と義援金保留分の電話連絡を62件。り災証明受付リスト電話順整理。活動中に有り難うの言葉を聞いた時、来て良かったというのが実感」

自治労（報告者：北岡良夫）

①参加人数　２名

②活動場所　避難所７カ所

③活動時間　９：00～14：30

④活動内容　連合洗濯機の搬入作業

⑤意見・感想

「水道が回復していない避難所では持っていっても喜ばれなかった。倉庫にしまってしまうところもあった」

自治労（報告者：倉田昌宣）

①参加人数　３名

②活動場所　避難所８カ所

③活動時間　９：00～15：00

④活動内容　連合洗濯機の搬入作業

⑤意見・感想

「喜んで受け取ったくれたところもあったが、水道が復旧していないところでは別の必要なところへ回してほしいといわれ、洗剤だけを置いてきた。水道が復旧していないところでは、女性の洗濯物を外へ干せないため、乾燥機が必要とのこと」

自治労（報告者：坂田康裕）

①参加人数　20名

②活動場所　兵庫高校

③活動時間　９：00～18：00

④活動内容　連合あったか湯

⑤意見・感想

「長田区周辺の避難所41カ所で４班各２名であったか湯の宣伝をおこなった。その効果があったのか９名のあったか湯の入浴者があった。ただし入浴したい方には医者の診断を受けてＯＫのでた方のみにした。また、弁天温泉には81名が入った。介護士からあったか湯が４台あるのにストーブが１台しかないため、入浴者が寒がるので最低３台は必要との要望があった」

金属機械（報告者：横岡　博）

①参加人数　５名

②活動場所　長田区大谷町、蓮池小

③活動時間　８：00～18：00

④活動内容　生活用水の給水、仮設トイレの移動

⑤意見・感想

「山口県からボランティアがきたが間にあっているとのことで、どこかに回された。受け入れセンターはないのか。土日の炊き出しは間にあっているというが、朝と昼はパン食なので必要と思う。自衛隊の給水は水道が仮復旧したので打ち切りとなった」

全郵政（報告者：守屋忠夫）

①参加人数　４名

②活動場所　神戸商大

③活動時間　９：00～17：00

④活動内容　古着、毛布の搬出作業

⑤意見・感想

「作業はあと２日位で終了すると思われる。神戸外大もあと１週間でメドがたつと思われる」

全化連合（報告者：中越篤美）

①参加人数　６名

②活動場所　兵庫区役所

③活動時間　９：00～16：15

④活動内容

り災証明関係作業（り災届整理・保留分ＴＥＬ連絡・郵送分審査手伝い・返送）
⑤意見・感想
「仕事量をもっと増やしてほしい。段取りも効率よく」

合化労連（報告者：上田昌宏）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～18：00
④活動内容
避難所支援（新聞配布、食事の配膳・人員整理、小学校周辺の清掃、避難者の部屋別名簿の作成、救援物資の搬入）
⑤意見・感想
「食事配給時、今までは混雑していたがそれも減少してきた。避難者も考えて行動するようになった。また温かい食事をほしがっている。２～３日に１回は必要」

国公総連（報告者：西川保司）（全農林）

①参加人数　６名
②活動場所　神戸商科大学
③活動時間　８：40～15：00
④活動内容
救援物資センターとなっている商大の体育館での古着の積み込み作業
⑤意見・感想　特になし

交通労連（報告者：政栄）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動内容　り災証明書の受付作業
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：藤井康平）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：00～16：05
④活動内容
平常業務は休みなので義援金申請書の受付番号順の取り揃えと綴じ込み作業。り災申請書の地図上でのチェックと確認。
⑤意見・感想　特になし

自動車総連（報告者：井上）

①参加人数　21名
②活動場所　会下山小学校、中央体育館
③活動時間　会下山小８：30～　　中央体育館８：00～
④活動内容
会下山小＝避難所支援
中央体育館＝物資仕分け
⑤意見・感想　特になし

電機連合（報告者：塚原　仁）

①参加人数　20名
②活動場所　若松公園
③活動時間　９：00～17：30
④活動内容　Ｕパック救援物資配付作業
⑤意見・感想
「全体の作業は既にボランティアの参加者が何回もこなしてきているので大きな問題点は感じられなかった。配付品のプラカードが角材にダンボールなので、もうすこしきれいなものに作れたらと感じた」

鉄鋼労連（報告者：今井　満）

①参加人数　10名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想
「復旧作業が遅れており、２月末まで給水活動が続く予定だ」

日教組（報告者：佐藤宏二）

①参加人数　74名（24チーム）
②活動場所　二宮小学校他24カ所
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所の全般的支援（環境整備、トイレそうじ、物資運搬、給水、風呂当番、倉庫整理、食事配付、夜警、電話対応、子供たちの補習の手伝い、宿直など）
⑤意見・感想
「いくつかの学校では仮設トイレができる前の汚物が校庭の隅に積まれている」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　25名
②活動場所
区役所14名、太田中学５名、長田高校６名
③活動内容
区役所＝郵送分のり災証明書発行事務処理業務
太田中＝配付物資搬出、物資倉庫整理、弁当運び、物資の見張り。
長田高＝給水、洗濯機搬入。
⑤意見・感想
「長田高校373名避難。自治が確立していないので物資

が行き渡っているかどうか疑問」

化学総連（報告者：篠崎哲徳）

①参加人数　３名
②活動場所　神戸外語大学、神戸商大
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　救援物資の搬出入作業
⑤意見・感想
「払い出しラインに無駄がある。大きめの台車が不足気味だ」

ゼンキン連合（報告者：橋本・大松）（Ａチーム）

①参加人数　２名（連合神奈川10名、自治労２名）
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　10：00～17：20
④活動内容　連合あったか湯チーム
⑤意見・感想
「連合神奈川を中心に活動を共にした。運営のスムーズさに驚く。今後このレベルを維持していくように努めて行きたい。明日から女性が２人なので調整を。布のガムテープが必要」

私鉄総連（報告者：佐古）

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　午後から
④活動内容　り災証明関係作業
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連（報告者：小出　弘）

①参加人数　10名（自治労３名）
②活動場所　二葉町、吉田町
③活動時間　10：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Ｂチーム
（在宅入浴２名。二葉町は湯の提供、吉田町は家屋内に浴槽組立の上、湯提供）
⑤意見・感想
「長田県立体育館の下見の結果、排水の関係で月曜日に調査し、連合に連絡あり。火曜日以降に設置許可になるかどうか。自前でコンロ１台調達。土曜日が交代なので在宅の取り組みは難しい。配慮を」

農団労（報告者：北澤康弘）

①参加人数　３名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　９：00～18：00
④活動内容　お風呂の給水作業
⑤意見・感想　特になし

政労連（報告者：鈴木敏浩）

①参加人数　２名
②活動場所　ゆうゆうランド紀の国
③活動時間　10：20～17：00
④活動内容　風呂タンクへの給水作業、駐輪整理
⑤意見・感想
「水道が復旧したので明日をもって給水作業は撤収の予定」

食品連合（報告者：中野正二）

①参加人数　２名
②活動場所　幸せ湯
③活動時間　10：30～19：00
④活動内容
湯舟の清掃、給水車からの給水作業支援。銭湯の受付及び入浴者の整理。
⑤意見・感想　特になし

航空同盟（報告者：伊澤　功）

①参加人数　１名
②活動場所　神戸商大から神戸外大
③活動時間　９：00～14：30
④活動内容　Ｕパックの搬出入作業
⑤意見・感想
「本日は連合17名でトラック（３～６台）を並列し、手送りしたため効率があがった」

自治労（報告者：古川晋一）

①参加人数　２名
②活動場所　楠中
③活動内容　清掃、畳搬入、夜警
④意見・感想
「炊き出しの時、灯光器がほしい。学生ボランティアの視点での援助も必要では」

1995年２月20日（月曜日）No.18

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（19日）報告より

（会議参加組織）
情報労連、ゼンキン連合、自治労、金属機械、全郵政、全化連合、合化労連、政労連、全逓、交通労連、自動車総連、電機連合、鉄鋼労連、日教組、化学総連、食品連合、私鉄総連、連合神奈川、国公総連、造船重機労連、

農団労、航空同盟、商業労連、連合徳島（泊まり込みのため文書報告）

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　27名
②活動場所
　区役所14名、太田中学校７名、長田高校６名
③活動内容
　区役所＝郵送分のり災証明書発行事務処理業務
　太田中＝弁当運び、薪割手伝い
　長田高＝給水作業
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：橋本）

①参加人数　12名
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想
「校内放送を流したり、周辺への宣伝を行ったが、チラシ・ポスターが必要。利用者は15人。整理券を配った。お湯は大鍋２つで沸かしているが、まだ足りない。お湯を溜めるので青バケツをほしい。勤めのある人など夕方入浴したい方がいるので時間帯の検討を。雨天対策も必要では。入浴した人には大変喜ばれた。女性用ももひき、つめ切り、風よけトタンが必要」

自治労（報告者：坂田康裕）

①参加人数　20名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　９：00～18：00
④活動内容　常設「連合あったか湯」
⑤意見・感想
「利用者は男性２人、女性１人。弁天温泉は約90人利用。他の避難所からの入浴者が多く、昨日の宣伝の苦労が実ったと仲間たちの中に大きな喜びが生まれた。また、昨日申し込みのあった93歳の男性の方を送迎してあったか湯に入浴してもらった。また、お願いしますとのことだった」

金属機械（報告者：横岡　博）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容
　生活用水の給水、洗濯機の移動、大テント張り
⑤意見・感想
「昨日連合から支給された洗濯機２台をさっそく古いものと交換したところ、大変喜ばれた」

全郵政（報告者：守屋忠夫）

①参加人数　４名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　Ｕパック搬出作業
⑤意見・感想　特になし

全化連合（報告者：中越篤美）

①参加人数　７名
②活動場所　大開小学校付近
③活動時間　９：30～16：00
④活動内容　救援物資搬入配付作業、路上清掃
⑤意見・感想
「とにかく非効率。しっかりした現場のリーダーが１人ほしい。配給情報を知らせる工夫を。また不公平がでている。毛布、靴（大人用）を多くしてほしい。配給で並んでいた方の話相手になってあげた。被災者は話をしたがっている」

合化労連（報告者：陣内孝教）

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：00
④活動内容
　避難所支援（新聞配付、食事の配膳・人員整理、学校周辺の清掃、救援物資の搬入、ミニコンサートの準備と後片付け）
⑤意見・感想
「３食とも同じパンが出されるのは何とかならないか。数人だが避難者の方にも清掃等を手伝ってもらえるようになった。しかし、住民自治にはまだ時間がかかるようだ。銭湯のチケットが不足していた」

政労連（報告者：鈴木敏浩）Ａチーム

①参加人数　２名
②活動場所　ゆうゆうランド紀の国
③活動時間　10：20～17：00
④活動内容　風呂タンクへ配水
⑤意見・感想
「14：30に大池バスセンターに移動。給水作業。ゆうゆうランドは水道復旧のため給水は本日で終了」
（り災届整理・保留分ＴＥＬ連絡・郵送分審査手伝い・返送）
「仕事量をもっと増やしてほしい。段取りも効率よく」

国公総連（報告者：西川保司）（全農林）

①参加人数　６名

②活動場所　神戸商科大学
③活動時間　8：40～15：00
④活動内容
　救援物資センターとなっている商大の体育館での古着の積み込み作業
⑤意見・感想　特になし

交通労連（報告者：政栄）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　救援物資搬入・配付作業、後片付け・そうじ
⑤意見・感想
「区の担当者の段取りが悪い。作業前のミーティングで作業のムダをなくすことができる。現地ボランティアも名札・リボン等目印を」

全逓（報告者：藤井康平）

①参加人数　5名
②活動場所　若松公園
③活動時間　9：00～15：50
④活動内容　救援物資の搬送
⑤意見・感想
「朝出したトラック3台がゴミを乗せて別の所へいってしまった。トラックの使用方法の徹底と連絡を密に。作業は明日1日で処理できる」

自動車総連（報告者：山田耕平）

①参加人数　22名
②活動場所　会下山小学校6名、中央体育館16名
③活動時間
　会下山小　8：30～
　中央体育館　8：30～
④活動内容
　会下山小＝避難所支援
　中央体育館＝学用品搬入等
⑤意見・感想　特になし

電機連合（報告者：上杉浩代）

①参加人数　19名
②活動場所　ポートアイランド国際展示場
③活動時間　10：00～16：40
④活動内容　救援物資仕分け搬出作業
⑤意見・感想
「作業量は50パレット。19人で50パレットが限界なので、人手をもう少し多くすべきだ」

鉄鋼労連（報告者：今井　満）

①参加人数　10名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連（報告者：小出　弘）

①参加人数　10名（自治労3名）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム
⑤意見・感想
「白浜温泉があるが、ニーズはどうか。非効率にならないように。受入先の対策本部、医療担当、事務担当、放送担当との連携がなく、利用してもらえるシステムになっていない。アピールする効率的な情報提供を。ゆうゆうランドの送迎サービスの機動性を学んでは。火力の強化を検討中」

日教組（報告者：筒井龍児）

①参加人数　80名
②活動場所　平木小学校他23校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所の全般的支援（環境整備、トイレそうじ、物資運搬、給水、風呂当番、倉庫整理、食事配給、夜警、電話対応、子供たちの補修の手伝い、宿直など）
⑤意見・感想
「渦が森小＝昨日から一部の室内において炭火で暖をとっており、火事が心配される。安全な暖房器具を。長田高校＝3月16日に入試があるため支援の継続要請あり」

商業労連（報告者：岡本昌也）

①参加人数　2名
②活動場所　御旅公園
③活動時間　9：30～15：45
④活動内容　救援物資の搬入・配付作業
⑤意見・感想
「市側の業務の指示・命令を出す人を決めてほしい」

食品連合（報告者：中野正二）

①参加人数　2名
②活動場所　幸せ湯
③活動時間　10：00～17：00
④活動内容
　湯舟の清掃、給水車からの給水作業支援。銭湯の受付

及び入浴者の整理。
⑤意見・感想　特になし

私鉄総連（報告者：佐古）

①参加人数　３名
②活動場所　若松公園
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容　Uパックの搬送作業
⑤意見・感想　特になし

農団労（報告者：北澤康弘）

①参加人数　２名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　９：00～18：00
④活動内容　お風呂の給水作業支援
⑤意見・感想　特になし

政労連（報告者：富田一久）Ｂチーム

①参加人数　２名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　８：45～17：00
④活動内容　風呂タンクへ給水
⑤意見・感想
「意外に疲れた。給水タンクが屋上にあるため注意を」

航空同盟（報告者：伊澤　功）

①参加人数　１名
②活動場所　神戸商大から神戸外大
③活動時間　９：00～14：30
④活動内容　Uパックの搬出入作業
⑤意見・感想　特になし

連合徳島（報告者：香川保雄）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～20：00
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：清水宣行）

①参加人数　16名
②活動場所　若松公園
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
Uパック搬出作業、空きダンボールの処理・回収。
⑤意見・感想
「トラックの往復に多くの時間を使うため量的処理に問題あり」

国公総連（報告者：柄本広宣）

①参加人数　５名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　９：00～15：30
④活動内容　Uパックの搬出入作業
⑤意見・感想
「いくつかの連合の組合が来ているが連合のリーダーを決めてほしい。」

化学総連（報告者：進藤雅春）

①参加人数　３名
②活動場所　神戸商大、神戸外大
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　救援物資の荷積み作業
⑤意見・感想
「ボランティアに何を要求するのかリーダーは手際良く考えほしい」

被災者とどんどん話をしよう！

〈商業労連〉　森林幸治さんからのアドバイス
「ボクは新潟大火、新潟地震に続いて阪神大震災は３度目のボランティアになった。前の２つはすぐに行ったのでみんな呆然としていたのが印象的だった。今回はかなり時間がたって来たので様子は違った。避難者の方は衣食住は落ちついてきている様子。そろそろ心の問題になっていると感じた。避難所などでは外部の人と話をする機会がなかなかない。被災者の方は話をしたがっているので、くだらないような話でもじっと聞いてあげることが大切と思う」

1995年２月21日（火曜日）No.19

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（20日）報告より

（会議参加組織）
造船重機労連、金属機械、日教組、全郵政、合化労連、政労連、情報労連、全逓、交通労連、自動車総連、電機連合、鉄鋼労連、食品連合、自治労、私鉄総連、連合神奈川、連合新潟、国公総連、ゼンキン連合、商業労連、連合徳島（泊まり込みのため文書報告）

連合重機労連（報告者：小出　弘）

①参加人数　10名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　９：00～16：00

④活動内容　連合あったか湯Ｂチーム
⑤意見・感想
「今日も看護婦の到着が11時30分になった。もう少し早くしてもらえないか。あったか湯のテントに案内のポスターを貼っているが目だたない。のぼりとか横断幕がほしい。バスタオル、大型ポリバケツ２個、女性用下着を」

金属機械（報告者：横岡　博）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　避難所の支援
⑤意見・感想
「ボランティアによる炊き出しのためドブ掃除をして排水の通りをよくした。プールを掃除して洗濯物を干せる場所にした。他に救援物資の積み下ろし、正門入口の整備をした」

日教組（報告者：白井信子）

①参加人数　72名
②活動場所　住吉小学校他24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所の全般的支援（環境整備、トイレそうじ、物資運搬、給水、風呂当番、倉庫整理、食事配給、夜警、電話対応、子供たちの補習の手伝い、宿直、授業再開に向けた支援）
⑤意見・感想　特になし

全郵政（報告者：水木・林）Ａチーム

①参加人数　６名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　古着・毛布等の搬出作業
⑤意見・感想　「作業はほぼ終了した」

全郵政（報告者：水木・林）Ｂチーム

①参加人数　１名
②活動場所　個人宅入浴
③活動時間　13：00～
④活動内容　あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想　大変喜ばれた

全化連合（報告者：中越篤美）

①参加人数　７名
②活動場所　大開小学校付近
③活動時間　９：00～18：00
④活動内容　り災届発行業務支援
⑤意見・感想
「作業開始後に作業説明書をもらったが、前もって配付・説明してほしい。証明書の手続きをする要領がよくわからなかったので、被災者への対応が不充分だった」

合化労連（報告者：陣内孝教）Ａチーム

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：00
④活動内容
避難所支援（新聞配付、食事の配膳・人員整理、学校周辺の清掃、救援物資の搬入、湯沸かし器の給水）
⑤意見・感想
「作業は朝早くから夕方までだ。時間は長いものの休み時間も多い」

合化労連（報告者：谷本憲弘）

①参加人数　２名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　11：00～17：00
④活動内容　物資搬出作業
⑤意見・感想　特になし

政労連（報告者：鈴木敏浩）Ａチーム

①参加人数　２名
②活動場所　幸せ湯
③活動時間　10：00～19：00
④活動内容
給水作業、湯舟の清掃、入浴者の受付・整理
⑤意見・感想　カミソリが不足している

政労連（報告者：富田一久）Ｂチーム

①参加人数　２名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　10：00～17：00
④活動内容　風呂タンクへ給水
⑤意見・感想　特になし

国公総連（報告者：柄本広宣）（全農林）

①参加人数　５名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　救援物資仕分け作業
⑤意見・感想　特になし

交通労連

①参加人数　4名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　り災証明関係作業
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：増田吉行）

①参加人数　5名
②活動場所　若松公園
③活動時間　9：00～14：30
④活動内容　救援物資の搬送
⑤意見・感想
「作業は予定時間よりも早く終わった。残り時間を有効活用できなかったことが気がかりだった」

電機連合（報告者：坂栄　潤）

①参加人数　28名
②活動場所　ポートアイランド国際展示場
③活動時間　10：00～16：30
④活動内容　救援物資仕分け搬出作業
⑤意見・感想　特になし

鉄鋼労連（報告者：今井　満）

①参加人数　10名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想　特になし

自動車総連（報告者：山田耕平）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～
④活動内容　給水、トイレそうじ
⑤意見・感想
「手待ち時間には極力避難者と接触をはかる努力をしている。自治組織の今後の進め方、避難者の生活面、下水道の復旧具合などについて先生方と意見交換した。自治組織の自立に向けどう支援していくかがポイントだが、会下山の地域性もあり、具体的なメドはたたず。救援物資の搬入等では避難者自身の手でも行われている模様だが、十分ではない。ゴミの分別も一時は行われていたが現在はない」

自動車総連（報告者：山田耕平）Bチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～
④活動内容　学用品の仕分け・搬送作業
⑤意見・感想
「22～23日は体育館外装改修のため搬出入作業は停止のため、学用品の仕分けを行う予定」

自治労（報告者：坂田康裕）Aチーム

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：45～18：00
④活動内容　常設「連合あったか湯」
⑤意見・感想
「今日は風が強く寒かったためあったか湯の利用者はなし。弁天温泉は50名入浴」

自治労（報告者：藤田）Bチーム

①参加人数　14名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　泊まり込み
④活動内容　夜警、食事配給等
⑤意見・感想
「ＡＤＲＡ（ボランティア組織）が3月に撤退予定。自治会組織作りに取り組んでいる」

自治労（報告者：横井伸人）Cチーム

①参加人数　3名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　9：00～19：00
④活動内容　連合物資輸送、人の送り
⑤意見・感想
「あったか湯の看護婦さんの輸送。洗濯機届。ドライバーによる道路状況の報告の徹底を。オートバイが必要」

商業労連（報告者：岡本昌也）

①参加人数　2名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～18：00
④活動内容　り災証明発行手続き案内
⑤意見・感想
「申請者のモラルに頼らざるをえないが整理券発行基準の徹底が必要。郵送手続きの早期実施を。返送未着者がおりクレームになりがち」

化学総連（報告者：進藤雅春）

①参加人数　3名
②活動場所　神戸商大、神戸外大
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　救援物資の荷積み作業
⑤意見・感想
「明日からボランティアが不要になるようだ」

情報労連（報告者：金沢俊治）Aチーム

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容
散髪所の設置、炊き出し基準、焼却炉の手伝い、弁当の廃棄作業、給食搬入等
⑤意見・感想
「自治が確立しており、運営もスムースで活気がある。炊き出し用の味噌、醤油、砂糖など調味料が足りない。防寒用の帽子、手袋がほしい」

情報労連（報告者：金沢俊治）Bチーム

①参加人数　6名
②活動場所　長田高校
③活動時間　8：45～17：40
④活動内容　給水作業
⑤意見・感想
「周辺の水道復旧がすすみ、水を求める人が少なくなった。明日、市と給水要員について意見交換する。食事・物資は先生が対応。量は避難者分は足りているが、外の分は足りない。物資は一定数に足りたら配付するようだ」

情報労連（報告者：金沢俊治）Cチーム

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～18：10
④活動内容　郵送用り災証明関係作業
⑤意見・感想
「申請者の誘導、郵送分の開封・仕分け及び代書、認定済み証明書の郵送作業。土・日は証明受付がないので、郵送分が多かった」

連合神奈川（報告者：池辺貞広）

①参加人数　15名
②活動場所　神戸外大
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　物資仕分け作業
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：清水宣行）Aチーム

①参加人数　8名
②活動場所　若松公園
③活動時間　9：15～15：30
④活動内容
Uパックの返送、トラックへの荷積み作業
⑤意見・感想
「仕分け作業中、被災者が物資を欲しがったので一部渡したが、荷が散乱してしまい苦労した。公園での作業は終了した。場所によっては物資が足りないようだ」

ゼンキン連合（報告者：津田弥太郎）Bチーム

①参加人数　13名
②活動場所　在宅入浴
③活動時間　8：45～16：50
④活動内容　連合あったか湯Aチーム
⑤意見・感想
「石川さん80才・女性（4F）、高田さん70才・男性（平屋）、大城さん84才・女性（1F）。在宅入浴は手間がかかるが喜んでもらえた。風呂1つに看護婦1名、ヘルパー2名がほしい」

連合新潟（報告者：江花和郎）

①参加人数　10名
②活動場所　六甲アイランドKACT
③活動時間　10：00～16：30
④活動内容
海外からの物資の積み込み、荷降ろし作業
⑤意見・感想
「作業量が少ない。作業人数は5人でよいのでは。渋滞で車移動に時間がかかった」

1995年2月22日（水曜日）No.20

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（21日）報告より

（会議参加組織）
連合神奈川、連合東京、連合新潟、連合徳島、全郵政、全化連合、合化労連、政労連、情報労連、交通労連、全逓、自動車総連、電機連合、日教組、鉄鋼労連、食品連合、自治労、私鉄総連、国公総連、ゼンキン連合、商業労連、金属機械、化学総連、（文書報告）造船重機労連、交通労連

連合神奈川（報告者：浦田和裕）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　神戸市内

③活動時間　10：00～15：30
④活動内容　雇用保険のビラ配付
⑤意見・感想
「市内18カ所の避難所にビラを配付。どの避難所でも快く掲示、置きビラを了承してくれた」

連合神奈川（報告者：池辺貞弘）Bチーム

①参加人数　5名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　10：00～15：30
④活動内容　雇用保険のビラ配付
⑤意見・感想
「市内16カ所の避難所にビラ2,000枚配布。関西合同労組などの配布はダメだが、連合のビラはOKというところがいくつかあった」

連合神奈川（報告者：山本英二郎）Cチーム

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　り災証明関係・義援金申請
⑤意見・感想
「場内での義援金申請の手伝いが増えたためスムーズに中に入ることができた。整理券をもらって一度家に帰り、夕方手続きにくる方が多い。外での会場整理には防寒服を」

連合神奈川（報告者：大谷　登）Cチーム

①参加人数　12名
②活動場所　都賀川公園
③活動時間　9：30～14：00
④活動内容
Uパック搬送、トラック荷積み、ダンボール処理等
⑤意見・感想
「作業はスムーズに進み問題なし。手袋の予備が必要。公園での作業は今日で終了」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　3名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容　避難所の支援
⑤意見・感想
「朝食準備・配膳。洗濯、トイレ、廊下、階段等の清掃。給水作業、救援物資搬入。缶・ビンなど燃えないゴミがかなり溜まり、近所から苦情がでている。グランドのクギ拾い、側溝の掃除、ガラス・残土処理をやって欲しいと学校から要請された。磁石・スコップ等必要」

連合新潟（報告者：江花和郎）

①参加人数　10名
②活動場所　六甲アイランドKACT
③活動時間　10：00～15：30
④活動内容
救援物資のトラックへの積み込み・降ろし作業
⑤意見・感想
「昨日より作業量は増えたが、手待ち時間が多い」

合化労連（報告者：陣内孝教）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　神戸市内（灘・東灘区）
③活動時間　9：30～16：30
④活動内容　雇用保険のビラ配布
⑤意見・感想
「自転車のため現地に着くまで時間がかかった。また、坂が多く大変だった」

合化労連（報告者：谷本憲弘）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　都賀川公園
③活動時間　9：30～13：00
④活動内容　物資搬出・ゴミ処理作業
⑤意見・感想
「適当な人数だったので作業がスムーズにいった」

政労連（報告者：大倉隆志）Aチーム

①参加人数　2名
②活動場所　幸せ湯
③活動時間　10：00～19：00
④活動内容
給水作業、湯舟の清掃、入浴者の受付・整理
⑤意見・感想　特になし

政労連（報告者：鈴木敏浩）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　9：30～17：00
④活動内容　風呂タンクへ給水
⑤意見・感想　作業量が少なかった。

国公総連（報告者：柄本広宣）（全農林）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　10：00～13：00
④活動内容　雇用保険ビラ配布

⑤意見・感想
「避難所に渡しても昼間は人がいない」

交通労連

①参加人数　4名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　り災証明関係作業
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：増田吉行）

①参加人数　5名
②活動場所　都賀川公園
③活動時間　9：00～14：30
④活動内容　物資搬出・ゴミ処理作業
⑤意見・感想
「作業終了後、連合本部で避難所の地図入れ作業。苦戦」

電機連合（報告者：服部　稔）

①参加人数　44名
②活動場所　ポートアイランド国際展示場
③活動時間　10：00～16：30
④活動内容　救援物資仕分け搬出作業
⑤意見・感想　「構内埃多し。マスクが必要」

鉄鋼労連（報告者：今井　満）

①参加人数　10名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想　「24日に給水の見通しの結論がでる」

自動車総連（報告者：山田耕平）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～
④活動内容　給水、トイレそうじ、風呂設置、排水溝清掃
⑤意見・感想
「校舎内の水道復旧。民間の寄贈で校庭に風呂2台設置。灯油、電気等が整えば使用可。ただし、浴槽が高いため、工夫が必要」

自動車総連（報告者：山田耕平）Bチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～
④活動内容　学用品の仕分け・搬送作業
⑤意見・感想
「22～23日は体育館外装改修で搬出入作業は停止のため、本日が搬出のピーク」

自治労（報告者：三好克己）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　常設「連合あったか湯」
⑤意見・感想
「あった湯の利用者なし。介護風呂の出張サービスは喜んで頂けた」

自治労（報告者：斉藤順一）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　泊まり込み
④活動内容　夜警、食事配給等
⑤意見・感想
「他のボランティア団体との連携強化が必要。栄養バランスのとれた食事供給と精神的ストレスのケアーを」

商業労連（報告者：岡本昌也）

①参加人数　1名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　り災証明発行手続き案内
⑤意見・感想　特になし

化学総連（報告者：永野秀治）Aチーム

①参加人数　1名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　11：45～17：30
④活動内容　り災証明・義援金関係作業
⑤意見・感想
「避難者への整理券の配布方法、関係書類の提出方法の説明が必要」

造船重機労連（報告者：小出　弘）

①参加人数　10名
②活動場所　新長田勤労市民センター
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム
⑤意見・感想
「11名が入浴。医療室を通じて入浴者の名簿リストを作成してもらった」

金属機械（報告者：横岡　博）

①参加人数　６名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　避難所の支援
⑤意見・感想　特になし

私鉄総連（報告者：松井）

①参加人数　３名
②活動場所　都賀川公園
③活動時間　９：00～14：30
④活動内容　物資搬出・ゴミ処理作業
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金沢俊治）Ａチーム

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　炊き出し準備、焼却炉の手伝い、サラダ盛りつけ
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金沢俊治）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　長田高校
③活動時間　８：50～17：30
④活動内容　給水作業、側溝の清掃
⑤意見・感想　「責任者からの指示がない」

情報労連（報告者：金沢俊治）Ｃチーム

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：40
④活動内容　郵送用り災証明関係作業
⑤意見・感想　特になし

全郵政（報告者：水木・林）

①参加人数　７名
②活動場所　神戸市内（兵庫区）
③活動時間　９：30～17：00
④活動内容　雇用保険ビラ配布
⑤意見・感想
「夢野中学校の北川斜面に危険箇所が発見されたため、避難者が鴨越小に移った。自炊のため米、灯油等の物資を要望された」

食品連合（報告者：古屋　勝）

①参加人数　３名
②活動場所　神戸市内（中央区）
③活動時間　10：00～15：00
④活動内容　雇用保険ビラ配布
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：小西　修）Ａチーム

①参加人数　６名
②活動場所　都賀川公園
③活動時間　９：30～13：30
④活動内容
　Ｕパックの返送、トラックへの荷積み作業
⑤意見・感想　「今日は効率良く作業ができた」

ゼンキン連合（報告者：津田弥太郎）Ｂチーム

①参加人数　14名
②活動場所　市立神港高校
③活動時間　８：30～16：40
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想
「予約は10名だったが、寒さで最初は２名だった。看護婦さんが入浴を呼びかけたら14名（男６、女８）となった。」

日教組（報告者：白井信子）

①参加人数　72名
②活動場所　高羽小学校他24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所の支援（環境整備、授業再開に向けての教室づくり、集会のための校庭のゴミ拾い、トイレ清掃、物資運搬、食事の配給、給水仮設風呂づくりの手伝い）
⑤意見・感想
「朝食にカレーパンが出されたが、できれば朝食にふさわしいものがよい」

全化連合（報告者：中越篤美）

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容　り災届発行業務支援
⑤意見・感想
「本日は慣れと人数増員で上手くいったようだ。遠方から（例えば東京・京都）から被災者の対応を考えてほしい」

化学総連（報告者：田崎健司）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　神戸外大、神戸商大
③活動時間　9：00～17：30
④活動内容　物資の選別、箱詰め等
⑤意見・感想　特になし

連合徳島（報告者：田崎健司）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　泊まり込み
④活動内容　避難所の支援
⑤意見・感想　特になし

連合ボランティア参加人数
2月21日現在　延べ22,708名

本日より神戸市内全避難所600箇所の連合独自実態調査を開始

連合現地対策本部では、神戸市内にある避難所（約600箇所といわれている）の現在の実態を独自に調査することを決めた。これは今後の連合支援活動を展開する上でも、また行政への要請内容をより具体的なものにするため。本日（22日）午前9時、連合兵庫5Fの会議室に連合ボランティア50名が集合。山野連合総務局長より調査内容とアンケート用紙の説明を行った後、2人1チームで24組が市内各所に出かけていった。

調査は3日をかけ、登録外の避難所も含め、すべての実態を明らかにする計画だ。

がんばれ兵庫の子供たち「励まし合いミニミニコンサート」

ＮＨＫ労連傘下のＮＨＫ交響楽団労組の支援によるＮ響「激励コンサート」が3月11日と12日、兵庫県教組と連携して西宮市内と神戸市内の小学校などで開催されることになった。当日は、弦楽四重奏（バイオリン、ビオラ、チェロ）による演奏で、被災にあったこどもたちに、Ｎ響のすばらしい音楽を楽しんでもらうことにしている。

1995年2月23日（木曜日）No.21

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

● 現地取り組み報告

事務局会議（22日）報告より

（会議参加組織）

連合神奈川、連合東京、連合新潟、全郵政、全化連合、政労連、情報労連、交通労連、全逓、自動車総連、電機連合、日教組、食品連合、自治労、私鉄総連、ゼンキン連合、商業労連、金属機械、化学総連、造船重機労連、都市交、全農林、（文書報告）連合徳島、合化労連、鉄鋼労連、情報労連

自治労青年部（報告者：土谷　清）

①参加人数　2名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　8：00～15：00
④活動内容
　避難所の支援（お湯沸かし、夜警、物資の荷下ろし、炊き出し）
⑤意見・感想
「避難所は自治会が中心になって運営。ボランティアには夜警が期待されている。のこぎり、ロープ、と石、薪が必要」

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～12：00
④活動内容　り災証明関係
⑤意見・感想　「連合ボランティアの人数が多い」

連合新潟（報告者：江花和郎）

①参加人数　10名
②活動場所　六甲アイランドＫＡＣＴと吾妻小学校
③活動時間　10：00～15：30
④活動内容
　救援物資の積み降ろし作業とグランドの釘拾い
⑤意見・感想
「昨日よりやや作業量は増えた。仮設住宅への毛布配給が具体化すれば搬出作業で人手が必要になるとのこと」

金属機械（報告者：高橋）

①参加人数　6名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　あったか湯設置手伝い
⑤意見・感想　「食事内容について被災者より要望」

食品連合（報告者：古屋　勝）

①参加人数　3名
②活動場所　東灘区
③活動時間　10：30～17：30
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「住所が不明確で時間がかかりすぎる。聞きとり調査を

するには時期尚早。内容が重複」

自動車総連（報告者：山田耕平）

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～
④活動内容　救援物資仕分け（未整理学用品）
⑤意見・感想
「工事のため資材が入っているので要注意。靴・辞書類は負荷高い」

自動車総連（報告者：山田耕平）

①参加人数　5名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～
④活動内容
トイレそうじ、排水溝清掃、学用品・ポリ容器整理
⑤意見・感想
「水道の回復、授業の再開で全体に活気」

造船重機労連、連合神奈川、自治労（報告者：小出　弘）

①参加人数
造船重機労連10名、連合神奈川3名、自治労6名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム
⑤意見・感想
「システマティックな対応が効果的。ただ、連携ミスが1つあった。看護婦（士）、ヘルパーの到着が遅い。くし、靴下、男性用パッチ、女性用長袖シャツ、ゴミ取りネット、ボディシャンプーが必要」

合化労連（報告者：陣内孝教）

①参加人数　4名
②活動場所　東灘区
③活動時間　10：00～17：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「リストの中には避難所はほとんどなし。近くの公園・公民館などに小さなものがあった」

全逓（報告者：増田吉行）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫区避難所
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：清水宣行）

①参加人数　10名（全郵政1名）
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　11：00～17：30
④活動内容　連合あったか湯Aチーム
⑤意見・感想
「9名の入浴者。被災者が風邪に対する注意をしているので説得が大変。風邪気味という人にはタオルサービスを展開。使用済みタオルの洗濯用洗剤が必要」

電機連合（報告者：服部　稔）

①参加人数　45名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　7：30～18：30
④活動内容　ポートアイランド国際展示場
⑤意見・感想
「人数が多く仕事の振り分けが難しかった」

鉄鋼労連（報告者：今井　満）

①参加人数　10名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想　特になし

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　27名
②活動場所　連合あったか湯
③活動時間　8：00～16：00
④活動内容　救援物資仕分け搬出作業
⑤意見・感想
「肌着、洗濯バサミ、ノート、筆記用具が必要」

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　72名
②活動場所　住吉小学校他
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所支援全般（環境整備、物資運搬、夜警、電話応対）
⑤意見・感想
「医薬品の不足がないかチェックの必要がある。多食用意のため鉄板があるとありがたい」

連合徳島（報告者：大谷・竹谷）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　21日11：00～22日23：00
④活動内容　避難所支援（電話受付、診療受付など）
⑤意見・感想
「兵庫高校が事務局が全体の動きをつかんでいない。各部門間の連絡会議が必要。食事配給の班ができたが、被災者同士の連絡会も必要」

全化連合（報告者：嶽　　均）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容　り災証明書、義援金交付申請
⑤意見・感想　「活動は順調」

商業労連（報告者：岡本昌也）

①参加人数　１名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　り災証明発行業務の案内
⑤意見・感想
「寒そうでかわいそうとの声あり。カイロが必要」

都市交（報告者：角　　明）

①参加人数　16名
②活動場所　ポートアイランド
③活動時間　10：00～15：30
④活動内容　物資の仕分け、整理
⑤意見・感想　特になし

全郵政（報告者：水木・林）

①参加人数　７名
②活動場所　灘区内
③活動時間　９：00～17：30
④活動内容　避難場所実態調査
⑤意見・感想
「行政の連携が悪く、同じ調査が何回もくるという意見が多い。灘区では良くなっていると感じていない人が多い」

全郵政（報告者：水木・林）

①参加人数　１名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想　「大変喜ばれた」

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　物資搬入、炊き出し準備等
⑤意見・感想
「本部にＴＥＬをつけたことで大変喜ばれた」

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　６名
②活動場所　長田高校
③活動時間　８：40～17：30
④活動内容　給水作業
⑤意見・感想　「応援に来ている先生と意見交換」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
避難所支援全般（配膳、入浴の受付、物資の搬入等）
⑤意見・感想
「本部と名のっている自治組織が中心となっている。トラブルはないが、距離をおいた方が賢明と思われることがある。モップ絞り機が必要。避難所で活動する連合ボランティアの各代表と話しがしたい」

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容　り災証明書の郵送作業
⑤意見・感想　「昼食時に作業場所がなくなる」

1995年２月24日（金曜日）No.22

現地対策本部(連合兵庫内)　　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（23日）報告より

（会議参加組織）
連合神奈川、連合東京、連合新潟、全郵政、政労連、情報労連、交通労連、自動車総連、電機連合、日教組、食品連合、自治労、私鉄総連、ゼンキン連合、金属機械、合化労連、造船重機労連、都市交、全農林、化学総連、

全電線、鉄鋼労連

自治労（報告者：林　豊之）

①参加人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所の支援（夜警、物資の整理等）
⑤意見・感想
「高齢者が多いため、メンタルケアの体制が必要。連合を含めたボランティアの受け入れ体制はよい。灯油・プロパンガスが必要」

自治労（報告者：原　　隆）

①参加人数　２名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援（夜警、食事準備）
⑤意見・感想
「夜半までたき火を続けるなど、防火意識が乏しい」

合化労連（報告者：岡　得二）

①参加人数　５名
②活動場所　長田区
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「避難所にいる被災者の数は徐々に減っている。衣類の過不足が多いようだ」

金属機械（報告者：高橋）

①参加人数　６名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　避難所支援（夜警、清掃等）
⑤意見・感想　特になし

政労連（報告者：戸田義久）

①参加人数　２名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　９：50～16：10
④活動内容　給水作業
⑤意見・感想
「１日中外での活動なので防寒をしっかりすること」

造船重機労連、連合神奈川、自治労、北須磨ボランティア（報告者：小出　弘）

①参加人数
造船重機労連10名、連合神奈川３名、自治労５名、北須磨ボランティア１名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　９：00～16：30
④活動内容　連合あった湯Ｂチーム
⑤意見・感想
「10時スタンバイ、16時頃終了で統一した対応を願いたい。連合関係で２名、専門職男女各２名ずつの人員が必要ではないか。ゴミ取りネット、ドライヤーが必要」

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　72名
②活動場所　平木小学校ほか23校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援、小学生の相手等
⑤意見・感想
「自治組織のしっかりしているところもあるが、もともと自治会のない地域では自治組織もない」

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　19名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「弁天湯は120名の利用。ビラの効果がでてきた。付近の病院から空いている時間帯に設備を貸してほしいと申し出あり」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
避難所支援（食事の準備、清掃、洗濯場の受付等）
⑤意見・感想
「構内の側溝が問題になっている。清掃をしてほしいと依頼はあったが、廃棄・残土処理のことを考えないと手をつけられない。トイレ清掃は手をださずに避難者に任せてほしいと言われた。避難所の実態調査にも入ったが、接し方が難しい。」

自動車総連（報告者：山田耕平）

①参加人数　５名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～
④活動内容　避難所支援（トイレ清掃等）
⑤意見・感想

「昨日のあったか湯利用者からお礼あり」

自動車総連（報告者：山田耕平）

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～
④活動内容　救援物資仕分け、搬入
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：今　敏則）

①参加人数　４名
②活動場所　東灘区
③活動時間　11：00～18：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「自転車での移動はつらいが、自転車は必需品。前日の調査箇所がリストから消えていなかった」

都市交（報告者：角　　明）

①参加人数　10名
②活動場所　ポートアイランド
③活動時間　10：00～16：30
④活動内容　作業場レイアウト変更、物資仕分け
⑤意見・感想　特になし

連合新潟（報告者：高橋正明）

①参加人数　５名
②活動場所　六甲アイランドＫ－ＣＡＴ、須磨区
③活動時間　10：00～17：00
④活動内容　救援物資搬出、避難所実態調査
⑤意見・感想
「避難所実態調査は昼間は人がいないので、先生からしか聞けなかった」

ゼンキン連合（報告者：津田弥太郎）

①参加人数　11名、全郵政１名、自治労４名
②活動場所　兵庫摩耶高校、在宅入浴
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容　あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想
「在宅入浴はたいへん手間がかかるが、ボランティアとしてはやりがいがあるのではないか。温度計、髭そり時の鏡、つめ切りが欲しい」

全郵政（報告者：水木・林）

①参加人数　１名
②活動場所　兵庫摩耶高校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想　「喜ばれた」

全郵政（報告者：水木・林）

①参加人数　７名
②活動場所　灘区
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「被災者の自立のためにそろそろボランティアも避難所を離れなくてはと考えるボランティアが多くなっていると感じた」

交通労連（報告者：真壁直人）

①参加人数　３名
②活動場所　市内全域
③活動時間　８：30～17：45
④活動内容　現地リーダーより指示を受けて車両運転
⑤意見・感想　特になし

電機連合（報告者：服部　稔）

①参加人数　51名
②活動場所　ポートアイランド
③活動時間　７：40～18：30
④活動内容　救援物資の仕分け
⑤意見・感想　特になし

食品連合（報告者：古屋　勝）

①参加人数　62名
②活動場所　東灘区・長田区
③活動時間　９：00～18：30
④活動内容　しあわせ湯の清掃、避難所実態調査等
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　物資搬入、炊き出し準備等
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所

③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　り災証明書の郵送
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　6名
②活動場所　長田高校
③活動時間　8：40～17：30
④活動内容　給水作業支援
⑤意見・感想　「水道は8割方復旧している」

連合新潟（報告者：江花和郎）

①参加人数　5名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　10：00～18：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「自主炊き出しの支援が必要。肌着などの衣料品は不足しているところがまだある」

交通労連（報告者：熊野正一）

①参加人数　2名
②活動場所　新長田周辺
③活動時間　10：00～16：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想　特になし

〈救援物資・シャープペンシルが到着！〉

24日午後、全日産労連よりシャープペンシル約7千本が寄贈された。現地対策本部では、児童・生徒に役立ててもらおうと兵庫県教組に届けた。

兵庫県教組では、支援に入っている各避難所の実態を踏まえて、児童・生徒に配付を計画している。

1995年2月25日（土曜日）No.23

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（24日）報告より

（会議参加組織）

連合東京、連合新潟、政労連、情報労連、交通労連、自動車総連、電機連合、日教組、自治労、私鉄総連、ゼンキン連合、金属機械、合化労連、都市交、全電線、鉄鋼労連、ゼンセン同盟、生保労連、全化連合、全逓、（文書報告）連合徳島、造船重機労連、連合神奈川

金属機械（報告者：高橋友雄）

①参加人数　5名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容　避難所支援（警備、清掃等）
⑤意見・感想　特になし

連合徳島（報告者：高木賢三）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　2／23　12：00～2／24泊まり込み
④活動内容
避難所支援（電話呼出の受付、トイレ清掃、物資配布作業）
⑤意見・感想
「被災者の体力等の問題点はあるが、少しずつ自主的な活動をすすめ、自立してもらいたい。現在必要とされているのは、自立のための教育者ではないか」

私鉄総連（報告者：山野俊次）

①参加人数　3名
②活動場所　兵庫地区
③活動時間　13：00～16：30
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連、連合神奈川、自治労（報告者：小出　弘）

①参加人数
造船重機労連10名、連合神奈川3名、自治労4名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム
⑤意見・感想
「現地で入浴後のチェックのため血圧計・聴診器を借用・毛糸のパンツ・ドライヤー、鏡を補充。問い合わせがあり、はじめて、赤ちゃんの利用があった。このようなケースのためにSLMサイズの紙オムツが必要。着替え用衣類を入れるビニール袋も必要。全身シャンプー「ミノン」がよい」

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　25名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想

「弁天湯は昨日より利用者が減少。あったか湯については11：00～16：00の間で利用者を計画的に配分できるように事前の希望の有無を把握しておくのがベスト。送迎のために常時２台配車が望ましい。介護者が増えれば、対応可能人数も増える」

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　72名
②活動場所　高羽小学校ほか24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　食事の準備、ビデオ持参による撮影会、事務処理、こどもの遊び相手、学習指導など
⑤意見・感想
「自治活動の進渉状況は、昨日と変わらない」

全郵政（報告者：水木、林）Ａチーム

①参加人数　１名
②活動場所
③活動時間　９：00～18：00
④活動内容　あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想　特になし

全郵政（報告者：水木、林）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　東灘区、灘区
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想　「調査表に記入」

全電線（報告者：住谷一浩）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区
③活動時間　９：03～16：20
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「移転先を早く決めたいが手段がわからないという被災者がいた。ヘルメット、灯油、ガスボンベなどが不足している。地震以来入浴していない人もいた」

自動車総連（報告者：山田耕平）Ａチーム

①参加人数　５名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～
④活動内容　トイレ清掃、排水溝点検等
⑤意見・感想
「水は順調。明日昼ダイハツレクリエーションクラブメンバーにより校庭で焼きそば等の給食を行う予定」

自動車総連（報告者：山田耕平）Ｂチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～
④活動内容　物資（学用品）の仕分け・搬出
⑤意見・感想
「本日より搬出作業再開。現在の在庫はランドセル、辞書、靴、カバン、ハーモニカ、ピアニカ、他文房具等」

連合新潟（報告者：江花和郎）

①参加人数
　連合神奈川17名、新潟10名、都市交10名、ゼンキン連合６名
②活動場所　宝塚市体育館
③活動時間　10：00～15：00
④活動内容　救援物資の搬入・仕分け
⑤意見・感想
「宝塚市では電気・水道・ガスが復旧し、物資も豊富。不足している自治体へ融通できないか」

全化連合（報告者：平田徳明）

①参加人数　７名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容　り災証明業務関係
⑤意見・感想　特になし

電機連合（報告者：服部　稔）

①参加人数　午前48名、午後27名
②活動場所　ポートアイランド
③活動時間　７：40～18：30
④活動内容　救援物資の仕分け
⑤意見・感想　「明日いっぱいで作業は終了しそう」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）

①参加人数　16名
②活動場所　湊川中学校他
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　あったか湯Ａチームと宝塚市で物資整理
⑤意見・感想
「入浴予定者のリストが事前にあったので対応しやすかった。重度障害の方がいたので、看護婦・介護福祉士の介助がありがたい。老人用オムツ、消毒用アルコールが必要」

鉄鋼労連（報告者：中村太良）

①参加人数　11名
②活動場所　中央区全域
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想
「給水作業は必要だが、負荷は低下。住民からは、感謝の言葉をかけてもらった」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　5名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容
避難所支援（校庭清掃、側溝・どぶさらい作業、食事配給等）
⑤意見・感想
「校庭内の側溝については、連合兵庫の協力で行政と連絡をとったが、今回は解決せず。来週、人員増で来るとのこと」

都市交（報告者：角　　明）

①参加人数　10名
②活動場所　宝塚市
③活動時間　10：00～15：00
④活動内容　救援物資の仕分け・搬入
⑤意見・感想　「トラック到着までの空き時間が多い」

合化労連（報告者：今　敏則）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　東灘区
③活動時間　9：00～18：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想　「連合内で調査が重複」

合化労連（報告者：中野伸寿）Bチーム

①参加人数　5名
②活動場所　長田区・須磨区
③活動時間　13：00～18：00
④活動内容　避難所実態調査
⑤意見・感想
「避難場所からの要望として、下着・カップメン、暖房器具、マスクがほしいとの声」

情報労連（報告者：金澤俊治）Aチーム

①参加人数　6名
②活動場所　長田高校
③活動時間　8：40～17：30
④活動内容　給水作業等
⑤意見・感想
「避難所に指定されている間は、市の職員が、常時4名給水作業を行う体制になっている。待ち時間が長くつらい」

情報労連（報告者：金澤俊治）Bチーム

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　物資搬入、ゴミ置場整理等
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）Cチーム

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　り災証明の郵送業務
⑤意見・感想　「郵送分り災証明761通を完了」

「雇用保険に加入していなくても、失業手当がもらえます」

連合現地対策本部が周知徹底キャンペーンを展開

連合現地対策本部では、2月20日から3回にわたって、今回の大震災で会社が消失して働くことができない労働者や会社が倒壊して再開のメドがたたず、困っている労働者を対象にチラシ3万枚を作成して、神戸市内の各避難所をまわり、雇用保険などの「特別措置」による救済内容をキャンペーンした。

また、このキャンペーンでは連合兵庫内に「何でも労働相談ダイヤル」を設置。とくに未組織が多い中小零細企業で働く労働者やパートタイマーを中心に内容の周知をはかった。「特例措置」とは、今回の震災が原因で失業した労働者を雇用保険の適用で救済しようというもので、内容は雇用保険の掛け金をかけていなくても2年間にさかのぼって加入していたものとみなし、失業した方に雇用保険を支払うというもの。

ところがせっかくのこの情報も新聞やテレビがほとんどない避難所にいる失業した方にはまったく届かずじまい。そこで連合が足をつかって避難所を回り、この情報を伝えることにしたもの。もっともそのチラシも肝心の用紙が不足しているため、市内の印刷屋さんに苦労をかけながらつくりあげた。

一方、相談ダイヤルには、チラシをまいた後、雇用保険についての問い合わせが殺到し、25日現在で70件近い相談が寄せられた。その内、特にパートからの相談が9割を超えた。相談の中には震災便乗解雇事件もあった（事例参照）。

（便乗解雇相談事例）
◦会社：「みやむら」
◦解雇された方：女性（正社員）
◦業種：服飾（ブティック）関係
◦従業員数：20名
◦内容：１月17日の夕方、解雇された。ご本人が解雇予告手当を要求したら「激震認定されたので払う必要はない」と対応。連合では会社はその後も営業を続けていることから、便乗解雇と判断し、兵庫県労働基準局の「総合相談窓口」に紹介。労基局がただちに動き、会社を指導した結果、社長が本人の自宅を訪れ謝罪。予告手当を支払った。

1995年２月26日（日曜日）No.24

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●連合取り組み報告

事務局会議（25日）報告より

（会議参加組織）
連合東京、連合新潟、情報労連、交通労連、自動車総連、電機連合、日教組、自治労、私鉄総連、ゼンキン連合、金属機械、合化労連、全電線、鉄鋼労連、生保労連、全化連合、全逓、造船重機労連、全郵政、（文書報告）連合徳島、連合神奈川

全郵政（報告者：水木、林）

①参加人数　１名
②活動場所　東灘区
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容　あったか湯Ａチーム（在宅入浴１名）
⑤意見・感想　特になし

連合徳島（報告者：谷　義雄）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　12：00～20：00、６：00～12：30
④活動内容
　避難所支援（医療事務受付、トイレ清掃、呼出電話受付）
⑤意見・感想　「缶切りが必要」

全郵政（報告者：水木、林）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　東灘区
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容　避難所実態調査（14か所）
⑤意見・感想　調査表に記入

自治労（報告者：吉野　春、細田貴春）

①参加人数　４名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援（夜警、食事手伝い）
⑤意見・感想
「新品の自転車が15～16台余っている。他へまわしたらどうか」

自動車総連（報告者：山田耕平）Ａチーム

①参加人数　５名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～15：30
④活動内容
　避難所支援（トイレ清掃、ダイハツの炊き出し手伝いなど）
⑤意見・感想
「来週から簡易給食が開始され、被災者にも支給。曹洞宗ボランティアも引き上げ予定。炊き出しは好評」

自動車総連（報告者：山田耕平）Ｂチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～15：00
④活動内容　物資（学用品）の仕訳・搬出
⑤意見・感想
「中古ランドセルの搬出完了。来週中には目途がつく見込み。今後は細かい仕訳作業が中心」

電機連合（報告者：中島英明）

①参加人数　午前27名、午後20名
②活動場所　ポートアイランド国際展示場
③活動時間　７：40～18：30
④活動内容　救援物資の仕分け
⑤意見・感想　「作業は27日までかかりそう」

合化労連（報告者：今　敏則）Ａチーム

①参加人数　４名
②活動場所　宇都宮市スポーツセンター
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容　救援物資搬出入
⑤意見・感想　特になし

連合新潟（報告者：高橋正明）

①参加人数
　都市交10名、私鉄３名、神戸税関10名、全逓４名、合

化９名、ゼンキン連合６名、連合新潟１名
②活動場所
　宝塚スポーツセンター、三和銀行体育館
③活動時間　９：30～16：00
④活動内容　物資搬入・整理等
⑤意見・感想
「２班に分かれての作業だったので、前日よりスムースにいった」

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　21名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容　連合あったか名（13名）、弁天湯（80名）
⑤意見・感想
「開設以来最高の利用者数を数えた。ビラ配布の効果がでてきているが、この人数（13名）が限界。清掃サービスの申し出があり対応。事前に希望者数把握が不十分なので、作業密度にムラがある」

私鉄総連（報告者：山野俊次）

①参加人数　３名
②活動場所　宝塚スポーツセンター
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容　救援物資搬入・搬出
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連、自治労、ＪＣ（報告者：小出　弘）

①参加人数　造船重機労連13名、自治労６、ＪＣ１名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
　連合あったか湯Ｂチーム（男性１名、女性８名入浴）
⑤意見・感想
「予定より少ない入浴者数だったので、館内放送実施。設備と手洗いオシメの消毒のため、洗面器等に消毒液を用意するべきだった。福岡から来ていたヘルパーの方が勉強になるので、団体にさらに要請してほしいと話していた」

情報労連（報告者：金澤俊治）Ａチーム

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　避難所支援（マキ運び、物資搬入、倉庫整理等）
⑤意見・感想
「マキをもらっている被災した家から写真等がでてきたので自治本部に預けた。中学生に制服を送りたいという有志から連合でも呼びかけてほしいと要請された」

情報労連（報告者：金澤俊治）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　長田高校
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容　給水作業
⑤意見・感想
「水道は改善されつつあり、水をとりに来る人は少ない。要員にも余裕があるので本日で引き上げることにした」

情報労連（報告者：金澤俊治）Ｃチーム

①参加人数　14名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～16：00
④活動内容　り災証明書関係
⑤意見・感想　「363通処理」

全電線（報告者：住谷一浩）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区・長田区
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容　避難所実態調査（12か所）
⑤意見・感想
「12か所調査。行政担当者の巡回がほとんどない避難所もあった」

鉄鋼労連（報告者：中村太良）

①参加人数　11名
②活動場所　水道局中部センター管内
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想
「水道復旧は88％。一部地域をのぞき今月末には一段落しそう」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出等）
⑤意見・感想
「問題の校庭内側溝は、朝から業者が来て作業完了。学校側ほか皆さん連合に感謝している。定例連絡会議では長期のボランティアの健康問題、リーダーづくり等が話

し合われた」

交通労連（報告者：真壁直人）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容　車両運転
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Aチーム

①参加人数　10名、他産別7名
②活動場所　東灘区
③活動時間　9：00～16：30
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム（男性4人、女性2人入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「2チームで3軒ずつ訪問。6軒とも大変感謝された。専門職を中心に女性のボランティアを確保してほしい」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Bチーム

①参加人数　6名
②活動場所　宝塚市
③活動時間　10：00～16：00
④活動内容　物資の仕訳
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：中野伸寿）Bチーム

①参加人数　5名
②活動場所　宝塚市三和銀行体育館
③活動時間　8：00～17：15
④活動内容　物資の搬入
⑤意見・感想
「搬出に使うトラックがもう1台多いと作業がスムーズに進む」

交通労連（報告者：中西　誠）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　大内温泉
③活動時間　9：00～18：00
④活動内容　給水活動
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：稲垣弥史）

①参加人数　4名
②活動場所　宝塚スポーツセンター
③活動時間　9：30～16：00
④活動内容　救援物資の搬入・整理
⑤意見・感想　特になし

生保労連（報告者：亀井英明）

①参加人数　5名
②活動場所　東灘区
③活動時間　9：00～18：00
④活動内容　避難所実態調査（18か所）
⑤意見・感想
「避難所ではすでに住所入りのリストが配布されていた。入手してはどうか」

食品連合（報告者：古屋　勝）

①参加人数　1名
②活動場所　東灘区・長田区
③活動時間
④活動内容　避難所実態調査、しあわせ湯手伝い
⑤意見・感想　特になし

金属機械（報告者：大山勝也）

①参加人数　6名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容
　避難所支援（ゴミの片付け、ガレキ撤去作業等）
⑤意見・感想　特になし

日教組（報告者：三代孝博）

①参加人数　72名
②活動場所　高羽小学校他24名
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（宿直、夜の電話対応、食事配給等）
⑤意見・感想
「被災者の人数が縮小しているところもある。3月以降の継続の必要性については、避難所によりさまざま」

1995年2月27日（月曜日）No.25

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（26日）報告より

（会議参加組織）
連合東京、連合新潟、情報労連、自動車総連、食品連合、日教組、自治労、私鉄総連、ゼンキン連合、合化労連、全電線、鉄鋼労連、全化連合、全逓、造船重機労連、

（文書報告）連合徳島、生保労連、全郵政、交通労連、金属機械

私鉄総連（報告者：山野俊次）

①参加人数　5名
②活動場所　宝塚市役所、三和銀行逆瀬川保養所
③活動時間　9：00～15：00
④活動内容　救援物資の整理、搬出
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：今　敏則）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　宝塚市役所、三和銀行体育館
③活動時間　8：00～16：30
④活動内容　救援物資の整理、搬出入
⑤意見・感想　特になし

全化連合（報告者：中平正仁）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫区役所、菊水公園
③活動時間　9：30～15：00
④活動内容
　救援物資（医薬品、衣服、下着等）の搬入、整理、配布
⑤意見・感想
「衣料品等の中古は人気がなく、特に下着に関しては新品に集中した。医薬品、男女下着等必要とされる」

自治労（報告者：川上　勝）

①参加人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（夜警、食事手伝、シャワー室の清掃）
⑤意見・感想
「学生ボランティアが増え、意思疎通に戸惑う場面も多い。被災者のうち若手を中心に自治活動に取り組み始めようとしている」

連合徳島（報告者：重清俊夫）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（電話受付、医療受付、トイレ清掃、食事搬入、配布）
⑤意見・感想
「避難生活も落ちついてきている。ボランティアの数が多くなったようだ」

金属機械（報告者：大山勝也）

①参加人数　5名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：00～18：00
④活動内容
　避難所支援（正門警備、道路ガレキ撤去作業、ゴミかたづけ）
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：稲垣弥史）

①参加人数　4名
②活動場所　宝塚市役所、三和銀行体育館
③活動時間　9：30～15：00
④活動内容　救援物資の整理、毛布の整理搬出
⑤意見・感想
「午前の作業は1時間で終了し、2時間以上手待ち。仕事量が少なかった」

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　23名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容
　連合あったか湯（6名利用）、弁天の湯（80名利用）、救援物資（食糧）の搬入、配給
⑤意見・感想
「あったか湯については、予定7名のうち1名がキャンセル（天候のためか？）、利用者のうち1名は血圧が高かったため足浴のみとなった。3／1以降の利用希望者を把握するために明27日、PR用ビラ配布と個別希望調査を避難所付近で行う予定」

日教組（報告者：筒井龍児）

①参加人数　72名
②活動場所　高羽小学校他23校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（宿直、食事の準備・配給・手配、清掃、物資の搬入等）
⑤意見・感想
「一部学校にホームレスが寄宿している。問題を起こした場合、警察に対応をお願いしている。避難所の中でも高校は3月中旬の入試に向けて環境整備が急がれている」

合化労連（報告者：重永嘉幸）Bチーム

①参加人数　33名
②活動場所
　宝塚スポーツセンター、三和銀行体育館、宝塚市役所
③活動時間　8：00～15：00
④活動内容
　物資の搬入出、仕分作業、特に仮設住宅用に毛布の搬出入、仕分（新品と中古）
⑤意見・感想
「三和銀行体育館の午前中作業は時間が余り10：30で終了し、宝塚市役所へ物資の手伝いに応援へ行ったが他のボランティアもあり、結局休息タイムとなった。時間が無駄だ。宝塚市役所の要望としては明27日も同人数の要望があった。作業としては他のボランティアとの合同で物資の仕分作業をお願いします、とのことでしたが、33名は不必要と感じる。2／28抽選で仮設住宅の入居者が決まるので新しい毛布が必要となる。本日325枚は確保した」

全郵政（報告者：水木、林）

①参加人数　6名
②活動場所　灘区、東灘区
③活動時間　9：00～18：00
④活動内容
　避難所の実態調査（24件）及び実態調査データのパソコン入力（東灘区入力済み）
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名、4名
②活動場所　灘区
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム（男性4名、女性5名入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「車の入らぬ場所、マンション8階等々、目的地探しおよび準備作業に時間を要した。身体的問題、ガス無し等々により長期間入浴不可であったことから大変喜ばれた。本日にわか雨があり今後の作業に於ける雨対策に不安あり」

鉄鋼労連（報告者：中村太良）

①参加人数　11名
②活動場所　水道局中部センター管内
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想
「全市の水道復旧は88％。中部センター管内90％。給水作業は著しく軽減化されつつある。各都市から来ている給水車は、今月一杯で引き上げる予定」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　6名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車、物品類、入浴券、洗濯予約券受付）
⑤意見・感想
「貸自転車の不明、所在調査＝76台中40台位が不明または盗難されている。摂津福祉ボランティア団体が車3台、30人位の人数で13時より校庭での炊き出しあり、95食分出る。裏門付近のアルミ空き缶の処理を依頼された。モップ絞り器1、作業場必要」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Bチーム

①参加人数　6名
②活動場所　宝塚市
③活動時間　8：00～16：30
④活動内容　救援物資の仕分け、整理
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Aチーム

①参加人数　10名、食品連合・自治労7名
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム11名（男性4、女性7）の利用
⑤意見・感想
「雨が降ったりやんだりで当惑した（後片付けがいつもより難しい）。受け入れ先の事前対応はほとんどされていなかった。校庭や部屋で直接勧誘をした結果利用者が増えた。自治労の女性がもう少し（1時間位）早い時間に現地到着していただけたらありがたい。作業上スリッパ（4足）、折り畳み椅子（2脚）必要」

連合新潟（報告者：高橋正明）

①参加人数　1名
②活動場所　宝塚市役所、三和銀行体育館
③活動時間　9：00～15：00
④活動内容　物資（毛布）の搬出、物資の整理、搬入
⑤意見・感想　特になし

食品連合（報告者：中村佳正）

①参加人数　4名
②活動場所　灘区小学校他
③活動時間　9：00～16：30、9：30～19：00
④活動内容
〈あったか湯〉入浴サービス
〈幸せ湯〉脱衣所・浴室の清掃、受付、客の誘導他
⑤意見・感想
「神戸市より幸せ湯の引き続きボランティア要請あり」

生保労連（報告者：亀井英輔）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：00～
④活動内容　物資の搬入、配布、清掃、受付
⑤意見・感想　特になし

全電線（報告者：住谷一浩）

①参加人数　45名
②活動場所　宝塚市役所
③活動時間　8：00～16：00
④活動内容　救援物資の仕分け
⑤意見・感想　特になし

交通労連（報告者：熊野正一）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　兵庫高校、灘区
③活動時間
④活動内容　移動風呂車両運転
⑤意見・感想　特になし

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　トイレ清掃、生活廃棄物
⑤意見・感想
「明27日より簡易給食開始予定であり本日はそのための最終準備を行った。風呂は本日も稼働せず」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Bチーム

①参加人数　17名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～19：00
④活動内容　物資搬入・搬出、物資の移動
⑤意見・感想
「27日にはノート5万冊が搬入される予定とのことだが、詳細は未定であり、当日になってみないとわからないとのこと」

交通労連（報告者：中西　誠）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　宝塚市役所
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容　救援物資の仕分け
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）Aチーム

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　薪割り、薪運び、物資搬入、夕食搬入
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）Bチーム

①参加人数　23名
②活動場所　兵庫区役所、菊水公園
③活動時間　8：45～17：30
④活動内容　り災証明書の郵便発送、物資対応
⑤意見・感想　特になし

1995年2月28日（火曜日）No.26

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

事務局会議（27日）報告より

（会議参加組織）
全郵政、鉄鋼労連、日教組、金属機械、交通労連、自治労、自動車総連、食品連合、全電線、全逓、ゼンキン連合、連合東京、全化連合、情報労連、（文書報告）合化労連、生保労連、造船重機労連

全郵政（報告者：水木、林）

①参加人数　5名
②活動場所　長田区、兵庫区、兵庫高校
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容
避難所実態調査（8件）、避難所実態調査データ入力（兵庫区）、あったか湯
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：今　敏則）Aチーム

①参加人数　4名

②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～12：00
④活動内容　連合あったか湯、給湯作業、ＰＲ活動
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：中野伸寿）Ｂチーム

①参加人数　５名
②活動場所　長田高校
③活動時間　８：30～15：00
④活動内容　連合あったか湯、清掃（周辺）、ビラ配布
⑤意見・感想　「あったか湯の準備は少人数でもいい」

生保労連（報告者：亀井英輔）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～20：00
④活動内容
　食糧の搬入、仕分け、配布、トイレ清掃、電話・診療室受付
⑤意見・感想　特になし

鉄鋼労連（報告者：中村太良）

①参加人数　11名
②活動場所　水道局中部センター管内
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容　水道局の給水作業支援
⑤意見・感想
「中部センター管内については、９割を超える復旧度。他都市の応援部隊も２月一杯で撤退の予定」

日教組（報告者：三代、小川）

①参加人数　75名
②活動場所　平木小学校他24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（宿直、食事の準備・配給・手配、清掃、物資の搬入等）
⑤意見・感想　特になし

金属機械（報告者：大山勝也）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　避難所支援（正門警備、ゴミかたづけ）
⑤意見・感想　特になし

交通労連（報告者：永山智裕）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校、東灘区、長田区
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容　移動風呂車両運転
⑤意見・感想　特になし

交通労連（報告者：中西　誠）Ｂチーム

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　給水活動
⑤意見・感想　特になし

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　22名、他産別36名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　連合あったか湯（７名利用）、弁天湯（80名利用）、救援物資（食糧）の搬送、配給、避難所付近のＰＲビラ配布、清掃、駐車場ライン引き
⑤意見・感想
「対象地域を拡大してのＰＲ活動を展開。徐々に銭湯が開業し始めており、今後は以前利用した人への再利用の促進及び行政サイドからの対象者リストの入手など利用希望者の把握に努めるべき。女性ボランティアの確保が必要。仕事待ち時間の解消をどうするか」

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名、４名
②活動場所　長田区、東灘区
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容
　連合あったか湯Ａチーム（４名入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「道路事情最悪のため看護婦さんの到着が遅れ、入浴対象者が重度障害を持たれた方でもあることから入浴には苦慮した」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容
　トイレ清掃、生活廃棄物処理、炊き出し手伝い、給水パックの処分

⑤意見・感想
「風呂は本日も未稼働。県対策本部にて設置し、２～３日後には稼働の予定とのこと」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Ｂチーム

①参加人数　17名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～19：00
④活動内容　物資搬出・搬入
⑤意見・感想
「ノート５万冊が搬入される。救援物資が今後も搬入の可能性有り。搬出先の小中学校より、不必要な物資もあるとの声が一部に出始めているとの情報も有り。搬入物資の中に対応に困るものが入っている場合もある（ボウリングシューズ、使いかけノートなど）」

全電線（報告者：住谷一浩）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容
弁天湯、連合あったか湯の給水作業、ビラ配布
⑤意見・感想
「兵庫高校は坂の上にあることからもなかなか利用することは難しい。特に高齢者は来るのが大変だし、帰りは湯冷めする心配がある」

食品連合（報告者：中村佳正）

①参加人数　３名
②活動場所　駒ケ林小学校、兵庫高校
③活動時間　９：00～17：15
④活動内容
駒ケ林＝あったか湯入浴サービス（９名利用）
兵庫高＝入浴サービス、給水、夕食搬入、ゴミ拾い
⑤意見・感想　「作業上軍手が必要」

全逓（報告者：稲垣弥史）

①参加人数　４名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容
り災証明書の請求者の誘導・整理、記入時の補助
⑤意見・感想
「請求者への声掛けも大事、記入する際のボールペン、朱肉、机もあれば便利」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Ａチーム

①参加人数　10名、食品連合・自治労４名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
連合あったか湯Ａチーム利用者８名（男性２、女性６）内１名はお湯の提供のみ、利用呼びかけ
⑤意見・感想
「風邪がはやっており、入浴を恐がるお年寄り多い。事前に避難所側でもＰＲしてもらうと有り難い。お湯だけを希望する家も多いのでは対応が必要か」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～
④活動内容　連合あったか湯、弁天湯
⑤意見・感想　特になし

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　６名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車、物品類、入浴券・洗濯予約券受付、自転車在庫チェック（76台中24台位が不明または盗難）
⑤意見・感想
「本日、同小学校で臼井先生作詞・作曲の“しあわせ運べるように”を児童、被災者、ボランティアの我々も参加し大合唱した、父母も、我々も、先生も、皆、涙を流しながら唄った」

全化連合（報告者：中平、平田）

①参加人数　６名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：00～17：45
④活動内容
り災証明書、義援金交付申請業務手伝い
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）Ｂチーム

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：45
④活動内容
り災証明書の郵送（発着分）業務の処理、り災証明書

の書き方説明、申請書の郵送請求、資料の配布・説明
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金澤俊治）Cチーム

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　連合あったか湯、弁天湯
⑤意見・感想　「女性ボランティアが必要」

情報労連（報告者：金澤俊治）Aチーム

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容　薪運び、物資搬入
⑤意見・感想
☆自治本部梅山先生と意見交換
1、昼間のボランティアは常時15名（連合7、学生2、自治本部3、一般3）いる。
2、市職員3名が24時間交代でいてくれたが、3／1より12時～20時の間1人となる。
3、避難している人には「自立」を促しているが、中には、全部ボランティアの人にやってもらえばいいと考えている人もいるようだ。
4、3月になれば炊き出しも減るし、ボランティアも減るので、皆で協力して炊事などをするようこれから働きかけていく。
5、連合の皆さんには随分お世話になっている。3／5～3／12まで5名、3／13～3／19まで4名を継続して派遣をお願いしたい。

1995年2月28日（火曜日）No.27（特別号）

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

地震発生以来、ひと月あまり。連合のボランティアとしてさまざまな救援活動にあたってくださった仲間は2月28日現在延べ人数で、28,450人になりました。みなさま本当にお疲れさまでした。

みなさま一人ひとりによる連合ボランティア活動の内容も、初期の「救援活動」から「復興への支援」と変わってきています。そうした節目を迎えるにあたって、今回阪神大震災でボランティアを体験した仲間が、感じたこと、考えたことを、まとめてみました。「日報」では、提出いただいた活動報告を中心に情報を掲載していましたが、特別号として仲間の声をお伝えします。〈「ボランティア自由記入帳」より抜粋〉

地元でも経験を生かしたい

今回、なかなか体験することのできないような大変貴重な活動をさせていただきました。

地震発生後の2月18日から2月23日までの6日間という短い期間でしたが、地震の大きさや自然の恐ろしさを自分の目で感じることができました。

特に感じたことは、①避難所によって物資や生活方法が極端に違う、②都市ガスではなく、プロパンガスの使用も考えた方がよい、③日頃の災害訓練・対策が必要、④住民は日々ぜいたく・わがままになっているということです。

地元に帰ったら、この経験を活かしていこうと思います。また皆さんに会える時を楽しみしています。本当にいろいろありがとうございました。

〈旭テック労組　山本裕広〉

早くもとの生活へ

2月18日から2月23日までのボランティア活動を通して、避難所の人々が生きるためにすごく頑張っていることを実感しました。風呂に入れない苦しみや寒い思いをしながらも、ドラムカンを運んで来て火を焚いたり、ボランティアや地元の主婦が汁物を作って配っている姿を見ていると、「この人たちを助けてあげたい！ゼンキンのボランティア活動に参加してよかった」と強く感じました。本当に早く衣食住満足のいく生活に戻ってほしいと思います。

このようなボランティア活動があればどんどん参加していきたいです。

〈武蔵精密労組　斉藤光徳〉

楽しい交流を思い出に

長田区は、ほぼ町全体が大きな被害を受けていました。焼け跡には、あちこちに死亡者を弔う花が飾られ、思わず目頭が熱くなります。

私は「救援物資の積み込み」「あったか湯」「避難所の実態調査」の3つの活動をしました。いずれも被災者にとって重要な活動だったと思いますし、また、被災者からは深く感謝されていることを実感しました。

調査活動では、避難所の80歳のおばあちゃんが「ボランティアの皆さんは神様のようです。私が苦労している後片付け、生活の面倒をすみずみまでみていただいた」と感謝の言葉を聞いたときに、参加して本当によかったと思いました。

復興への活動は進んでいますが、実態はとてもひと月、ふた月で復興し得る状況にはないようです。被災者の苦労を思わずにいられません。

一緒に活動する仲間との情報交換を通じて楽しい交流をできたことも忘れることができません。この交流はつらい1日を忘れる唯一の場でした。ボランティア活動に関しては、これからも機会があれば参加したいと思います。

〈東京セイコー電子工業支部　日野政文〉

相手の気持ちを考えたボランティアを

私はこの４日間で、「あったか湯」「救援物資・ゴミの搬出」「実態調査活動」の３つの活動に参加でき、よかったと思います。

「あったか湯」では、おじいさん、おばあさんが手を合わせて感謝してくれる姿がとても印象的でした。

３日目には物資の搬出をしましたが、送られてくる物資の中には汚れた布団等、いくら困っている人でもちょっと使えないと思われる物もいくつかありました。親切心には違いないとは思いますが、本当に必要な物は何かを考えるべきだと感じました。マスコミやボランティアでも、そういう情報をどんどん提供すべきだと思いました。

４日目は、調査活動で東灘区を歩きまわりました。この仕事は急遽決まったもので、連合での準備が足りなかったようです。市販の地図で探しまわりましたが、消防で作成している地図があれば、もっと効率よく調査できたのにと残念に思いました。

今までボランティアに参加したことはありませんでしたが、今回参加できてよかったと思います。神戸の街の災害の状況や避難所での生活をこの目で確かめることができてとても勉強になりました。

ただ一つ感じたのは、ボランティアが与える方の自己満足に終わる可能性があるということです。本当に受ける側の気持ちを考えていかなければならないと感じました。

最後に、みんなと出会えたことをうれしく思います。楽しかったです。ありがとうございました。

〈日本製鋼所　小田健司〉

みんなで協力できる活動を

自分で市内の方を歩いてみても、いまにも倒れそうなビルがいっぱいあり、阪神大震災の大変さを感じました。神戸の人々が生きていくためには、水やガスも必要ですが、やっぱり人々の助け合いが大切だと思いました。

ボランティアをやっていて喜ばれたことは今でも頭に浮かんできます。本当にボランティア活動をするのなら、利害関係のないみんなで協力のできる活動をしていきたいと思います。

神戸にきた事はいい経験でした。

〈日本製鋼所　松下友和〉

ボランティアの姿勢を学んだ

災害の状況については、テレビ等で点として見ていたが、実際に自らの目でみて、改めてその被害状況の大きさや悲惨さに驚くとともに、胸の詰まる思いがしました。

被災者の自立に向けての支援の一端をお手伝いしての感想は、避難所によって状況が異なっており、各々の状況把握の大切さと実態に応じた支援の重要さを痛感しました。また、多くの人たちがボランティアとして献身的な努力をしており、救援活動の主力として活躍している姿に感動しました。特に、多くの学生の努力とその精神には頭の下がる思いをし、多くのことを学はせていただいたように思います。

「ここでは個人のボランティアしか受け入れません。なぜなら労働組合等の団体でくる人は真に自らの意志できている人は少なく、活動に対する姿勢に差がでることがある」。これは、ある避難所のリーダーとして活動している女子学生のボランティアの方の言葉です。深く考えさせられるものがありました。

〈セイコー労組　根橋清二〉

ビル倒壊にショックを受けた

まず、来てみて最初に感じたのは、テレビ・新聞で情報は知らされていましたが、予想以上の被害であることです。私は建築の仕事に携わっている関係で、建物をみてしまうのですが、大きなビル群があちらこちらに崩壊しかけていることに、ショックをおぼえるとともに構造面の考え直しの必要性を感じました。

活動では、物資の積み込みとあったか湯をやってきました。避難所ごとに、だんだん生活に差が出てきていると思います。ひと月ちょっとの間ボランティアに頼っていた人も、生活を元に戻すのに頑張っていた人も、いつまでたっても頼りっきりの人も多いようです。

やりきれない気持ちはわかりますが、そういう人達をどうやって立ち直らせるかも今後の課題であると思います。こうした中、カウンセリング等のケアが最も重要ではないかと思います。

「あったか湯」をやってみてさっぱりしたおじいちゃん、おばあちゃんの顔をみているとボランティアにきてよかったなぁと感じました。

また、機会があればぜひ来てみたいと思います。

〈穴吹工務店労組　小西　修〉

連合神奈川第２陣（２／10～２／14）

〈感じたこと〉

☆被災の厳しいところほど、援助の手が薄い傾向が見受けられた。また、食事の「質」もよくないと思われます。人・モノとも態勢づくりが大変であると思うが、改善が求められます。

☆避難所での自立の方向は、小さい避難所や大きい避難所で班体制ができているところでみられます。

☆避難所での不足物資の欲求度は、いくつかの区を比較すると、区で共通のもの、単独の避難所での痛切な要求があります。

☆実態調査で声のあった乾燥機・臨電・洗濯機・朝夕の菓子パン支給などについては、早急に連合として解決してほしいと感じました。

☆「あったか湯」は、入浴者人数にかかわらずに必要。在宅の方に今後手を差しのべられるのかも課題ではないでしょうか。携わった人が感激するほど、利用者に感謝さ

れたことは忘れてはならないと思います。高齢者だけでなく、赤ちゃんの入浴も必要性を感じました。

☆県・市・区、ボランティア、学校、警察の対応がバラバラのようです。やむを得ないかもしれませんが、解決すべき課題です。たとえば調査でも、多すぎるという反応がありました。

☆メンタルヘルスなどと難しく考えるのではなく、心の相談を連合として受けることを考えたらどうでしょうか。あまり多くの要望が出て困るかもしれませんが。

☆日報は非常によくできているので、全国にＦＡＸで流したらどうか。

☆救援物資の送り方マニュアル（洗濯をしていない肌着を送ることは禁止するなどしたルール）をマスコミ等でも周知させてほしいです。肌着は全般的に足りません。また、春の衣類なども準備が必要ではないかと考えます。

1995年３月１日（水曜日）No.28

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み

事務局会議（28日）報告より

（会議参加組織）

自治労、日教組、自動車総連、造船重機労連、ゼンキン連合、連合東京、情報労連、（文書報告）金属機械、全郵政、全逓、鉄鋼労連、生保労連、自治労、日教組、自動車総連、造船重機労連、連合東京、ゼンキン連合、情報労連

金属機械（報告者：大山勝也）

①参加人数　５名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容　避難所支援（正門警備）
⑤意見・感想　特になし

全郵政（報告者：水木、林）

①参加人数　５名
②活動場所　対策本部
③活動時間　８：00～13：00
④活動内容　実態調査データー入力
⑤意見・感想　特になし

全逓（報告者：稲垣弥史）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：00～11：00
④活動内容
　り災証明書の請求者の誘導・整理、記入の補助活動
⑤意見・感想　特になし

鉄鋼労連（報告者：中村太良）

①参加人数　11名
②活動場所　水道局中部センター管内
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容　給水作業の支援
⑤意見・感想　「水道復旧率92％）

生保労連（報告者：佐田　真）

①参加人数　６名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～20：00（泊まり込み）
④活動内容
　食糧の搬入、仕分け、配布、トイレ清掃、電話・診察室受付
⑤意見・感想　特になし

自治労青年部（報告者：野中靖志）

①参加人数　22名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　連合あったか湯（４名利用)、弁天湯（80名利用）
⑤意見・感想　特になし

日教組（報告者：村井健一）

①参加人数　75名
②活動場所　平木小学校他24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（宿直、食事の準備・配給・手配、清掃、物資の搬入等）
⑤意見・感想
「教育復興ボランティア派遣単組・派遣準備単組・ブロック代表者合同会議を開催し、第２陣（３／５～３／31）の派遣単組確認」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　トイレ清掃、生活廃棄物処理、２Ｆトイレ給水用ポンプ、給水タンク撤去作業
⑤意見・感想
「簡易トイレ利用者減り、学校のトイレを利用する人が増えている」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Ｂチーム

①参加人数　18名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容　物資搬出・搬入、仕分け
⑤意見・感想
「明日は大きな搬入予定なし、搬出、仕分けが中心作業となる見込み」

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名、４名
②活動場所　新長田勤労市民センター
③活動時間　８：30～16：00
④活動内容
連合あったか湯Ａチーム（12名入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「看護婦さんの到着時間に問題を含む」

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車、物品類、入浴券・洗濯予約券受付、簡易浴槽用目隠し鉄棚搬入作業）
⑤意見・感想
「炊き出し、移動子供動物園あり。連合東京別部隊が若菜小学校に入る」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）

①参加人数　11名
②活動場所
摩耶小学校、入江地域福祉センター、入江マンション
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
連合あったか湯Ａチーム
摩耶＝２名利用（男女各１名）
センター＝２名利用（男女各１名）
マンション＝２名利用（男女各１名）
⑤意見・感想
「入浴者から大変感謝され参加者全員の喜びとなった。時間、場所に制限を受けての作業で、多くの人に入浴してもらいたくともできない面があった。下着類、シャンプー等不足」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：20
④活動内容
り災証明書の郵送、義援金交付申請書の記入案内、来訪者の区役所内外の誘導、り災証明書発行件数620通
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：30
④活動内容
風呂・夕食配給サービス、風呂利用100名程度

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　８：40～16：30
④活動内容
避難所支援（風呂当番、物資・弁当運搬、ゴミ整理）

1995年３月２日（木曜日）No.29

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月１日）報告より

＊事務局会議はリーダー会議に名称変更になりました。
（会議参加組織）自治労、日教組、自動車総連、造船重機労連、ゼンキン連合、連合東京、情報労連、食品連合、（文書報告）生保労連、私鉄総連

日教組（報告者：村井健一）

①参加人数　75名
②活動場所　平木小学校他24校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所支援（宿直、食事の配給・警備、清掃、物資搬入等）
⑤意見・感想
「（若宮小：熊本高教組）今日から授業を再開した。１年生と２年生は４時間。４・５年生は５時間。簡単な食事がでる。（二宮小：神奈川高教組）風呂の準備中心。（菊水小：福岡県教組）コロッケ屋さんがコロッケを配給。炊き出しがあと10日ほどで終了する。温かい食べ物に不安がある。ストーブが１つしかない。（室内小：山梨県教組）物資関連の作業が減った。（会下山小：千葉

県教組）トイレ清掃等、水は出ているが周辺はまだ。1人暮らしの老人が多く、ボランティアの数が減る反面、仕事は依然残るため心配だ。」「各避難所では自治活動が進んでいる反面、避難先学校によって落差が大きい」＊24校の内、電気・ガス・水道が復旧している学校はまだ4校（12校は未回答）。自治組織について「住吉小・生活はきちんとしている（滋賀県教組）、高羽小・自治も機能している（奈良県教組）、二宮小・月水金が班長会議（神奈川高教組）、室内小・住民は落ち着いている（山梨県教組）、烏帽子・うまくいっている（北海道教組）」。

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：30～16：00
④活動内容
　連合あったか湯Bチーム（14名入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「テント2張りで2名の看護婦さんが来られたが、午後から1名になった。地域ボランティアで何とかしのいだが欠員のないように配慮を。かねてから要望の看護婦さんの早朝態勢が本日から対応ねがえました」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容　トイレ清掃、生活廃棄物処理等
⑤意見・感想
「本日初めて連合（自動車総連、日教組）と市の担当者、被災者、医療ボランティアの4者の合同会議を開いた。その結果、衣料の仕分けが必要となった」

自動車総連（報告者：遠井泰弘）Bチーム

①参加人数　19名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：45～17：00
④活動内容　物資搬出・搬入、仕分け
⑤意見・感想
「搬入作業の減少で手待ち時間が少しでてきた。このため明日は会下山小に3名移動し、衣料の仕分け作業にあてたい」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：15
④活動内容
　郵送のり災証明書の受付事務処理・郵送のための処理（1,017通）・区役所内外の人員の整理・誘導
⑤意見・感想
「部屋の空気が大変悪いため、うがい薬が必要。連合に対して区側から3月末か、できたら4月上旬まで、25人から30人規模の支援を引き続きお願いしたいとの要請あり」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容　風呂サービス・夕食配給、グランドの清掃
⑤意見・感想
「風がかなり強かったので心配した。女性ボランティア2名が来てくれて本当に助かった」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　8：40～17：00
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給水）
⑤意見・感想
「昼食に自治会本部で肉ジャガとあったかいご飯をごちそうになった。ひさしぶりなので、大変おいしかった。中古の掃除機は自治会で調達したとのこと」

ゼンキン連合（報告者：大野弘二）

①参加人数　14名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　11：30～15：30
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム、入浴女性4名、男性1名
⑤意見・感想
「本日、午前中のスケジュールが空いた。在宅等の活動ができればよかった。スキナベープ10ケ、消毒用エタノール5ケ必要」

生保労連（報告者：佐田　真）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～20：00（泊まり込み）
④活動内容
　食糧の搬入、仕分け、配給、トイレ清掃、電話・診察室受付
⑤意見・感想　特になし

連合東京（報告者：大井昌夫）

①参加人数　５名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車等、避難場所となっている全室と廊下、階段の避難者在籍実態調査を２名で１日行う）
⑤意見・感想
「無届けの入退者が多く、正確な数が不明のため在籍実態調査を聞き取りで行ったが、避難所の実態を見る事ができたことと避難者１人１人と話ができて有意義だった」

私鉄総連（報告者：飯田）

①参加人数　２名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　６：00～20：00（泊まり込み）
④活動内容
　食糧の搬入・仕分け、配給、トイレ清掃、まき割等
⑤意見・感想　特になし

阪神大震災復興支援

素敵なカレンダーをどうぞ

仮設住宅１万３千戸へプレゼント

●紙パ連合が提供

神戸市では被災した方のために１万4,700戸の仮設住宅を現在建設しており、すでに1,200戸分の入居が済んだ。そこで紙パ連合では新しい部屋に入居される方に今年のカレンダーを贈ろうと計画・市の災害対策本部仮設住宅係と連携して30,000部を配ることがきまった。

どの被災者も家が倒壊したり、焼失してカレンダーをもっておらず、紙パ連合のこのプレゼントは大いに喜ばれそうだ。

配布は３月10日から12日の間におこなわれる仮設住宅当選者への鍵受け渡し日に会場で配る方法をとる。なお、第１次分の残りは1,470戸、第２次分が12,000戸（３月25日抽選）となっている。

カレンダーは新王子製紙労組の協力で同社米子工場から出荷される。

連合あったか湯につよーい味方登場！

お年寄りや身体の不自由な方に大人気の「連合あったか湯」だが、裏方のスタッフの苦労は大変なもの。市営住宅の４Ｆまでお風呂セットを持ち運んだり。果ては「山の上までお湯を運び上げた」：造船重機労連高橋さん（談）など話はつきない。また、大鍋をプロパンガスで沸かすのも結構時間がかかる。

そこで登場したのが「お湯供給車」だ。在宅入浴専門につくられた車で、福祉関係で利用されているという。この車は造船重機労連傘下の三菱重工労組神戸造船所支部が、今度の災害救援のため岡山の福祉団体から借りていたもの。

この車の威力は瞬間湯沸器と同じで瞬時にお湯を提供でき、しかも２階まで給湯する能力があるから頼もしい。

連合あったか湯に配備される給湯車は２台。当面兵庫高校に常設してあるお風呂用として活用することにした。

1995年３月３日（金曜日）No.30

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月２日）報告より

（会議参加組織）
連合兵庫、日教組、自動車総連、造船重機労連、ゼンキン連合、連合東京、情報労連、自治労、連合広島、合化労連、（文書報告）生保労連、私鉄総連、連合富山、鉄鋼労連兵庫、電機連合兵庫

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Ａチーム

①参加人数　７名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　８：30～19：00
④活動内容
　トイレ清掃、生活廃棄物処理、衣料の仕分け・配給準備
⑤意見・感想
「本日はチーム全員が残業して子供服関係（ダンボール80個程）の仕分けを完了させる予定。明日の汚物入れ到着後の設置に向けたトイレの落書き消し及びワープロによる使用方法書き作業をおこなった。自動車総連は３月４日14時で撤収するので、引き継ぎを含めた打ち合わせをしたい。仕分け作業効率化のためダンボール箱30個の手配を」

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Ｂチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容　物資搬出・搬入、仕分け
⑤意見・感想
「ノート２万冊搬出。市の学用品センターから２ｔ車搬入および搬出に向けての積み置き作業をおこなった。引き継ぎ対応を。３月５日以降は搬入が落ちつくため３～４名程で対応できるのではないかと現場サイドでは考えている」

ゼンキン連合（報告者：栗原政利）

①参加人数　12名

②活動場所　摩耶兵庫高校
③活動時間　9：00～15：30
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム（入浴女性２名）
⑤意見・感想
「摩耶兵庫高校は校舎外壁改修のため、あったか湯設置のスペースがなくなった。責任者の教頭先生から巡回スケジュールを外してほしいとの要請あり」

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　8：30～16：00
④活動内容
連合あったか湯Ｂチーム（11名入浴・在宅対応）
⑤意見・感想
「男１名、女８名、小学１年と２年生の女の子が入浴。入浴の事前打ち合わせをしたが、入浴者の諸状況等についてのチェックおよび態勢不備が感じられた」

生保労連（報告者：赤羽勝弘）

①参加人数　６名。ｐｍ２以降３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～20：00（泊まり込み）
④活動内容
食糧の搬入、仕分け、配布、トイレ清掃、電話・診察室受付
⑤意見・感想　「引き継ぎをよろしく」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容
郵送のり災証明書の受付事務処理・郵送のための処理、人員の整理・誘導
⑤意見・感想　「連合兵庫から16名応援あり」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　風呂サービス・夕食配給等
⑤意見・感想
「弁天温泉105名、あったか湯５名の入浴者あり。介護・ヘルパーの方にまとまった休憩時間をとってもらうため女性ボランティアの派遣を」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　７名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　8：40～17：00
④活動内容
避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給水）
⑤意見・感想
「今日の炊き出し（八宝菜、ごはん）には陶器の食器を使った。教室内には持ち込まないでと言ったが、持ち込んで返さない人もいた。食器類は自治会当番や各自で洗った。ゴミ回収のボランティアがあり、３日連続ゴミ回収ができた。ゴミ当番も自治会できまったとのこと」

連合東京（報告者：大井昌夫）Ａチーム

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車等）
⑤意見・感想
「仮設浴場（５人×３室）の清掃、テント張り、待合い所設置。体育館を空けるため避難者80人が教室へ引っ越した。学校及び民間ボランティア事務局から連合に物資の要請あり」

連合東京（報告者：鈴木光男）Ｂチーム

①参加人数　４名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　泊まり込み
④活動内容
避難所支援（食事配給、下水の泥撤去作業、夜警等）
⑤意見・感想
「学校ボランティアのリーダーから夜警廻りの継続を訴えられる。担当が３月６日までなので大変気になる。被災者の自立に向けた総合的な対策が不明確だ。ただ与えられた仕事をこなしているというのが現状だ。私たちのアプローチが弱いのかもしれない。新鮮な野菜など被災者にはバランスのとれた食事が必要では」

連合富山（報告者：中川弥寿雄）

①参加人数　３名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、夜警、衣類の配給
⑤意見・感想

「毎日１～３人の派遣を。女性の下着と生理用品を」

日教組（報告者：村井謙一）

①参加人数　75名
②活動場所　平木小学校他25校
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物質搬入等）
⑤意見・感想
「学生ボランティアが３月中旬の撤収を通知（高羽小：奈良教組）、１日剣玉をやる。子供たち20名が集まる（高取台中：岡山県教組）、外部から来た者がトラックで物資を持ち去るのを住民が見たらしい（須佐野中：東京教組）、避難者の名簿を確認（若宮小：熊本高教組）、まもなくガスが復旧するといわれた（菊水小：福岡県教組）、避難所となっている教室を少しずつ空けてもらい新入生受け入れ態勢を準備。教職員は両方に対応（県立長田高校：神奈川高教組）、第２次仮設住宅申請の手続き補助。長期ボランティアが疲労のせいかイライラしている（湊川多聞小：神奈川県教組）、食事の世話が中心。生徒に話をすることに。14日に卒業式が終わり次第、体育館を取り壊すため避難者の移動の作業に入る（北海道教組）。授業が再開されつつあり、避難校の教職員は授業と避難所の仕事と両方になり大変だ」

私鉄総連（報告者：飯田）

①参加人数　２名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　まき割、給湯、夜警等
⑤意見・感想　「連続勤務はきつすぎる」

鉄鋼労連兵庫県本部（報告者：酒井行雄）

〈３月１日分報告〉
①参加人数　７名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　９：00～21：00
④活動内容　仮設風呂の管理・運営
⑤意見・感想
「お風呂が初めてでもあり大変喜んでいただいた。85名入浴（女性）。排水が悪い」
〈３月２日分報告：入浴者100名男性〉

電機連合兵庫地方協議会（報告者：藤井由光）

〈３月１日分報告〉
①参加人数　４名
②活動場所　グリーンピア三木
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　救援物資の仕分け作業
⑤意見・感想　特になし
〈３月２日分も同じ〉

電機連合兵庫地方協議会（報告者：藤井由光）

〈３月１日分報告〉
①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　り災証明発行手続き支援
⑤意見・感想　特になし
〈３月２日分も同じ〉

1995年３月４日（土曜日）No.31

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月３日）報告より

（会議参加組織）
連合東京、連合兵庫、日教組、自動車総連、ゼンキン連合、情報労連、自治労、連合広島、合化労連、私鉄総連、（文書報告）生保労連、造船重機労連、電機連合兵庫、全国医療、労医連

「連合あったか湯」をありがとう

３月２日（木）板宿小学校で「あったか湯」に入浴した２人の姉妹からお礼がよせられました。当日「あったか湯」を担当したＢチームの高橋（造船重機労連本部）さんが書いた活動報告を引用してご紹介します。

頑張れ！みほちゃん、のりちゃん

溝渕みほちゃんは板宿小学校の１年生。震災で受けたショックからか言葉に多少の障害が感じられ、お姉ちゃんののりちゃんと二人でないとお風呂にはいれないとか。

でもお風呂から出てきた後のみほちゃんの笑顔と光った瞳。二人は我々の胸のプレートの名前を一人ひとりノートに書き、バイバイ！バイバイ！っていいながら大きく手を振って帰っていった。

しばらくすると二人が息を切らせながらまた「あったか湯」のテントにもどってきた。手には可愛らしいメモが握られており、それをテントにそおっと置くとまた何回も何回もバイバイ！バイバイ！と言いながら手を振り、かけて行った。

みほちゃんとのりちゃんがんばれ。走り去っていく姉妹の後ろ姿が今も目に焼き付いている。

造船重機労連　高橋一登貴

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　18名
②活動場所　兵庫区役所

③活動時間　8：30～17：10
④活動内容
　郵送のり災証明書の受付事務処理・郵送のための処理、人員の整理・誘導
⑤意見・感想
「増員してほしいと区側から要請あり。連合としては行政への支援そのもののあり方について慎重かつ早急に議論する必要がある。配置や人数についても継続している活動の中で十分把握して必要な配置をすべき」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　風呂サービス・夕食配給等
⑤意見・感想
「作業の連合広島への引き継ぎ完了。4日に撤収。ありがとうございました」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　8：40～17：00
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯、鉄板焼き台づくり）
⑤意見・感想
「昼に炊き出し（桃の節句のため寿司）に長蛇の列。給湯車が届いたが温度が50度のため飲料、湯たんぽに利用できず。そのためあまり需要がなかった。給湯車の需要は洗面など朝早くと思われるので4日から7時作業開始とした」

連合東京（報告者：大井昌夫）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車等）
⑤意見・感想
「仮設浴場のシミュレーション。ひな祭りなので雛あられ配り。体育館引っ越し後の清掃。名簿作成。一部だが配給パンを廊下に投げ捨てる傾向あり。自立を助けることが自立の妨げにならなければと思う」

連合東京（報告者：鈴木光男）Bチーム

①参加人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（食事配給、下水の泥撤去作業、夜警等）
⑤意見・感想
「昨日のスタッフ会議で『連合はいつまで協力してもらえるのか？』という質問がでた。早急に検討を。教頭やボランティアリーダーから最低2名の夜警継続の要望あり」「被災者の自立とは何か。いろいろ形態はあるが被災者が学校からいなくなることでは……とリーダーが延べていた。アイスボックスが必要」

私鉄総連（報告者：井田和子）

①参加人数　1名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　15：00～16：30
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「リュウマチの方1人入浴してきた。はじめは介護が必要かと思ったが、弁天温泉にはいったため、湯舟の入出時、洗う時などを手伝った」

日教組（報告者：村井謙一）

①参加人数　75名（兵庫県教組は別）
②活動場所　平木小学校他25校
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物質搬入等）
⑤意見・感想
「テレビ室兼図書室だがほとんどが雑誌。本が入ればとても良い（平木小：大阪教組）連合三重の本置ける。学生ボランティア6人が3月中旬になるといなくなり、奈良だけになる。支援要請あり（高羽小：奈良教組）PM1～2はこどもたちの相手。本があれば良い。低学年用が喜ばれる（小野柄小：茨城県教組）自治組織がしっかりしていて他のボランティアがいない（須佐野小：東京教組）連合三重の本ほしい。本棚は小さい方が良いと教頭先生言う（若宮小：熊本県教組）プレハブ校舎建設中、5日に完成。授業はしている（菊水小：福岡県教組）朝パン、昼は朝の残り。夕は弁当。小学生は10数名（県立長田高校：神奈川高教組）避難者136人に減る。5日合同慰霊祭。本の受け入れ校長OK（湊川多聞小：神奈川県教組）朝・昼パン。夕は弁当。ごくたまに炊き出しあり（室内小：山梨県教組）報告なし（会下山小：千葉県教組）本置く場所なし（渦が森小：大分県教組）本相談してから連絡（北海道教組）」

生保労組（報告者：赤羽勝弘）

①参加人数　3名

②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想　特になし

電機連合兵庫地方協議会（報告者：藤井由光）

①参加人数　10名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容　り災証明発行手続き支援
⑤意見・感想　特になし

ゼンキン連合（報告者：栗原政利）

①参加人数　11名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　9：00～15：30
④活動内容
　連合あったか湯Ａチーム（入浴男性４名、女性１名）
⑤意見・感想
「本日、お風呂のお湯を自衛隊よりいただき、スムーズに活動ができた。自衛隊では声をかけていただければ協力してくれるそうだ」

造船重機労連（報告者：三浦、高橋）

①参加人数　12名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　8：30～15：30
④活動内容　連合あったか湯Ｂチーム（11名入浴）
⑤意見・感想
「自衛隊がお風呂をセットしていることから湯わかしの間に合わない場合の対策としてお湯を分けてもらえるよう交渉。了解をもらった。約300ℓいただいた」

全国医療（報告者：川上敦子）

①参加人数　１名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：15～16：00
④活動内容
　連合あったか湯介護、女性風呂湯調整、そうじ
⑤意見・感想
「足し湯作業などは入浴している方にも手伝いを頼んではどうか。水銀血圧計が必要」

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Ａチーム

①参加人数　７名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～18：00
④活動内容
　トイレ清掃、生活廃棄物処理、衣料の仕分け・配給準備
⑤意見・感想
「衣料仕分けは８割方完了。順調にいけば明日より被災者に配給できる。連合三重からの本はあった方がよいと思う。単行本が喜ばれるのでは」

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Ｂチーム

①参加人数　14名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～18：00
④活動内容　物資搬出、仕分け
⑤意見・感想　「本日は外部からの搬入なし」

合化労連（報告者：堀口　久）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入・配給）
⑤意見・感想
「連合三重の本の件だが、校舎の出入口にダンボール箱があり、50冊前後の本あり。本を探している人を１人見た。体育館には本を置くところなし」

合化労連（報告者：下平光良）Ｂチーム

①参加人数　８名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　9：00～15：30
④活動内容　あったか湯Ａチーム
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：堀口　久）Ｃチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入・配給）
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：中川庄司）Ｄチーム

①参加人数　５名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00

④活動内容　り災証明手続き関係支援
⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：中川庄司）Eチーム

①参加人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援（夜警、食事配り等）
⑤意見・感想
「子供達とのコミュニケーションを取っている。連合三重の本の件は進めてほしい。教頭先生と連携を取っている」

造船重機労連兵庫地協（報告者：田淵幸弘）

①参加人数　6名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容　り災証明手続き関係支援
⑤意見・感想　特になし

連合広島（報告者：川本秀夫）

①参加人数　10名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　7：30～17：10
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「弁天湯145名入浴。あったか湯4名。給湯車が配備された」

1995年3月5日（日曜日）No.32

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月4日）報告より

（会議参加組織）
連合広島、連合兵庫、日教組、情報労連、連合東京、合化労連、私鉄総連、造船重機労連、全国医療、（文書報告）自動車総連、ゼンキン連合

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　72名（兵庫県教組は別）
②活動場所
平木小学校など24校（神戸市内19校、市以外5校）
＊なお、兵庫県教組を含むと計40校
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物資搬入等）
⑤意見・感想
「今後の課題：避難所ごとに自治組織がしっかりしているところ、難しいところなど違いがあるが、しっかりしているところでも自治組織リーダーが自分の家のことをしなくてはいけないので抜けている状況にある。また、高齢者が3分の1を占める湊川多聞小では自立までは大変な状況だ。
仮設校舎も建てられてきているが、避難者の自立と学校の平常時回復に向けた行政・県教委・ボランティアの任務などを明確にしていく「場」の設定も必要になってくる。各避難所の実態調査の結果をもとに対応を議論していく必要があると思う。
現場教職員の方も授業再開に向けた課題を解決していく一方、ボランティアが減る中で業務が重なってくる事も予想される。
単純なボランティアの延長だけでは済まされない状況になっている。」
（各校報告）
「避難者は180人程度。数日前より水が出るようになったが、水質検査を待って飲料用へ（平木中：大阪教組）。学生ボランティアが3月中旬に引き上げたい旨出されたが、自立を促すことを相談し、避難者に説明。一定の自立の方向性は理解されたが継続課題。6日仮設教室作り（高羽小：奈良教組）。比較的落ち着いている（小野柄小：茨城県教組）。避難者は80人程。体育館から移動してもらい3教室にした。6日から6時間授業（高取台中：岡山県教組）。避難者の自主的な活動が活発（須佐野小：東京教組）。5日からの引き継ぎ終わり。本・本棚の件よろしく（若宮小：熊本県教組）。4月以降のボランティアを心配している。本は不要（県立長田高校：神奈川高教組）。自治組織あるが、自立は大変。10日以降仮設住宅入りで変化あり（湊川多聞小：神奈川県教組）。仮設校舎設置予定。他のボランティアとの分担明確。避難者の自立と授業平常化に向けて校長と話す必要あり（室内小：山梨県教組）。仮設風呂ができたが誰が管理するのか課題。下着の配給必要（会下山小：千葉県教組）。体育館に避難者60名。他のボランティアとの分担は明確。6日より授業6時間に（渦が森小：大分県教組）。大学生ボランティアがいるが、3月末まで。自治活動はしっかりしているが役員が自分の家のことで抜けている（北海道教組）」

私鉄総連（報告者：井田和子）

①参加人数　1名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　9：30～14：00
④活動内容　連合あったか湯Aチーム
⑤意見・感想　「2人1チームで介助は4人」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　18名

②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　9：00～17：10
④活動内容
　郵送のり災証明書の受付事務処理・郵送のための処理再発行のデータベース化、現地確認のため区職員と現地へ行く、り災証明書の地図焼き転記作業
⑤意見・感想
「連合兵庫から24人参加。予定の4倍の参加で作業の手配が大変。調整が必要。区の職員は監督業務とだけ考えている。先頭に立ってやるべきだ。テントが窓口。来る方のために公園にたった」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　風呂サービス・夕食配給等
⑤意見・感想
「本日で撤収。後をよろしくお願いします」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　7名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：20
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）
⑤意見・感想
「給湯車は朝の需要が多い。車を使ってマキ用の材木を運んだ。効率的だ。夕食時に広島よりうどんの炊き出しあり。今日から淡路島に1泊旅行に250名が行った」

連合東京（報告者：大森栄司）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：00
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車等）
⑤意見・感想
「全ボランティアが参加した会議で先任で撤収する連合東京の大井さんに感謝のあいさつあり。連合の努力で早い時期に環境整備できたと学校側も感謝している」

連合東京（報告者：鈴木光男）Bチーム

①参加人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（食事配給、下水の撤去作業、夜警等）
⑤意見・感想　「再度夜警継続の要望あり」

造船重機労連（報告者：三浦、山本）

①参加人数　11名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　8：30～15：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム（7名入浴）
⑤意見・感想
「入浴終了後、1名来た。小学校の担当者との入浴時間の調整不足（時間の間違い）。事前に自分たちの宿舎で朝、お湯をポリタンクに5～6杯用意しているため到着後の準備が非常に早くなった」

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：30～13：00
④活動内容
　トイレ清掃、生活廃棄物処理、衣料の仕分け。
＊11時からボランティアと自治会との合同会議
⑤意見・感想
「トイレの汚物入れを含む正常化作業は本日よりスタート。避難者に喜ばれている。自動車総連は本日をもって活動を終了させていただきます。長い間我々の活動がスムーズに行えるよう調整にご尽力いただいた連合及び連合兵庫さらには連合の仲間の皆さん、本当にありがとう。1日も早くあの美しい神戸が甦りますようボランティア一同祈念します。がんばれ神戸！　がんばれ連合！」

自動車総連（報告者：遠山泰弘）Bチーム

①参加人数　18名
②活動場所　中央体育館
③活動時間　8：30～13：30
④活動内容　物資搬出・搬入、仕分け
⑤意見・感想
「本日をもって撤収します。長い間大変お世話になりました」

合化労連（報告者：堀口　久）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入・配布）
⑤意見・感想　「5日12時に引き継ぎ予定。よろしく」

合化労連（報告者：中川庄司）Bチーム

①参加人数　16名
②活動場所　東灘区、長田区
③活動時間　8：45～17：00

合化労連（報告者：斉野　明）Cチーム

①参加人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊り込み
④活動内容
　避難所支援（夜警、食事配り等）
⑤意見・感想
「当面2名は必要。物資運搬用としてハンディキャスターを」

連合広島（報告者；境　和幸）

①参加人数　11名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　7：30～17：40
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「弁天湯男性48名、女性66名入浴。あったか湯5名。出前入浴1名。介護入浴には浴槽が3つあるがピーク時でも2つだけの使用となっている。介護士からの意見は設備がもったいないので他でも利用できないか、とあった。赤ちゃん用清拭剤が足りない」

ゼンキン連合（報告者：栗原政利）

①参加人数　11名
②活動場所　灘区、長田区
③活動時間　9：00～17：30
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム（入浴男性1名、女性3名）
⑤意見・感想
「入浴希望の方が不在で困った。引き継ぎ終了。ゼンキン連合は本日をもって撤収しました。皆さん頑張ってください」

1995年3月6日（月曜日）No.33

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

兵庫県南部地震避難所実態調査　報告「速報」

避難者数81,163人、避難所412ケ所

被災から1カ月を経て、当初神戸市内600カ所といわれた避難所の実態も随分変わってきた。連合現地対策本部では、今後の復興支援のあり方を検討する上でその実態を的確につかむため市内すべての避難所を対象とした調査を実施した。全避難所を歩いて聞き取り調査した内容は6日に速報という形でマスコミ発表するが、行政も含め、1月28日以降、このような規模の調査は例がなく各方面から注目されている。

◆調査要領◆

○調査期間　2月23日～25日
○調査人数　150人（のべ）
○調査地域　神戸市全域
○対　　象　全避難所

項　目	数	コ　メ　ン　ト
避難所総数	412ケ所	
避難者数	81,163人	避難所宿泊のみ
給食準備食数	105,372	周辺から来る為
避難所規模	1人～1,800人まで	
	震災直後から大きく変化	
自治組織あり	243ケ所	避難所の中
ボランティア組織	225ケ所　1,697人　248団体	
	学生など新学期のため3月上旬に漸次撤退方向に	
避難者名簿	341ケ所	
	内、50音順名簿は155ケ所	
体育館で宿泊	114ケ所（間仕切あり34ケ所）	
断冷敷物配布	120ケ所	高齢者の身体には
	厳しい寝床になっている	
医療体制あり	304ケ所	常駐・巡回合わせ
給水関係	給水車から水道へ回復中（排水が悪い　101ケ所）	
仮設風呂	自衛隊59ケ所、支援62ケ所	
物資ストック	有り156ケ所、無し105ケ所	
1,000人越える避難所数	13ケ所	
避難所内訳(A)	小学校　93校・大　学　3校 中学校　38校・会　館　67ケ所 高　校　21校・公　園　30ケ所 保育所　27ケ所など	
避難所内訳(B)	教　室 173ケ所・部　屋　40ケ所 テント　81ケ所 廊　下　40ケ所 会議室　20ケ所	
公園避難者	2,627人	ボランティアテント多

〈その他コメント〉
◦古着は滞貨している。
◦届く食べ物は冷たく固い。
◦ビラの洪水、正確な情報の不足
◦睡眠環境は劣悪。
◦プライバシー保護が希薄な設備

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月5日）報告より

■5日現在連合ボランティア参加者数（延べ）30,580人

（会議参加組織）

連合広島、連合兵庫、日教組、情報労連、連合東京（Aチーム）、合化労連、私鉄総連、造船重機労連、全国医療、航空同盟、（文書報告）連合東京Bチーム、全逓兵庫地区本部但馬支部

連合広島（報告者：境　和幸）

①参加人数　38名（連合広島11名）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　7：30～17：30
④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯
⑤意見・感想

「弁天湯男性86名、女性87名入浴。あったか湯6名入浴。本日は白浜湯が女湯に片寄って入湯されたため、女湯は熱くて入れず、逆に男湯は湯が少なかった。また、あまりに入浴者が多いため弁天温泉は午後2時で湯切れになり、スタッフはお湯確保のためてんやわんやだった。しかし、充実感あふれる1日だった。地域に密着して在宅障害者のケアー活動をしているCRウェストという団体の代表小笠原さんから『連合あったか湯を宣伝したい。障害者の情報を連合に入れるので協力をお願いしたい』旨の申し入れあり。当方は快諾。7日兵庫中の障害者5名が入りたいとの予約を受けた」

連合東京（報告者：大森栄司）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：00
④活動内容

避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬入・出、貸自転車、仮設風呂準備）

⑤意見・感想

「避難者同士の人間関係が少しきしみはじめているようだ。問題のある人は踊り場に寝ている。炊き出しをしたら半分以上が外の人だった」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　17名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　13：00～15：00
④活動内容

区側から明日からの作業について説明あり。

⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　6名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容

避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）

⑤意見・感想

「プール内の固定テントに洗濯物の干し場を設置」

私鉄総連（報告者：井田和子）

①参加人数　1名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　12：00～16：00
④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯
⑤意見・感想

「3人予定だが2人キャンセル。1人はスタッフの集合時間前に早めに入浴した」

造船重機労連（報告者：山本宏幸）

①参加人数　13名（造船10名）
②活動場所　灘区在宅湯
③活動時間　10：00～13：00
④活動内容　連合あったか湯Bチーム
⑤意見・感想

「在宅で入浴した川上さんというおばあちゃんから大変感謝された」

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　69名
②活動場所

平木中学校など23校（神戸市内19校、市以外4校）（兵庫教組は別途16校）

③活動時間　現地宿泊
④活動内容

避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物資搬入等）

⑤意見・感想

「日教組現地対策本部では5日、第2次支援（期間3月31日まで）に向けて24校に入った。避難所では活動内容の引き継ぎ・注意事項の徹底の他に教頭や校長、ボランティアリーダーとの話し合いを行った。その中でお年寄りの比率が多くなっている。仮設住宅も作られているが、避難所の方がいいという人もいる。

今後、高齢の避難者を一つの場所に集まってもらうとか、行政の中に避難所対策課を設けるなど、機能的にする必要がある。心のケアーをする職員が入っているが、文部省や厚生省からも来て同じことを聞いている。非効率だ。ボランティアが減っていくなかで通常業務をやりながらさらに夜間警備が増えると教職員の身体がもたない。行政としてのシステムの確立を要望している。などの意見・要望が出された」

（各校報告）
「ボランティアが炊き出しをする場合は、突然来ないで事前に連絡して打ち合わせてから避難所に来るようにしてほしい。早い頃から校長のもとで自治組織が確立され、ボランティアリーダーの下でうまく活動している（上野中：大阪教組）。避難者自らが動くように考えているが、ボランティアの支援は大変助かる。それだけに４月からが不安だ。６日に職員でボランティアのこと、自立について、今後のことなどについて話し合う予定（高羽小：奈良教組）。炊き出しの人が足りない時は手伝っている（福住小：大阪教組）。宿直・風呂を担当（二宮小：神奈川高教組）。下着がやはり不足（会下山小：千葉高教組）、避難者60名。今日１世帯が出ていった（渦が森小：大分県教組）」

合化労連（報告者：堀口、平山）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入）
⑤意見・感想
「本部が３Ｆにあり、物資をそこで配布している。お年寄りは階段を上がって取りに行くことになるので、中には下着１枚手にいれられない方がいる」

合化労連（報告者：中川庄司）Ｂチーム

①参加人数　10名
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　８：15～17：00
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム（６名入浴）
⑤意見・感想
「１名は高血圧のため、医師・看護婦立ち会いで入浴してもらった」

合化労連（報告者：斉野、五十嵐）Ｃチーム

①参加人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（夜警、食事配り、物資仕分け等）
⑤意見・感想
「炊き出し用調味料が不足している」

全逓兵庫地区本部南但馬支部（報告者：山下祐一）

〈３月３日分報告〉
①参加人数　４名
②活動場所　灘区友田町、大石町、肥後町
③活動時間　９：30～17：00
④活動内容　給水活動支援
⑤意見・感想
「マイクを持って地域に給水のお知らせ活動。宿泊のつもりで来たが、日帰りとなった」

全逓兵庫地区本部南但支部（報告者：谷元　誠）

〈３月４日分報告〉
①参加人数　４名
②活動場所　灘区
③活動時間　９：00～16：30
④活動内容　給水活動支援
⑤意見・感想
「自衛隊の給水車が来たことを地域に知らせる活動。灘区には水が出ているところもあった」

特別放出！　連合バザー大繁盛

６月午後１時から兵庫区役所広場で「連合バザー」を開き、多くの被災者が詰めかけ、２時間足らずでほとんどの品物がなくなった。

物資は大阪のある労組から提供されたもので編上靴・半長靴・短靴などの安全靴類、作業服一式、軍手、軍足など多数。いずれも新品で、他に洗剤や石鹸なども配布した。

このバザーに電機連合、運輸労連、交通労連、全日塗、連合本部など合計12人が参加。バザー品はオール100円で飛ぶように売れ、売上金は全部で７万2020円になった。現地対策本部ではこの売上金を「連合あったか湯」で使う衣類や入浴剤等の購入に当てることにしている。

1995年３月７日（火曜日）No.34

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月６日）報告より

■６日現在連合ボランティア参加者数（延べ）31,711人

（会議参加組織）
連合広島、連合兵庫、日教組、情報労連、連合東京（Ａチーム）、合化労連、私鉄総連、造船重機労連、全国医療、航空同盟、交通労連、（文書報告）連合東京Ｂチーム、私鉄総連

連合広島（報告者：境　和幸）

①参加人数　11名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：30
④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯
⑤意見・感想
「弁天湯男性48名、女性71名入浴。あったか湯４名入浴。

本日は白浜湯が休みのため２名が早朝６時から活動をした。ＣＲウェスト（ボ団体）の代表小笠原さんから連絡あり。地域でのあったか湯の宣伝に全力を尽くすとのこと。白浜湯を始めた西山コチエさんが来所、連合全員で元気なお姿に拍手した。兵庫県警の方が来てあったか湯をＰＲしたいとの申し出あり。その際、当方より県警に対し要請。内容は町内に住む小林さんという老夫婦のこと。ご主人の信勝さんがあったか湯にこられたが、その時下着も上着もドロドロであり、多分奥さんもヒドイ生活をされていると思われるので、ケアーを申し入れたがご主人に拒否されたのでフォローして欲しいというもの。避難所の仮設風呂の利用が減少傾向にあり。他も同じ様だ。銭湯が再開してきたからか。情報労連から女性ボランティア２名が合流した。入浴者が裸だけに力強い助っ人が来たと隊を上げて安堵」

連合東京（報告者：大森栄司）Ａチーム

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～17：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入）
⑤意見・感想
「第２次隊は交代。吾妻小よりクリーン作戦でよろしくお願いしたいとのこと」

連合東京（報告者：大森栄司）Ｂチーム

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～16：00
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入）
⑤意見・感想
「ボランティア・リーダーや学校関係者の対応がしっかりしており、被災者も食料配給や清掃など自主的に動き始めている。ボランティアが４月から５人程度になることを予想し、自治について段取りを検討しつつある。従って、連合としても３月いっぱいで夜警などを終わらせる段取りを学校と相談する段階にきていると思う。本日をもって第２次隊は交代します。連合本部、連合兵庫の皆さんのご健闘を祈ります」

航空同盟（報告者：二本木、山下）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容　り災証明書関係
⑤意見・感想　「リーダー同士の打ち合わせが必要だ」

造船重機労連（報告者：山本宏幸）

①参加人数　10名
②活動場所　Ａ班＝駒ケ林中、Ｂ班＝兵庫高校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯Ｂチーム
⑤意見・感想
「兵庫高校では入浴者の歓迎。駒ケ林中ではあったか湯の支援」

日教組（報告者：小野寺和巳）

①参加人数　55名
②活動場所
　平木中学校など23校（神戸市内19校、市以外４校）
（兵庫県教組は別途16校）
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物資搬入等）
⑤意見・感想
（各校報告）
「２人態勢だと食事配給などできつい。避難所には年配者が残りそうだ。最後の１人まで支援が必要だ。自治組織はしっかりしている。（平木中：滋賀県教組）避難者50人。避難所が体育館から視聴覚教室へ移動。自治組織はしっかりしている。（用海小：静岡県教組）食事の世話が中心。朝・昼がパンで夕方は冷たいごはん。お年寄が多く気の毒だ。自治組織はできていない。（高羽小：奈良教組）避難者は430人に減った。マニュアル本が事前にあれば安心だ。自治組織はしっかりしている。（福住小：大阪教組）朝10時の定時連絡はきつい。（日教組青年部）今日から体育の授業再開。昨日グランドを整備。今日の朝食は80食だが、避難者は60人。朝会での生徒の落ちついた表情に私たちも驚く。最後の１人まで避難者支援を校長が訴えた。（高取台中：岡山県教組）自治組織はしっかりしている。（原田中：千葉県教組）自治組織はしっかりしている。（須佐野中：長崎県教組）高齢者が多くなった。（若宮小：熊本高教組、熊本県教組）風呂の準備、食事の世話。避難者260人。学生ボランティアが３月半ばに撤収予定で、仕事が窮屈になりそうだ。３月末までにボランティアなしでいけるようにしたいと校長。（二宮小：神奈川高教組）自治組織はしっかりしている。夜警なし。愛知高教組が炊き出し。（佐賀県教組）校舎の２・３Ｆの自治は良い。２人なので暇がない。先生だけでもいいと声をかけている。避難者の70％は老人だ。譲り合い精神が必要。（菊水小：福岡県教組）避難者800人に。６教室を空けて午前中授業。（西郷小：大阪教組）避難者500人、減少傾向。スペースに余裕がでてきた。今日からグランドに仮設校舎建設始まる。自治組織はしっかりしている。（摩耶小：鳥取県教組）夜、学校を任されるのは……。（段上小：長野県教組）避難者320人弱に減る。ガスも部分的に復旧。自治組織なし。

（長田高校：神奈川県高教組）老人が多い。湯たんぽの世話。（西宮高校：東京・埼玉両高教組）避難者の人数集約不十分。（湊川多聞小：宮崎高教組）午後からの授業が今日から始まる。（室内小：山梨県教組）今日から自治労が入った。授業は午前中３時間。生徒の半分はいない。風呂の管理は自治会と相談してやりたい。自治会のリーダーが抜けて連携がうまくいかないので困る。（会下山小：千葉県高教組）運動場の亀裂にびっくりした。（渦ガ森小：大分県教組）異常なし。（北海道教組）
＊連合クリーン活動希望校７ケ所あり。

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　17名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容
　り災証明書の手渡し及び説明、証明書発行作業等
⑤意見・感想
「引継のため不慣れで若干明日に作業が持ち越しになった。人員配置にきめ細かい配慮と計画が必要だ」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　６名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～18：00
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）
⑤意見・感想
「自治会本部がしっかり統制をとっているので作業もやりやすい。また自治会で役割分担しており、ボランティアの作業範囲を考えないと、長くなるほど難しくなるのでは」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　14：00～16：30
④活動内容
　連合あったか湯、弁天温泉、女湯での給湯、浴槽そうじ等
⑤意見・感想　特になし

私鉄総連（報告者：渡辺泰州）

①参加人数　３名（自動車総連１名）
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所の支援
⑤意見・感想
「８日12時からそばの炊き出しボランティアがあるので応援をよろしく」

合化労連（報告者：平山　猛）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入）
⑤意見・感想　「引継をよろしく」

合化労連（報告者：横山　茂）Ｂチーム

①参加人数　15名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　９：30～14：00
④活動内容　連合あったか湯Ａチーム（２名入浴）
⑤意見・感想
「学校周辺で３月１日より銭湯が開業したため入浴者が減少。ただし、避難所に入って直接聞いたところ高齢者や視覚障害者、ケガ人など要介護者が６名程いた。あったか湯のＰＲと下見のため２日前から先方へ行ったほうがいいのでは。できればヘルパー、看護婦も一緒がいい。直接避難者に声をかける必要がある。理由はあったか湯の対象者は外にでたり、動いたりしないのでポスターなども見ないから。駒ケ林中では神戸協同病院から看護婦２名が来て清拭していた」

私鉄総連（報告者：井田和子）

①参加人数　１名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　８：30～15：00
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想　「２人入浴。１人は左足指骨折」

1995年３月８日（水曜日）No.35

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

阪神復興・連合クリーン作戦がスタート！
３月７日から31日まで

阪神大震災の復興に全力をあげて取り組んでいる連合現地対策本部では、被害を受けた阪神地域の生活環境改善の一助とするため、３月７日から得意の「連合クリーン作戦」を開始した。

初日となった７日は交通労連と連合三重が支援提供したトラック、宣伝カーなどの車両を動員。交通労連の仲間や連合兵庫の仲間たち11名で神戸市内にある二宮小学校と吾妻小学校のゴミを片づけた。吾妻小学校ではグランドにあっ

たゴミの山がきれいになくなり、学校や避難者、ボランティアから大変感謝された。このクリーン作戦への片付け要請も７日の段階ですでに避難所となっている６カ所の小学校から連合現地対策本部へ寄せられている。

実施要領は以下の通り

１、実施期間　３月７日から３月31日まで

２、対象地域　阪神地域とし、１日に２～３カ所

３、時　　間

午前９時に連合兵庫に集合。作戦計画の打ち合わせとチーム編成をおこなう。10時作業開始、15時終了。

４、メンバー

当面は１チームに車両２台を配置。１チームは交通労連８名と連合兵庫○○名で対応

５、作業内容

避難所の内外での通常ゴミ程度の処理・撤去。

ただし

◦ガラの処理はしない。

◦倒壊したとはいえ個人財産に類する物には手をつけない。

①避難所内では、避難所の責任者の許可を得る。居住区には立ち入らない。居住区外まで避難所の責任者（もしくはその指示のもとに）に移動してもらった生活ゴミを収集する。

②避難所外では空き缶、タバコの吸いがら、放置された生活ゴミとする。

なお、収集したゴミは処理場（中継基地）で処分する。

６、装備と機材

運搬車両（トラック２ｔ車、ワゴン車）、一輪車、熊手、箒、火箸、ゴミ袋、手袋、帽子、防塵マスク、タオル

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月７日）報告より

■７日現在連合ボランティア参加者数（延べ）32,176人

（会議参加組織）

連合山口、連合兵庫、日教組、情報労連、連合東京（Ａチーム）、合化労連、私鉄総連、全国医療、交通労連、（文書報告）連合東京Ｂチーム、私鉄総連、造船重機労連

連合山口（報告者：浜本久雄）

①参加人数

31名（連合広島、連合兵庫、連合東京、連合山口、情報労連）

②活動場所　兵庫高校

③活動時間　７：30～17：30

④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯

⑤意見・感想

「白浜温泉湯が男湯のみであった。バランスをよろしく伝達してほしい。女性ボランティアの増員を。明日、白浜湯がこない。弁天温泉の輸送を早めてほしい。できれば午前10時前に到着できないか。神戸市とは概ね11時頃入浴可で協議。あったか湯入浴７名。14時連合広島から連合山口へ引き継ぎ」

連合東京（報告者：大森栄司）Ａチーム

①参加人数　４名

②活動場所　吾妻小学校

③活動時間　７：00～17：30

④活動内容

避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入）

⑤意見・感想

「連合クリーン作戦部隊によりグランドに山積みされていたゴミの山が消えた。学校はもとより被災者やボランティアにも大いに感謝され、なおかつ連合の動きの早さにも驚いたようだった」

連合東京（報告者：今野　衛）Ｂチーム

①参加人数　２名

②活動場所　若菜小学校

③活動時間　現地泊まり込み

④活動内容

避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入）

⑤意見・感想

「被災者のみなさんを自立させ、この小学校に自治を築かせていく段階に入っている。この小学校はスムーズにいっている。今月末までにはすべてのボランティアが引き上げ被災者だけでやっていくとのこと」

造船重機労連（報告者：山本宏幸）

①参加人数　10名

②活動場所　新長田勤労文化センター

③活動時間　８：40～15：30

④活動内容　連合あったか湯Ｂチーム

⑤意見・感想

「入浴者11名。うち介護を必要とする方は７名。また１名の方は両下肢不全麻痺で付き添いの看護婦とヘルパーが介添えした」

日教組（報告者：中　康昌）

①参加人数　50名

②活動場所

平木中学校など23校（神戸市内19校、市以外４校）（兵庫県教組は別途16校）

③活動時間　現地宿泊

④活動内容

避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物資搬入等）

⑤意見・感想

（各校報告）

「ゴミの片付けを。連合クリーン作戦でやってほしい。

（平木中：滋賀県教組）ガス会社の作業あり。まだ復旧せず。避難所落ちついている。汲み置きの水がなくなりつつある。（用海小：静岡県教組）給湯は学校側で行う。登下校の指導。避難者で学校に戻ってくる人がいる。（福住小：大阪教組）避難者650人。午前中に授業。（日教組青年部）避難者200人。子供は３年のみ授業。１、２年生はできず。（原田中：千葉県教組）避難者200人。授業は４時間。（須佐野中：長崎県教組）避難者386人。教室がなく合同授業。ほとんどの子供が登校。（若宮小：熊本高教組、熊本県教組）風呂の配管が壊れて隣の倉庫に浸水した。朝礼始まる。児童による校内放送も始まる。（二宮小：神奈川高教組）避難者265人。（佐賀県教組）避難者110人ほど。老人が多く、教室から出てこない感じ。代表者会議が開かれた。（菊水小：福岡県教組）クリーン作戦はいつくるのか。（西郷小：大阪教組）グランドに仮設校舎が２教室分できる。（摩耶小：鳥取県教組）避難者は50人弱。自治組織は本格的ではないが食事など徐々に動きあり。（段上小：長野県教組）避難者400人に減る。食事は2000食近い。（長田高校：神奈川県高教組）避難者50人。（西宮高校：東京・埼玉両高教組）避難者135人。昨夜12時半頃、23～４才の女性が救急車で運ばれた。精神的ダメージから疲労が大きいようだ。自治会リーダーが入院。後継者を決める会議開くが決まらず。（湊川多菊小：宮崎高教組）体育館の後片づけ。午後１時間分の授業も増える。６割に減ったが子供達は元気だ。避難者は200人。今日は午後から地下室の掃除。自治会は自主的にやっている。（室内小：山梨県教組）風呂の運転は市職員と相談してになんとかできるのではないか。ボランティアの寝袋の下に敷くふとんが汚い。新しいのがほしい。（会下山小：千葉県高教組）避難者37人。子供1,000人中850人登校。（渦ガ森小：大分県教組）日曜日の引っ越しの後片づけをやる。月・水・金に代表者会議。（烏帽子中：北海道教組）

〈連合クリーン作戦への要望〉

◎来てほしい学校

摩耶小、西郷小、会下山小、室内小、高羽小、用海小、平木小

交通労連（報告者：乾　義徳）

①参加人数　７名
②活動場所　二宮小、吾妻小
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容　クリーン作戦の展開
⑤意見・感想

「避難所におけるゴミの処理・運搬。校長先生や日教組ボランティアの方に確認してもらいながらゴミをトラックに積み込む。要請学校の責任者には前日に事前連絡を。市環境局へ連絡して処理場への許可証発行の件よろしく」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　17名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：15
④活動内容

り災証明書の手渡し及び説明証明書発行作業等

⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　６名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～17：00
④活動内容

避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）

⑤意見・感想

「自治会本部の人と話すが行政の対応などにいろいろ不満がある。かなり疲れが出ているようだ」

情報労連（報告者：兼子義範）

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容

連合あったか湯、弁天温泉、女湯での給湯、浴槽そうじ等

⑤意見・感想

「雨でタクシーを利用したが迎えがほしかった。介護方法を教えていただき少しは憶えて帰れそうで、今後の活動に活かしたい」

合化労連（報告者：平山　猛）Ａチーム

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容

避難所支援（診療所受付、トイレ清掃、食糧搬入）

⑤意見・感想　特になし

合化労連（報告者：五十嵐康秀）Ｂチーム

①参加人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容

避難所支援（診療所受付け、トイレ清掃、食糧搬入）

⑤意見・感想　「引き継ぎをよろしく」

合化労連（報告者：横山　茂）Cチーム

①参加人数　17名
②活動場所　神港高校
③活動時間　10：30～15：40
④活動内容
　連合あったか湯Aチーム（男3、女1の計4名入浴）
⑤意見・感想
「男性3名中1名の方は人工透析週3回で聴覚障害者。奥さんも介助入浴されたが、3カ月も入浴されておらず、お尻に褥瘡の初期症状が見つかり、赤十字の治療を受けた。神港高校は水が出ないため兵庫高校からお湯を運んだが作業時間の短縮になった。連合広島の皆さんに感謝。神港で急患が発生し、垂水の病院へ当方の車で送ったため一部撤収が大幅に遅れた。人工透析の方は避難所生活で体力が持つか心配。今のところ良いが」

私鉄総連（報告者：井田和子）

①参加人数　1名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：30～11：30
④活動内容
　連合あったか湯（介助入浴1名。高血圧のためぬるめのお湯で入浴）
⑤意見・感想
「3日の午後から神戸に入り4日間、テレビで見るのとは違い、被害のすごさに驚いた。あったか湯も入浴介助をしたのは3～4人だが、ヘルパーさんや看護婦さんの仕事ぶりを見て大変勉強になった。常に入浴者に声をかけながら介助するなど『プロはさすがだな』と思った。本日で引き上げます。連合本部など他単産のみなさんにも大変お世話になりました。ありがとう」
⑤意見・感想
「3日の午後から神戸に入り4日間、テレビで見るのとは違い、被害のすごさに驚いた。あったか湯も入浴介助をしたのは3～4人だが、ヘルパーさんや看護婦さんの仕事ぶりを見て大変勉強になった。常に入浴者に声をかけながら介助するなど『プロはさすがだな』と思った。本日で引き上げます。連合本部など他単産のみなさんにも大変お世話になりました。ありがとう」

1995年3月9日（木曜日）No.36

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月8日）報告より

■8日現在ボランティア参加者数（延べ）32,640人

（会議参加組織）
造船重機労連、情報労連、日教組、連合東京（Aチーム）、交通労連、連合山口、連合兵庫、（文書報告）航空同盟、合化労連、自動車総連、連合東京Bチーム

造船重機労連（報告者：山本宏幸）

①活動人数　8名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　8：00～17：15
④活動内容　連合あったか湯　Aチーム
⑤意見・感想
「男4、女5の入浴者計9名。午後4時30分から会下山小学校のBチームの支援へ

造船重機労連（報告者：山本宏幸）

①活動人数　8名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　8：00～17：15
④活動内容　連合あったか湯　Bチーム
⑤意見・感想
「男2、女5の入浴者計7名。2チームに分かれたため、ガス台が1台となりお湯の供給に不安があったが、合化労連の横山チームが先にお湯を沸かしておいてくれたので非常に助かった」

航空同盟（報告者：二本木、山下）

①参加人数　2名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：15
④活動内容
　り災証明書の手渡し及び説明、証明書発行作業等
⑤意見・感想　特になし

連合クリーン作戦
●グランドの古釘退治はお任せ●

強烈！磁石マン登場

避難所となっている小中学校の悩みは体育授業再開で使用するグランドの整備。特に暖房用に廃材を燃やした焚火後から出る古釘は、小さくて拾い集めるのが大変だ。

この釘を簡単に集めるために連合現地対策本部で考案・製作したのが、直径10cm・厚さ1cmの特別製の強烈磁石（図参照）リングである。数は全部で20個。

磁石には紐がつけられており、クリーン作戦部隊の各隊員がこの紐を腰に付けて磁石マンに変身し、グランドを飛び回れば古釘がくっついてくる仕組みだ。

日教組（報告者：赤坂幸子）

①参加人数　51名
②活動場所
　平木中学校など23校（神戸市内19校、市以外4校）
（兵庫県教組は別途16校）

③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、物資搬入等）（各校報告）
（注）自＝は自治活動の進捗状況
◦給水所の後片づけ終わる。自＝しっかりしている。（平木中：滋賀県教組）
◦避難者は約60人。食事時には100人になる。今日は約20人が温泉旅行へ。ガス工事は継続。自＝しっかりしている。（用海小：静岡県教組）
◦クリーン作戦のゴミ収集で対策本部とボランティア、学校側との間で連絡不徹底。対応の改善の必要あり。（高羽小：奈良県教組）
◦避難者は350人。ボランティア団体の「アゾラ」が撤収。自＝しっかりしている。（福住小：大阪教組）
◦避難者は約650人。清掃などは避難者自身が手分けしてやっている。自＝非常にしっかりしている。（小野柄小：日教組青年部）
◦避難者は約70人。年配の女性が多い。５つの教室使用。リーダーは１人。（高取台小：岡山県教組）
◦避難者は約200人。食事250人。２、３年生は半々で授業。１年生は会社の部屋を借りて授業。校舎が１つ立ち入り禁止。夜は９時まで。トイレ半分だけ水ＯＫ。自＝非常によい。（原田中：千葉県教組）
◦避難者150～60人。一昨日から４時間授業。ガスの点検をやっている。（須佐野中：長崎県教組）
◦避難者392人。電話の取り次ぎなどいい雰囲気で話ができている。自＝しっかりしている。（若宮小：熊本高教組。熊本県教組。）
◦昨日のゴミ収集は突然で大変だった。シャワーがついたが調子が悪い。学生のボランティアが引き上げる予定。自＝徐々に。今日、今後について話し合う予定。（二宮小：神奈川県高教組）
◦豚汁の炊き出しあり。10日に劇団が入る予定。（佐賀・大分県教組）
◦代表者会議が開かれた。（菊水小：福岡県教組）
◦自＝しっかり機能。昼間は仕事にでかける人が多い。（西郷小：大阪教組）
◦夜のミーティングで今後の住民税の問題等が避難者の中から出された。（摩耶小：鳥取県教組）
◦今日は授業参観日のため清掃も念入りにした。北校舎は使えず、詰め込み状態で授業に。自＝夕食作りを当番制に。（段上小：長野県教組）
◦避難者300人に。物資に余裕が出てきた。避難者が減少して多少配給可能になった。（長田高校：神奈川県高教組。）
◦避難者50～80人。５つの町内会が順番に泊まり、自治活動を運営。（西宮高校：東京・埼玉両高教組）
◦食事の内容が一緒なので変化があれば……。今後のボランティア継続等問題あり。（湊川多聞小：宮崎県教組）
◦避難者は200人。シャワーの掃除や学内の掃除。地下室の掃除は大勢でやって楽しそうだった。自＝自主的にやっている。（室内小：山梨県教組）
◦避難者は400人。外のトイレの水が流れるようになった。職員室の工事。ゴミの収集が今日ある。自＝きちんとやっている。（会下山小：千葉高教組）
◦授業は９時開始の６時間。（渦ガ森小：大分県教組）
◦避難者約380人で、少しずつ減っている。校舎の取り壊しが中旬ころから始まる。今日、代表者会議開催。（烏帽子中：北海道教組）
⑤意見・感想
「二宮小学校で連合クリーン作戦について連絡ミスあり。明日の分については電話連絡だけでなく、直接出向いて徹底をはかった」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：10
④活動内容
　り災証明書の手渡し及び説明、証明書発行作業等
⑤意見・感想
「集合時間８時30分の周知徹底を。前々日までに参加者数（男女の内訳）があれば作業計画を立て易い。特に女性は苦情がくる作業につかせることはしたくない」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　６名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：30～17：00
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）
⑤意見・感想
「トイレの汚物入れを。女性トイレの数を早急に連絡する。救援物資ではのど飴が人気ある」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想
「自治が確立されており、運営できるよう努力されている。ボランティアは常時９～10名。ほとんど日替わりで交代。長い人で４～５日まで。１人リーダーがおり、メンバーが代わる度に説明している。毎日の交代は先生たちで５名程度の応援」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　２名

②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　あったか湯　Bチーム
⑤意見・感想
「介添えボランティアをすることにより、地域の人々と触れあい、ボランティアの意義と大切さを実感。人は人によって救われることはよく聞くが、この体験を活かしたい」

合化労連（報告者：横山　茂）

①参加人数　17名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　11：00～15：45
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「6名入浴。部分浴＝洗髪4名、内足浴1名。合化労連は本日で撤収。造船重機労連へ引き継ぎ」

交通労連（報告者：乾　義徳）

①参加人数　7名（連合兵庫6名）
②活動場所　会下山小、高羽小
③活動時間　9：00～15：00
④活動内容
避難所の不用品処理等クリーン作戦の展開
◦会下山小・2ｔトラック1台分
◦高羽小・2ｔトラック1台と軽貨物1台分
◦廃棄物：毛布、空き缶、布団、タタミ
⑤意見・感想
「事前に不用品の区分をお願いしたい。再度、運搬車両の進入許可証を」

連合山口（報告者：秋葉英雄）Aチーム

①参加人数　2名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想
「診療所受付業務は患者さんの大事なカルテを扱う重要な仕事であり、十分な引き継ぎ時間が必要。常時待機が必要。引き継ぎは早めに来てほしい。引き継ぎマニュアルを作成してほしい」

連合山口（報告者：浜本久雄）Bチーム

①参加人数
23名（連合山口、連合兵庫、連合東京、全国医療）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　7：30～17：30
④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯
⑤意見・感想
「本日白浜湯なし。弁天湯用タンクローリー車10時到着。運輸労連の方にはご苦労をかけた。入浴は弁天湯男51名、女83名の134名。15時以降に女湯に入浴者集中。あったか湯5名。入浴されたお年寄りの方（女性）が住居（12F）のタンス整理を希望。手伝いを出す。これからこの種の要望にどこまで応えるか」

連合東京（報告者：佐藤英道）Aチーム

①参加人数　3名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：15～18：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入）
⑤意見・感想
「入浴態勢が完備された。10日スタート予定。入浴作業に入ると女性の手が必要となるので関東ブロックへ引き続き女性の手配をお願いしたい」

自動車総連（報告者：渡辺泰州）

①参加人数　3名（連合山口）
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、物資搬出入、夜警）
⑤意見・感想
「あったか湯の利用者リストの作成。おそばの炊き出し準備」

全逓兵庫地区本部兵庫日逓支部（報告者：坂本宣一）

①参加人数　5名
②活動場所　灘区
③活動時間　9：00～16：30
④活動内容　自衛隊給水支援
⑤意見・感想
「給水をハンドマイクでお知らせした。水道が復旧している地区が多かった。意気込んで来た割に仕事がなく、しまりに欠けた」

1995年3月10日（金曜日）No.37

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（3月9日）報告より
■9日現在ボランティア参加者数（延べ）33,092人
（会議参加組織）
交通労連、造船重機労連、情報労連、連合東京（Aチー

ム）、日教組、連合山口（Aチーム）、連合兵庫、（文書報告）自動車総連、連合東京Bチーム、連合山口（Bチーム）

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：15
④活動内容　り災証明書の郵送分処理等
⑤意見・感想
「義援金の申請は増えている。13日から31日まで義援金の他に支払われる見舞金の口座振込用紙は避難所・区役所に配置予定。区側には見舞金について4月以降も区の窓口で受付する考えがあるとのこと」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　6名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）
⑤意見・感想
「学生ボランティア、自治本部、連合で意見交換。自立を促すためにもボランティア団体は3／19で全部引揚げることの伝達を要請」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想
「避難所受付態勢は20：00～23：00までの時間帯は避難している人で運営するらしい。避難者全員の投票で運営委員13名を選出、その人達を中心に運営。自立の方向に向かいつつある」

情報労連（報告者：金沢俊治）

①参加人数　2名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　9：00～14：00
④活動内容　あったか湯
⑤意見・感想

交通労連（報告者：寺川　聡）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　灘区、摩耶小、西郷小
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
避難所の不用品処理等クリーン作戦の展開
◦2ｔトラック各2台
◦西郷小・焼却炉の中まで作業。午後Bチームと合流

交通労連（報告者：寺川　聡）Bチーム

①参加人数　2名（連合兵庫4名）
②活動場所　須磨区役所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
避難所の不用品処理等クリーン作戦の展開

日教組（報告者：三代孝博）

①参加人数　51名
②活動場所
平木中学校など22校（兵庫県教組は別途16校）
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、電話番、整地等）
（各校報告）
（注）自＝は自治活動の進捗状況
◦宿直が中心。ゴミに2ｔ車が必要。（平木中：滋賀県教組）
◦水のタンク1つ撤去。水道の水きれい。ガスが使えるようになるのは今日の夕方になる。約20人が旅行なので静かな日だった。（用海小：静岡県教組）
◦避難者は150人（老人が多い）。少し弁当が残るようになっている。仮設校舎建設のためグランド整地予定。自＝徐々に自立にむかっている。（高羽小：奈良教組）
◦避難者は321人（老人が多い）。5、6年生も午前授業始まる。ボランティア団体の「アゾラ」の引上げが延びている。（福住小：大阪教組）
◦避難者は69人。自治組織はまだ無いが各部屋ごとにリーダーがいる。食事配給、炊き出し、電話番、清掃。自＝今後具体的に組織化へ。（高取台小：岡山県教組）
◦避難者は約200人。食事210人。14日の卒業式の準備。運動場の整備。自＝機能している。洗濯機の使い方を自治会で話し合う。（原田中：千葉県教組）
◦避難者150～60人。夜警が中心。炊き出し等は自治会がやっている。（須佐野中：長崎県教組）
◦避難者392人（老人が多い）。職員室の電話の取り次ぎ。自＝しっかりしている。（若宮小：熊本高教組。熊本県教組。）
◦避難者252人。6年生キャンプで校長がいない。11日ゴミ・クリーン作戦キャンセル。自＝徐々によくになっている。（二宮小：神奈川県高教組）
◦避難者約260人。食事約350人。土・日に劇団、自衛隊音楽隊が入るため、ポスター貼りの手伝い。自＝リーダー会議の集まりもよく、しっかりしている。（上野中・佐

賀県教組）
◦公園で残っている衣類をバザーを開いて好評だった。今日もやる予定。自＝卒業式で避難者の部屋替えのための代表者会議が開かれている。（菊水小：福岡県教組）
◦避難者500人。食事850人。自＝しっかりしている。（摩耶小：鳥取県教組）
◦電話番、ゴミ処理等。食事の準備は自治組織の人が中心となってやっている。（段上小：長野県教組）
◦避難者300人。老人が目立つ。子供も比較的多いが落ちついている。下水道流しを朝８時と９時の２回やっている。自＝学校側中心にうまくいっている。（長田高校：神奈川県高教組。）
◦避難者50～80人（老人が多い）。避難所は落ちついている。昨日より水道使用可。自＝活発、町内会泊まり込み。（西宮高校：東京・埼玉両高教組）
◦避難者210人（老人が目立つ）。宿直、階段の掃除、花や水やりなど。（室内小：山梨県教組）
◦避難者400人（老人が多い）。水汲みがなくなった。風呂づくりの手伝い。自＝きちんとしている（会下山小：千葉県高教組）
◦避難者39人。通常の機能まで回復。電話番、事務補助、清掃ほか。自＝しっかりしている。（渦ガ森小：大分県教組）
◦ボランティアの作業を自治会が引き継ごうとする動きがある。食事配給、掃除等。（烏帽子中：北海道教組）
⑤報告
クリーン作戦：室内小学校
オルガン＝２ｔ車にいっぱい
缶類ほか＝30～40袋

連合東京（報告者：佐藤英道）Ａチーム

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：15～18：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・感想
「自治意識が希薄であるが、食事当番など部屋長（41班）中心に徐々に動き始めた。ボランティアの気持ちのゆるみが目立ち、リーダーが焦っている。自治活動の確立まで長期化予想」

連合東京（報告者：今野　衛）Ｂチーム

①参加人数　２名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　７：15～18：30
④活動内容
避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・感想
「夜中に酒を飲んで暴れる人がいるので夜警は３人体制がよい。学生ボランティアが自分達の食事を先に確保したので避難者の人達の分が不足、注意をした」

造船重機労連（報告者：鈴木宏尚・伯川誠洋）

①参加人数　10名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容　連合あったか湯　Ｂチーム
⑤意見・感想
「男１、女５人の入浴者計６人。板宿小ではシャワーが使えるようになったためか入浴希望者が少なかった。自立のためには良いことと思う」

連合山口（報告者：秋葉英雄）Ａチーム

①参加人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～20：00
④活動内容　避難所支援（食糧運搬、診療所の受付）
⑤意見・感想
「トラブル発生時のマニュアルを作成」

連合山口（報告者：加藤　栄）Ｂチーム

①参加人数
24名（連合山口、連合兵庫、連合東京、運輸労連、千里山生協、看護婦、ヘルパー）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：30
④活動内容　連合弁天温泉、あったか湯
⑤意見・感想
「弁天湯：男48名、女90名の計138名。あったか湯：２名（男１名、女１名）」

1995年３月11日（土曜日）№38

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（３月10日）報告より
■10日現在ボランティア参加者数（延べ）33,562人
（会議参加組織）
自治労、交通労連、情報労連、連合東京（Ａチーム）、日教組、連合山口（Ａチーム）、連合兵庫、連合愛知、連合三重、連合新潟、全国医療、全済労、（文書報告）自動車総連、連合山口（Ｂチーム）、造船重機労連、連合東京（Ｂチーム）、連合静岡、ＪＲ西労組神戸支部

連合東京（報告者：佐藤英道）Aチーム

①参加人数　4名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：10～18：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・感想
「学生ボランティアが減少傾向にある」

連合東京（報告者：今野　衛）Bチーム

①参加人数　2名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・感想　特になし

造船重機労連（報告者：山本宏幸）Aチーム

①参加人数　5名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
「男2、女5の計7名。プロパンガス船が悪天候で接岸できず。自衛隊の風呂部隊からお湯を400リットル分けてもらう。非常に助かった」

造船重機労連（報告者：山本宏幸）Bチーム

①参加人数　5名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想　特になし

全日塗（報告者：大畑正敏）

①参加人数　7名
②活動場所　御蔵小、湊川中、兵庫高
③活動時間　9：00～17：30
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想　特になし

連合山口（報告者：加藤　栄）

①参加人数　11名（連合兵庫4名）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　7：30～17：30
④活動内容
　連合弁天温泉、あったか湯
　弁天温泉78人（男37、女41）。あったか湯3名。
⑤意見・感想
「あったか湯の入浴について、送迎車両が1台のため、距離と所要時間は一定の制限をすべきだ（本日、北区泉台の入浴者があった）。待機場所が狭いため雨天時対策が必要」

日教組（報告者：三代孝博）

①参加人数　46名
②活動場所
　平木中学校など22校（兵庫県教組は別途16校）
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　避難所支援（食事の配給、夜警、掃除、電話番、整地等）
（各校報告）
　（注）自＝は自治活動の進捗状況
◦体育館を整備・机を移動して卒業式の準備。本棚がほしい。自＝食事の世話などがやれるようになった。（平木中：滋賀県教組）
◦温泉にいってた方たちがもどり、また忙しくなった。（用海小：静岡県教組）
◦避難者は150人弱。外部の方が少なくなってきた。自＝徐々に自立の方向に。（高羽小：奈良教組）
◦避難者は410人。授業は午前中1、2、3、6年生。午後が4，5年生。自＝この2～3日自主的に食事の用意・清掃をやる。（福住小：大阪教組）
◦宿直のみ。自治会でうまくやっているので落ちついている。（小野柄小：日教組青年部）
◦今日から昼食と朝食と一緒に搬入。（高取台小：岡山県教組）
◦14日の卒業式の準備。運動場の整備。3年生に最後は教室に入ってもらうために荷物の移動始まる。自＝機能している。（原田中：千葉県教組）
◦自治会が中心になって一般的なこともやっているので、かなり順調。（須佐野中：長崎県教組）
◦生活は安定している。ゴミは行政対応で十分。子供の絵本がほしい。自＝しっかりしている。（若宮小：熊本高教組。熊本県教組。）
◦ガスがでるようになったが、周辺はまだのようだ。（二宮小：神奈川県高教組）
◦リーダー会議で明日昼に自分達でカレーの炊き出しを決定。粉ミルクと離乳食が余っているので市が回収。（上野中・佐賀県教組）
◦卒業式のため避難者の方が体育館から教室へ移動。（菊水小：福岡県教組）
◦校庭でマキ割。避難者は500人を切った。（摩耶小：鳥取県教組）

◦避難者50名。卒業式準備のため会場設営の手伝い。（段上小：長野県教組）
◦昼に弁当サンドイッチを配りはじめた。（長田高校：神奈川県高教組。）
◦衣類等の物資がダブつく。体育館で食事が可能に。（西宮高校：東京・埼玉両高教組）
◦自治会長入院。係りがうごく。（湊川小：宮崎高教組）
◦ラジオ体操を一緒にやる。（室内小：山梨県教組）
◦今日医療関係者が入るのでミーティングを行なう予定。（会下山小：千葉県高教組）
◦かなり落ちついてきた。裏山の岩肌が見え近くの人が避難所に戻ってきている。（渦ガ森小：大分県教組）
◦自治活動がしっかりしてきたので仕事が減りはじめている。（烏帽子中：北海道教組）

連合静岡（報告者：中村達夫）

①参加人数　３名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・感想
「避難者自身が本格的な自治組織をつくって活動を始めた。３月７日に避難所運営委員13名を選出し、今後の運営に当たっている。自治会ではボランティアが終了した後のことを心配している。夜の会議ではコーヒーとかお茶の取扱いなどが議事として取り上げられた。基本的生活が満たされてきたからか」

情報労連（報告者：金沢俊治）Ａチーム

①参加人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：20
④活動内容　り災証明書の郵送分処理等
⑤意見・感想　特になし

情報労連（報告者：金沢俊治）Ｂチーム

①参加人数　６名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～17：30
④活動内容
　避難所支援（物資・弁当運搬、ゴミ整理、給湯等）
⑤意見・感想
「卒業式に向け演壇運び。千歳小体育館へ。屋上のＴＶアンテナ修理。校舎時計修理。ガスの復旧は３月末ぐらいになる」

情報労連（報告者：金沢俊治）Ｃチーム

①参加人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想
「避難されている方が今までボランティアがやってきた作業を始めてきている。連合静岡に引き継ぎ」

情報労連（報告者：金沢俊治）Ｄチーム

①参加人数　２名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　10：30～16：30
④活動内容　あったか湯Ｂチーム
⑤意見・感想
「雨の中、入浴希望者を呼びに行くタイミングが悪く、待ってもらった。呼びにいくタイミングに気遣いを」

交通労連（報告者：寺川　聡）

①参加人数　15名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
　北区役所からポートアイランド及び摩耶倉庫への支援物資の輸送作業
⑤意見・感想　特になし

連合兵庫（ＪＲ西労組神戸支部報告者：三島）

①参加人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　９：30～19：30
④活動内容　避難所支援
⑤意見・感想
「引き継ぎ体制及び指揮者不在で困惑した。役割分担が不明確だ」

連合兵庫（ゼンキン連合＝報告者：香美竜也）

①参加人数　11名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：30
④活動内容　連合弁天温泉
⑤意見・感想
「風呂そうじ担当だったが、人数が少なかった」

8日間で223件

「連合兵庫法律相談ダイヤル」

（報告者：熊谷謙一）

連合兵庫は、2月6日から10日までの5日間（第1次）と、3月8日から10日までの3日間（第2次）、「連合兵庫・兵庫県南部地震法律相談ダイヤル」を実施した。相談ダイヤルには、期間中に223件の相談が寄せられた。

相談件数では、「借地・借家」、「土地・家屋売買」など住居関係が合わせて159件と、相談全体の71％を占め、「雇用」「賃金」「雇用保険」「税・年金」など生活関係が45件、20％であった。

住居関係では、震災による深刻な被害を反映し、家屋の全壊や半壊による損害への対応や、借家に伴う問題など、被災した各地域から、多くの相談が寄せられた。生活関係では、雇用保険に関する相談がもっとも多く、連合のチラシをみて失業保険をかけていなくても給付が行われる制度などについて問い合わせが相次いだ。

相談は、期間中、午後1時から4時30分まで、連合兵庫役職員、顧問弁護士を中心に、連合本部、社会保険労務士、税理士、ケースワーカー、高退連などの協力を得て行なわれた。相談ダイヤルの設置された連合兵庫会館の会議室は、被災各地からの電話がなりつづけ、相談員が対応に追われていた。

●相談件数　合計 223件
- ○住居関係　159件
  - 借地・借家関係　111件
  - 土地・家屋売買関係　30件
  - 相続関係　6件
  - り災証明関係　5件
  - その他　7件
- ○生活関係　47件
  - 雇用保険　14件
  - 税金・年金・制度　12件
  - 雇用問題　11件
  - 賃金遅配　5件
  - その他　6件
- ○その他　16件

自治労（報告者：国友啓子）

①参加人数　200名
②活動場所　各避難所
③活動時間　現地泊まり込み
④活動内容
　避難所支援（物資搬出入、夜警、給湯、食事配給等）
⑤避難所報告
- ◦名倉小：避難者270人。校長中心で運営。トラブルなし。各教室にリーダー的人物あり、自立の動きも。
- ◦丸山中：避難者136人。各教室ごとに班体制確立。清掃等も当番制でやっている。トイレ使用可能となる。電話でボランティアの申し込みがあったが断る。
- ◦宮川小：避難者366人。食事の配給、清掃等はだいたい教室ごとに行なう。学校中心に運営。曹洞宗ボランティア7日で終了。
- ◦大橋中：避難者313人。高齢者が多く、元気のない方が多少見える。自治労、学校、ボランティア（ボーイスカウト）とは良好な関係。
- ◦神楽小：避難者900人。授業再開。トイレ・シャワーのそうじを避難者が当番制でやっている。医療チーム常駐のため、健康管理態勢は良い。早大生ボランティア4名は助かる。
- ◦長田工業：避難者330人。避難者は新聞の割り振りのことでさえ、不満を持つほどストレスがたまっている。
- ◦苅藻中：避難者477人。全体的に落ちついている。自治会リーダーと物資の配付について再確認。県臨床心理士会が保育ボランティア。
- ◦真陽小：避難者1800人。自治会は自主運営に向け努力中。24日卒業式を体育館でできるよう自治会が調整中。物資放出も自治会で。
- ◦長楽小：避難者2700人。ガスなし。給食は立正佼成会が手伝う。ＰＴＡ、教員ボランティアの関係もおおむねよい。
- ◦西代中：避難者640人。8日より授業再開。水道一部復旧。津山市職労より炊き出しあり。
- ◦配送センター：物資の搬出入在庫管理夜警。

連合愛知（報告者：荒木雅典）

①参加人数　6名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　14：00～16：00
④活動内容　連合あったか湯
⑤意見・感想
　「あったか湯の運営について造船重機労連チームからレクチャーを受ける。勉強になりました」

1995年3月12日（日曜日）No.39

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月11日）報告より

■11日現在ボランティア参加者数（延べ）34,051人

（会議参加組織）

情報労連、連合東京、連合静岡、連合愛知、連合新潟、交通労連、自治労、日教組、造船重機労連、連合山口、全国医療、全済労、連合岩手、連合三重、連合香川、連合愛媛、連合福井、連合石川、連合富山、（文書報告）全金井重要工業労組、全逓神戸支部、連合静岡、情報労連

全済労（報告者：井上淳一）

①参加人数　4名
②活動場所
③活動時間　7：10～18：30
④活動内容　あったか湯出前3軒
（イ）屋内座敷に風呂設営し排水は壊れた風呂場へ。（一般住宅）
（ロ）市営住宅はガス復旧点検中のため近傍で火気使用出来ず、徒歩5分程の空き地で湯沸かし後搬入。（湯の不足生じる）
⑤意見・感想
（イ）市営住宅は屋外排水は使用禁止
（ロ）ガス工事との関係で火気使用可能場所の確認がほしい
（ハ）受け入れ人数は看護婦、ヘルパーの人数及び使用可能バスタオルの枚数により制限がある。
（ニ）避難地では受付のさい、整理券が必要（券枚数で受け入れ人数を制限の事）

全済労（報告者：田中賀代子）

①活動内容　入浴介助（82歳83歳55歳）
（イ）自宅居間にて簡易式浴槽を作り、入浴介助する。前後ＢＰ測定変化無し。（イ）に同じ腰痛にて通院中。（小児麻痺）
（ロ）自宅浴槽で介助（小児麻痺）
②必要物資
（イ）入浴介助で最後のかかり湯をする時洗面器などでチョロチョロかけてあげるより、ポリ容器に注ぎ口をつけ、持続的にかけてあげたほうがよい。

交通労連（報告者：）

①参加人数　19名
②活動場所　太田中学校、蓮池小学校
③活動時間　9：30～13：00
④活動内容
クリーン作戦
太田中学校＝2ｔ車1台
蓮池小学校＝2ｔ車2台
摩耶倉庫よりポートアイランドへ物資搬入
2ｔ車2台、ワゴン車2台
⑤意見・感想
「蓮池小学校は生ゴミ等の分別がされていなかった。」

連合三重（報告者：北内司胤）

①参加人数　17名
②活動場所　東灘区
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容
あったか湯
東灘区西平野・田結安正さん
同　本山南・堀尾藤一郎さん
同　魚崎南・宇田武雄さん
3／12行動予定地（西郷小）下見及び打ち合わせ
⑤意見・感想
「ガス工事後の点検中につき付近での湯沸かしは出来ず、やむをえず海岸べりの広場で対応、湯量が少なかった。」
⑥必要物資　寒いので石油ストーブが2台必要。

連合新潟（報告者：佐藤　保）

①参加人数　5名
②活動場所　東部配水管理事務所（大石東地区烏帽子町）
③活動時間　9：00～17：00
④活動内容
給水作業
大石東地区7回往復＝1ｔ車
市営住宅　2回往復
烏帽子地区2回往復
⑤意見・感想
「同メンバーであれば、12日から東部配水管理事務所8：30集合。」

造船重機労連（報告者：西沢　空）

①活動人数　15名（3／11～3／18）
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　7：00～17：20
④活動内容　あったか湯

日教組（報告者：三代孝博）

①参加人数　95名
②活動場所
平木中学校など22校（兵庫県教組は別途16校）
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
卒業式の会場つくり、準備その他移動の手伝い。（平木中＝滋賀。福住小＝大阪。原田中＝千葉。菊水小＝福岡）
⑤意見・感想
〈会下山小＝千葉高〉風呂を修理して老人、障害者の入浴を考えている。灯油が不足しているので校長など学校の代表を通じ行政に要請したい。
⑥必要物資
〈烏帽子中＝北海道〉東隣のボーリング場の解体及び焼けた西校舎の解体作業開始に伴い、防塵マスクが必要。不足しているので行政にも要求したが在庫がないという理由でいつになるか不明。350名弱の避難者分と工事日程を考えるとかなり多量に必要。（補足）工事日程が3月下旬～4月上旬頃までの予定。

粉ミルク、生理用品がかなり余っている状況。
- 食事の準備、周辺の掃除（用海小＝静岡）
- 朝食55人分配った。昨夜１家族退所、自転車で市内視察（高取台中＝岡山）
- 390名程度、食事の配布、掃除。（若宮小＝熊本高）
- 253名、物資搬入及び風呂の手伝い、学校の管理者とも話し合い、うまくいっている。（二宮小：神奈川高）
- 自炊のための家庭科教室の整備、ゴミの償却。（段上小＝長野）
- 体育館を卒業式・授業用に整理したり、清掃活動。（渦ガ森小：大分）

連合東京（報告者：佐藤英道）

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：15～18：30
④活動内容
　物資搬入、給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理
⑤意見・感想　特になし

連合愛知（報告者：荒木雅典）

①参加人数　17名
②活動場所　東灘区
③活動時間　８：00～17：20
④活動内容　あったか湯・在宅対応
⑤意見・感想
「訪問先の住所明示をしっかりお願いしたい。例えば「南町６丁目１－12－１」が正確なのに「南町６丁目」になっていた。」
「ステンレス製の風呂は熱湯でも冷めるのが早いので注意を要する。（今日は湯の量が少なかった）」

連合山口、連合兵庫、運輸、日教組、看護婦ヘルパー（報告者：岡村輝夫）

①参加人数　30名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：30
④活動内容
連合弁天温泉、あったか湯
〈入浴状況〉
介護湯　３名（男１、女２）
一般風呂　123名（男56、女67）
⑤意見・感想
「介護湯の設置について周知徹底がされていなかった。担当の高浪さんと相談し、さらに広めていく。」
「テントの補強について、風が強く、補強しないとビニールが飛ぶかテントが倒れる可能性がある。」
⑥必要物資　バスマジックリン
　棒ずり（デッキブラシ）１本あるがあと３本位必要。

全金井重要工業労働組合（報告者：海野万寿夫）

①参加人数　３名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容　救援物資の移動、整理整頓
⑤意見・感想
「必要な救援活動の内容と場所を確認した上で人数の割当をした方がよい。」

全逓神戸中央支部（報告者：野田幸男）

①参加人数　５名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　学校内の物資の整理、運搬。テント内の荷物の整理。
⑤意見・感想
「学校、住民の指示が違うことがある。作業指揮一本化が必要。今後のボランティアはあくまでも住民の手助けとの立場で。」

連合静岡（報告者：山内一三）

①参加人数　２名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　16：00～18：00
④活動内容
　16時に摩耶小学校に到着。給湯作業を18時まで行なう。以降、午前１時より午前４時まで夜警を２名で行なう。
　午後７時30分から住民会議、午後10時～午前４時まで１人夜警。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①活動人数　２名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
あったか湯
　午前＝お年寄り１名
　午後＝同上
⑤意見・感想
「寒かったので風呂から出たがらなかった。強風のためテント設営が困難だった。」

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　６名
②活動場所　太田中学校

③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
　給湯車の準備、体育館の雨漏りのため物資の移動、炊き出しの手伝い。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　17名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～15：30
④活動内容
　り災証明の郵送処理130通、義援金支給リスト作成（住所別）
⑤意見・感想
「3月13日より見舞金の手続きが始まるので月曜日は次の要員（33名）、火曜日以降は31名程度お願いしたい。内訳は下記の通り。
1、り災証明郵送　　5名
2、同上　　受付　　6名
3、義援金給付申請の説明　　5名
4、場内整理　　7名（火曜日以降は5名）
5、湊川公園での見舞い金給付
　申請用紙、パンフ配布　　10名」

連合岩手（報告者：丹野充喜）

①活動人数　5名
②活動場所
　摩耶埠頭ポートアイランド
③活動内容　救援物資の搬送作業

1995年3月13日（月曜日）No.40

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（3月12日）報告より
■12日現在ボランティア参加者数（延べ）34,554人
（会議参加組織）
情報労連、連合兵庫、連合東京、連合福井、連合愛知、交通労連、自治労、日教組、造船重機労連、連合山口、全国医療、全済労、連合岩手、連合三重、連合香川、連合愛媛、連合石川、連合富山、レジャーサービス連合

連合福井（報告者：岩崎真次）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：00～
④活動内容
診療所の受付
　10：00～12：00
　17：00～19：30
　その他支援活動（清掃等）
⑤意見・要望
1．本日朝、8時30分に到着したが、前任者がいないため、作業内容の引き継ぎが出来ずとまどった。前任者がいなくとも、連合対策本部で適切な指示が出来る態勢をつくってほしい。
2．出来れば交替時は午前中まで作業をし、午後引き継ぎをして交替するのがよいのではないか。

連合石川（報告者：宮本一二）

①活動人数　連合石川他約50名
②活動場所　摩耶港～ポートアイランド
③活動時間　9：00～15：30
④活動内容
　摩耶港の救援物資をポートアイランドに搬送、女性、子ども等の衣料品が中心。軽トラックを含め約10台の品物を倉庫（コンテナ）に入れる作業が中心。
⑤意見・要望　特になし

日教組（報告者：笠井博徳）

①活動人数　95名
②活動場所
　平木中学校他22カ所（47名）
　兵庫県教組別途16カ所（48名）
③活動時間　現地宿泊
④活動内容
　☆須佐野中、小野柄小の両校で宿直を教職員の交替員としてやっている。（長崎、日教組青年部）
⑤意見と要望
1．会下山小学校に毛布を30枚追加してほしい。医療団から衛生上の点からも交換すべきと指摘される。布団を干したいが物干し竿がない。（千葉）

連合静岡（報告者：中村達夫）

①活動人数　5名
②活動場所
　楠　中学校（午前中）
　摩耶小学校（　〃　）
　西郷小学校（午　後）
③活動内容
　午前中は2班に分かれて避難所での警備、食事手伝い、自立のための援助。
午後は連合三重と合流して避難所で入浴援助

連合岩手（報告者：丹野充喜）

①活動人数　5名
②活動場所　平木中学校
③活動時間　7：00～17：20

④活動内容
　クリーン作戦摩耶埠頭の救援物資の搬送
⑤意見・要望　特に無し

交通労連（報告者：寺川　聡）

①参加人数　55名
②活動場所　神戸市内、西宮市内
③活動時間
④活動内容
　平木中学校でクリーン作戦、摩耶埠頭からポートアイランドへ物資搬送
⑤意見・要望　特に無し

連合三重（報告者：北内司胤）

①活動人数
　17名（三重６、静岡５、全済労２、自治労２、日教組２）
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　８：00～17：３０
④活動内容
　あったか湯
入浴６名、洗髪２名
入浴希望者は当初７名であったが雨のため、最後の１名についてはとりやめた。お風呂セット用の排水ホース紛失のため新たに購入。
⑤意見・要望　特に無し

連合富山（報告者：鍛冶睦男）

①活動人数　６名
②活動場所　摩耶埠頭
③活動時間　９：00～15：３０
④活動内容
　連合兵庫、石川、岩手の皆さんと共同で救援物資の積み込み作業
⑤意見・要望　特に無し

連合山口（報告者：岡村輝夫）

①参加人数
　36名（山口12、兵庫３、運輸１、造船重機11、日教組３、ゼンセン同盟６）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：30～17：40
④活動内容
　１．あったか湯
　介護湯＝２名（男１、女１）
　一般湯＝129名（男55、女74）
　２．夕食運搬
　３．介護サービスについて、地域に活動隊を作り教宣活動を実施（２名１組５班）
⑤意見・要望
　サービス営業については、いろいろと検討し、さらに努力したい。

連合新潟（報告者：佐藤　保）

①参加人数　５名
②活動場所　東部配水管理事務所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　給水活動（２名）
大石東地区（サンハイツ灘、大石東市営住宅）へ１ｔ車で８往復。
東部配水管理事務所（３名）補助作業。
⑤意見・要望
　２カ月近くになる今、大石東市営住宅のエレベーターがいぜんとして動かないので５階～８階の住民から手の痺れを訴える声が出始めている。

連合東京（報告者：佐藤英道）

①参加人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：15～18：30
④活動内容
　避難所支援（給湯管理、食事準備、清掃、洗濯管理、物資搬出入）
⑤意見・要望　「特に無し」

セシール労働組合（報告者：植松浩美）

①活動人数　５名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：50～17：00
④活動内容
　連合弁天温泉、あったか湯。予約が少なかったので、兵庫高校の周辺で入浴介護の必要な人がいないか、男女ペアで４組それぞれが東西南北を受け持って、聞き込みを行なった。これによって４名の方が入浴介護を希望された。
⑤意見・要望
　そのうち来客等があってキャンセルが出たため、入浴が実現しなかったケースがあり、これについては明日以降につなげていきたい。
　また兵庫高校内でも前日、目の不自由な方が入浴介護を希望されていたにもかかわらず、本部との連絡の不手際からかボランティアにその旨が伝わっていなかった。本日こちらからお伺いしたところ、今日はもうよいとのことで結局、入浴は実現しなかった。
　入浴介護が必要な方には、こちらから積極的にアプローチして、その情報を次のボランティアにも引き継いでい

く必要がある。

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　13名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容
　連合弁天温泉、あったか湯給湯作業、地域近辺への入浴案内、給食荷おろし
⑤意見・要望　特に無し

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　2名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　あったか湯
造船重機労連のメンバーと「あったか湯」のサポート。
在宅入浴のリクエストがなかったので兵庫高校で対応。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　6名（午後5名）
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
　作業の引き継ぎ
夕食搬入、給湯、炊き出し、本日20時から班会議。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①参加人数　17名（午後15名）
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～15：30
④活動内容
　り災証明の郵送処理130通、義援金支給リスト作成
午後交替のため引き継ぎ
⑤意見・要望　特に無し

連合愛知（報告者：荒木雅典）

①活動人数　3人
②活動場所　楠中学校
③活動時間　9：00～9：00
④活動内容　避難所支援活動
⑤意見・要望
1．運営委員会（13名が自治会組織をめざす）が機能しているし、ボランティア・リーダーが継続的に活動しているのと教諭24名が3交替でしてきた事もあり、避難者の自立した運営も近い将来、期待できるように思えた。
2．学校での引き継ぎは8：00頃にお願いしたい。
⑥必要物資　斧、ナタが必要（摩耶小）

自治労報告（3月11日分）

- 名倉小：避難者216名。6、7号棟より12日からライフラインが通るとの連絡あり豊田学級に2名増。播磨町ゼンザイ炊き出し。
- 丸山中：避難者75名。避難者が各教室ごとに班長制を確立。各種活動に協力的だ。
- 大橋中：避難者320名。簡易洋式トイレが2基設置（老人用）。土曜日はボーイスカウト、一般ボランティアが多い。
- 長田工業：避難者288名。下水道のふた（木製）が壊れた。学校側に連絡したが。
- 刈藻中：避難者477名。総班長会議の情報が浸透していない旨、避難者から要請。
- 長楽小：避難者2355名。雨、風で給食数が減っている。救援物資の整理方針を運営委で決定。衣類は青空市場、日用雑貨は来週検討、食品は部分的に提供。
- 西代中：避難者507名。たまごスープの炊き出し。市見舞金・県義援金の書類を配布。炊き出しの引き継ぎを学校側と協議。
- 宮川小：避難者307名。早めにガスがほしい。
- 真陽小：避難者1000名を下回る。班長会議が毎日行われているが、参加して食事の仕分け等に関わるようにする。
- 配送センター：本日午後より在庫物資のＰＩコンテナーへの移送作業開始。

1995年3月14日（火曜日）No.41

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月13日）報告より

■13日現在ボランティア参加者数（延べ）35,080人

（会議参加組織）
情報労連、連合兵庫、連合東京、連合福井、連合岩手、交通労連、連合北海道、日教組、造船重機労連、連合岡山、連合高知、連合三重、連合新潟、連合富山、連合静岡、（文書報告）自治労

連合福井（報告者：岩崎真次）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：30
④活動内容
　避難所支援活動
パン、牛乳、ジュース搬入
診療所受付（10：00～12：00）
弁当搬入、配給

診療所受付（17：00～19：30）
⑤意見・要望　特に無し

日教組（報告者：小川泰司）

①活動人数　47名
②活動場所
　避難所小・中校他22カ所
（別・兵教組16カ所）
③活動時間　24時間態勢（宿直）
◦平木中　卒業式が行われた。弁当数減少傾向。ただし校内避難者はかわらず。（滋賀）
◦用海小　避難者60名。薪割り、炊き出し、湯タンポの湯沸かし等。（静岡）
◦福住小　避難者320名。電話等の応対は避難者が自主的に行っている。（大阪）
◦高羽小　避難者70名。生ゴミがトラック１台分あり回収してほしい。（奈良）
◦高取台中　避難者60名。配給物資の仕分けに追われる。（岡山）
◦原田中　避難者200名。テント15張り設営。教室の移動作業。（千葉）
◦須佐野中　避難者180名。宿直を２交替制に変更した。（長崎）
◦若宮小　避難者350名。昨日に引き続きゴミの搬出。（熊本）
◦西郷小　避難者824名。電話の応対、ゴミの搬出、食事の準備。（大阪）
◦県立長田高　被災者数が正確につかめない。期末試験中。（神奈川）
◦市立西宮高　避難者74名。19日に食堂をあけ体育館へ移動。物資も移動する。助っ人がほしい。定時制の入試が15日・16日に行われる。（東京、埼玉）
◦湊川多聞小　避難者115名。湊川小の職員達も大変に疲れており、フォローが必要だ。（宮崎）
◦室内小　避難者200名。ゴミ処理に連合が来てくれた。幼稚園児が移ってくるので会場整理。（山梨）
◦渦が森小　卒業式に備え、体育館の整備。（大分）
◦烏帽子小　避難者350名。防じんマスクが2400個届く。トイレットペーパー、ティッシュペーパー500個ほどほしい。頭痛薬、あかぎれ軟膏等を市へ依頼してある。（北海道）

連合岩手（報告者：丹野充典）

①活動人数　５名
②活動場所
　グリーンピア物資基地～高羽小学校～若宮小学校～湊川小学校へ。
③活動内容　連合三重からの書籍配送
④意見・要望
　市内案内者が配置されれば効率的にまわれる。車両２台でも同一行動しかとれない。

交通労連（報告者：大井　聡）

①活動人数　30名
②活動場所　神戸市内、三木市
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　クリーン作戦（室内小学校）２ｔ車２台、軽トラック１台
　１．物資搬入（衣類）２回　葺合～ポートアイランド
　２．書籍配送　４カ所　グリーンピア三木～各避難所へ
⑤意見・要望
　自分たちでまとめられる小さなゴミはケース等にまとめてほしかった。

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　14名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～19：00
④活動内容
　あったか湯（南紀白浜温泉）
　１．在宅給湯（東灘区住吉宮町１丁目）
　２．避難所（兵庫高校）近辺へ入浴案内
　３．給食の荷おろし
　４．防じんマスクの運搬（兵庫県消防学校～灘区烏帽子小学校へ）
⑤意見・要望
　在宅給湯の場合、交通状況を含めて対応が必要。運搬距離と時間の関係で熱湯でも冷めてしまう。

連合静岡（報告者：中村達夫）

①活動人数　５名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　８：30～16：30
④活動内容
　あったか湯
（介護入浴５名、洗髪２名）
⑤意見・要望
　身体が不自由で校舎の３階とか４階に避難されている方には「あったか湯」は喜ばれていると感じた。
　女性（ヘルパー、看護婦、一般）の方が気持よく対応されているのが嬉しい。

連合富山（報告者：鍛冶睦男）

①活動人数
　午前41名、午後30名
連合兵庫５、富山６、石川５、愛媛１、岡山１、ＪＲ西労組２、運輸１、レジャーサービス連合１、セシール労

組５、全済労２、ヘルパー２
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：50～17：10
④活動内容
　介護入浴13名（男６、女７）
　一般入浴126名（男59、女67）
　送迎ふくめフル回転。
⑤意見・要望　特に無し

連合新潟（報告者：佐藤　保）

①活動人数　５人
②活動場所　大石東地区
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　給水活動（大石東市営住宅）
　東部配水管理事務所の補助作業
⑤意見・要望　特に無し

連合三重（報告者：北内司胤）

①活動人数
　16名　連合６、静岡５、全済労１、自治労２、日教組２
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容
　あったか湯
（介護入浴６名、洗髪３名）
⑤意見・要望
　駒ケ林中学校対策本部側では本日の移動風呂を把握しておらず、スケジュールに基づく連絡を願いたい。

連合東京（報告者：佐藤英道）

①活動人数　２名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：15～16：30
④活動内容
　避難所支援活動
食事配布、清掃、給湯管理、物資搬出入
⑤意見・要望
　夜のミーティングにでることになった。

連合東京（報告者：今野　衛）

①活動人数　２名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　７：00～２：00
④活動内容
　避難所支援活動
シャワー清掃、炊き出し、後片づけ、ミーティング、夜警（10：00～２：00）
⑤意見・感想
　メインのボランティアが数名しかいません。長期（１週間程度）の滞在が出来る人をもっと多く派遣して下さい。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①活動人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：00～18：00
④活動内容
　り災証明発行関係
１．り災証明、義援金受付
２．り災証明郵送業務
３．会場整理・案内
４．市・県見舞金申請用紙配布
④意見・要望
　本日から見舞金申請用紙の配布、初日でもあり行列が出来た。返信用封筒（兵庫区宛）が不足し、コピーとノリづけで対応。

情報労連（報告者：金澤俊治）

①活動人数　５名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～17：00
④活動内容
　避難所支援活動
給湯車対応、物資搬入、炊き出し対応
④意見・要望　特に無し

情報労連（報告者：金澤俊治）

①活動人数　２名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　あったか湯
入浴サービス実施のＰＲ活動
⑤意見・要望　特に無し

自治労報告（３月12日分）

◦名倉小　避難者216名。各人で家庭科室で料理をしている（全体の３分の２）。避難者自身で主体的に動く。校長と自治労で協議運営。炊き出しは来週一杯予定。
◦丸山中　避難者136名。水道止る。水道局に連絡したが対応無し。様子をみるとのこと。
◦宮川小　避難者250名。物資配付時は年令順に配付。混乱はない。
◦大橋中　避難者300名。11日に刺身の炊き出しがあり好

評だった。

◦神楽小　避難者900名。日に日に避難者が減っていく（１日に１～２名ほど）。神楽小餅つき大会に協力。

◦長田工業　避難者293名。あい変らず風呂は使用しない。近々に水洗トイレが使用できそうだ。炊き出しのみ

◦刈藻中　避難者477名。自治会リーダーと総班長会議、バザーの打ち合わせ。保育ボランティア、生協ボランティアが来所。

◦真陽小　避難者951名。３／12自治会中心に衣料品の配給予定。自治会中心の運営で自治労の任務が他のボランティアと同様になっている。

◦長楽小　避難者2650名。給食を2600食に。16日から1600食にする。青空市場でなお残った物資はポートアイランドへ運ぶ。校内クリーン作戦を行った。

◦西代中　避難者512名。最初に設置された仮設トイレは雨天で使用不能、撤去を要望される。区対策本部からの避難所の名簿提出依頼。

◦配送センター　飲料用の水道がない。

「公共事業就労促進法」を活用して失業をなくそう

チラシを配布

政府は被災した労働者を支援するために「阪神淡路大震災・公共事業就労促進法」を３月１日に施行しました。連合・兵庫県南部地震対策本部は「この法律を大いに活用し、失業をなくそう」と呼びかけたチラシを避難所、区役所等を中心に配布しました。このチラシにはハローワークの連絡先と22カ所の公共職業安定所の案内図が掲載されています。

1995年３月15日（水曜日）No.42

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月14日）報告より

■14日現在ボランティア参加者数（延べ）35,604人

（会議参加組織）

連合愛媛、連合岡山、連合山形、連合富山、連合新潟、連合群馬、連合宮城、連合北海道、連合愛知、連合静岡、連合栃木、連合高知、情報労連、日教組、交通労連、食品連合、（文書報告）自治労、造船重機労連、連合福井、連合岩手

連合愛知（報告者：荒木雅典）

①参加人数　３名

②活動場所　楠中学校

③活動時間　９：00～８：30

④活動内容

避難所支援活動、警備、物品整理他。

⑤意見・要望

仮眠室での飲酒は厳禁とは知らず他のボランティアと兵庫、北海道と交流を温めていたところ注意された。今後は同室では禁酒、禁煙とする。

日教組（報告者：小川泰司）

①活動人数　48名

②活動場所

避難所小・中校他24カ所

（別・兵教組16カ所）

③活動時間　24時間態勢（宿直）

◦用海小　避難者40人。卒業式の前で玄関掃除、後片づけ等。（静岡）

◦福住小　避難者400名。電話等の応対、施錠等。（大阪）

◦高羽小　避難者70名。昨日の生ゴミ等は市が回収にきた。（奈良）

◦高取台中　避難者60名。タタミの回収に来た。（岡山）

◦原田中　避難者200名。今日は卒業式、食事の準備他。（千葉）

◦須佐野中　避難者180名。宿直を２交替制に変更し10時までになった。（長崎）

◦上野中　避難者360名。食事準備、物資搬入、巡回、グレープフルーツ350個届く。（熊本）

◦西郷小　避難者824名。電話当番、自治活動を邪魔しない程度の手伝い。（大阪）

◦段上小　避難者48名。机、椅子の数の点検（廃棄含む）。（神奈川）

◦市立西宮高　避難者68名。生活用品、食料品の管理。（東京、埼玉）

◦会下山小　風呂の準備、トイレの点検、自治労から５名参加。（千葉）

◦湊川多聞小　避難者115名。見舞金交付手続きで多忙をきわめる。（宮崎）

◦室内小　文房具が届いた。幼稚園の移動作業。（山梨）

◦渦が森小　教育復興促進ボランティアは本日（３／14）で終了。（大分）

◦烏帽子小　避難者350名。トイレットペーパー、薬等が不足。市の方へも依頼しているが未だに届かない。（北海道）

連合静岡（報告者：中村達夫）

①活動人数

16名　愛知６、静岡５、食品連合３、自治労福岡１、全済労１

②活動場所　市立神港高校

③活動時間　９：00～14：00

④活動内容

あったか湯

全身入浴２名、洗髪無し

⑤意見・要望

１．日中避難所にいる人は30人位（登録人員は300名位）。

2．放送とヘルパー、看護婦、ボランティアの皆さんと体育館はじめ避難されている全部屋を回って入浴をＰＲしたが、希望者が集まらなかった。ただ１人でも希望があれば「あったか湯」は続けたい。

⑥必要物資　男性用下着（さるまた）。お年寄りはブリーフをきらう。

交通労連（報告者：安田公義）

①活動人数　45名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　９：00～
④活動内容
　クリーン作戦
午前　第１班＝高取台中学校から畳250枚をゴミ処理場へ。
　第２班＝神戸高校から衣類をポーアイコンテナへ搬入。
午後　摩耶埠頭倉庫より衣類を２屯トラック２台、ワゴン車でポーアイコンテナへ搬入。
⑤意見・要望
　場所にもよるが午前中は道路がすいていたが、午後は渋滞したため、思った以上に時間がかかった。

連合富山（報告者：鍛冶睦男）

①活動人数　28名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　７：40～17：10
④活動内容
　あったか湯
富山、石川、兵庫、愛媛、岡山、運輸、食品連合、自治労福岡、山形、ホームヘルパーとでミーティング。
一般入浴＝115名（男43、女72）
介護入浴＝８名（男４、女４）
⑤意見・要望
　15日は13：30～16：30まで水道工事のため断水。したがって入浴は12：00で終了したい。宅給湯のお尋ねがあり、後日返事要。
⑥必要物資　男性用ズボン下（サイズＬ）５枚

連合北海道（報告者：伊東篤人）

①活動人数
　33名　情報労連15、北海道８、兵庫６、宮城４
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④意見・要望　特に無し

連合新潟（報告者：佐藤　保）

①活動人数　５人
②活動場所　大石東地区
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　給水作業
１．大石東市営住宅は通水したので、烏帽子地区へ移動し２屯。
２．東部配水管理事務所の補助作業。摩耶埠頭、病院、税関、勤労者センターへの給水。
⑤意見・要望
　給水は15日の午前中でおわり。あとは自衛隊だけで十分だと思う。

連合群馬（報告者：清村宗一）

①活動人数　５名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　７：00～２：30
④活動内容
　避難所支援活動
夜警（PM10：00～AM２：00）
食事配給、シャワー、トイレ清掃、物資管理、配給。
⑤意見・要望
　民間ボランティアの人数も減り（現６人）連合に求められるものが多くなっている。

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
　避難所支援活動
１．湯沸かし器給水、新聞配り、食料（パン、米、フルーツ）搬入及び配給。
２．乾燥車による毛布乾燥作業（各部屋から毛布を回収し乾燥後部屋に戻す）
３．湯沸かし器、トイレ掃除。
⑤意見・要望　特に無し

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容
　り災証明発行関係
郵送。り災証明受付、義援金給付説明、見舞金給付パンフ配布（全体で33名）
⑤意見・要望
　昨日に比べ見舞金パンフ配布はスムーズに進んだ。並ぶ人も減少した。り災証明、義援金の方は多くの人が並んだが、なれた事もあって混乱はすくなくなった。

長時間並んだ上に資料不備で受け付けられない人も多く、並んでいる時点に資料確認のサービスをする工夫が必要だ。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　5名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
　避難所支援活動
給湯、物資搬入、配膳作業
⑤意見・要望
　卒業式に避難者のカンパによって赤飯130食を卒業生にくばる。金澤中執はじめ、5名のボランティアの胸にこみ上げるものがあった。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　2名
②活動場所　長田区市民センター
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　あったか湯
入浴サポート　10人入浴
⑤意見・要望　特に無し
⑥必要物資
　足ふきマット、バスタオルが不足、床の水はけ用スクイジー。

連合岩手（報告者：小野寺雅司）

①活動人数　5名
②活動場所
　高取台中学校、ポートアイランド
③活動時間　9：30～15：30
④活動内容
　高取台中から畳を搬出。
ポートアイランドで救援物資の搬出
⑤意見・要望
　ある程度、まとまった活動を希望したい。

自治労報告（3月12日分）

◦名倉小　避難者172名。中河学級4、図書室1、天神2（外）　計　25名減
◦丸山中　避難者62名。全体的に落ちついたと思う。清掃等は当番表によって、自主的に行なっている。班長制確立。2階トイレ断水中。
◦宮川小　避難者207名。ガス工事が始まり、自治労のテントの下を掘る予定。自治労の部屋は物資に占拠されている。物資の配給を一部自治労に任せてほしい。
◦神楽小　避難者900名。都市ガスの復旧が出来ていない。水圧が弱く紙が流せない。仮設教室が建設中。大分医療班が常駐。
◦長田工高　避難者293名。水洗トイレの復旧を早く。風呂場の撤去、洗濯場の設置の話をきちんとしてほしい。
◦刈藻中　避難者464名。避難者自治会の会議で居住者調査依頼をすること。義援金申込書などの連絡が行えないので、公園仮設住宅の自治会組織をつくる必要がある。
◦真陽小　災害見舞金書類を配布。仮設に出ていく人も多い。2～3の喧嘩もありいら立ちが目立つ。被災者にも給食を手伝うように要請していく。
◦長楽小　避難者2511名。転出が3世帯あった。見舞金申請書が避難所分だったため、所外者から問い合わせが殺到。5者協議会（運営委、市、学校、自治労、組織、個人ボランティア）をつくり、毎日開設。
◦西代中　避難者390名。避難者の名簿提出。パンは増えたが飲物が足りない。暖房設備を何とかすべきだ。身体の悪い人は朝から温かいものが必要。火を使わせてほしい。
◦配送センター　12：00をもって自治労撤退。返送方式が徹底せず物資が大量に倉庫キャパシティ等対策が必要。

連合福井（報告者：岩崎真次）

①参加人数　5名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：30～19：30
④活動内容
　避難所支援活動
パン、牛乳、弁当搬入。
診療所受付（10：00～12：00）
　同　　（17：00～19：30）
⑤意見・要望
　連合が担当している診療所の受付は必ず必要ですので、私たちが帰る15日の17時からと翌16日の受付の手配をよろしく。

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　15名
②活動場所　新長田勤労市民センター
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
　介護入浴5名（男2、女3）
　一般入浴5名（男1、女4）
⑤意見・要望
　避難場所（3F）と定期訪問（風呂）の関係で入浴サービスタイムはスムーズに行えるが、今後の対応がそれだけ難しくなりそうである。

1995年３月16日（木曜日）No.43

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月15日）報告より

■15日現在ボランティア参加者数（延べ）36,106人

（会議参加組織）

連合山形、連合新潟、連合愛媛、連合宮城、連合静岡、連合栃木、連合北海道、連合愛知、交通労連、食品労連、情報労連、日教組、造船重機労連、（文書報告）全国医療、自治労、連合群馬、連合岩手

連合静岡（報告者：中村達夫）

①活動人数

18名（愛知６、静岡５、食品連合２、自治労１、全国医療２、全済労１）

②活動場所　会下山小学校

③活動時間　11：00～17：00

④活動内容

あったか湯

全身入浴５名（男１、女４）

⑤意見・要望

風がなく暖かく快適で喜ばれました。

日教組（報告者：小川泰司）

①活動人数　46名（48名）

②活動場所

避難所小・中校他24カ所

（別・兵教組16カ所）

③活動時間　24時間態勢（宿直）

◦平木中　避難者100名。物資の配給、清掃、食事の用意約500人分

◦高羽小　避難者120名。物資搬入、シチュー炊き出し、学生ボランティア３月撤退。（奈良）

◦原田中　避難者200名。物資配給、トイレが水洗になったが故障が多い。（千葉）

◦段上小　避難者48名。ゴミ・廃棄物処理、ボランティア活動の記録を学校から依頼されている。当初の資料がほしい（長野）

◦県立長田高　避難者275名。下水処理、体育館の物資移動。（神奈川）

◦市立西宮高　避難者68名。19日に中央図書館は市の職員が対応するので、ボランティアは必要なくなると思う。（東京、埼玉）

◦湊川多聞小　避難者117名。見舞金申込みの記載方法のアドバイス

連合新潟（報告者：佐藤　保）

①活動人数　５名

②活動場所　烏帽子地区

東部配水管理事務所

③活動時間　８：30～12：00

④活動内容

給水作業（烏帽子地区）

給水補助作業（東部）

⑤意見・要望　特に無し

連合愛媛（報告者：山添知久）

①活動人数　７名（福井５、岡山１、愛媛１）

②活動場所　兵庫高校

③活動時間　８：00～

④活動内容

避難所支援活動

連合福井との引き継ぎ。

物資搬入。

トイレ掃除、食事の分配

診療所受付（17：00～）

⑤意見・要望

引き継ぎをしっかりと行いたい。

連合山形（報告者：佐藤秀明）

①活動人数

28名（山形、富山、石川、兵庫、食品連合、レジャーサービス連合、看護婦、ヘルパー）

②活動場所　兵庫高校

③活動時間　８：00～

④活動内容

あったか湯

午後から断水のため、午前中で終了。（富山、石川帰る）

介護入浴＝５名（男３、女２）

一般入浴＝61名（男24、女37）

午後から備品整備（プロパン等）

後、高校周辺のクリーン作戦

⑤意見・要望

断水のため午前中で終了する旨は校内放送でくりかえし連絡したが、知らないで10名ほど訪れた。

介護の方では震災後始めて風呂に入ることが出来たと大変喜ばれた。

交通労連（報告者：安田公義）

①活動人数

24名（岩手３、愛媛９、兵庫２、高知３）

②活動場所　神戸市内、三木市内

③活動時間　９：00～15：00

④活動内容

クリーン作戦

午前　第１班＝摩耶倉庫からポーアイコンテナへへ物資（医療）を搬送。

第２班＝グリンピア三木から連合兵庫へ書籍を搬

入。
午後　１班、２班合同で連合兵庫の２階へ搬入。
⑤意見・要望　特に無し

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　17名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　７：00～15：00
④活動内容
　移動風呂
（入浴時間９：30～13：00）
入浴者　男１名（介助）
　　女５名（介助）
清拭（含シャンプー）女１名（介助）
⑤意見・要望
　入浴予定者12名に対し実績７名。何らかのかたちで外部入浴をされている人が増えているため、入浴者は減少している。実績ベースなら、テント１張りで対応可であり調整が必要。

連合北海道（報告者：田中信一）

①活動人数　８名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　９：30～
④活動内容
　り災者証明発行、義援金交付の会場整理・案内。
⑤意見・要望
　り災証明、義援金交付のため、長い時間、並んでいる市民に区役所からの事前連絡がうまくいっていないのか、書類の不備で受け付けてもらえず、帰らされている市民が随分といる。

連合宮城（報告者：西　孝一）

①活動人数　４名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：30
④活動内容
　り災者証明発行受付
　義援金配布受付
　見舞金申込用紙受付
⑤意見・要望
　☆３月13日(月)から今日で３日間となり受付業務の内容も全員理解し、スムーズに対応できるようになった。
　☆１日あたり、750件の受付業務で終日、兵庫区役所地下１階で対応しているが、適度な休憩をとりながら進めている状況である。
　☆地下１階の会場は、こまめに清掃されておらず、「わたゴミ」等が多く、訪れた市民からも「ここは汚い、空気が悪いので気分が悪くなってしまう」などの苦情も多い。週末には清掃するなど、至急、環境改善対策が必要だ。

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
　避難所支援活動
湯沸かし器給水、食料搬入・配布、トイレ掃除、グラウンド清掃、夕食搬入・配布。
⑤意見・要望　特に無し

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～18：00
④活動内容
　り災証明発行関係
り災証明受付、義援金受付、見舞金申し込み用紙配布
⑤意見・要望
　３日目となり、混乱もなく終了した。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　５名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～17：00
④活動内容
　避難所支援活動
炊き出し補助、物資搬入
⑤意見・要望　特に無し

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　２人
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　９：00～14：00
④活動内容
　あったか湯（移動風呂）
入浴サポート
⑤意見・要望　特に無し
⑥必要物資　清拭用ドライシャンプーと溶液

連合群馬（報告者：工藤　進）

①活動人数　５名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　AM７：00～AM２：30
④活動内容

避難所支援活動
夜警（PM10：00～AM２：30）
食事準備・配給、シャワー、トイレ、堀等の清掃
⑤意見・要望　特に無し

自治労報告（３月15日分）

◦名倉小　避難者168名。同志社女子大からケーキのサービス。
◦丸山中　避難者100名。６名退出。風邪をひいている人が多い。ボランティアは幸いひいていない。
◦大橋中　避難者320名。高齢者が多いためか、おとなしい。風邪がはやっている。物資は全体的に行きわたっている。
◦神楽小　避難者900名。都市ガスの復旧見通しがつかない。16日より朝食のみ600食とする。
◦長田工高　避難者292名。風邪気味の人がいるが、長野医療センターが常駐しているので問題はない。
◦刈藻中　避難者464名。仮設トイレの撤去は学校側で対応する。17日物資返送作業に向けてポリタンク・段ボールの撤収作業。
◦真陽小　避難者1107名。無料電話取り外しがあった。ボランティアと自立について話し合った。衣料品、タオル等は放出し、毛布など88箱を返送した。
◦長楽小　避難者2600名。５者会議は物資の放出、校庭拡張の促進、校外者の給食縮小について、市の動向を見ながら20日以降に積極的な対応をきめた。
◦西代中　ジュース、牛乳、コーヒーのうち、牛乳の割合を増やしてほしい。

全国医療（報告者：徳永真理子）

①活動人数　７名
②活動場所　会下山小学校
③活動時間　13：00～17：00
④活動内容
　あったか湯（入浴介助）
高血圧、老人性痴呆、膝部の術後３年経過、腰部の術後１年経過、下肢の脱力感。
⑤意見・要望
　☆入浴された方からの意見として、もう少しうす手の下着がほしい。
　☆せっかくの入浴なので浴槽の外で排水が出来るような設備を希望します。
　☆入浴後の水分補給が出来ればよかったと思います。
　☆高齢者で高血圧などの合併症を持っている方が多いので血圧をチェックしコントロールの必要があると思われます。
⑥必要物資　血圧計、聴診器。

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月16日）報告より

■16日現在ボランティア参加者数（延べ）36,628人

（会議参加組織）
連合山形、連合新潟、連合静岡、連合宮城、連合愛知、連合栃木、連合群馬、連合福井、交通労連、食品労連、情報労連、日教組、造船重機労連、連合石川、連合富山、連合鹿児島、連合福岡、連合大分、連合宮崎、連合熊本、連合長崎、（文書報告）全国医療、自治労、連合岩手

交通労連（報告者：寺河　聡）

①活動人数　20名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　９：00～
④活動内容
　物資搬入（長田区・コスモ配送～ポーアイコンテナ倉庫まで）。
クリーン作戦（小野柄小学校）
書籍配送（平木中学校）
⑤意見・要望　特に無し

日教組（報告者：小川泰司）

①活動人数　50名（48名）
②活動場所
　避難所小・中校他24カ所
（別・兵教組16カ所）
④活動内容　あったか湯（２名）
　前日と特にかかわりなし。
⑤意見・要望　特に無し
⑥必要物資　図書の要望
稗田小学校＝大人向け小説100冊程度
西郷小学校＝推理小説、子どもマンガ
烏帽子中学校＝図書が焼失してしまった。
　中学校用、生徒用図書ができるだけ沢山。
湊川多聞小学校＝雑誌類があればほしい。

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
　避難所支援活動
湯沸かし器の給水、パンの搬入
朝食準備・配布、トイレ清掃
新聞配達、飲物配布、毛布の乾燥作業、夕食準備・配給。
⑤意見・要望　特に無し

連合山形（報告者：佐藤秀明）

①活動人数
　29名（山形、新潟、兵庫、富山、熊本、石川、看護婦、ヘルパー）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～
④活動内容
　あったか湯
一般入浴＝135名（男51、女84）
介護入浴＝２名（男１、女１）
⑤意見・感想
　あいにくの雨天のため介護風呂の利用者が少なかった。
　明日以降の為、引き継ぎを徹底した。
⑥必要物資　ティッシュペーパー、紙コップ。

連合群馬（報告者：清村宗一）

①活動人数　５名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　AM７：00～AM２：30
④活動内容
　避難所支援活動
夜警、給食、シャワー清掃、支援物資倉庫移動、避難者居室移動支援。
⑤意見・要望　特に無し

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　17名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　７：00～16：00
④活動内容
　移動風呂
（入浴時間10：00～15：00）
介助入浴＝７名（男５、女２）
⑤意見・要望　特に無し

連合宮城（報告者：畑山　實）

①活動人数　27名（宮城４、北海道８、情報労連15）
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容
　り災者証明発行関係
１．り災証明・義援金受付
２．り災証明郵送業務
３．会場整理、案内
４．市・県見舞金用紙配布
⑤意見・要望
　あいにくの雨で外でテントでの業務だったので見舞金用紙配布の所に雨が吹き込み大変でした。スコップ、ビニールシート等を用意してほしい。
　部屋の荷物を移動する場合は事前に連絡してほしい。同じような荷物が多いため。

連合静岡（報告者：中村達夫）

①活動人数　14名
②活動場所　東灘区、長田区
③活動時間　8：30～18：00
④活動内容
　あったか湯
東灘区北青木の市営住宅（１名）
長田区五位の池町市営住宅（１名）
※81歳の男性と82歳の女性
⑤意見・要望
　入浴者の事前の健康情報が若干不足していた。（人工肛門だったため、看護婦さんが対応が分からなかったところがあった）

連合富山（報告者：小竹勝則）

①活動人数　６名
②活動場所③活動時間④活動内容は連合山形と同じ。17日から本格的に活動します。

連合石川（報告者：吉田寿子）

①活動人数　５名
②活動場所　兵庫高校、兵庫区役所
③活動時間　13：30～16：00
④活動内容
　中途の時間帯なので明日からの仕事の引き継ぎと介護班に帯同（２名）。り災証明・義援金関係書類つくりの手伝い。
⑤意見・要望
　雨だったので、せっかく風呂に入っても足が汚れるので何か対策はないものかと思った。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　15名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：30
④活動内容
　り災証明手続き（５名）
　義援金給付説明（４名）
　見舞金パンフ配布（４名）
　郵送担当（３名）
　公会堂内整理（５名）
　※午後から福井、石川の５名が合流。
⑤意見・要望
　見舞金の開封、今日からスタート。福井、石川が担当

したが、明日から宮城が午後から帰るので午前中に引き継ぎをする。全体的には作業に余裕がでてきた。雨のため屋外で作業したパンフ配布の仲間が大変だった。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　5名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　7：00～17：00
④活動内容
　避難所支援活動
　湯沸かし器給水、食料搬入
⑤意見・要望　特に無し

連合岩手（報告者：小野寺雅司）

①活動人数　4名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容　あったか湯のお手伝い
⑤意見・要望　特に無し

連合愛媛（報告者：津田將臣）

①活動人数　4名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00
④活動内容
　避難所支援
　物資搬入。
　診療所受付（10：00～12：00）
　食料配給
　診療所受付（17：00～19：00）
⑤意見・要望
　1日の仕事の流れが確立していることから、前任者によるマニュアルもあり、特にこれといって問題もなかった。

連合愛媛（報告者：今田昭夫）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　8：50～21：00
④活動内容
　避難所支援
湯茶の補充、警備ボックスの立ち番、弁当の配給、ボランティアの電話当番、イベントの案内、石油ストーブの灯油補充。
⑤意見・要望　特になし

自治労報告（3月16日分）

◦名倉小　避難者171名。カード方式は混乱する恐れがある。ゆるやかに減らしていくことを校長が希望。在庫は避難所内で充分消費出来るので返送しなくてもよいとのこと。
◦大橋中　避難者600名。外食が増えている。内部には物資を放出し、一般の人には食事を止めることで一般の人からクレームが多い。
◦丸山中　避難者96名。精神的に落ちついているようだ。部屋から出てくる人に話しかけると相手もよくはなしてくる。ただし地震の話しはしない。
◦宮川小　避難者210名。明日から夕食の到着が17：30頃になる連絡あり。
◦長田工高　避難者288名。トイレ消毒も自治会がやる。給水作業、野菜運搬のため、台車が欲しい。
◦刈藻中　避難者469名。バザー用物資を分類。老人・障害者親子の施設入所の対応。駐輪禁止のポスターを貼る。
◦真陽小　避難者970名。登録されていない人が学校内に入って酒を呑んでいたため、警察で対応してもらった。
◦長楽小　避難者2600名。校外者給食が増え、給食が足りなかった。物資を必需品・青空市場・返送分に分類。
◦西代中　消防署が来校、火元の安全確認、おでんの炊き出し。給食配給は自治会が中心に行っている。

1995年3月18日（土曜日）No.45

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月17日）報告より

■17日現在ボランティア参加者数（延べ）37,176人

（会議参加組織）

日教組、情報労連、交通労連、政労連、連合北海道、連合栃木、連合東京、連合岐阜、連合三重、連合新潟、連合富山、連合福井、連合石川、連合福岡、連合長崎、連合熊本、連合大分、連合宮崎、連合沖縄、（文書報告）造船重機労連、連合群馬、連合愛媛

日教組（報告者：島　修身）

①活動人数
　97名（うち兵教組51人）
②活動場所
　避難所小・中校他22カ所
（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24時間態勢（宿直）
④活動内容　前日と特に変わりなし
⑤意見・要望　特になし
⑥必要物資
平木中学校＝本棚
摩耶小学校＝本棚、小学生向け図書
烏帽子中学校＝本棚、中学生向け図書

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　15人
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容
　り災証明発行説明・見舞金パンフ配布・見舞金申し込み開封・会場整理
⑤意見・要望
　本日から連合九州ブロックと合流、引き継ぎを兼ねて全部署に振り分けて作業した。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　5人
②活動場所　太田中学校
③活動時間
④活動内容
　物資搬入・食事配膳・給湯作業
⑤意見・要望
　18日夕までの作業となるため給湯者の移動は18日午後中に対応してほしい
　太田中自治会は19日以降の自立の態勢を目指し準備進行中。洗濯機、ガスコンロなどの資材搬入が急ピッチで自活のための意識づくりに砕身している

交通労連（報告者：島本久志）

①活動人数　15名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　9：00～16：30
④活動内容
　摩耶埠頭倉庫より衣料を2ｔトラック1台、ワゴン車4台でポーアイコンテナへ搬入（13人）
　ワゴン車1台で連合大阪へ機材を搬入（2人）
⑤意見・要望
　積み込み、荷下ろし作業は思い通りはかどったが、道路状態が悪く渋滞していたため時間がかかった
　梱包状態が悪かった。

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　16人
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　7：00～17：30
④活動内容
　あったか湯（10：00～16：00）入浴者9名（女6、男2、赤1）うち介護8名

連合岩手（報告者：小野寺雅司）

①活動人数　5人
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～16：00
④活動内容　あったか湯の手伝い
⑤意見・要望
　今日で岩手はおしまいです。皆さまご苦労さまです。ありがとうございました。

連合岩手、山形、富山、新潟、石川、兵庫、岐阜、看護婦、ヘルパー（報告者：前田　駿）

①参加人数　27名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容
　8：00現地集合、行動開始
（一般）男35、女70、計105
（介護）男1、女2、計3
　現地本部からの連絡がなく、「白浜の湯」が入ってなく少々慌てた。放送したが数名が入浴に来る（入浴開始11：10）
⑥必要物資
介護用の下着類（男ズボン下、L10、M10）女性下着（L10、靴下10）

連合群馬（報告者：桜井正樹）

①活動人数　5名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　7：00～26：30
④活動内容
　夜警（22：00、24：00、26：00）、食事配給、シャワー、トイレ等清掃、物資管理、配給、あったか湯事前準備作業、物資移動作業
⑤意見・要望
　朝早くから夜遅くまでの作業のため、皆疲れがたまってきた。本日、自治会発足総会のため全体ミーティング欠席。

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　3名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：30
④活動内容
　湯沸かし器給水、朝刊配布、物資搬入、朝食準備、朝食配給、あずま湯オープン準備及びオープン受付、清掃（トイレ、グラウンド、校外歩道）、夕刊配布、昼食配給の手伝い（部落解放同盟による炊き出しボランティア）、夕食搬入、夕食配給

連合東京（報告者：若林一枝）

①活動人数　33名（交代含む）
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　8：30～15：30
④活動内容
　入浴および介護（男3、女1、乳児2、計6人。うち男2、女1は要介護）
⑤意見・要望
　仮設住宅には老人、特に介護の必要な人々が優先していると思っていたが、まだ体育館にいるようだ。3月で打ち切りになったらどうなるのか心配だ。乳児の皮膚の健康が悪いようであり、また標準より小さめに見えた。やはり母親のストレスも多いようだ。
⑥必要物資
　くし（女性でくしもないとのこと。用意してほしい。今日は看護婦が自分のものをプレゼントしていた）

連合愛知、三重、長崎、東京、全国医療、食品連合（報告者：大森・荒木）

①活動人数　33名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　8：45～15：20
④活動内容
　男80歳（車イス）、男75歳、乳児（女7カ月、男5カ月）、女61歳、男60歳
⑤意見・要望
　あったか湯は女性の常連が多く期待が大きい。「3月末までか？　残念」と言われて返事に困った。
⑥必要物資　ガムテープ3個（夕方車に搬入済）

連合富山（報告者：小竹勝則）

①活動人数　6名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容
　あったか湯、弁天温泉ボランティア、食事搬送
⑤意見・要望
　昨日現地入りし、少しは要領が分かってきた。今日1日がとても短く感じた。手すき時間をみて皆で車イスを使って介護の練習をした。

連合石川（報告者：吉田寿子）

①活動人数　2名（女）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容　あったか湯手伝い
⑤意見・要望
　夜中に湯が入っていなかった。10：00の入浴時間が11：10になった。さし湯が熱くて大変だった。「いつまで入浴できるの？」とよく聞かれた。食事が余るので少し対処を。

連合福井（報告者：荒谷一井）

①活動人数　5名（福井2、福岡2、沖縄1）
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容
　り災証明申請書類チェック（郵送された分を開封し、チェック用紙に基づいてチェック）
⑤意見・要望
　全体の作業が遅れている。本日作業分は15日分で、16日分は一部のみで終わった。（チェック作業は1件1分程度、1人50～60件／h）

連合愛媛（報告者：山添和久）

①活動人数　4名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容
　6：00～物資搬入、10：00～診療所受付、物資搬入、昼食配給、14：00～トイレ掃除、17：00～診療所受付、夕食配給

連合愛媛（報告者：伊野国光）

①活動人数　3名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　16：00～20：00
④活動内容
　飲料用の湯と燃料用薪の用意（やかん×5、湯たんぽ用大鍋×1を、6：00～18：15まで常時用意）、薪の調達（近所の災害現場に燃料用薪を許可を得て取りに行く）、電話番、夜警、校内・校庭の見回り（1hおき）＝10：00～25：00、1：00～4：00、4：00～7：00を3交替で

連合愛媛（報告者：今田昭夫）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　5：00～23：00
④活動内容
　湯茶の補充、警備ＢＯＸの立番（不寝番3h）、ボランティア本部のＴＥＬ当番、暖房器具の点火、灯油の補給（2回／日）、物資の配給（袋詰め、配布120人分）、兵教組3人に作業の説明、弁当・パン・牛乳の員数チェックと配置、灰皿の手入れ（2回／日）、申し送り事項の不備あり（スペック化済み）

連合長崎（報告者：北川真理）

①活動人数　33名
②活動場所　湊川中学校
③活動時間　8：30～15：30
④活動内容
　入浴手伝い(男3うち2は要介護、女1・要介護、乳児2)
⑤意見・要望
　車イスの男性を浴槽まで抱える時、男性に手伝ってもらえると助かる。使用したタオルを洗濯するが、曇っているためなかなか乾かない。
⑥必要物資　寒い日などドライヤーがあったらと思った。

1995年3月19日（日曜日）No.46

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月18日）報告より

■18日現在連合ボランティア参加者数（述べ）37,327人

（会議参加組織）

造船重機、日教組、交通労連、連合群馬、連合栃木、連合愛知、連合岐阜、連合三重、連合新潟、連合富山、連合石川、連合福井、連合福岡、連合長崎、連合熊本、連合大分、連合宮崎、連合鹿児島、（文書報告）連合東京、政労連、自治労、連合大阪、連合愛媛、連合沖縄、情報労連

造船重機労連（報告者：西沢昇治郎）

①活動人数　16名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　7：00～15：00
④活動内容
　あったか湯（移動風呂）、入浴時間10：00～14：00、入浴者　男2、女6、計8（うち要介助6）

連合愛知、三重、長崎、東京、政労連、自治労（報告者：大森、辻、北川真理、若林一枝、上内弘子、仁木百合子）

①活動人数　19名
②活動場所　兵庫高校～若菜小学校
③活動時間　8：30～14：30
④活動内容
　兵庫高校であったか湯の機材点検や車内清掃をしながら待機。在宅希望者がいないため、兵庫高校へ移動。女1（要介護）の入浴介助
⑤意見・要望
　本日は1人のみの入浴で皆張り切った割りに空振りだった。
⑥必要物資
　造船重機が使っているような、中身の見える透明なふた付きの衣装ケース（用具を探す手間が減るし、運搬に便利だから）、ビニールロープ（丸）、ヘアブラシ、くし、タワシ、ビニールシート、マット、洗濯ばさみ、創傷処置用のイソジン、ピンセット、滅菌ガーゼ等の調達をリーダーに要望すると、すぐに用意してくれた。

連合群馬（報告者：清村宗一）

①活動人数　5名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　7：00～26：30
④活動内容
　校内警備（夜警20：00～26：00）、配給準備（朝～夕）、シャワー・トイレ清掃
⑤意見・要望
　3／17の避難者集会で自治組織の確立を決める。

連合新潟、富山、石川、岐阜、大阪、看護婦、ヘルパー（報告者：前田駿、中村征子、吉田寿子、小竹勝則）

①活動人数　22名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容
　あったか湯の手伝い（介護入浴6人＝男1、女5、一般入浴108人＝男48、女60）、食事運搬補助
⑤意見・要望
　介護入浴に特に感謝されている。再入浴の希望の有無を確認し介護入浴の利用を図っている。土曜は利用者減を予想したがそれほどでもなく、特に15：00～16：00の混雑が激しい。下着のことでアクシデント。介護用に下着の準備を徹底する必要性を痛感。臨機応変な対応も必要だ。
⑥必要物資　デッキブラシ、かみそり

連合愛媛（報告者：山添和久）

①活動人数　4名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容
　6：00～物資搬入、10：00～診療所受付、物資搬入、昼食配給、14：00～トイレ掃除、17：00～診療所受付、夕食配給
⑤意見・要望
　3／22より診療所の診察時間が17：00～19：00のみとなる。

日教組（報告者：島　修身）

①活動人数　99名（うち兵教組51人）

②活動場所　避難所小・中学校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容　前日と特に変わりなし
⑤意見・要望
（烏帽子中）焼失したため中学生徒用の図書をたくさん希望したが、配置場所が確保できず管理が困難なため、今回は残念だが遠慮したい。（会下山小）トイレ消毒剤は自治会の人が独自に入手した。

連合福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄、情報労連（報告者：永瀬、田辺）

①活動人数　18名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
８：30～救援物資の移動（り災証明書の受付・義援金処理新設のため）、15：00～見舞金申請書郵送分の開封・申請書チェック
⑤意見・要望
情報労連は本日で最後の行動。２／８から長期間お世話になりました。

連合福井（報告者：荒谷一井）

①活動人数　５名（福井２、石川３）
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
り災証明書の整理（再調査のため関係資料準備、地図プロット等）、現地調査（被害状況把握＝１人）
⑤意見・要望
地図プロットに時間がかかるため、班に地元の人がいれば速くなる。

情報労連（報告者：田辺安治）

①活動人数　５名
②活動場所　太田中学校
③活動時間　７：00～15：30
④活動内容　物資搬入、給湯等
⑤意見・要望
本日が最後の行動。避難所対策本部役員によるお別れ会が開かれ、本部長から感謝の言葉をいただき、役員の方々と40日間の思い出話に花が咲いた。皆明るい人たちで、安心して引き上げることができた。

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：30
④活動内容
湯沸かし器給水、朝刊配布、物資搬入、朝食準備・配給、清掃（トイレ・グラウンド・校外）、洗濯機受付管理、夕刊配布、夕食準備・配給

連合愛媛（報告者：今田昭夫）

①活動人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　５：00～23：00
④活動内容
湯茶の補充、警備ＢＯＸの立番（５ｈ／日）、弁当の配給（数量チェック・仕分け）、ボランティア本部のＴＥＬ当番（２ｈ／日）、食料の受け取り保管（ラーメン・茶・野菜等）、暖房器具への灯油補充、兵庫県栄養士会（但馬地区）の炊き出し・給仕手伝い（２ｈ）、連合兵庫で日報の受領・自転車２台借用（学校にある自転車は整備不良車が多い）

交通労連（報告者：島本久志）

①活動人数　14名
②活動場所
阪急王子公園駅、ＪＲ元町駅、ＪＲ三宮駅、ＪＲ神戸駅、兵庫区役所、ＪＲ新長田駅
③活動時間　10：00～16：00
④活動内容
阪神復興クリーン作戦（ほかに連合大阪が阪急西宮駅北口、阪神御影駅北口でクリーン作戦を展開・本部から佐藤、松井を派遣）
⑤意見・要望
清掃器材で熊手（大）は不要。火箸・熊手（小）のほうが作業が効率的だ。

（以下、17日分）

連合福井（報告者：橋本清美）

①活動人数　３名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
「１人で入るあったか湯」の入浴手伝い（ボランティア１人当たり２人入浴）、タオル等の洗濯
⑤意見・要望
天候等を考え、寒くない待ち合い場所を用意するといい。入浴準備に当たった造船重機の方々がテキパキしていてよかった。

連合岐阜（報告者：中村征子）

①活動人数　５名
②活動場所　兵庫高校

③活動時間　14：00～17：00
④活動内容
　あったか湯と介護湯の手伝い。夕食配給の手伝い。

震災復興・クリーン作戦を大展開

街をきれいに、さわやかに―連合ボランティアが18日、神戸市全域と西宮市内の合わせて８カ所で一斉に、「震災復興・クリーン作戦」と題した清掃活動を行った。

連合兵庫（６カ所）と近畿ブロック（２か所）の呼びかけで、合計247人が出動。駅周辺の路上などには空き缶や吸いがらが散乱しており、ボランティアのゴミ袋はまたたく間にいっぱいに。約２時間の作業で、１カ所当たり約40袋分ものゴミを集め、交通労連のトラックでＪＲ神戸港駅跡地のごみ集積中継地へ運んだ。

出動地域は次のとおり（カッコ内は組織名）。

阪急西宮北口駅・ＪＲ西宮駅周辺（連合大阪）

阪神御影駅周辺（連合大阪）

王子公園・阪急駅周辺（金属機械、全電線、自動車総連）

ＪＲ元町駅周辺（兵教組、政労連、私鉄総連、ＪＲ総連、全農林）

国道２号線三宮～吾妻通（電機連合、電力総連、ゼンセン同盟、食品連合）

ＪＲ神戸駅周辺（自動車総連、交通労連、ゼンキン連合、税関労連）

兵庫区役所周辺（全逓、運輸労連、自治労）

ＪＲ新長田駅周辺(造船重機、ゴム連合、全郵政、情報労連)

1995年３月20日（月曜日）No.47

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月19日）報告より

■19日現在連合ボランティア参加者数（延べ）37,492人

（会議参加組織）

日教組、造船重機、交通労連、政労連、連合東京、連合愛知、連合岐阜、連合三重、連合新潟、連合富山、連合石川、連合福井、連合鳥取、連合広島、連合愛媛、連合福岡、連合長崎、連合熊本、連合鹿児島

（文書報告）全済労、連合大分、連合宮崎、連合沖縄、連合群馬、連合茨城、連合栃木、全国医療、連合大阪

連合愛知、三重、長崎、東京、政労連（報告者：大森、辻、北川真理、若林一枝、上内弘子）

①活動人数　20名（ＡＭ）、19人（ＰＭ）
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　８：30～16：00
④活動内容
　あったか湯（移動風呂）、入浴時間10：30～15：00、入浴者　男２（要介護１）、女７（２）、計９（３）
⑤意見・要望

日曜日でフリーマーケットが開かれ、時間予約と実施が一致せず対応に手間取った場面も。だが概ねスムーズにフル稼働した。予約は２人のみであとは当日アナウンスで要介護者を優先に受け付けた。時間の割り振りのため、前日までに人数の把握を。心臓病・人工肛門など要介護者の対応のため、１チームに看護婦・ヘルパー等２人ずつ配置を。バスタオル希望者３人にさしあげた。避難者はかなり疲れている様子。

造船重機、全済労、連合福井（報告者：鳥居徹夫、岩本聖子、永家、橋本清美）

①活動人数　10名
②活動場所　長田区戸崎通、東灘区御影中町
③活動時間
　11：00～13：30（連合福井10：30～13：30）
④活動内容
　在宅風呂サービス（寝たきり女性（90）、歩行困難女性（94））
　（以下連合福井のみ）兵庫区で前回入浴者宅訪問・次回入浴希望聴取
⑤意見・要望
　担架式バスでは洗髪がしにくい。排水用ホースがあると便利。朝のミーティングなしに現地入りした。リーダーの説明が必要。女性ボランティアが多すぎ看護婦、ヘルパー以外のすることがない。兵庫区の訪問宅でＴＥＬにも呼び鈴にも出ない人がいた。連絡方法に工夫を。
⑥必要物資　あれば血圧計

連合新潟、富山、石川、岐阜、大阪、鳥取、広島、全国医療（報告者：前田駿、小竹勝則、吉田寿子、中村征子、石田喜昭、八木由利子）

①活動人数　36名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容
　あったか湯入浴介助・入浴者送迎（一般入浴男47、女65、計112。介護入浴男１、女４、計５）、弁天温泉の調整・清掃・管理運営、食料運搬補助
⑤意見・要望
　引き継ぎをしっかりやること。介護者を車イスで移動中、固い土壁らしきものが肩に当たる。ヘルメットが必要。連合石川と福井の女性はふたてに分かれて活動しているため、活動内容別の方が報告しやすい。女湯を手伝いながら「赤い帽子の人たち」という言葉で感謝されている。連合が全国的に取り組んでいることを説明した。参加者が気持ちよく動いておりすがすがしい気分だ。もっと長い休みが取れたらもっと協力できたのに、残念だ。明日から女性ボランティアが少なくなるようだが、女湯は大変なので、女性の手配を願う。
⑥必要物資

スキナベーブ２本、サンダル（介護者が介護中に足が痛く冷たいため）、ビニール製エプロン

連合愛媛（報告者：山添知久）

①活動人数　４名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～19：00
④活動内容
６：00～物資搬入、10：00～診療所受付・物資搬入・昼食配給、14：00～トイレ掃除、自転車パンク修理、17：00～診療所受付・夕食配給。

連合福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄、福井、石川（報告者：永瀬幸男、荒谷一井、吉田寿子）

①活動人数　21名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～16：00
④活動内容
見舞金申請書のチェック作業（受付、書類確認、受付台帳整備等）、約4,000通処理

連合愛媛（報告者：伊野国光）

①活動人数　３名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　６：00～19：00
④活動内容
飲料用・湯タンポ用の湯沸かし・供給（被災者に放送連絡）、災害現場から燃料用薪の調達（校長の許可あり）、路上清掃、やかん・鍋等のすす払い・掃除、夜警・見回り（22：00～３ｈおきに２人＋教職員で）
⑤意見・要望
現在被災者数約400人、食事時約800人。３人とも元気に活動中。

連合群馬、茨城（報告者：清村宗一）

①活動人数　９名（群馬５、茨城４）
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　７：00～26：30
④活動内容
食事配給、シャワー・トイレ清掃、夜警（22：00～26：00）、活動引き継ぎ（群馬→茨城）

連合栃木（報告者：秋元信之）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～16：00
④活動内容
湯沸かし器給水、朝刊配布、物資搬入、朝食準備・配給、清掃（トイレ・グラウンド・校外）、自転車修理、昼食準備・配給
⑤意見・要望　１週間お世話になりました。

連合愛媛（報告者：今田昭夫）

①活動人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　５：00～23：00
④活動内容
湯茶の補充、警備ＢＯＸの立番、パン・牛乳・弁当の配給（数量チェック・仕分け）、ボランティア本部の当番（ＴＥＬ２台・放送装置）、救急資材の受け取り・格納、ストーブへの灯油補充、トイレつまり直し・手伝い（業者手伝い）、被災地の見学（２ｈ、長田・三宮方面）

日教組（報告者：白井信子）

①活動人数　99名（うち兵教組51名）
②活動場所
避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容　前日と特に変わりなし
⑤意見・要望
小学校の卒業式を控えて、校内美化・整備等に協力要請があれば、協力してほしい。（会下山小）ガムテープをはがす用具等は日教組で対応済み。

交通労連（報告者：本田有弘）

①活動人数　７名（車両５台）
②活動場所
阪神岩屋・ＪＲ灘駅周辺、ＪＲ三宮駅周辺、生田川公園周辺、ＪＲ兵庫駅周辺、山陽電鉄板宿駅周辺、兵庫高校周辺
③活動時間　10：00～16：00
④活動内容　阪神復興クリーン作戦

震災復興・クリーン作戦（第２日）

前日に引き続き、同作戦を神戸市内７地域と芦屋市内１カ所で実施。合計189人のボランティアが参加した。実施地域は次のとおり（カッコ内は参加組織）。
- 阪神岩屋・ＪＲ灘駅周辺（鉄鋼労連）
- ＪＲ三宮駅周辺（兵教組、電機連合）
- 生田川公園周辺（合化労連、全化同盟、ゼンセン、自治労）
- ＪＲ兵庫駅周辺（造船重機、電力総連、ゼンキン）
- 山陽電鉄板宿駅周辺（金属機械、私鉄総連）
- 兵庫高校周辺（全逓、運輸労連、ＪＲ連合）

（以上、連合兵庫対応）

◦阪神芦屋駅・ＪＲ芦屋駅周辺
◦ＪＲ住吉駅周辺
（以上、近畿ブロック対応）

（以下、18日分）

連合愛媛（報告者：伊野国光）

①活動人数　３名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　６：00～19：00
④活動内容
　飲料用と湯タンポ用の湯の用意（ヤカン×５と大鍋×１を使用）、作業場と通行区分の清掃、燃料用薪の製造、校長の許可を得て災害現場より薪の調達、昼食時にカレーの差し入れがあり、ボランティア全員で作り被災者に提供
（作業時間割は６：00～10：00は合同、10：00～13：00・13：00～16：00・16：00～19：00の３時間帯のうち、連合が２つを担当）
⑤意見・要望
　校庭で６年生のお別れ会があった（約１ｈ）

連合福井（報告者：橋本清美）

①活動人数　３名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　９：00～15：00
④活動内容
　介護風呂を２カ所設営し入浴手伝い（13人中２人キャンセルあり）。未就学児とのふれあい（犬も）。
⑤意見・要望
　タオルとぞうきんの区別がつきにくいので、印を付けたら（例：ぞうきんには㋞）。風呂が２張りあり忙しかったが、たくさんの人に入ってもらえてよかった。

1995年３月21日（火曜日）No.48

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（３月20日）報告より
■20日現在連合ボランティア参加者数（延べ）37,943人
（会議参加組織）
連合岐阜、交通労連、連合鳥取、政労連、全済労、連合福岡、日教組、連合長崎、造船重機、連合宮崎、連合茨城、自治労、連合愛知、連合埼玉、連合三重
（文書報告）連合福井、連合富山、連合石川、連合新潟、連合広島、連合大分、連合沖縄、連合鹿児島、全逓

連合岐阜、石川、富山、新潟、鳥取、広島（報告者：中村征子、吉田寿子、小竹勝則、前田駿、石田喜昭）

①活動人数　26名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容
　あったか湯（一般入浴：男33、女38、介護入浴：男４、女３）＝湯の到着が遅れ11：00より入浴開始、夕食運び
⑤意見・要望
　本日はボランティア参加者が多かったが、午後から女性が少なくなり、入浴者に手伝ってもらった。皆協力的で気分良。入浴者に少し協力してもらうのもいいのでは。
（石川）５日間お世話になりました。あったか湯は大変喜ばれてうれしかった。
（富山）本日最終日。無事次の部隊に引き継げた。連合の全国ネットを今後の活動に生かすようがんばりましょう。
⑥必要物資
　老人用指付きソックス、リンス、インスタントコーヒー・クリープ（ボランティア用）

連合鹿児島（報告者：池辺信溥）

①活動人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～19：00
④活動内容
　８：30～連合愛媛より引き継ぎ、10：00～医療受付、14：00～屋外仮設トイレ清掃、18：00～医療受付

連合長崎（報告者：北川真理）

①活動人数　13名
②活動場所
　東灘区本山中町、兵庫区西出町２丁目
③活動時間　９：00～15：30
④活動内容
　在宅入浴サービス（40歳代男：訪問したが一昨日ガスが復旧し、奥さんが自宅の風呂で入れるとのことで、断わられる）（80歳代男：留守で午後再訪し、入浴サービス）

連合福岡、大分、宮崎、沖縄、福井、新潟、富山、石川（報告者：永瀬幸男、荒谷一井）

①活動人数　16名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　公会堂入り口整理、り災証明受付、再調査、義援金申

請書の記載指導、会場案内
⑤意見・要望
再入場する区民がスムーズに入場できるよう、目印を付けてほしい（トラブルの原因になる）、再調査の１／３が再発行となった（確認をすればもっとスムーズに流れるはず）、再調査は地元職員がすべき、区民から感謝された、北陸ブロックは本日で終了。10日間ありがとうございました。皆がんばってください

連合愛知、三重、東京、全済労、政労連（報告者：大森、辻）

①活動人数　16名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
移動風呂「あったか湯」入浴時間＝11：00から15：00、入浴者＝男２（うち脳こうそく１）、女６（うち要介護１、洗髪のみ１）
⑤意見・要望
朝到着したら水道工事が入っており（前日には聞いていなかった）１カ所の穴を速く埋めてもらって設営。入浴開始は少し遅れたが、慣れてきたことと、医療センターで予約があったため、スムーズに運んだ。毛布の提供を求める男性２人と、入浴希望の女子児童３人を断わった。医者から大衆浴場を止められている人などが、来週も楽しみにしている。
⑥必要物資　湯上がりのウーロン茶

交通労連（報告者：浜口浩哉）

①活動人数　９名
②活動場所　神戸市および西宮市内
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
本・雑誌類の第１次配布、稗田小（灘区）段ボール約80箱配布、西郷小（同）同、摩耶小（同）同、湊川多聞小（中央区）事前確認と異なり、不要とのこと、持ち帰る。平木中（西宮市）段ボール５箱配布、75箱持ち帰る。衣類の搬入（布引車庫テント→ポーアイ・日本郵船コンテナターミナル）。本・雑誌類の第２次配付先電話調査。
⑤意見・要望
本日、交替者が多く、地理不案内のため安全運転に心がける、事前の地図確認が大切。事前に必要とされる本の種類を確認しておくこと。

日教組（報告者：笠井博徳）

①活動人数　99名（うち兵教組51人）
②活動場所
避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容
神戸市内18カ所、西宮市内４カ所で活動を展開。「日教組指示第63号」の通り教育復興ボランティア活動を４／30（日）まで延期して実施することを決定。

自治労報告（18日分）

◦名倉小　避難者171人。校外者への配給は徐々に減らす。が、配給内容が良くなったため校外者が倍増。校長は困っている人のみ集まるよう訴えていた。
◦丸山中　避難者55人。災害対策本部から避難所運営について調査に来た。自治会、学校との関係は良好。
◦宮川小　避難者192人。給食搬入搬出や夜警を実施。特に変わりなし。
◦大橋中　避難者600人。外部の人への整理券の発行を徐々に減らす。
◦神楽小　避難者より夕食に異物が混入しているとの連絡あり。朝・夕食の見直しを行い配給量も減らす。
◦長田工業　避難者286人。仮設風呂が校舎修理の妨げになるので、早急に移設が必要。
◦苅藻中　避難者455人。メンタルヘルス対策が今後も必要な状況。自治労撤退後が心配。避難所外の公園居住者の人数把握を実施。
◦真陽小　避難者836人。避難所が自立できるよう組織づくりが始まった。３／24卒業式。
◦西代中　避難者472人。物資の回収が順調に推移。ポリ缶（430個）の回収14日に完了。水道、ガス、電気等が急速に復旧しつつある。それとともに弁当の数を変更する。

（７日分）

全逓（報告者：大田　誠）

①活動人数　３名
②活動場所　灘区烏帽子町
③活動時間　９：00～16：30
④活動内容
給水車が来ていることを地域にメガホンで周知。あまり人が来ないので中止し、水の運搬の手伝いをする。

（13日分）

全逓（報告者：清家房子）

①活動人数　６名
②活動場所　摩耶埠頭
③活動時間　７：00～17：00
④活動内容
摩耶埠頭の倉庫にある救援物資をコンテナトラックに積み込み（トラックが少ないため時間が余った）

鷲尾事務局長、ボランティアを激励

鷲尾事務局長は20日午後、連合兵庫を訪れ石井会長らと三役懇談会を行うとともに、現地を視察し現場でボランティア活動に取組む組合員らを激励した。

懇談会では、連合本部の基本的な考え方として①４月以降も連合の現地対策本部は存続するが救援活動の主体を、原則として連合兵庫に移管する。②構成組織、地方連合会による全国的なボランティアの参加は、３月末で一応の終了とする。③行政と学校の本来機能の回復にむけ、自治労・日教組の対応を別途協議する。連合本部は、連合兵庫より個別の活動要請があった場合、状況に応じて対応する―との連合本部の中執決定を確認。

これを受けて、連合兵庫の今後の活動について、４月以降は活動を絞って継続する―とし、①現在実施している兵庫県から依頼されている支援活動は継続する。②避難所については実態調査を行い、必要最下限の支援とし、夜の警備は行わない。③全国からの個人ボランティアについては、可能な限り受け入れ態勢をとる―ことを決めた。

続いて鷲尾事務局長は、兵庫県庁で記者会見に臨んだ後、連合兵庫で行われた連合ボランティアリーダー会議に出席し、同日の組合員の活動報告に耳を傾けた。

翌21日は被災地各地を視察。兵庫高校の「あったか湯」や新長田勤労市民センターの移動風呂サービスなどの現場で活躍するボランティアたちに「ごくろうさま」などと声をかけて激励。また工場などの社屋がダメージを受けた灘区の住友ゴム工業神戸工場や神戸製鋼所本社も視察し、震災の産業界への深刻な影響を目の当たりにした。

1995年３月22日（水曜日）No.49

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月21日）報告より

■21日現在連合ボランティア参加者数（延べ）38,141人

（会議参加組織）

連合岐阜、連合長崎、政労連、連合愛知、連合埼玉、連合福岡、交通労連、日教組、連合熊本

（文書報告）連合鳥取、連合広島、連合東京、都市交、千里山生協、連合広島、連合鹿児島、造船重機、連合三重、連合茨城、連合大分、連合宮崎、連合沖縄

連合岐阜、鳥取、広島、東京、都市交、千里山生協（報告者：中村征子、石田喜昭、上山　実）

①活動人数　21名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容

あったか湯手伝い（一般入浴：男55、女76、介護入浴：10）

⑤意見・要望

天気もよく皆元気にがんばった。介護の世話をした人からいただき物があり、うれしかった。介護湯の入浴者は10人／日程度だが、本当に必要としている人ばかり。３月いっぱいで終わるにはしのびない気がする。行政ができないことを連合の組織力で最後まで担えたら、連合の真価が認められると思う。明日は鳥取から女性７人が来てくれるようで、女湯は助かる。15：30ごろにコインランドリーにいく日が毎日続く。鷲尾事務局長の激励を受けた。

連合鹿児島（報告者：池辺信溥）

①活動人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～19：00
④活動内容

６：00～２Ｆ体育館に食料搬入、10：00～医療受付、14：00～屋外トイレ清掃、17：00～医療受付

⑤意見・要望　３／22～午前中の医療受付はなし

造船重機、連合長崎、自治労（報告者：長居徹夫、北川真理）

①活動人数　13名（ＡＭ）、15名（ＰＭ）
②活動場所　新長田勤労市民センター
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容

あったか湯（２張りのテントで９人入浴（うち要介護６人）＝男３、女６）

⑤意見・要望

16人の予定が９人の入浴。比較的元気な人たちだったので入浴は１人づつついて対応。午後は自治労からヘルパーの応援があり大変助かった。

連合愛知、三重、政労連（報告者：大森、辻　一郎）

①活動人数　13名
②活動場所　(1)東灘区魚崎南町、(2)長尾町
③活動時間　９：30～14：30
④活動内容

移動風呂「あったか湯」(1)夫婦（88)・(85）＝家族風呂が使用できたため、11：30～メンバー５人兵庫高校へ・ヘルパー２人新長田勤労市民センターへ合流。(2)女（86）＝14：30～メンバー４人兵庫高校へ合流。

⑤意見・要望

(1)　兵庫高校手伝いの後、翌日分の確認に行ったが、明日の会下山小は被災者の自立が進んでおり不要とのこと。昼ごろ本部に直接ＴＥＬしたとのこと。こういう場合速やかに担当まで連絡してほしい。

(2)　水道の水圧が低く時間がかかる（今後注意が必要）。浴槽にはあらかじめ水を張っておき、後から湯を入れて調整すると早く入浴できる。絶えず入浴者の話し相手を

したためリラックスしてもらえ、今後の入浴のリクエストがあった。当地区は近日中にガスが整備される見込み。

連合埼玉（報告者：佐藤和広）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：00
④活動内容
　物資搬入、校内清掃、食事準備、給湯室清掃

連合熊本（報告者：藤川）

①活動人数　３名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　５：00～23：00
④活動内容
　湯茶の補充、警備ＢＯＸの立番、食料配給（数量チェック・仕分け）、ボランティア本部の当番化（ＴＥＬ・放送装置）、救急資材受け取り・格納、ストーブへの給油、日赤の炊き出し協力

連合福岡、大分、宮崎、沖縄（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　11名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容
　見舞金申請書のチェック（17～20日分の一部約3,000通をチェック）＝連合６、その他自治労県本部６、広島市職６。
　再調査のための資料づくり（地図を添付する作業、約250通）・り災資料の整理＝連合５

交通労連（報告者：浜口浩哉）

①活動人数　17名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　９：00～17：00
④活動内容
　９：00～本の荷下ろし。稗田小・蓮池小へ配達。稗田小には保管場所がなく持ち帰る。ＰＭ～２ｔ車２台＋１ｔワゴン車１台で、東灘区内各避難所より衣類・ポリ容器を回収しポーアイへ搬入。
⑤意見・要望
　当初、東灘区役所よりポーアイへの搬入の予定が、各避難所からと変更になった。前もって確認をしてほしい。

日教組（報告者：筒井龍児）

①活動人数　99名（うち兵教組51名）
②活動場所
　避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24th態勢（宿直）
④活動内容
◦平木中　避難者138人。物資の搬入・配布、近隣の粗大ゴミの始末手伝い。連合からの図書は辞書以外持ち帰ってもらった。
◦用海小　同28人。食事の世話、電話の応対など。被災者は落ちついている。
◦高羽小　同130人。物資の管理、食事の世話。
◦福住小　同372人。電話の取り次ぎ、２世帯４人が退出。196世帯に。
◦稗田小　同800人。連合からの書籍搬入。11：00～15：00ブーニンのピアノ・リサイタル。
◦小野柄小　同500人。特に変化なし。
◦高取台中　同49人。食事の世話。
◦原田中　同170人。落ちついている。物資の受付業務など。
◦須佐野中　同139人。大阪・松原７中からボランティアに来る（校内清掃などをやることになっている）
◦若宮小　同284人。避難者14人退出。毎日少しづつ避難所を出ている。
◦二宮小　同208人。特に変化なし。スムーズにいっている。
◦上野中　同250人。６：15～朝食準備、８：30～風呂清掃、12：00～物資搬入。
◦菊水小　同110人。食事の搬入と配給。卒業式（３／24）準備の手伝い。
◦西郷小　同689人。トイレ清掃、風呂・食事の世話。
◦摩耶小　同300人。避難者は徐々に減ってきている。日中は薪割り、夜間は警備をしている。
◦段上小　同40人。ゴミの片づけ・焼却。子供とサッカーをして遊んだ。避難者１人増。
◦長田高　同260人。６人退出、物資の搬入・配付など昨日同様。
◦市立西宮高　同69人。物資管理、食事の世話。
◦湊川多聞小　同115人。宿直業務、食事の世話。
◦室内小　同約200人。被災者に変化なし。
◦会下山小　同350人。昨日、卒業式準備のため、避難者が１Ｆから２Ｆに移動。下水道処理が必要。
◦烏帽子中　同350人。物資の搬入と配付。

（20日分）

連合東京（報告者：若林一枝）

①活動人数　５名
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間　８：30～16：30
④活動内容
　介護風呂「あったか湯」入浴者（男２＝脳こうそく・車イス、女６＝骨折など）、洗髪のみあり。
⑤意見・要望
　洗髪のみのマニュアルがあると便利。入浴を待ち望ん

でいる人を把握しフォローしながら、行政へバトンタッチできることを願う。避難場所の衛生面。健康面を考えると、限度に近い感がある。行政と民間ボランティアが提携し、官民協調の態勢をつくるべき。本日で終了。ありがとうございます。大変勉強になりました。

連合茨城（報告者：前島茂光）

①活動人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　7：00～26：30
④活動内容

夜警（22：00・24：00・26：00）＝廊下で寝ている人が1人いた。下痢の人のトイレの手伝い（その後救急車で病院へ）。食事の配給の手伝い（朝：パン・牛乳・おじや、昼：みそ汁、夕：葛飾区役所職組の炊き出し）。シャワー・トイレの清掃。

⑤意見・要望

トータルのボランティアの数も足りており、特に問題はない。

自治労報告（17日分）

- 名倉小　避難者168人。避難者に少しずつプライベートな面の不満が。部屋を変わりたい旨の相談あり。不要ふとんの報告が遅れた。配送センターに連絡したが返送は打ち切りとのこと。校長は教室を使いたいので返送したいとの意向。
- 丸山中　同80人。校外者から食事申入受付を開始。物資は公平に分配することを決定。
- 宮川小　同192人。物資を抽選でかなり配布。校長とのコミュニケーションに成功。回収物資リストは学校側から配送センターに連絡することに。回収の遅れは問題ないとのこと。
- 大橋中　同600人。避難者に特に変化なし。雨のため日常生活が不自由。ボーイスカウトの協力が力に。市の方針を含め、避難所周辺の復旧情報がほしい。返送品梱包のためガムテープ等梱包材料が、今後大量に必要になる。
- 神楽小　同900人。物資・給食等配給、ガス開閉、巡回、テント修理など。前日と変わらず。
- 長田工業　同288人。老人1人風邪で診療所へ移送。校舎外壁修繕工事開始。仮設風呂の撤去が急務。県対策本部に確認したが未定とのこと。至急対策について相談したい。
- 苅藻中　同415人。返送物資の整理とバザー物資の分類をした。多目的教室で大量移動あり。自活努力をする人と、現状に満足している人の差が出てきた。周辺でガス供給が始まりつつある。自治労の目指す自治組織の要項を具体的に示し提起する必要がある。
- 真陽小　同956人。本部移動の準備開始。卒業式の体育館使用を巡り、3者で話し合い。自治組織の役員を決めるため、運営委員13人を決定。名簿再整理開始。
- 長楽小　同2,450人。夕食用意を2,500食に100減。だが、雨のためか1,763食に落ち込み残飯が出た。返送物資の連絡済み。3／18、19掃き出しのため青空市実施。3／25に校外食停止・自主運営の方向で努力中。
- 西代中　避難者500人。3／20以降の校外食の名簿作成。学校・自治会との打ち合わせで洗濯機使用はOKに。火はNG。電子レンジ用意してとのこと。洗濯機の水道工事を依頼。

1995年3月23日（木曜日）No.50

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月22日）報告より

■22日現在連合ボランティア参加者（延べ）42,141人
（参加者数再集計の結果、前日計より4,000人増加）
（会議参加組織）
連合埼玉、連合愛知、連合岐阜、連合三重、連合鳥取、連合長崎、連合熊本、造船重機、政労連
（文書報告）連合東京、連合大阪、連合鹿児島、全済労、交通労連、連合福岡、連合大分、連合宮崎、連合沖縄、日教組、自治労

連合岐阜、鳥取、東京、都市交、自治労（報告者：清水泰幸）

①活動人数　28人
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：00
④活動内容

あったか湯の手伝い。（弁天の湯：男33、女36、介護湯：男2、女4）

⑤意見・要望

弁天の湯が届くのが遅れた。ヘルパーが足りない。1人増員願う。口コミが広がり入浴予約が明日以降増えているため。市職員が来て、借りている機材の返却の確認や「31日で湯は終了」の看板設置を要請される。

連合鹿児島（報告者：池辺信溥）

①活動人数　3名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容

周辺清掃（校内外）、14：00～屋外トイレ清掃、17：00～医療受付（長田区医師会）

⑤意見・要望　本日から午前の医療受付はなし。

造船重機、連合長崎、自治労（報告者：鳥居徹夫、北川真理）

①活動人数　13名

②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　9：00～16：30
④活動内容
あったか湯入浴者：男2(うち要介護2)、女3（同1）
⑤意見・要望
毎週利用してくれた男性（89）から「木蓮や朝湯たまわる老いの幸」などの俳句の書かれた色紙をもらい、感激した。

連合愛知、三重、政労連、全済労（報告者：大森、辻　一郎）

①活動人数　13名
②活動場所　(1)東灘区魚崎南町、(2)住吉山手
③活動時間　9：00～15：00
④活動内容
在宅移動風呂「あったか湯」(1)女＝身障１級（47）部屋に浴槽をセット。道路で湯沸かし＋給湯車。(2)男＝軽度アルツハイマー（71）歩行可能。自宅浴槽使用。
⑤意見・要望
当初３人の予定だったが12：00～の人がキャンセルに。本人は12：00に終了と考えていたとのこと。アポ時点での確認の徹底と当日の事前連絡が必要（本日から次の人への事前ＴＥＬ連絡を実施）。

連合熊本（報告者：殻本道也）

①活動人数　10名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　24ｈ（宿直態勢）
④活動内容
夜警（１：00～３：00、５：00～８：00）、校門・玄関の掃除（７：00～７：30）、朝食数のチェック・準備（５：30～８：00）、灯油配給（９：00～９：10）、警備室詰め(12：00～13：00)、廊下清掃（13：30～14：00）救援物資在庫チェック（15：00～16：00）、夕食炊き出し手伝い（16：30～17：30）、夕食数のチェックと配給（17：30～18：00）、警備室（18：00～19：00）、自治会運営委（20：00～22：00）、夜警（22：00～23：00）
⑥必要物資　インスタントコーヒー

連合埼玉（報告者：佐藤和広）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：00
④活動内容
給湯室清掃、朝刊配布、物資搬入、食事準備・配給、校内清掃、屋外トイレ清掃

交通労連（報告者：浜口浩哉）

①活動人数　16名
②活動場所　神戸市内、三木市
③活動時間　9：00～16：30
④活動内容
２ｔ車１台、９：00～グリーンピア三木へ本の引き取り。２ｔ車２台、１ｔワゴン車１台にて魚崎小学校（東灘区）の衣類・ポリ容器を回収し、ポーアイコンテナへ搬入。15：30～23日中央図書館に搬入する本の積み込み。

連合福岡、大分、宮崎、沖縄（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　11名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　8：30～17：00
④活動内容
公会堂入り口整理（スタッフ３人）、会場案内（２人）、り災証明受付（３人）、義援金申請指導（３人）。（再調査で訪れた人233人、その他843人、計1,066人）
⑤意見・要望
九州ブロック１班は明日午後帰ります。お世話になりました。

日教組（報告者：白井信子）

①活動人数　98名（うち兵教組51人）
②活動場所
避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容
物資の搬入・配布、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など。
◦平木中　避難者135人・人数は減る方向。
◦用海小　同28人。被災者は落ちついている。
◦高羽小　同130人。夜の弁当残が50あり今後の状況で削減を検討されたし。
◦福住小　同372人。
◦稗田小　同800人。
◦小野柄小　同500人。
◦高取台中　同49人。
◦原田中　同170人。現在のところ落ちついている。
◦須佐野中　同139人
◦若宮小　同263人。避難者、昨晩20人、今朝１人退出。毎日少しづつ避難所を出ている。
◦二宮小　同208人。
◦上野中　同250人。
◦菊水小　同110人。卒業式（３／24）準備の手伝い。
◦西郷小　同380人。
◦摩耶小　同300人。日中は薪割り、夜間は警備をしている。
◦段上小　同40人。登校指導。

◦長田高　同250人。10人退出。下水処理。
◦市立西宮高　同69人。
◦湊川多聞小　同115人。宿直業務。
◦室内小　同約200人。被災者に変化なし。
◦会下山小　同350人。下水道処理（自治労より３人）
◦烏帽子中　同350人。花見（４／２）のポスター作成。

自治労報告（21日分）

◦名倉小　避難者161人。弁当の内容が良くなり校外希望者が増加。地元の３人が中心となって実施。
◦丸山中　同51人。大学生協センターボランティアから紙芝居ゲームの申し出。学校側から自治労の応援を４月以降も続けてほしいとの要請。
◦宮川小　同250人。避難所は校長が主導を取り統率が取れている。鹿児島大生からボランティアの申し出があったが校長が断った。
◦大橋中　同524人。３月末で自治労撤収の旨を通知するが、住民の自主管理は無理であり４月まで居てほしいとのこと。食事の残りの処分が大変であり、早く減らしてほしい。避難者１人が発病し救急車で病院へ。
◦神楽小　同700人。都市ガス不通。復旧見通し立たず。避難者の中に配給物資の世話をする班が組織化されている。
◦長田工業　同293人。自治会の指示の下、統率がとれている。
◦苅藻中　同433人。炊き出しのカニ鍋に長蛇の列。自治労が撤収することに不安がっている。グラウンドの駐車場の車の移動を３月末と決定。
◦真陽小　同835人。３／24卒業式に向けスペース確保のため一部荷造りが始まる（段ボール100個）。避難している小～高校生のために３Ｆを勉強部屋として提供。そのため避難者は１、２Ｆの空き部屋へ。
◦長楽小　同2,270人。５者連絡会議、毎日15：00に開催。周辺地域の水道、ガスの復旧状況について知らせてほしい。
◦西代中　同162人。食材の管理は自治会が率先し取組んでいる。医療班や他のボランティアは自治会を交えながら話を進めている。女性用下着は、後日サイズや数量を検討の上改めて報告する。

1995年３月24日（金曜日）No.51

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月23日）報告より

■23日現在連合ボランティア参加者数（延べ）42,582人

（会議参加組織）

連合愛知、連合三重、連合東京、連合鳥取、交通労連、日教組、連合茨城、造船重機、政労連、自治労

（文書報告）連合福岡、連合大分、連合宮崎、連合沖縄、連合鹿児島、交通労連、連合岐阜、連合埼玉、連合佐賀、全済労、都市交、連合兵庫

連合福岡、大分、宮崎、沖縄（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　11名
②活動場所　兵庫区役所
③活動時間　８：30～12：00
④活動内容

公会堂入場整理（メンバー３人）、案内係り（２人）、り災証明書受付（３人）、義援金申請書記入指導（３人）
※３／22までの受付件数＝り災証明書６万件（一部損壊が１／３）、義援金支払い４万件

連合鹿児島（報告者：池辺信溥）

①活動人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～９：00
④活動内容

本日で終了。連合兵庫（高教組兵庫）と引き継ぎ完了。連合宮崎の皆さんがんばって下さい。

連合鳥取、東京、兵庫、福岡、大分、岐阜、鹿児島、沖縄、自治労、都市交（報告者：清水泰幸）

①活動人数　30名（男25、女５）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：00
④活動内容

校庭のクリーン作戦、介護湯（入浴者：女１、男２）、弁天の湯（入浴者：女79人、男33人）、午後からボランティアメンバーが大幅に増えたが、女性がもう少し多いとバランスがとれる。

日教組（報告者：中　康昌）

①活動人数　98名（うち兵教組51人）
②活動場所

避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）

③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容

物資の搬入・配布、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など。授業再開のためなど、今後物を移動させる作業が増え忙しくなる見込み。

◦平木中　避難者135人。
◦用海小　同28人。避難者は落ちついている。
◦高羽小　同130人。夜の弁当残80食。
◦福住小
◦稗田小
◦小野柄小　避難者500人。
◦高取台中　同38人。
◦原田中　同170人。避難者が今後自分達でやらなければ

ならないと考え始めた。学校側は新年度に向け、授業を６時間制とする準備を進めている。
◦須佐野中
◦若宮小　避難者263人。７人退出。卒業式（３／24）のための清掃。
◦二宮小　同199人。被災者９人退出
◦上野中　同250人。
◦菊水小　同110人。
◦西郷小　同680人。
◦摩耶小
◦段上小　避難者40人。登校指導。
◦長田高　同249人。１人退出。下水処理。
◦市立西宮高　同66人。３人退出。
◦湊川多聞小　同111人。４人退出。宿直業務。
◦室内小　同約200人。避難者に変化なし。
◦会下山小　同350人。学校近辺の自転車約30台のタイヤの空気が抜かれた。
◦烏帽子中　同350人。
（兵教組）各校で救援活動の縮小を検討中。
◦東灘小　ブラジルチョコの提供を実施。

交通労連（報告者：浜口浩哉）

①活動人数　13名
②活動場所　神戸市内
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
９：00～中央図書館へ２ｔ車３台分の搬入。終了後、衣類・ポリ容器を⑴本山第３小・森公園、⑴本庄中・神戸商船大・白鷗寮――の５カ所から回収しポーアイへ搬入。
⑤意見・要望
交通事情が悪く作業が思うようにはかどらない。

連合茨城（報告者：前島茂光）

①活動人数　４名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　24ｈ（宿直）
④活動内容
朝食配給の手伝い、シャワー・トイレ等の清掃、夕食配給＋炊き出し、夜警、避難者の依頼で自宅（半壊）の片づけの手伝い。

連合愛知、三重、鳥取、全済労（報告者：大森、辻　一郎）

①活動人数　15名
②活動場所　⑴北区、⑵長田区
③活動時間　８：30～15：00
④活動内容
在宅移動風呂「あったか湯」⑴女（81）＝80kg、10:00～自宅浴槽を使用（本人は他人の家に避難中のため、兵庫高へ移送しての入浴を希望。本部からの連絡の行き違いで、兵庫高の介護風呂移送車も到着のトラブル発生）。男手が必要（２人）。⑵女（71）13：00～自宅に簡易浴槽設置。
⑤意見・要望
明日は湊川中で実施。見込み人員は最多で11人。医務室では明日で最後と認識しているが、避難者からは４月以降の不安が寄せられているとのこと。看護婦などはどのように答えていいのか分からず困っている。４月以降の見通しを伝達したいので、行政の動向などを知らせてほしい。

造船重機労連、連合東京、政労連（報告者：鳥居徹夫、吉田さゆり、山本久美子）

①活動人数　16名
②活動場所　板宿小学校
③活動時間　８：30～15：00
④活動内容　あったか湯（入浴者：女７、男１）
⑤意見・要望
２張りのテントで設営。入浴者は比較的元気な人がほとんどだったが、入浴中にてんかんの発作とぜんそくの症状を起こした人がいた。が、看護婦やヘルパーの落ち着いた対応で無事入浴が完了できた。これが前日のようにヘルパー１人体制だったらと思うとゾッとした。

連合佐賀（報告者：村岡靖郎）

①活動人数　２名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　13：00～23：00
④活動内容
連合熊本から活動内容の引き継ぎ、警備ＢＯＸの立番、食料配給。

連合埼玉（報告者：佐藤和広）

①活動人数　３名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～19：00
④活動内容
物資搬入、校内清掃、食事準備、トイレ清掃、新聞配布受付。

連合長崎（報告者：中嶋　博）

①活動人数　２名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　14：00～24h（宿直）
④活動内容
14：00～18：30連合愛知から引き継ぎ、給湯サービス

（飲料用・湯タンポ用）、燃料用薪の製造。１：00～３：00夜警

⑤意見・要望

避難者の生活サイクルがやや早めになってきており（通勤時間との関係か？）、給湯時間を６：15からに早めた方がいい。

（以下、22日分）

連合東京（報告者：吉田さゆり）

①活動人数　28名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：30～17：00
④活動内容

介護湯・あったか湯入浴手伝い、清掃、消毒、食料の搬入・配給

⑤意見・要望

介護入浴について、２つの風呂施設を同時に稼働しながらヘルパー１人の体制ではとても大変。入浴中に発作などが起きた場合、対応しきれない。ヘルパーと看護婦は必ず配置すべき。

入浴者が皆低姿勢でとても感謝された。

３月末までとは言わず、近所の銭湯が営業を始めるまでは入浴サービスを続ける必要がある。が、食料の搬入・配給等は絶対に被災者自身ですべき。

介護入浴者の衣服がかなり汚れている。救援物資の衣服は余っているはずだから、入浴の際に提供してあげたい。

連合茨城（報告者：前島茂光）

①活動人数　４名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　24ｈ（宿直）
④活動内容

朝食配給の手伝い、シャワー・トイレ・廊下の清掃、夕食炊き出し、夜警、各部屋代表者会議（20：00から）

⑤意見・要望

各部屋代表者会議の内容（各部屋ともポストボランティアに取り組む姿勢あり。教頭のリーダーシップに期待。が、きちんとした自治会組織にはなりづらいだろう。教頭から、４月になって避難者数が120人を割ったら、２Ｆを授業用に使わせてもらいたいとの話。今後10日前後で大幅な稼働も考えられる）。

無料電話に外国人が殺到。小学校に国際電話の請求書が来たとのこと（ＫＤＤはこの電話の国際接続をやめるとのこと）。

（以下、21日分）

連合茨城（報告者：前島茂光）

①活動人数　４名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　24ｈ（宿直）
④活動内容

朝食配給、シャワー・トイレの清掃、夜警、夕食炊き出し

⑤意見・要望

３／20、ボランティアリーダーの召集で避難者の各部屋代表者会議を開催。３月いっぱいの期限で、ボランティアから避難者自身へ仕事の引き継ぎをしたい旨の協議。その引き継ぎをスムーズにやることが今後の仕事に。自治組織の形成の可能性も。だが、我々の１週間のボランティアでは十分な役割は果たせず、淡々とお手伝いをするのみ。

その他、３／23リーダー会議で出された主な意見

◦連合三重　移動入浴車で市内を巡回しているが、道路に案内表示板が非常に少なく、外から来た人にとってとても不便。分かりにくい街だ。
◦連合東京　兵庫に来る前に、現地に何を持っていったらいいのか分からず、困った。今入浴サービスに参加しているが、裸足になることなど全く想定せずにストッキングや、寒いと思ってセーターばかり持ってきた。出発前に現地情報を細かな部分まで教えてほしい。
◦連合東京　救援物資の衣類は古着や着られないようなものが多いというが、春夏に向けてあらためて「着られる服」を広く集めることが必要だ。

1995年３月25日（土曜日）No.52

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月24日）報告より

■24日現在連合ボランティア参加者数（延べ）43,041人

（会議参加組織）

連合三重、連合東京、連合福岡、交通労連、日教組、政労連、（文書報告）連合埼玉、連合佐賀、連合長崎、連合宮崎、造船重機

会議は、参加者の報告を受け、器材処理の考え方、あったか湯のこれまでの経過等を確認し、本部より「明日が後半の一つの節目である。移動風呂は１チーム減らし、器材の撤収にはいる」との方向が示された。また、この日で多くの方々が交替されることに触れ、地元の川元副事務局長は「赤い帽子＝連合が定着し連合イメージが高まった。ひとえにこれはボランティアの方々のおかげである」と深々と頭を下げられた。

連合岐阜、鳥取、東京、大阪、兵庫、福岡、大分、鹿児島、沖縄、千里生協、福井医大、看護婦、ヘルパー（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　35名（内女性12人）
②活動場所　兵庫高校あったか湯
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容　入浴介護・手伝い、食事の配給
⑤意見・要望

お湯が来るまでの間、グランドの清掃。介護湯は5名、あったか湯は109名の入浴であった。多くの方からいつまで行うのか、との問い合わせがある。

造船重機労連、政労連、連合東京（報告者：山本久美子、吉田さゆり）

①活動人数　15名
②活動場所　御蔵小学校
③活動時間　8：00～15：00
④活動内容　入浴介護
⑤意見・要望

2張りのテントで6名が入浴（生後1カ月の乳児1名）。車椅子使用者、視覚障害者等、介護が必要な方が多い。行政への引き渡しに際しては充分な対応をお願いする。入浴後に感謝された。とても嬉しかった。この日は卒業式。お礼をいわれたり、小学生からの差し入れがあり、心が和んだ。

交通労連（報告者：安井俊雄）

①活動人数　9名
②活動場所　6カ所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容　古着、ポリ容器等の回収
⑤意見・要望

避難所の担当者不在の場合は回収物がわからなく空振りのケース有ったので今後連絡を密にしていただきたい。

日教組（報告者：青柳新二）

①活動人数　97名（うち兵教組51人）
②活動場所

避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）

③活動時間　24h態勢（宿直）
④活動内容

物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など。

⑤意見・要望

4月以降、態勢の整っていない避難所では現場の教職員の負担が増すとの懸念がある。

- 平木中　避難者135人
- 用海小　同28人、4月5日までに公民館に移動。
- 高羽小　同130人。ボランティア3月末。
- 福住小　同370人。みんなで卒業式準備。
- 稗田小　同756人。避難者は教室に移動。
- 小野柄小　同500人。外部者は教室に移動。
- 高取台中　同38人。育英高の避難者が移動してくるとの不安がある。先生1人が炊き出しの専従→4月以降、本来業務へ。
- 原田中　同100人前後。3月末までに自治組織確立を検討中。
- 須佐野中　同130人。
- 若宮小　同249人。卒業式準備終了。
- 二宮小　同256人。ボイラーが故障したため、修理を依頼。
- 上野中　同250人。
- 菊水小　同94人。
- 西郷小　同680人。
- 摩耶小　同300人。日中は薪割り、夜間は警備をしている。
- 段上小　同40人。
- 長田高　同249人。外部者の食料配給停止。
- 西宮高　同66人。
- 湊川多聞小　同100人。
- 室内小　同約200人。
- 会下山小　同350人。4月以降新校舎へ移動の予定。
- 烏帽子中　同306人。

自治労、全済労、連合愛知、三重、鳥取（報告者：辻　一郎）

①活動人数　18名
②活動場所　湊川中学
③活動時間　8：00～16：00
④活動内容　入浴介護、手伝い
⑤意見・要望

高齢者7名、幼児1名が入浴、身体的疾患、特徴の記録は引き継ぐべき。

〈本日の入浴カルテ〉
安田安弘（76）高血圧。
松田奈良恵（78）特になし。
杉本じゅんいち（79）寝たきり、おむつ使用、両下肢・片手拘縮。
高平美代子（61）左難聴、循環器ｏｐ後、右膝骨折後杖を使用。
斉藤正幸（60）杖歩行。
五味のりやす（80）狭心症㊉、杖歩行。
染本ふみ子（85）貧血、亀背㊉、杖歩行。
木下（81）心臓発作のため入浴せず。難聴、右膝屈曲不可、杖歩行。

連合長崎（記載者：中嶋　博）

①活動人数　2名

②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　終日
④活動内容
　給湯サービス、燃料用薪づくり、夜警

連合佐賀（記載者：松尾幸弘）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学
③活動時間　終日
④活動内容
　物資の仕分け、食料配付、夕食の準備、警備

連合宮崎（記載者：矢野栄次）

①活動人数　3名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容
　物資搬入、トイレ掃除、診療所受付

連合長崎（記載者：小川勝也）

①活動人数　2名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　終日
④活動内容　給湯サービス、警備
⑤意見・要望
　かまどに使用する鉄パイプ等が欲しい。

1995年3月26日（日曜日）No.53

現地対策本部(連合兵庫内)　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（3月25日）報告より

（会議参加組織）
連合山梨、連合島根、連合福岡、交通労連、日教組、造船重機、（文書報告）連合茨城、連合埼玉、連合三重、連合佐賀、連合長崎、連合宮崎

「お風呂」のサービスは30日まで

避難所となっている学校機能の回復とそれに伴うボランティアの絞り込みおよび県・市行政の対応が緊急の課題になりつつある。日教組は、大量動員をかける中で、この実態を調べる活動を行った。会議は、こうした全体の状況を受け、撤収に向けた作業を確認し、「何事も最後で気が緩む。心してけがのないように」との町田現地対策本部長の言葉をお互いの肝に命じて終了した。

連合東京、岐阜、鳥取、島根、福岡、鹿児島、沖縄、兵庫、看護婦（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　37名（内女性12人）
②活動場所　兵庫高校あったか湯
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容　入浴介護・手伝い、食事の配給
⑤意見・要望
　昨日に引き続き、校庭の清掃を行い、介護湯6名、あったか湯109名の入浴手伝いを行った。校内放送では1日3回、お風呂のサービス終了日の案内を行い、各所にはビラを貼りだした。

造船重機労連（報告者：竹鼻邦彦）福井医大（同席：安井俊雄）

①活動人数　16名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　10：00～15：30
④活動内容　入浴介護
⑤意見・要望
　2張のテントで8名が入浴。本日、造船重機労連第7陣が第6陣と交替し、最後まで行動する。必要とされる物資（連合ボランティア活動として必要な物）はビニール袋、軍手、ビニール合羽の不足分である。「我々の言う物資とはこのように活動に必要な物」が原則（本部答弁）。

交通労連（報告者：安井俊雄）

①活動人数　19名
②活動場所　3カ所
③活動時間　9：00～16：00
④活動内容
　古着、ポリ容器等の回収、連合倉庫より毛布を搬送、掃除道具の返還。

日教組（報告者：青柳新二）

①活動人数　96名（うち兵教組51人）
②活動場所
　避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24h態勢（宿直）
④活動内容
　物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など
⑤意見・要望
　実態調査の報告は後日行う。二宮小は4月以降の風呂の準備で人手が欲しい。湊川多聞小は長期化する見込み、ここを始め、多くで宿直に不安有。
◦平木中　避難者135人。外部食事250食。
◦用海小　同28人。4月5日閉鎖にむけて30日から準備に

はいる。
◦高羽小　同87人。仮設校舎完了。
◦福住小　同266人。食事メニューに不満。
◦稗田小　同789人。避難者は教室で生活。
◦小野柄小　同500人。
◦高取台中　同38人。
◦原田中　同178人。避難者が炊き出しを当番制で行っている。受付業務も避難者が26日より見習い開始。
◦須佐野中　同130人
◦若宮小　同249人。
◦二宮小　同256人。徐々に避難者自身の手で物資搬入、風呂の準備を行いつつある。
◦上野中　同248人。
◦菊水小　同95人。
◦西郷小　同680人。
◦摩耶小　同300人。病人が出た。
◦段上小　同40人。
◦長田高　同249人。
◦西宮高　同65人。調理場等を移動。
◦湊川多聞小　同100人。
◦室内小　同200人。
◦会下山小　同350人。
◦烏帽子中　同306人。高齢者が多いので必要人員を行政に要求する考え。

連合愛知、三重、介護班（記載者：辻　一郎）

①活動人数　16名
②活動場所　東灘区住吉本町
③活動時間　8：30～13：00
④活動内容　移動風呂の入浴介護、手伝い
⑤意見・要望
高齢者2名が入浴。4月以降について皆さま不安を抱いており、行政へ引き継ぎをお願いする。

連合埼玉（記載者：佐藤和宏）（24日分）

①活動人数　3名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～19：00
④活動内容
給湯サービス、屋外トイレ清掃、食事の準備、物資搬入、新聞配付、受付。

連合佐賀（記載者：村岡靖郎）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学校
③活動時間　終日
④活動内容
物資の仕分け、食料配給、夕食の準備、警備、対策本部の当番
⑤意見・要望
ボランティア内容の避難者への引き継ぎはどうするのか。

連合宮崎（記載者：竹崎広人）

①活動人数　3名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容
物資搬入、トイレ清掃、診療所受付。

連合茨城（記載者：前島茂光）

（3月24日分）
①活動人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　終日
④活動内容　食事の配給、夜警。
（3月25日分）
①活動人数　4名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　終日
④活動内容
食事の配給、夜警。本日を持って山梨に引き継ぎ。

1995年3月27日（月曜日）No.54

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（3月26日）報告より
■26日現在連合ボランティア参加者数（延べ）44,610人
（会議参加組織）
連合山梨、連合島根、連合福岡、連合千葉、日教組、造船重機、（文書報告）交通労連、連合佐賀、連合宮崎、自治労

他のボランティア団体からも問い合わせ

最終クールを迎えて、ボランティアの出入りも会議関係者に限定され、リーダー会議も山野座長のもとで淡々と進められた。懸念された弁天温泉の引き継ぎも、近くの長田神社境内に、楠温泉がお風呂を開設されたとの連絡があり、ひとまず休止。なお、在宅入浴についてのニーズが高く利用者から感謝の言葉とともに、淋しさを伺わせるあいさつを受けている。我々のカルテは「こうべ市民福祉振興協会」に引き継ぐことになる。現地対策本部にも他のボランティア団体から今後の展開についての問い合わせが多くよせられ、3月末を区切りとする雰囲気が強まっている。

連合東京、島根、大分、福岡、鹿児島、兵庫、沖縄、京都、愛知、都市交、全済労、鳥取、自治労（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　37名（内女性14人）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　8：00～17：30
④活動内容
　入浴介護・手伝い、校庭のゴミ拾い、夜食の配送手伝い、在宅介護湯（移動車）1ケ所、介護湯7名、弁天湯140名
⑤意見・要望
　日曜日、晴天のせいか利用者が多かった。ボランティアの数が多すぎて手待ち時間が多い。ボランティアの数を最大30名、しかし女性は最低9名ほしい。

造船重機労連（報告者：竹鼻邦彦）福井医大（同席：桜井あい）

①活動人数　20名
②活動場所　西郷小学校
③活動時間　10：00～14：25
④活動内容　入浴介護―7名（車イス3名）
⑤意見・要望
　入浴者や学校当事者に今回で終了する旨の話をしたが、感謝の言葉と共に心寂しい気持ちがうかがえた。何かの形で残せないものか。

連合千葉（報告者：安藤正之）

①活動人数　3名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　7：00～20：00
④活動内容
　給湯サービス、屋外トイレ清掃、食事準備、物資搬入、新聞配達、受付、ボランティアメンバーによる舞踏のサービスや校庭でバザーが開催された

日教組（報告者：青柳新二）

①活動人数　95名（うち兵教組51人）
②活動場所
　避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容
　物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など
⑤意見・要望
　二宮小、若宮小では担当の教組と教職員や学生ボランティアとの間で交流や新しい関係が生まれた。1つの避難所を1つの単組が受け持ったので、継続した活動ができ、感謝された。

◦平木中　避難者135人。外部への食事配給がなければ負担が軽くなる。
◦用海小　同28人。4月5日閉鎖にむけて物資の移動開始。
◦高羽小　同87人。外部の食事20～30名。
◦稗田小　同763人。4／1以降ボランティア不要。
◦小野柄小　同500人。宿直業務が主。
◦高取台中　同40人。
◦原田中　同150人。高齢の避難者が多い中、当番制で仕事分担。
◦須佐野中　同120人。
◦若宮小　同245人。
◦二宮小　同196人。3／31以降ボランティアが欲しい。
◦上野中　同245人。
◦菊水小　同95人。
◦段上小　同40人。新学期準備支援。
◦長田高　同244人。
◦西宮高　同66人。4月からボランティア不要。
◦湊川多聞小　同100人。
◦室内小　同200人。4月から宿直要員を。
◦会下山小　同350人。
◦烏帽子中　同330人。ゴミ置き場に屋根。

交通労連（報告者：安井俊雄）

①活動人数　16名
②活動場所　3ケ所、神戸市内
③活動時間　9：00～15：30
④活動内容
　3班に分かれて古着、ポリ容器等の回収。石油ストーブ、時計3往復
⑤意見・要望
　本日は日曜日のため道路事情もよく回収及び移送もスムーズに行われた。特になし。

連合山梨（報告者：深沢米雄）

①活動人数　3名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　終日
④活動内容　食事の配給、夜警、清掃。
⑤意見・要望
　3／26特別ミーティングあり。本日をもってボランティア組織を解散。自立した運営ができるようボランティアとして求めていく。

連合佐賀（記載者：村岡靖郎）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学
③活動時間　終日
④活動内容
　食料配付、夕食の準備、準備ボックス、対策本部の当

番。特になし。

連合宮崎（記載者：竹崎広人）

①活動人数　３名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　６：00～19：00
④活動内容　物資搬入、トイレ清掃、診療所受付
⑤意見・要望

トイレ清掃の際、放送で被災者の方にも協力を呼びかけているが、未だ協力を得られない。被災者意識に甘えたままでは自立できないのではないか。

自治労（記載者：竹内広人）

（23日分）

◦名倉小　合計147名（内125、外22）
給食搬入搬出、市のお知らせ掲示。残ったパンは一般の人に配給することをデスク・校長と確認。

◦丸山中　合計49名（内49、外０）
給食搬入搬出、夜警、湯茶補給、物資配布、倉庫整理。学校長の主導で運営スムーズ。食事配給等、避難者で当番制。

◦大橋中　合計453名（内309、外144）
給食搬入搬出、避難者伝言、物資管理、巡回、班長会議。今まで自治労がやっていた配給種別等を避難者が実施するようになった。

◦神楽小　合計700名（内500、外200）
給食搬入搬出、在庫の整理、シャワーのガス栓の開閉、職員会議への参加。避難所に７班が組織化。職員会議で食事の配給を26日から避難者だけでやることを確認。校外者食事を減らすことを確認。

◦長田工業　合計290名（内268、外22）
給食搬入搬出、トイレ消毒、新聞配布、給水、自治会の下、統制がとれている。みんな元気。

◦苅藻中　合計432名（内423、外９）
給食搬入搬出、家の実態調査、残物品の抽選会の準備、来訪者とボラの対応、校外者28名の聞き取り調査を実施。残物品の抽選会を実施。班の名簿をワープロ登録。

◦真陽小　合計860名（内846、外14）
給食搬入搬出、夜警、電話・来訪者・郵便応対。22日夜、「真陽がんばろう会」の役員会で、全役員が決まる。先生・ボラ・自治労で卒業式の打ち合わせ。

◦長楽小　合計2,267名（内625、外1642）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、避難者・校外者の実態調査、風呂清掃。自治会・職員・自治労で実態調査を実施避難者も協力的・３階明け渡しに向け、自治会が検討中。食料品の在庫活用についてボラと協議。

◦西代中　合計147名（内93、外54）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、駐車ナンバー調べ。パンが余り過ぎているので減らしても良いのではないかと言われた。

（24日分）

◦名倉小　合計147名（内125、外22）
協力体制が良くできている。

◦丸山中　合計49名（内49、外０）
朝、昼の食事がパンばかりなので、他の物に変えて欲しいとの声が多い。４月以降自治労撤収後の生活に不安の声が多い。

◦宮川小　合計250名（内200、外50）
仮設住宅の事が、皆気になっている様子。

◦大橋中　合計521名（内309、外212）
食事の分担等で手伝ってくれる人が多くなった。自治会作りに向け、自覚ができている様子。

◦長田工業　合計288名（内266、外22）
外食の要望があり、区役所を通して指定場所を明示してもらえるよう、指示した。

◦苅藻中　合計432名（内423、外９）
救援物資の抽選会の開催は好評だった。もっと早くすれば良かった。

◦真陽小　合計820名（内820）
自治労撤収後の避難所運営について、自治会班長会議で協議を行った。班長の中には非協力的な人もおり、本格的始動には多少の時間がかかる。

◦長楽小
校外者給食打ち切りちらしを23日の食事より配布し、26日から28日にかけて聞き取り相談机を設置する予定。

◦西代中　合計147名（内93、外54）
自治労撤収後の管理態勢をかなり話し合っている。運動場の有効活用のため、駐車車両の減少に向けてのビラを配布している。

1995年３月28日（火曜日）No.55

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月27日）報告より

■27日現在連合ボランティア参加者数（延べ）45,084人

（会議参加組織）

連合山梨、連合島根、連合福岡、連合千葉、交通労連、（文書報告）造船重機、連合佐賀、連合宮崎、連合長崎、日教組、自治労

あと４日間を無事故で！

連合東京、島根、大分、福岡、鹿児島、兵庫、沖縄、愛知、都市交、全済労、自治労、千里山生協（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　32名（内女性13人）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容

入浴介護・手伝い、あったか湯、夜食配送手伝い、在宅介護湯（移動車）１名、介護湯８名、弁天湯94名

⑤意見・要望

人員の配置が出来、それぞれの仕事が出来ました。本日の人員配置が適切だと思う。

連合千葉（報告者：安藤正之）

①活動人数　４名

②活動場所　吾妻小学校

③活動時間　７：00～20：00

④活動内容

給湯サービス、屋外トイレ清掃、学校内、外掃除、食事準備、新聞配布

⑤意見・要望

今日から被災者の自治会が、自立の道を求めて活動に入った。朝食の配給から夕食の配給まで自治会が担当した。残るは、受付業務、行政との連絡事務等があるが徐々に移行するなら間違いないと思う。ボランティアの仕事は減少している。

連合山梨（報告者：深沢米雄）

①活動人数　３名

②活動場所　若菜小学校

③活動時間　終日

④活動内容　食事の配給、夜警、清掃（トイレ）

⑤意見・要望

３／26特別ミーティングがあり自治組織が中心となって進めることに合意。27日夜再度具体的作業配分について話し合い、食事の準備や清掃に自治組織の方々が大勢見えるようになった。

交通労連、連合沖縄、島根、兵庫、日教組（報告者：安井俊雄）

①活動人数　16名

②活動場所　３ケ所、神戸市内

③活動時間　９：00～16：30

④活動内容

ｐｃ６～三井倉庫へ古着の移動、全員にて活動

日教組（記載者：志澤小夜子）

①活動人数　95名（うち兵教組51人）

②活動場所

避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）

③活動時間　24ｈ態勢（宿直）

④活動内容

物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など、学校への打ち合わせ、撤収等のあいさつ廻り

⑤意見・要望

長田高、西宮西高ではコーヒーが欲しいとの要望があった。西宮西高では26日寒かったので湯たんぽがほしいと依頼され、いくつか作ってお年寄りに渡した。退出する人が多くなってきた。

- 平木中　避難者134人。食糧配給。清掃。宿泊。
- 用海小　同15人。ボランティア（フリー１名、大学生３名）
- 高羽小　同87人。食事の世話。
- 小野柄小　同500人。校庭、学校隣の公園、26日より食糧は避難された人のみ。
- 原田中　同170人。４名退所。
- 須佐野中　同120人。あすから３名ボランティア。
- 若宮小　同226人。清掃、人員把握。
- 二宮小　同196人。
- 菊水小　同91人～92人。２～３名退所。
- 段上小　同40人。１名荷物だけ置いていった。
- 長田高　同244人。食事の搬入。下水掃除。30日に撤収。
- 西宮高　同66人。在庫チェック。
- 湊川多聞小　同100人。受付、物資の仕分け。
- 室内小　同200人。
- 会下山小　同300人弱。風呂わかし。トイレ掃除。
- 烏帽子中　同330人。１～２名退所あり。

連合佐賀（記載者：村岡靖郎）

①活動人数　２名

②活動場所　楠中学

③活動時間　終日

④活動内容

準備ボックス、対策本部の当番。新中学１年生、物品販売による警備、案内。

⑤意見・要望

長期のボランティアでは女性の方があまりいないのが残念。ボランティアの人達の中でも色々な人がいるので人間関係が大変。調味料があまりない。（酢、こしょう等）

連合宮崎（記載者：竹崎広人）

①活動人数　３名

②活動場所　兵庫高校

③活動時間　６：00～19：00

④活動内容

物資搬入、トイレ清掃、診療所受付。

⑤意見・要望

数名ながらも被災者の方が仕事に協力してくれた。少しずつ意識が変わってきているのがはっきりと感じとれる。

連合長崎（記載者：中嶋　博）

（26～27日分）
①活動人数　２名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　終日
④活動内容
26日分　１：00～４：00　夜警、６：00～18：00　給湯サービス、薪割等燃料の準備（４～５日分）
27日分　１：00～７：00　夜警、物資搬入、６：00～18：00　給湯サービス（約30人グランド清掃、湯タンポ３名）
22：00～　夜警
⑤意見・要望
26日　給湯サービスを必要とする人も少なくなり必要性にやや疑問あり。もっと必要とする所があるのではないか。
27日　給湯サービスを受ける人員も日毎に減少傾向にある。学校内への出入口が３ケ所あり、全日開放してあり、ある程度門限をもうけたら警備上は楽になるのですが。

自治労（記載者：竹内広人）

（25日分）
◦丸山中　合計49名（内49、外０）
給食搬入搬出、夜警、班長会議。
班長会議の中で、自治労撤収後は避難者で運営していく意向があるものの、老人、子供が多い為、31日までには上に立つ人を決めたいとの事。
◦宮川小　合計250名（内192、外58）
給食搬入搬出、夜警、湯沸かし、カイロ配給、灯油給油。
◦大橋中　合計518名（内309、外208）
給食搬入搬出、物資管理、巡回、ボラとの折衝、班長会議、学校側との打ち合わせ。月末に自治労とボラとが撤収するにあたり自立の精神が芽生えている。今後は必要数のみ配置できる、ボラ組織の確立を必要とする。
◦神楽小　合計700名（内500、外200）
給食搬入搬出、物資管理、巡回、卒業式見送り、職員会議の参加。市（災害対策本部）代表としての市職員を派遣して欲しい。
◦長田工業　合計310名（内288、外22）
給食搬入搬出、トイレ消毒、新聞配布、給水、灯油配給、電話受付、ゴミ収拾。平穏無事なようだが、不安とストレスを時折感じる。
◦苅藻中　合計451名（内425、外26）
給食搬入搬出、残物品の抽選会の実施、来訪者とボランティアの対応。抽選会場より、被災者の笑顔がみられた。
◦真陽小　合計860名（内846、外14）
給食搬入搬出、夜警、電話・来訪者・郵便応対、閉門、施錠、急病人対応。卒業式のため、移動は大変だったようだが、感動的な式だった。“真陽がんばろう会”の配給係りは未定だが、とにかく25日の朝食から見に来る事が決まった。26日から自治会で試行する。
◦長楽小　合計2,200名（内619、外1581）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、３Ｆ明け渡しの移動先調査と引っ越し作業。「特別事情」のチラシで８名程より質問あり。卒業式での都本部よりの祝電に対し、校長よりお礼状をいただく。
◦西代中　合計144名（内93、外51）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、戸締まり、洗濯機の設置。24日のミーティングでは、自治会の自立に向け話し合ったが、やはり自治労頼りの状況だった。自分達で行政や学校と話し合うという考えではある。

1995年３月29日（水曜日）No.56

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告
リーダー会議（３月28日）報告より
■28日現在連合ボランティア参加者数（延べ）45,565人
（会議参加組織）
連合山梨、連合島根、連合福岡、連合千葉、交通労連、造船重機労連、（文書報告）連合佐賀、連合宮崎、日教組、自治労

４月以降、態勢を変え、支援を継続

会議は、各報告を受けた後、本部より、31日に芦田会長が義援金贈呈のため兵庫を訪問する旨を報告するとともに、連合全体のカンパ状況を説明。今回の取り組みは連合として何物にも変えられない経験だ。新たな交流、自発的参加の気持ちを大切にし、４月以降新たな態勢で、支援を継続したい、との決意が表明された。

連合東京、島根、大分、福岡、鹿児島、兵庫、都市交、全国医療、自治労、千里山生協
（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　38名（内女性14人）
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容
入浴介護・手伝い、あったか湯、夜食の配送手伝い、介護湯10名、弁天湯86名
⑤意見・要望
被災者よりあったか湯をもっと続けて欲しいとの声あり。明日からは撤収に向け、細かな備品の整理等を行っていきたい。

連合千葉（報告者：安藤正之）

①活動人数　４名（20名）
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～20：00

④活動内容
　屋外トイレ清掃、掃除、新聞配布、事務処理の手伝い、学校の雑務手伝い
⑤意見・要望
　昨日から始まった活動が軌道にのった。ほとんどの業務が自治会で出来るようになった。ボランティアの仕事はいよいよ雑務のみとなった。

連合山梨（報告者：深沢米雄）

①活動人数　３名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　終日
④活動内容
　食事の配給（自治会が主体）、夜警（20：00、０：00、２：00）
⑤意見・要望
　３／27ミーティングがあり、作業配分について確認する。明日より実施。

交通労連、連合沖縄、島根、兵庫、日教組（報告者：伊藤正志）

①活動人数　18名
②活動場所　３ケ所、神戸市内
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容
　ｐｃ６～三井倉庫へ古着の移動。全員にて活動

日教組（記載者：市川真太）

①活動人数　54名（うち兵教組51人）
②活動場所
　避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）
③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容
　物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など、４月以降続行することにした３校への連絡。一部学校新学期に向けての手伝い。
⑤意見・要望
　避難者自立へ向けて努力はしているがまだ心配が多い。引き継ぎは１人を残すというやり方でプツンと切れてしまわないで欲しい。※４月以降兵庫以外で３カ所、兵庫で４～５カ所継続する。
◦平木中　避難者134人。物資の仕分け、ゆで卵つくる、清掃。夜は教委が泊まる。
◦用海小　同20人。物資の仕分け、食事の支度、清掃。
◦高羽小　同100人弱。食事の分配、カレーのたきだし、今日から住民主導。
◦小野柄小　同500人。宿直代替。深夜酔っぱらいが来る。
◦高取台中　同40人。清掃、電話当番、食事の世話。
◦原田中　同170人。受付、電話番、物資搬入、食事準備。
◦須佐野中　同140人。宿直。
◦若宮小　同212人。清掃、人員把握。
◦二宮小　同196人。清掃、食事搬入、フロの世話、電話番。
◦上野中　食事準備、フロ掃除、アンケート集約。
◦菊水小　同94人。食事準備、配布、清掃。
◦西郷小　同684人。電話受付、連絡、清掃。
◦段上小　同35人。ゴミ処理、学校の年度末の準備。
◦長田高　同244人。食事の搬入、分配。下水掃除。ボランティアは他に三重４、滋賀６。
◦西宮高　同65人。物品管理、湯たんぽ作り、清掃。
◦湊川多聞小　同100人。受付、案内、食事準備、清掃。
◦室内小　同184人。トイレ清掃、物資仕分け。
◦会下山小　同300人。風呂わかし。イス教材置き場移動。
◦烏帽子中　同330人。食事配り、炊き出し手伝い、薬品配り。

造船重機労連、福井医大、電機労連、全済労（報告者：竹鼻邦彦）

27日は週１回の入浴日に当たるため、ミーティングは欠席。28日に２日分の報告。
①活動人数　27日　12＋５人、28日　12＋５＋３人
②活動場所　駒ケ林中学校
③活動時間
　27日　10：00～16：00
　28日　10：00～17：15
④活動内容
　27日　あったか湯９名入浴、校内放送２回と入浴オルグに全部屋廻るが反応冷たい
　28日　あったか湯７名。風が強くテント１張りにて実施
⑤意見・要望
　ゴミ袋、女性用肌着Ｍ・Ｌ各５、男性用ブリーフＭ・Ｌ各５、必要。新学期までには転出して欲しい反面、現実は難しいと実感した。
※福井医大の方に戦力になっていただいた。仮設住宅がなかなか当たらないという声が多い。

連合佐賀（記載者：村岡靖郎）

①活動人数　２名
②活動場所　楠中学
③活動時間　終日
④活動内容
　準備ボックス、対策本部の当番、物資の仕分け、夕食の準備、食糧配給、校内みまわり。
⑤意見・要望　調味料（至急）

連合宮崎（記載者：竹崎広人）

①活動人数　３名

②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：00～19：00
④活動内容
　物資搬入、配付、トイレ清掃、診療受付
⑤意見・要望
外の仮設トイレは必ず市役所の職員のみで清掃してしまうので、先日から掃除は校内をすることにした。

自治労（記載者：国友啓子）

（26日分）
◦名倉小　合計147名（内125、外22）
給食搬入搬出、ボラとの調整、物資の管理、避難所は学校長を中心に民主的に運営されており、問題はない。給食配給時にも何人かが準備などの手伝いをしている。
◦丸山中　合計44名（内44、外０）
、夜警、物品管理、班長会議、全体的に落ち着いており、当番制等の運営も班単位で機能している。自治会、学校、自治労の関係は良好。避難所の統合について、心配の声あり。
◦宮川小　合計250名（内200、外50）
給食搬入搬出、夜警、湯沸かし、カイロ配給、灯油給油、薪割。給食は先生を中心に避難者一体となって終了。「特別事情」のビラについて、26日に教頭の指示により配布。
◦大橋中　合計450名（内306、外144）
給食搬入搬出、物資管理、班長会議、学校側との打ち合わせ。自治組織未確立のため、行政、学校への負担増が予想される。４月以降の態勢を早く知らせていただきたい。
◦神楽小　合計700名（内500、外200）
給食搬入搬出、物資管理、巡回、職員会議の参加、ユンロ、ボンベの開閉。校外者のシャワー等の使用について、禁止したいとの意見あり。７班に分かれている自治会が、任務分担を毎日こなしている。
◦長田工業　合計289名（内277、外22）
給食搬入搬出、トイレ消毒、新聞配布、給水。灯油配給、電話受付、倉庫管理。自治会のもと、まとまっており、炊き出しなどを手伝う人が６人いる。早朝、自治会の人で、清掃が済んでしまう。
◦苅藻中　合計488名（内422、外26）
給食搬入搬出、残物品の抽選会の準備、来訪者とボランティアの対応。弁当がひどいので業者を変える等の強い指示を、市がしたほうがいいのではないか。駐車の件で「夜間だけ学校におけないか」との要望あり。
◦真陽小　合計794名（内794、外）
給食搬入搬出、夜警、電話・来訪者・郵便応対、閉門、施錠、急病人対応、開閉施錠、駐車チェック、苦情相談。「真陽がんばろう会」が25日の朝食配給を見学。26日の配給は自治労と共同で実施し、仕分け90％自治会が行う。中には積極的な人がいるから、何とか期待できるのではないか。
◦長楽小　合計2200名（内617、外1583）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、３Ｆ明け渡しの移動先調査と引っ越し作業、郵便伝言の伝達。３Ｆ明け渡しについて、見通しが明るいとの事。雨が降った際、配給場所が変更される旨の連絡について、校内放送で対応してもらった。28日以降の校外対策について、早急な方針を求められる。緑茶を求められたが、配送センターにはないとの事。なんとかならないか。
◦西代中　合計144名（内93、外51）
給食搬入搬出、物資管理、夜警、戸締まり、自治会運営の文書作成。ミーティングで、内部名簿を持ってきたが93名から71名に減少。牛乳をジュースより少なくして欲しい。（冷蔵庫がなく保存がきかないため）

（27日分）
◦名倉小　合計147名（内125、外22）
朝夕の食事配給は、避難者の人のうち、３人が手伝ってくれる。
◦丸山中　合計44名（内44、外０）
班長会の時、色々と意見が出されるが、こちらの意見もよく理解してもらえる。
◦宮川小　合計250名（内200、外50）
朝食・夕食の当番制はできており、湯沸かしの当番などの話も出ている。避難者の中には進んで配給をしてくれる人も何人かいる。
◦大橋中　合計477名（内298、外179）
自治会については、班どうしのつながりが薄いようなので、運営に不安がある。メンタルケアが必要と思われる人が１人いる。
◦神楽小　合計700名（内500、外200）
７班に分かれている自治会が、任務分担を毎日こなしている。26日より、食事の配給場所が、体育館の中から外に変更した。26日の夕食配給を14時としたが、避難者より「早い」との声があった。
◦長田工業　合計277名（内267、外11）
避難者はＡ～Ｅまでの５つのブロックに分かれており、各グループでリーダーを決め、清掃等を分担、スムーズに運営されている。菓子パンは飽きがきて、返品がとても多い。
◦苅藻中　合計444名（内418、外26）
午前から午後に鍼灸ボランティア、保育ボランティア（今日で中止）。昼に炊き出しボランティア。
◦真陽小　合計770名（内770、外）
がんばろう会役員で話し合いが前進。夜間口論が発生。班長会を３月28日に開催予定。
◦長楽小　合計2200名（内628、外1572）
避難者の引っ越しはスムーズにいった。校外食の登録を27、28に。校内食について28日に世話人会議。28日で打ち切りの放送に複雑な表情。４月以降の長楽への配置を手厚く。大規模避難所である事を考慮し、意向に沿ってもらいたい。
◦西代中　合計144名（内93、外51）

29日以降は住民の当番制で配給。大阪から人形劇ボランティアが来校。どうしても弁当が欲しい校外者は１世帯のみ。学校に対して洗濯に関する要望。炊事に火を使わせて欲しい。

1995年３月30日（木曜日）№57

現地対策本部（連合兵庫内）　日　報

●現地取り組み報告

リーダー会議（３月29日）報告より

■29日現在連合ボランティア参加者数（延べ）46,046人

（会議参加組織）

連合山梨、連合島根、連合福岡、連合千葉、交通労連、造船重機労連、日教組、自治労福岡、福井医大、（文書報告）連合佐賀、連合宮崎、連合長崎、自治労

労災事故多発（地震発生後３／27現在・死亡９件、４日以上休業190件）

本部より各学校に泊まり込みボランティア部隊の苦労話が紹介され、会議参加者の報告を受けた。当日、川本副事務局長が県基準審に参加したことから、労災事故の状況が報告され、残り２日間、跡かたづけまで事故を起こさないよう注意が喚起された。

連合東京、島根、大分、福岡、鹿児島、沖縄、兵庫、都市交、全国医療、自治労、千里山生協（報告者：永瀬幸男）

①活動人数　28名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　８：00～17：30
④活動内容

弁天湯（男45名、女69名）、あったか湯（男１名、女５名）、備品の整理、昼食夜食配送手伝い

⑤意見・要望

各個人の仕事の分担がスムーズに決定され、組織だったボランティア活動が行えた。

※３／１～本日まで3,400名の方が弁天湯、あったか湯を利用、沢山の感謝の気持ちをいただいている。

連合千葉（報告者：安藤正之）

①活動人数　４名
②活動場所　吾妻小学校
③活動時間　７：00～20：00
④活動内容

屋外トイレ清掃、掃除、風呂の受付、受付業務、学校周辺の清掃

⑤意見・要望

自治会の活動が順調に進んでいる。ボランティアの数も減少しているが、全く問題なし。30日の撤収での備品の行先は明確にしておいてもらいたい。

連合山梨（報告者：深沢米雄）

①活動人数　３名
②活動場所　若菜小学校
③活動時間　終日
④活動内容

夜警、しあわせの村温泉ツアー（ボランティア15名、被災者10名程度）

⑤意見・要望

※しあわせの村温泉ツアー、120名位に呼びかけをし、趣旨はもっと広かったのだが、結局はボランティアと仲の良い人や半数は子供になってしまった。

交通労連、連合島根、兵庫、税関労連、日教組（報告者：伊藤正志）

①活動人数　18名（午後17名）
②活動場所　３ケ所、神戸市内
③活動時間　９：00～16：00
④活動内容

中央図書館へ10ｔ車１台分ポートターミナル第４突堤倉庫Ｑ２シャッター№９に保管中の3,000枚の毛布（新品）をポートアイランド倉庫へ搬入

日教組（記載者：市川真太）

①活動人数　54名（うち兵教組51人）
②活動場所

避難所小中高校22カ所（別・兵教組17カ所）

③活動時間　24ｈ態勢（宿直）
④活動内容

物資の搬入・配付、食事の世話、各種清掃、風呂の準備・世話など、現地視察に出かけられたりして、少し余裕がでてきている。平木中学では飼い主のいない犬がいてこの散歩をまかされている

⑤意見・要望

ゴミに関してゴスコンロを使った後ガス抜きをしていないガスボンベがたまっている。弁当のメニューが同じで量が少ないのではないか。ボランティアと住民の話し合いがあり避難所の統合について無理矢理やるのはどうかという意見あり。ボランティアが31日で終わるので手を出さないで自力でやるよう引きついだ。小野柄小では昨日の酔っぱらいからＴＥＬあり。避難所の無料電話をかけに毎日朝４：00頃自転車でくる人がおり、困っている。何か良い方法はないだろうか。

◦平木中　避難者134人。食事の仕分け、外からの人の食事200食位、犬の散歩、ガスボンベの空気抜き。
◦用海小　同15人。荷物公民館へ運ぶ。食事の支度、片付け、トイレ清掃。
◦高羽小　同100人。ボランティアは手を出さないように

とこれからの引き継ぎに。
◦小野柄小　同500人。朝4時近くの人、毎日朝4：00頃ＴＥＬかけに来る。宿直等。
◦高取台中　同37～8人。清掃、宿直、食事の世話、4／1から育英高と合併。
◦須佐野中　同170人。現地視察、宿直。
◦若宮小　同197人。清掃。
◦二宮小　同177人。校庭清掃、フロの灯油入れ、世話。
◦上野中　同200人。食事の支度、フロ掃除、物資配り。
◦菊水小　同100人。食事準備、ゴミ収集、自治組織づくりが急務。
◦西郷小　同684人。電話番、トイレ清掃、食事の配給、フロの世話。
◦段上小　同35人。ゴミ清掃、学校の仕事、子供と遊ぶ、教委から聞き取り調査入る。
◦長田高　同237人。食事の世話、清掃等。仕事量は減ってきた、食糧品の返品。
◦西宮高　同65人。物品管理、ゴミの処理。
◦湊川多聞小　同100人。受付、清掃、食事は自主的にやり始めた。
◦室内小　同184人。掃除、ゴミの処理、送られた図書の整理。
◦会下山小　同300人。トイレの清掃、風呂管理。物品の移動等。
◦烏帽子中　同320～330人。食事の世話、日用品配付、清掃等。学生のボランティアからは4月以降も継続して欲しいとの要望。

造船重機労連、福井医大、電機労連、全済労（報告者：竹鼻邦彦）

①活動人数　12＋5＋3名
②活動場所　蓮池小学校
③活動時間　10：00～15：35
④活動内容
あったか湯7名入浴、入浴者の老人から感謝の意を込めた菓子、短歌の短冊をいただく。涙が出る程嬉しかった
⑤意見・要望
今日は全員充実した日に感じられた。（介護を主にした行動が初めて出来た）人工肛門等の世話した人達の今後が気になった。行政に移管されるように「あったか湯」を今後とも実施し続けて欲しい。あったか湯について1人1人バスタブの湯を完全に空にし消毒液を入れてきれいにしている事はあまり知られてないのではないか。

連合島根（報告者：周藤俊雄）

①活動人数　12名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間
28日午後～半日
29日8：00～15：00
④活動内容
28日分ダンボール（古着）の搬入作業（三井倉庫）3名、あったか湯の研修3名、弁天温泉6名。29日分あったか湯（田中保育園5名入浴）4名予定を5名に、図書館に本の搬入2名、弁天温泉6名。
⑤意見・要望
28日分連合島根としては本日で班の入替となり、半日作業となる。29日分あがり湯及びシャンプー時に簡単にシャワーができればと思う。※お年寄りが涙を流しながら感謝していた。本日は重介護の方はいなかった。ボランティア3月末までだが行政派遣で是非お願いしたい。行政も待っているしヘルパーも待っている。

連合宮崎（記載者：竹内広人）

①活動人数　3名
②活動場所　兵庫高校
③活動時間　6：30～19：00
④活動内容　物資搬入、配布、トイレ清掃、診療受付

連合長崎（記載者：中嶋　博）

①活動人数　2名
②活動場所　摩耶小学校
③活動時間　終日
④活動内容
10：00～22：00夜警、6：00～18：00給湯サービス（飲用、湯タンポ）

連合佐賀（記載者：村岡靖郎）

①活動人数　2名
②活動場所　楠中学
③活動時間　5：00～23：00
④活動内容
警備ボックス、昼食夕食の炊き出しの準備、対策本部の当番（電話当番等）校内見回り、校内の清掃
⑤意見・要望
やっと生活に慣れて要領がつかめるようになった。ラジオ体操が始まったのでＡＭ5時からの警備ボックスの当番の時体を動かせるので気合いがはいる。物資には恵まれている。

連合「兵庫県南部地震」対策本部

阪神大震災救援ニュース

これは連合本部「兵庫県南部地震対策本部」発の『阪神大震災救援ニュース』である。

この地震は当初、気象庁が命名した「1995年兵庫県南部地震」の名で呼ばれていたが、その後、地震の被害がきわめて大きかったことから、マスコミは「阪神大震災」と称し、政府は「阪神・淡路大震災」の名称を使用することを閣議で決定した。

ここに掲載する“ニュース”の題号が『阪神大震災』となっているのは、その辺りの経過に由来する。

できるだけ当時の雰囲気を伝えたいという考えから、原題のまま掲載した。

阪神大震災救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.1　1995年1月24日

連合の救援活動が始動

20日現地入りした連合芦田会長は、兵庫県庁で貝原知事を激励し、連合からの見舞金（1,000万円）を贈った。席上、貝原知事は「自らの被災にも拘わらず復旧の第一線で奮闘する連合の組合員に感謝します。県民もがんばりたい」と決意を述べた。

連合の現地対策本部は、連合大阪の資料室を開放してもらい、事務所を開設した。同時に、尼崎、加古川、連合兵庫に前進拠点を設定し、連合兵庫の当該地協の協力を得て救援物資の受け入れと配送、生活環境整備に向けたボランティア活動を開始した。

◎「現地対策本部」

〒540　大阪中央区北浜東3―14　府立労働センター11F（連合大阪内）

臨時電話　06－945－6755　　FAX　06－944－0055

各地方連合会から続々支援申し入れ

連合大阪は23日第1陣の救援ボランティア48人を神戸に派遣した。一行は渋滞を避けチャーター船で神戸に上陸し、王子陸上競技場と東遊園地へリポートで救援物資の仕分け・配送作業に精いっぱいの汗をかいた。

連合福島は、25日～30日、30日～2月4日の2班に分けて各10人づつのボランティア派遣を決定した。一行は、連合大阪に立ち寄り連合兵庫に入って救援活動に参加する。現地はガス、水道が止まっているため、現地対策本部は卓上ガスコンロか旅行用電熱器の携行を依頼した。

各構成組織も、次々と独自の救援ボランティア活動を進めている。

全国の地方連合会からは、救援物資の申し入れも続々届いている。青森からはリンゴ、和歌山からはみかんを、栃木からは物資の変わりに現金カンパでどうかとの問い合わせなどがあった。

兵庫県東部地区の被災状況

伊丹、宝塚市で物資の購入が可能となりはじめている。

仮設住宅への入居条件（全壊または全焼）からもれた人の不満が高まっており、入居条件資格判定の混乱が懸念されている。自宅に帰れない被災者の避難生活の長期化で、こうした人々への支援のあり方が課題となっている。

西宮市、芦屋市は、被害が甚大で、この地区での支援の強化が必要と思われる。

＊今後2月中旬までを目途に随時「救援ニュース」を発行します。ニュース・ソースとしてぜひご活用ください。

阪神大震災救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.2　1995年1月25日

組織内の被害状況がわかりはじめる

組織内の被害の状況について、連合は正確な状況把握に努めている。各構成組織を通じて行った調査の24日18時時点の仮集計によると、組合員の死亡者と行方不明者は147人におよんでいる。組織内の人身災害と家屋被災の状況は次の通り。

《人身災害》◎組合員　死亡134人　行方不明12人　けが462人

◎家　族　死亡743人　行方不明17人　けが966人

《家屋被災》全焼壊　3,857件、半壊等　8,016件

（1月24日18時現在・連合組織局調べ・家屋は件、戸、棟の区別は厳密ではない）

現地の宿泊態勢すすむ

ボランティアを受け入れるために、連合兵庫では宿泊態勢を整えつつある。確保が進んだ施設は次の3カ所となっている。

◎県教育会館＝38人分（連合兵庫から徒歩５分）　◎海員組合楠町寮＝30人分　◎連合兵庫会館２階会議室＝50人分

加古川拠点も受け入れ態勢できる

ゼンセン同盟日本毛織労働会館に設定された現地対策本部加古川拠点でも、受け入れ態勢が整ってきた。宿泊関係では、日本毛織㈱の倉庫を開放してもらい、25人分を確保、別に連合岡山が協力して布団25組が搬入され、計50人が可能になった。

神戸製鋼所労組高砂支部の協力で同社体育館が開放され、救援物資の仕分け所にあてられる。また、同所と尼崎拠点に交通労連が手配したトラック５台が、運転手と共に25日から常駐して配送にあたる。道案内は連合兵庫の阪神地協と東播地協。

現地の機動力は自転車が一番

被災地の足には、自転車が機動力を発揮している。尼崎拠点には、30台の自転車が、加古川拠点には50台が搬送される。連合岡山では、市と交渉して自転車50台を被災地に搬送する計画を進めている。

まだまだ救援物資が足りない

神戸市対策本部が、連合兵庫石井会長に救援物資を依頼する等、物資が足りない。

◎自転車、原付２輪車…中古品可　◎衣類…新品の下着、靴下（古着は避ける）　◎日曜品…歯ブラシ、ポリバケツ等
◎炊事用具…卓上コンロ、ボンベ　◎医薬品…家庭用医薬品、マスク、耳栓等

＊救援物資についてのお願い

ご協力ありがとうございます。物資はぜひ１箱１品に統一してください。２品以上入った箱の中身を仕訳をするマンパワーが追いつきません。

阪神大震災救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.３　1995年１月26日

連合組織内の被害深刻、家族を含めた犠牲者が1,145名に

地震発生から今日で９日目、被災地では復興に向けた活動が活発となり、被災者も一応の落ち着きを取り戻しつつあるが、かぜ等で体調の不調を訴える人も少なくない。これからも、長い、不自由な避難所生活が続くが、ぜひ頑張ってほしい。

連合が、各構成組織を通じて行った１月26日午後５時現在の連合組合員の被害状況は、昨日よりさらに増え、組合員の死亡者が155名、行方不明者が13名となった。家族の死亡・行方不明者を合わせると1,145名となり、全体の約23％、４人に１人という最悪の事態となっている。なお、この数字には自治労組合員の被害は含まれていないが、それは、行政の第一線で救援・復興作業を最優先で取り組んでいる結果である。

《人身災害》◎組合員　死亡155名　行方不明13名　けが884名
　　◎家　族　死亡960名　行方不明17名　けが1,008名
《家屋被災》全焼壊　5,174件、半壊等　10,478件

（１月26日現在・連合組織局調べ）

ボランティアの第１陣、連合福島10名が活動開始、自動車総連の23名、政労連６名、連合富山２名も続々現地入り

昨25日空路大阪入りした連合福島の10名は大阪港から神戸ハーバーランドに上陸。さっそく連合兵庫の会館ビルの給水タンクに水を補給したあと、兵庫区役所で行政と一体となって全国から贈られた救援物資の仕分け作業に就き、本格活動を開始した。あとの部隊13名も１／30に現地に入り、交代し活動を継続する。なお27日には、自動車総連の23名、政労連の６名、連合富山の２名が現地入りする。

また、近畿４府県のボランティア45名は、１泊２日のローテーションで、２カ所の臨時ヘリポートでの救援物資の搬入・

搬出作業を１／23から続行している。

連合兵庫・阪神地協の活動も本格化

阪神地協（尼崎市労働センター内）は、連合の構成組織および地方連合会から送られてくる救援物資を仕分けし、５班編成（トラック１台と自転車２台で班を組む）で被災者に直接品物を渡せるようきめ細かく避難所巡回を続けている。26日は、芦屋市の臨海部と西宮市の一部をまわり、下着や子供のソックス、ガスコンロなどを配布した。連合青森から送られたりんごジュースは大変喜ばれた。被災者の要望が多かった品物は、下着、クスリ、調味料（味噌・醤油・塩・こしょう）である。とくにクスリ、調味料は不足しており、現地では対応に苦慮している。物資配達の際、いまひと工夫を、同一の箱には同一の物を、内容の明示を忘れずに。

救援カンパに、最大限の取り組みを

連合対策本部に、構成組織や地方連合会の救援カンパ金が寄せられている。

１月26日現在における構成組織、地方連合会、国際労働財団、総評会館、大阪勤福、退職者、本部事務局、個人などからの救援カンパ合計は14,309,148円となっている。

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.4　1995年１月27日

連合組織内の被害状況、時間とともに増える

組織内の被害状況は、調査（構成組織を通じ連合組織局調べ・26日17時現在）が進むにつれて増えている。組合員とその家族を合計した死亡者・行方不明者は1251人で、25日より106人増えている。現在も行方不明者を対象の中心に懸命の調査が進められており、全体が判明するにはなお時間がかかりそうである。

《人身災害》◎組合員　死亡168人　行方不明11人　けが961人
　　◎家　族　死亡1,052人　行方不明20人　けが1,089人
《家屋被災》◎全焼壊　5,963件、半壊等11,294件

ボランティアが次々に到着（加古川）

連合現地対策本部の兵庫西事務所（加古川市・日毛労働会館）では、救援物資の待機状態が続いている。一部マスコミに、物資が余っているかのような報道がされているが、現地ではまだまだ救援物資が不足している。兵庫西事務所では、午前９時から午後６時まで物資を受け入れているので、可能な限りこの時間帯に搬入と、事前の連絡、構成組織・地方連合会単位でまとめ送付を希望している。

一方ボランティアは続々と参加してきている。ただ、現地の交通事情が悪いため、個別に移動することができないので、集合時間に合わせて一斉出発に協力いただくことを望んでいる。宿泊受け入れ態勢（日毛労働会館）が整っているので、なるべく長期滞在型・リーダー同行での参加を希望している。

きめ細かい「ご用聞きシステム」を採用（尼崎）

兵庫東事務所（尼崎市・尼崎市労働センター）では、独特の配送システムを採って、きめ細かな活動をしている。朝８時30分、到着している救援物資リストをもって西宮、芦屋両市の約30カ所の避難所を巡回し、何が必要か「ご用聞き」している。午後は注文を受けた救援物資をトラック10台が分担し合って配布している。モットーは「必要なところに必要な物を」で、避難所によって物資の充足度に大きなばらつきがある現状を補っている。その量は、一日で在庫が空になるほど。

ボランティアの現状は、トラック運転者12人、配送関係30人、給水活動17人が当たっている。ここでも朝の活動開始は８時30分と決めており、その時間までに集合できないとその日の業務が組めないため、参加する場合は時間厳守を要望している。同事務所ではより多くのボランティア参加を求めているが、自宅から通える方だと大いに助かるという。

＊救援物資のお願い

新たに家庭医薬品・各種調味料・使い捨てでない食器・ゴミ袋等が要望されています。１箱１品、内容を箱の外に貼ってお願いします。

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.5　1995年１月28日

連合の救援物資、29,000点が現地東・西拠点入り

現地被災者の要望にもとづいて、連合本部がゼンセン同盟の協力を得て調達した衣料品（男女・子供・幼児の下着、ソックスなど）約29,000点（段ボール箱で350箱）の救援物資が、27日夜、関西地区の配送センターから尼崎市の連合兵庫阪神地協に搬送された。ところが、中国道、近畿道の一部開通による大渋滞に巻き込まれ、到着したのはなんと明けて28日の午前４時。現地では、早朝より地元の連合ボランティアの手によって仕分け作業が行われ、約半分の救援物資が交通労連のトラック部隊により首を長くして待っている西部物資集結所（高砂市・神鋼労組）に午後３時すぎ無事搬入された。

高砂市の物資集結所には、このほか、連合岡山と鉄鋼労連から自転車、地元労組から食品や衣料などが納入された。東・西の拠点事務所は、明日からの配布準備に追われている。

今後の現地対策は、長期救援態勢による「避難所対策」が重要

28日午後、連合兵庫の事務所において現地の「対策会議」が開かれ、各拠点の活動状況をふまえて、今後の活動内容について意見交換を行った。そのなかで、「連合部隊の献身的活動は多くの被災者から評価されている。これからは救援物資の配布活動から避難所対策の活動が中心となる。そのために、長期にわたる救援態勢の維持・強化が必要である」との認識で一致した。とりわけ、避難所となっている学校では、校長以下教職員が夜間を含めた救援活動を献身的に続けている。そのため兵庫県教組では、避難所となっている学校での救援対策を組織的に取り組むことを決めた。

連合東京、救援ボランティアに57名の大部隊を投入

連合東京は、１月29日から２月４日まで６泊７日の日程で、事務局長を総括責任者に事務局と傘下構成組織の応募者で構成する57名の救援ボランティアを派遣する。一行は新幹線で大阪入りしたあと、船で連合兵庫へ向かい３班にわかれて救援活動を展開する。この救援隊には４名の女性組合員も含まれている。

＊お願い

各構成組織並びに各地方連合会から、連日多くの救援物資が現地に送付されてきていますが、尼崎市にある東部拠点（連合兵庫阪神地協）に比べ高砂市の西部拠点（神鋼労組体育館）への物資集結が少ないとのこと。中国地方以西の組織はもちろん、全国各地から西部拠点へも搬送方をよろしくお願いします。

連絡先：現地対策本部（連合大阪）TEL 06－945－6755（佐藤まで）

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.6　1995年１月30日

緊急対策会議具体策決める

連合は30日午後、「兵庫県南部地震緊急対策会議」を開いた。まず現地対策本部に就いていた町田副事務局長から、現地状況が報告された。特に連合兵庫、尼崎の東事務所、加古川の西事務所の日々変化するボランティア活動と救援物資の状況の生々しい報告があった。続いて、各構成組織の取り組みが報告され、共通の認識を持ち合った。

「今後のカンパ活動について」は、各構成組織に任せる方針を踏まえつつ、労働組合の社会的役割に相当する義援金を連合に集約できるよう協力を依頼した。「今後のボランティア活動について」は、各構成組織の独自活動を妨げないが、事前に連合の対策本部と連絡をとること、周辺地域からの派遣と構成組織からの派遣があるが構成組織からの派遣は１週間以上の期間が望ましいこと、組織の枠を超えて連合全体として取り組めるリーダーの派遣、などを要請した。

現地対策本部は「連合兵庫」に移ります。

現地の復旧は急ピッチで進み、交通事情も整備されてきたことから、「連合大阪」に置いた現地対策本部を２月１日から「連合兵庫」に移すことになった。「連合大阪」は近畿ブロック対策本部になる。尼崎と加古川の事務所は従来どおり拠点となる。

連合組合員が獅子奮迅の活躍

連合の組合員があらゆる場面で大活躍している。情報労連、電力総連、私鉄総連、全化連合、全国ガス、ＪＲ総連、ＪＲ連合、自治労、日教組、全逓、全郵政、都市交、全水道などの構成組織の組合員は、特にライフラインに関わる復旧作業の中心で活躍している。

これらの組合員は、それぞれ企業枠を超えた全国規模の応援態勢に加わって復旧にあたっている。大災害であることから、細かい労働条件のことはひとまず脇に置いて、昼夜の別なく活躍している姿に、被災者から激励と感謝の声が上がっている。なお、時間とともに疲労が激しく、安全面も含めて中期的復旧作業態勢が望まれている。

各構成組織で独自の救援が進む

各構成組織は、独自の救援活動にも乗り出している。全構成組織で「救援カンパ」に取り組む一方、大部分の組織が対策本部を現地や本部に設置し、被害の状況に応じて対応している。救援活動の第１は、被害状況の把握で、特に行方不明者の捜索などが行われた。その後は、各組織とも産業の特性や技術を生かした救援活動に取り組んでいる。ゼンセン同盟は、岡山からの給水活動、下着など衣料品のゼンセンルートによる救援物資の供給、西宮市17カ所の避難所の恒常的世話活動などを行っている。食品連合は食品の供給、海員組合では船を生かした活動、紙パ連合はトイレットペーパーの供給、全窯連が食器の供給、などを行った。（これ以外にも各組織が懸命に取り組んでいる）

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.7　1995年２月１日

ボランティア活動に積極的参加を

連合全体の救援活動は時々刻々と動いている。１月30日各構成組織の担当者が参加した「緊急対策会議」では、今後のボランティア活動は、各構成組織独自の活動を妨げないが、「必ず連合の対策本部に連絡。派遣は一定数で１週間以上が望ましい。あわせて現地の活動リーダーとなる人を各構成組織１～２名派遣を要請」することを確認した。

活動内容も、救援物資の仕分けと配送から、次第に避難所の恒常的支援活動に移りつつある。神戸市から連合に支援要請のある避難所は14カ所（小・中学校）あり、各組織の協力で９カ所に対応しているが、残りの５カ所は今後の対応となる。連合の組織的なボランティア活動に、期待が高まっており、対策本部では各構成組織・地方連合会に組織的参加を要請している。

ボランティアの仕事は避難所支援活動が中心

ボランティア活動の内容は、①救援物資関係は到着次第、荷物降ろし、仕分け作業、各避難所への配送、物資リストと管理、避難所ごとの要望聞きなどとなっている。②避難所の支援活動は、施設長である学校長と行政職員のもとで、飲料水・トイレ用水の確保と配布、生活周辺の片付け、食事の搬入・配布など。現在は特に夕刻からの人手が不足しており、一部は避難所へ宿泊しての活動となっている。③その他行政からの要請に対応する活動で、片付け、警備等さまざまである。

宿泊施設

ボランティア受け入れ用宿泊施設は、次のように準備されている。

◎神戸＝「教育会館・約85名」「海員会館・約30名」「連合兵庫・約20名」

◎尼崎＝「労働センター・12名」（物資センター的位置づけ・日帰り者中心）

◎加古川＝「日毛会館・約40名」

復興対策で与・野党に申し入れ

兵庫県南部地震発生後、直ちに緊急対策を政府に申し入れた連合は、3日、さらに復興対策を与党政策調整会議（関山社会党政審会長、加藤自民党政調会長、菅さきがけ政調会長）に申し入れた。連合鷲尾事務局長らは、「総額10兆円程度の予算を編成するなどの総括的な対策」「中期的な対策」「各分野の対策」を説明したあと、特に「地場産業の復興と雇用対策に力を入れる」よう要請した。与党各党とも連合の救援活動に敬意を表し、全力をつくしてことにあたることを約束した。

引き続いて野党の新進党に対して、同様の申し入れを行った。応対した中野・西岡両地震対策副本部長らは、「政府案の貸付金利は高い。復興策は議員立法で具体的な提案をしていきたい」と述べた。

連合兵庫石井会長が現地の声を要請

現地からかけつけた連合兵庫石井会長は、連合の秋田、西村両総合局長らと共に3日朝、社会・新進・さきがけ・自民の各党代表と五十嵐官房長官の順に、連合兵庫がまとめた現地の切実な要請を行った。石井会長は特に、被災者への税制上の措置と立ち上がり資金としての見舞金支給の早期実施、失業者の生活保障と新たな雇用創出と中小企業救済、避難地（学校）への教員以外の人的対応と授業再開に向けての措置等を訴えた。

各党とも「全力を挙げて取り組む」ことを約束した。五十嵐官房長官は、「復興諸策は6日からの週ぐらいに特別立法でまとめていきたい」と、政府の意向を示した。

6日から法律相談ダイヤルを開く（連合兵庫）

連合兵庫は、被災者のための電話相談を開く。現地では土地や建物に関する法律上の問題から、雇用保険や労働災害の給付問題まで法律に関わるさまざまな問題が起こってくる。電話相談の設置は、こうした問題の相談に乗れるように窓口を開いたもの。

「連合兵庫・兵庫県南部大地震法律相談ダイヤル」
◎期　　間　2月6日～10日までの5日間
◎受付時間　午前10時～12時30分・午後14時～16時30分
◎相談内容　法律・制度・生活・労働問題など
◎スタッフ　弁護士5名、社会保険労務士、税理士、ケースワーカー、年金高齢者専門家
◎電　　話　078－361－0505

5,300人を超える連合ボランティアへの参加

次々と変化する現地の状況に対応して、連合は5日連合兵庫で「現地対策会議を開いて、今後のボランティア活動について相談した。この会議には、連合本部、現地対策本部、同東・西両拠点、連合兵庫、連合大阪はじめ現地で活躍中の七つの構成機関のボランティアグループの代表が出席した。

会議でまとめた救援活動の基本的考え方は、「被災者の自治・自立への支援とその継続が求められている。ライフライン、学校、行政の機能回復を」となった。また、活動内容は「避難所への派遣」が中心になり、「構成組織を中心に当面2月末までの態勢を確立する」ことになった。今後求められるのは「専門分野に絞り込んだボランティア」と「避難所へ行けない人（被災者の）」が課題となっている。

連合独自の救援物資の提供は、7日までを一応の区切りとし尼崎、加古川の両拠点が対処することになった。今後は、救援活動の重点が避難所への派遣や行政が統括している救援物資の集積所への派遣に重点を移していく。

なお、現地対策本部が集約した連合ボランティアの参加延べ人数は、約5,300人となった（5日現在）。これは1月22日～2月5日の15日間の合計で、被災直後から各単組が自主的に行った救援活動、さらには連合組合員が個人的に参加した人は相当数あり、その全容は現在集約中である。

6日から新たに各種構成組織が次々に参加

6日から各構成組織単位の派遣の連合ボランティアが一斉に本格的に活躍しだす。すでに長期にわたって活躍の構成組織と、6日以後一斉に始動する構成組織を合計すると、15組織を超える。いずれも、被災地派遣や物資集積所支援など、今後の連合ボランティアの中心的活動に就く。

「豊中なんでも相談」を開設

連合大阪と豊中地協が共同で、10・11の2日間、電話相談と並行して被災者の相談に応じる。これには弁護士、税理士、社会保険労務士、病院スタッフなどが協力する。

◎期　間　10日・11日（10時～16時まで）
◎場　所　豊中市労働会館
◎電　話　06－334－6500

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.10　1995年2月7日

特別立法24日までに提出、復興法も

連合の鷲尾事務局長らは6日、再び五十嵐官房長官、浜本労働大臣を首相官邸に訪ねて申し入れを行った。今回は「当面の重要課題」と「兵庫県南部地震復興対策」の2つの課題を要請した。「復興対策」は、3日に与・野党に申し入れた内容と同じもの。席上五十嵐官房長官は「特別立法のうち緊急措置として先行させる30本くらいの法案を24日までに国会に提出する。併せて復興法を出し、復興対策本部もこの中に位置づける。第2次補正予算は1兆円程度になろう。今国会中に7年度の補正予算もやる。ボランティア制度は法的にも整備したい。連合もボランティア休暇の労働協約の普及を一段と進めてほしい。新卒内定者の採用問題は、雇用調整助成金で手当したい」と述べた。〈11省庁、兵庫・大阪選出国会議員にも要請〉

引き続き7日、連合は「復興対策」に関連する9省2庁にたいし、手分けをして一斉に申し入れた。また同日、兵庫県・大阪府選出の参議院議員11人、衆議院議員37人、合計48人の国会議員に「復興対策」の申し入れを実施した。

「ありがとう」に疲れ吹っ飛ぶ

ボランティアに参加した連合組合員は、貴重な体験を言葉に残して交替していく。その中からいくつかの発言を収録した。

「非常時の組織で役立つ組織、それなりの組織の違いを考えさせられた」「役に立ったかどうか疑問だが、お金を積んでも得られない貴重な体験をした」（連合東京）

「ギリギリの場面で人は水と暖と人の心を求めることを知った」（連合福井）

「連合のすばらしい仲間ができた」「心からありがとうといわれ、疲れも吹っ飛ぶ心地よさを感じた」「がんばれ兵庫、かんばれ神戸」（連合福島）

「われわれの活動で教職員が学校再開の準備に入れた意味は大きい」（自動車総連）

今後は避難所へ泊まり込み可能な服装で

今後のボランティア活動の主な内容は、避難所への派遣となる。現地対策本部では、避難所泊があることを前提にした服装と装備で参加することを望んでいる。

◎装備関係
・寝袋とマット　・携帯ラジオ（イヤホン）水筒　・ポケット懐中電灯　・作業用皮手袋　・ナップザック、ウエストポーチ　・雨具　・マスク、帽子

◎服装関係
・汚れの目立たない暖かい服装　・靴は着脱が容易で音のしない底のもの（安全靴は不要）　・着替え（神戸は本部宿泊基地に洗濯機あり）

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.11　1995年２月９日

連日綿密に情報交換を

２月第２週に入って現地対策本部の進めるボランティア活動は、各構成組織からのボランティアが次々と参加して避難所への支援活動が中心になってきている。神戸市全体では、学校を中心に約600カ所の避難所が設けられている。そのうち、連合のボランティアが支援に入った避難所は、９日現在で55カ所におよんでいる。

現地対策本部では、各構成組織派遣者代表（８日は10人）と連日事務局会議を開いて活動状況に関する情報交換を密にしている。

具体的活動内容は場所によって違う

ボランティアの活動領域は、およそ３分野。それぞれの具体的作業内容は次の通り。

◎避難所関係＝給水・掃除・食事や衣類の配給・炊き出し・連絡係・組織づくり支援

◎区役所関係＝罹災証明を取りに来る人の整理等

◎物資センター関係＝救援物資の搬出入・仕分け

参加したボランティアの感想と意見

「午後２時頃になると20～30人の先生がボランティアできている。トイレ掃除を被災者自身でやろうという兆しが出ているが、仕事に出る人もいて難しい。地道にやるしかない」

「宿泊所を朝５時に出てすぐに仕事にとりかかり夜７時まで。廊下に寝ている人が寒いので、発泡スチロールを入れてあげた。水の確保作業が中心で、自衛隊２トン車２台が１日11回ピストン輸送している。連合は安定して入っているのでありがたがってくれている。ボランティア間の人間関係はうまくいっている」

「連合は組織的継続的に活動でき臨機応変に対応できるので市からの期待が大きい。一般ボランティアは仕事を決めてきているので上から押しつけると具合が悪い。高校が始まるので高校生がいなくなる。連合の応援が一層必要になる」

「自治組織があり、炊き出し以外は自治でやっている。昼は勤めに出る人が多くなり、昼間人口が少ない。働く人のローテーションを考えたやり方が必要。学校再開に際しては、教材・教具が必要」

「７日から学校が再開した。義援金を被災地に。炊き出しを続けていても自立しない。自立のための支援を」

「被災者が3,000人も入っている。ボランティアは大勢いるが、忙しい」

「老人が多い。公園などで暮らす人は飲料水や食料がない。今後はこの人達への対策も必要。仮設住宅があたった人は10％程度。失業が問題」

「市主催のゴルフ場入浴は人気ない。部屋の保守をするボランティアがほしい」

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.12　1995年２月13日

連合による福祉風呂が実現へ

15日から、連合ボランティアの手による「あったか湯（福祉風呂）」が実施される。避難所で要望が多いのは「風呂に入りたい」。現地ではすでに公衆浴場のいくつかは開業したり、簡易型仮設風呂が設置されたりしだしたが、大型なために高齢者や身障者には不自由。そこで各避難所の高齢者、身障などにお風呂に入ってもらおうと、常設・移動の２系統の福祉風呂の実現に漕ぎつけた。連合現地対策本部では、簡易担架型浴槽を準備し、介護のしやすい対応を進めている。

◎常設タイプ＝県立兵庫高校校庭（既に実施中）。弁天温泉（大阪）提供の湯をタンクローリーで輸送。送迎マイクロバスによる他の避難所からの入浴にも対応。運営と介護の手助けは連合ボランティア。

◎移動タイプ＝２班に分かれて計14避難所を巡回予定。簡易担架型浴槽および必要な設備一式を連合で準備。運搬、運営は連合ボランティア（入浴ボランティアの応援を要請）

柴田連合大阪会長が雇用不安解消で提言

経済団体・行政・労働組合など各界から200人が出席して、「阪神大震災復興会議」が９日大阪で開かれた。会議では熱心な討議が行われ、政府・自治体への提言をまとめると共に早急な復旧を誓い合った。

連合近畿ブロック代表として出席した柴田連合大阪会長は、震災による雇用不安の解消施策を中心に発言した。発言の中で柴田会長は「炭坑労働者の安定に関する臨時措置法等のような、関係労働者の雇用安定等に関する特別措置法を特別立法で制定し、総合的対策の強化を」提言した。具体的には「被災求職手帳制度による積極的就業対策の展開」の提案が、出席者の注目を集めた。

ありがとうございました。救援物資活動は終了します

連合が１月20日発で要請した救援物資の緊急援助には、下着や食料品、日用雑貨品など多数の送付があった。これらの協力に対し、対策本部は大変感謝している。

今後の活動は、連合として避難所支援のボランティア活動に重点を置くことになったところから、加古川、尼崎の２カ所で行っていた連合独自の救援物資の集結・配送活動は、２月15日（水）をもって終了することになった。

対策本部では、２月15日以降の救援物資は、行政ルートの救援センターに送付していただくようお願いしている。

阪神大震災現地救援ニュース　連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.13　1995年２月16日

「あったか湯」に感謝の涙

連合福祉風呂の「あったか湯」が15日午後から始まった。これは、仮設の大風呂や開業しだした銭湯には入れない高齢者を対象に、連合が簡易担架型風呂を設置し、ボランティアの手で運営されるもの。入浴した約20人以上のお年寄りや体が不自由な被災者は、涙ながらのお礼とともに、「必ず定期的に回ってきてください」と言っていた。

「あったか湯」は、大鍋にバーナーで湯を沸かし、それを浴槽に注ぐ方法を採っている。鍋１杯沸かすのに25分と準備に時間がかかるのが難点、と運営に当たるボランティアは述べている。また、この福祉風呂活動には、自治労の福祉医療チーム（専門の女性ヘルパー）が介助に活躍している。しかし、まだ女性のボランティアが不足している。

入浴を手伝う女性ボランティアを募集

連合では「あったか湯（福祉風呂）」を担当する女性ボランティアを募集している。現地では、15日から高齢者や体が不自由な被災者のために簡易担架型風呂（固定式４台、移動式２台）を設置して入浴サービスをはじめている。ところが、女性被災者の入浴を手伝う女性ボランティアがいない。そこで至急女性ボランティアの派遣を各構成組織にお願いすることになったもの。

◎内容＝該当する女性被災者の入浴の手伝い

◎期間＝２月20日～３月31日（期間中の可能な期間を決めていただければ結構。当面３月15日までの派遣の検討をお願いする）

◎連絡＝申込・連絡は連合女性局または連合地震対策本部まで（宿泊場所は用意します）

今後の取り組み方針が決まる

対策本部の今後の取り組みが、16日の第20回中央執行委員会で確認された。中央執行委員会には、救援活動や政策申し入れとともに、ボランティア派遣まとめが報告された。それによると、構成組織独自の参加を除き１月23日～31日までの延べ人員は3,800人、１日平均400～600人となっている。２月に入っても、１日500から700人の態勢で救援活動が続けられている。

今後の方針は①政策担当部門の新設と現地への政策担当者の配置　②ボランティア活動　③救援物資の集約・配送　④連合カンパ集約活動　が主な内容となっている。中でもボランティア活動は「被災者の自治・自立と学校・行政の機能回復を支援するため、避難所への派遣に重点をおく」という考え方で、「１日500～700人」の態勢で進めていくとしている。３月以降は「避難所支援のボランティア活動を継続するが、支援態勢を再編成し、総人員500人程度の派遣」とすることになった。

電気洗濯器が到着

地震発生から1カ月以上を経て、避難生活が長引いている。各避難所では、ガスや水道などの復旧地域が拡大していることと相まって、自主運営による生活が確立していきつつある。こうした事態の推移に合わせて、連合は電機連合の協力を得て電気洗濯器30台を現地に贈った。

18日に現地対策本部に着いた洗濯器は、ボランティアの手で15カ所の避難所に2台ずつ配布された。水道が復旧した避難所では、さっそくフル回転している。

延べ22,000人を超えた連合ボランティア

現地では、各構成組織・地方連合会、周辺の地協のみなさんなどを中心にして連日数多くのボランティアが活躍している。現地対策本部が確実に把握しているだけでも、連合ボランティアの延べ参加人数は、21日現在で22,708人となった。この中には構成組織が独自で展開した活動や、個別の単組が独自で行った人数は含まれていない。そのため、個人で参加したぶんを除いても連合のボランティア活動参加総数ははるかに大きなものとなろう。

避難所外の被災者確認も

加古川にある現地対策本部兵庫西事務所では、避難所外の被災者を確認する活動を始めた。これは須磨区役所から連合に協力依頼があった活動。須磨区役所には、食事や物資の支給の時に、近隣の被災者が大勢集まってくる。これらの人々の実情がつかめなかったために、今回兵庫区が調査を始めることになった。

連日兵庫西事務所から約20人のボランティアが、22日からこの活動に協力している。具体的には整理券を配ったりチェックリストに記入したりして避難所外の被災者の実態把握に務めている。

「元気だして」とコンサートを計画

明るいニュースを1つ。3月11日、12日の2日間にわたって、室内楽による「励ましあいミニミニコンサート」を開く計画が進んでいる。これはNHK労連に加わっているNHK交響楽団労組が兵庫県教組と連携して企画したもの。会場は西宮市と神戸市の小学校2カ所を予定している。

当日は、N響ピックアップメンバーによる弦楽四重奏をそれぞれ3回ずつ演奏して、被災した子どもたちを勇気づけるだろう。

連合兵庫が1日100人態勢を確立

連合のボランティア活動は、2月末日で延べ28,000人以上の参加を得ている。3月も活動を継続するなかで、連合兵庫としての活動を強化することになった。尼崎に設置した兵庫東事務所と加古川に設置した兵庫西事務所は、基本的にはその任務を終了した。両事務所とも、地元の地協が引き続いて救援活動を継続している。対策本部は、今までの多大なご協力に、心から感謝している。

3月からの救援活動は、構成組織では自治労、自動車総連、日教組、情報通信労連、鉄鋼労連、造船重機労連などの組織が活動を継続している一方、連合兵庫が1日100人態勢を確立、また、ブロック単位の運営による地方連合会からのボランティアによる救援活動が続く。

2月末までの救援活動を通じて、民間ボランティア団体や福祉団体との連携が芽生えつつあり、行政を初めこれらの団体から、連合の組織力を有効に活用した救援活動への期待は非常に大きい。

全避難所の実態をつかむ

約610カ所におよぶ避難所の実態調査が、２月22日より３日間かけて連合の手で行われた。この調査は、行政が依然として古いデータに基づいて活動しているために様々なバラツキや実態に合わない部分も生じていることから、より有効な救援活動を実施する資料を提出しようというもの。また、この集計をデータベース化して行政と共有することで、連携のパイプをより太くする道も開ける。

政府の復興対策の全体像でる

２月24日、政府などの阪神・淡路大震災復興対策の概要が明らかになった。平成６年度補正予算案を初め、特別立法や法改正など膨大な数に上る。

これらの復興対策には、従来の災害復興対策から踏み込んだ内容になっているものも少なくない。また、連合が要請した内容も、かなり盛り込まれたものになっている。

なかでも、雇用・労働の分野では、「雇用の安定と創出」の連合要求に対し、雇用調整助成金と失業給付特例などでかなり弾力的な運営がはかられることになった。また、「公的交通機関休止による休業の事後届出の許可」や「パート雇用に対する失業保険の給付なども実現した。「災害減免法を平成６年度分にも適用し、所得限度額を1,000万円に引き上げること」も、連合の要求通り実現した。

連合では、よりきめ細かく有効な復興政策を求めて、政府をはじめ各政党に対しても要請を一層強めていくことにしている。

阪神大震災現地救援ニュース

連合「兵庫県南部地震」対策本部　No.16　1995年３月７日

実態調査で避難者数は81,163人とわかる（神戸市内）

神戸市内の避難所の実態をつかむため、連合が行った調査の結果がまとまった。その結果、600カ所と言われていた市内の避難所は、412カ所であることなど、避難所の実態が明らかになった。

この調査は、２月23日から３日間延べ150人の連合ボランティアが聞き取りした。

項　目	数	項　目	数
避難所総数	412カ所	給水関係	水道回復中
避難者数	81,163人	仮設風呂	自衛隊59・支援62カ所
避難所内訳(A)	小学校 93校 大　学 3校 中学校 38校 会　館 67カ所 高　校 21校 公　園 30カ所 保育所 27カ所など	物資ストック	有 156所、無 105所
		給食準備食数	105,372食　含周辺来者
		医療態勢あり	常駐・巡回計304所
避難所内訳(B)	教　室173カ所 会議室 20カ所 テント 81カ所 部　屋 40カ所 廊　下 40カ所	避難者名簿	341カ所
		自治組織あり	243カ所
体育館で宿泊	117カ所（間仕切あり34）	ボランティア組織	225カ所、1,697人、248団体 （学生等は撤退方向）
断冷敷物配布	120カ所		
1,000人超所数	13カ所	避難所規模	１～1,800人まで 震災直後から大変化
公園避難者	2,627人		

連合バザーは大繁盛

「連合バザー」が６日兵庫区役所前広場で開かれ多くの被災者が詰めかけた。

破格のオール100円の値段が付けられた物資は、２時間足らずの間に飛ぶように売れた。このバザーは連合ボランティア12人の手で行われ、物資は大阪のある労組からの提供品。靴や軍手、作業服などいずれも新品で大繁盛だった。

「法律相談ダイヤル」の結果まとまる

連合兵庫が２次にわたって設けた「法律相談ダイヤル」の結果が、このほどまとまった。それによると、倒壊した「借地・借家」関係の相談が圧倒的に多かった。このダイヤル相談は、第１次が２月６日から５日間、第２次が３月８日から３日間の計８日間行ったもので、合計223件の相談が寄せられた。相談の内容は住居関係が159件、生活関係が47件、その他が16件であった。

この相談は、連合兵庫顧問弁護士をはじめ連合本部、社労士、税理士、ケースワーカー、高退連等の協力で行われ、次々と鳴る電話の応対におおわらわであった。

「公共事業就労促進法」の活用でチラシをつくる

連合の要請の効果もあって、「阪神・淡路大震災公共事業就労促進法」が３月１日から施行された。この法律によると、被災地で公共事業を行う場合は地元の失業者を40％以上雇用しなければならない。施工主は国や自治体や公団・事業団となるが、事業内容は河川から住宅や厚生施設の補修や建設に関わる軽作業や普通作業と幅広いものになっている。

現地対策本部では、この法律を生かして失業をなくそうと、チラシをつくって配布し、申込を呼びかけている。なお、連絡先は各ハローワークだが、連合兵庫でも問い合わせに応じている。

長期失業を生まない政策づくりを

連合総合労働局は、このほど復興準備と雇用対策の課題について整理した。その要点は次のとおり。

◎雇用面では、対象労働者数が10万人規模にのぼることが想定される雇用調整助成金によって、当面（１年程度）の雇用維持がはかられる。この対象にならない就業者や中小企業の雇用維持問題が重要である。

◎課題は企業活動の回復を促進し、10万人の労働者が失業を経ることなく職場復帰し、安定した職場を確保することである。当面４月から新年度に向けて雇用の継続を行なうよう使用者団体への働きかけを強め、中小企業対策を強化する必要がある。

◎新たに施行された「公共事業就労促進法」の活用など、被災地の失業者への啓蒙支援対策の強化が必要である。解雇・休業問題についても、連日多くの相談が寄せられており、引き続き雇用維持対策の強化や「便乗雇用」への監視を強める必要がある。

また、生活面の課題として住居と高齢者対策の重要性も指摘している

４月から活動を連合兵庫に移管

「現地対策本部を存続させるが活動の主体を連合兵庫に移管する」節目となった３月31日、連合は芦田会長も出席して現地対策会議を連合兵庫で開いた。そこでは、「県から依頼されている支援活動の継続」「避難所の実態調査を実施し、必要な支援の継続」「市民・連合ボランティアネットワーク」「あげます・ください列島リレー」等について協議し４月以降の活動のあり方をとりまとめた。

現地対策会議の後、芦田会長は兵庫県庁に貝原知事を訪ね、集まった「連合救援カンパ」の内４億５千万円を兵庫県に贈った。

死者の37.67％が連合組合員とその家族

阪神淡路大震災の死者は、連合組合員とその家族を合計すると2,071人に上った。これは、今回の死者全体の5,497人（３月26日現在消防庁調べ）の37.67％にあたる。これにより、人的な面に限って連合関係者の被害がいかに大きかったかがわかる。

連合の対策本部が構成組織を通じて調査した３月30日現在の被害状況は次のとおり。

◎組合員中心―死亡238人・けが2,846人・全焼壊15,972・半壊等43,781
◎家族―死亡1,833人・けが2,870人

ボランティア参加者は４万６千人を超えた

約70日間におよんだ連合ボランティア活動への参加者は、３月31日で延べ46,640人となった。現地対策本部では、この間の参加者初め多くの支援に心から感謝している。この他に産別や単組独自の活動に参加した多くの組合員がおり、その全貌は把握しきれないほど多数となると見られる。

１、救援物資関係
- ◦連合救援物資（収拾・搬送・集積・仕分け・要求の把握・配送）
- ◦行政関係救援物資（搬入・仕分け・集積・搬出・管理）

２、避難所関係
- ◦避難所支援（清掃・炊き出し・食事等配給・物資管理と配布・給水）
- ◦避難所運営（自主組織づくり支援・自主運営サポート・警備・診療所関係）

３、風呂関係
- ◦「弁天湯」（常設風呂の設置と運営）
- ◦「あったか湯」（高齢者や障害者専用移動風呂の設置と運営）

４、その他

◦り災届受付支援　◦法律相談ダイヤル開設　◦避難所実態調査実施　◦クリーンキャンペーン実施